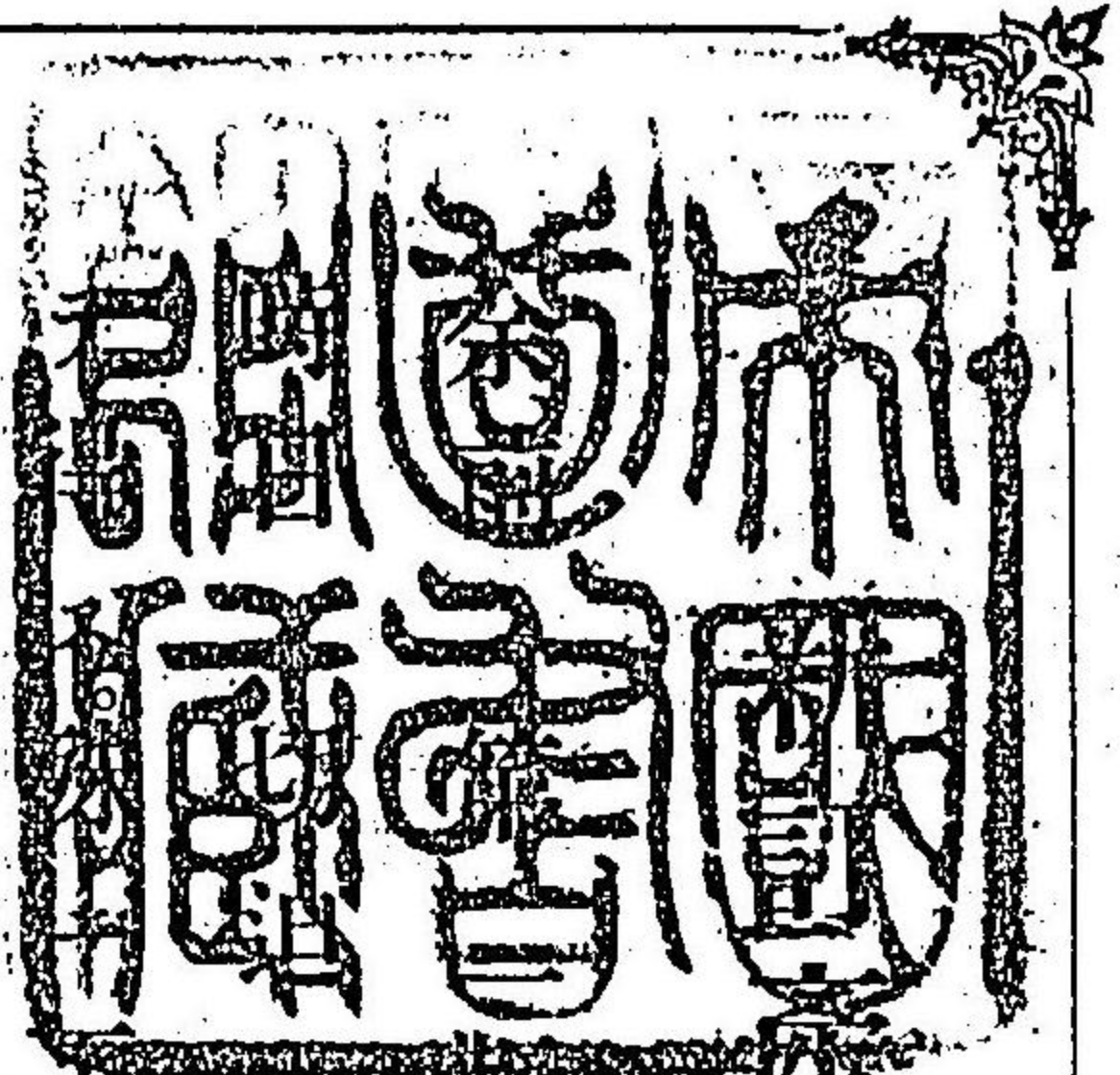


藏家學講本全





産婆學講本第三版序



版ニ於テ、頗ル訂正ヲ加ヒタリ。然レドモ、
業務ノ多忙トノ爲メニ、頗ル全キコト
卷ニ於テハ、訂正大ニ遺憾ヲ存セリ。今
ヤ版ノ缺乏ニ際シ、茲ニ更ニ改訂ヲ加エ、第三版ヲ發
行スルニ至レリ。

余ガ産婆學ニ於テ理想トナス所ハ、極メテ實際ノ順
序ニ適シ、十分ニ學理ヲ應用シ、最モ講習記憶ニ便ニ、
且ツ全ク日本的ナルニ在リ。本版ハ、未ダ全然此理想

ニ合セルモノニアラザル可キモ、將來ハ更ニ十分ノ
考案ト研究トヲ積ミ、以テ大成ヲ期セント欲ス。聊カ
所思ヲ録シテ序トス。

明治卅五年四月

著者 高橋辰五郎識

訂新 產婆學講本下卷

目次

第五篇 異常ノ妊娠及ビ其取扱法	三二七頁
第百一章 誘導篇	三二七
第百二章 妊娠性嘔吐	三二八
第百三章 便秘	三二九
第百四章 尿利ノ困難	三三〇
第百五章 浮腫	三三一
第百六章 靜脈瘤	三三二
第百七章 白帶下	三三三
第百八章 妊娠中生殖器ノ出血	三三六
第百九章 子宮脫及ビ膣脫	三三八

第一百十章	妊娠子宮後屈症	三三〇
第一百十一章	妊娠子宮ノ前轉(懸垂腹)	三三三
第一百十二章	葡萄狀胎(胞胎又ハ胞狀鬼胎)	三三四
第一百十三章	羊膜水腫	三三六
第一百十四章	羊水過少(羊膜炎)	三三七
第一百十五章	妊娠中胎兒ノ死亡	三三七
第一百十六章	流產早産ノ區別並ニ其原因	三四〇
第一百十七章	流產ノ症狀及ビ處置	三四一
第一百十八章	第二期ノ流產並ニ早産ノ症狀及ビ處置	三四六
第一百十九章	子宮外妊娠	三四七
產婆學講本第五篇附錄		
第一百二十章	花柳病	三五二
第一百二十一章	梅毒(微毒)	三五二
第一百二十二章	淋疾	三五五

第一百二十三章	軟性下疳	三五九
第一百二十四章	脚氣	三六〇
第六篇 異常分娩及ビ其取扱法		
第一百二十五章	誘導篇	三六四
第一百二十六章	陣痛微弱	三六四
第一百二十七章	陣痛過劇	三六七
第一百二十八章	痙攣性陣痛	三六九
第一百二十九章	子宮ノ位置異常	三七〇
第一百三十章	子宮ノ形狀異常	三七一
第一百三十一章	卵巢腫瘍	三七二
第一百三十二章	子宮口狹窄及ビ閉塞	三七三
第一百三十三章	腔狹窄	三七四
第一百三十四章	外陰部ノ狹窄	三七五
第一百三十五章	陰部ノ血腫	三七五

第三百三十六章	腔脫	三七六
第三百三十七章	陰唇ノ浮腫及ビ靜脈瘤	三七七
第三百三十八章	直腸膀胱ノ充盈	三七七
第三百三十九章	狹窄骨盤	三七九
第三百四十章	甚ダシク傾斜セル骨盤	三九一
第三百四十一章	過大ナル胎兒	三九一
第三百四十二章	腦水腫	三九二
第三百四十三章	重複畸形胎兒	三九四
第三百四十四章	爾餘ノ胎兒ノ畸形	三九六
第三百四十五章	橫位	三九九
第三百四十六章	頭蓋位ニ於ケル上肢及ビ下肢ノ脫出	四〇七
第三百四十七章	臍帶ノ異常	四〇九
第三百四十八章	臍帶脫及ビ臍帶先進	四一三
第三百四十九章	子宮破裂並ニ腔穹窿部ノ破裂	四一六

第三百五十章	子宮翻轉	四一九
第三百五十一章	子宮頸、腔及ビ外陰部ノ裂傷	四二〇
第三百五十二章	會陰破裂	四二四
第三百五十三章	骨盤關節ノ損傷	四二六
第三百五十四章	分娩時ノ出血	四二七
第三百五十五章	胎盤ノ早期剝離	四二八
第三百五十六章	前置胎盤	四三〇
第三百五十七章	後產期ノ出血	四四〇
第三百五十八章	軟部產道ノ損傷ニヨル後產期ノ出血	四四一
第三百五十九章	陣痛微弱ニ因スル後產期ノ出血	四四一
第三百六十章	胎盤產出ノ遲延	四四六
第三百六十一章	子宮頸ノ癒壅ニ因スル胎盤產出ノ遲延	四四七
第三百六十二章	陣痛微弱ニシテ剝離セザルニヨル胎盤產出ノ遲延	四四八

第百六十三章	胎盤ノ癒着ニ因スル胎盤産出ノ遅延	四五一
第百六十四章	急性貧血(血量)	四五二
第百六十五章	子痲	四五四
第百六十六章	分娩中諸種ノ合併症	四五八
第百六十七章	産婦ノ死亡	四九九
第七篇 異常産褥及ビ其取扱法		
第百六十八章	誘導論	四六一
第百六十九章	後陣痛ノ過劇	四六一
第百七十章	子宮ノ回復不全	四六二
第百七十一章	子宮ノ位置變常	四六三
第百七十二章	惡露ノ障害及ビ糜爛	四六四
第百七十三章	陰唇及ビ會陰部ノ腫脹	四六五
第百七十四章	便通ノ異常	四六六
第百七十五章	排尿ノ障害	四六七

第百七十六章	下肢靜脈ノ血塞	四六九
第百七十七章	乳汁分泌ノ異常	四七〇
第百七十八章	乳頭ノ損傷	四七一
第百七十九章	乳腺炎	四七三
第百八十章	産褥性熱性病	四七四
第百八十一章	創傷熱(吸収熱)	四七六
第百八十二章	産褥熱	四七八
第百八十三章	初生兒ノ疾患	四八〇
第百八十四章	初生兒ノ假死	四八一
第百八十五章	分娩時ニ生ゼル兒頭ノ變狀	四八九
第百八十六章	臍帶ノ疾患	四九〇
第百八十七章	骨傷	四九一
第百八十八章	初生兒眼炎	四九二
第百八十九章	乳房ノ腫脹及ビ其炎症	四九五

第一百九十章	鼠蹊脫腸及ビ先天性陰囊水腫	四九五
第一百九十一章	畸形	四九七
第一百九十二章	嚔口瘡	四九七
第一百九十三章	消化ノ障害	四九八
第一百九十四章	乳兒脚氣	五〇一
第一百九十五章	吃逆	五〇二
第一百九十六章	初生兒痙攣及ビ破傷風	五〇二
第一百九十七章	初生兒黃疸	五〇三
第一百九十八章	丹毒	五〇五
第一百九十九章	糜爛	五〇六
第二百章	糠枇疹	五〇六
第二百〇一章	汗疹	五〇七
第二百〇二章	濕疹	五〇七
第二百〇三章	單性水泡疹	五〇八

第八篇 一般看護法ノ大要

第二百〇四章	遺傳梅毒(先天梅毒)	五〇八
第二百〇五章	誘導編	五二二
第二百〇六章	卒倒	五二二
第二百〇七章	外傷(創傷及ビ外傷性出血)	五二三
第二百〇八章	火傷及ビ湯傷	五二五
第二百〇九章	凍傷	五一六
第二百一十章	溺死(窒息若クハ頓死)	五一七
第二百一十一章	腔内灌注法	五一八
第二百一十二章	石炭酸水調製法	五二〇
第二百一十三章	灌腸法	五二二
第二百一十四章	冷罨法及ビ氷罨法	五二三
第二百一十五章	温罨法及ビブリュエスニツツ氏罨法	五二四
第二百一十六章	芥子泥	五二五

第二百十七章	乾角及ビ血角	五二六
第二百十八章	水蛭	五二七
第二百十九章	檢温器用法	五二八
第二百二十章	體温ヲ檢スル法	五三二
第二百二十一章	脈搏ノ檢査	五三五
第二百二十二章	排泄物	五三六
附 録		
第二百二十三章	内回轉術(双合回轉術)	五三九
第二百二十四章	横位ニ於ケル内回轉術	五四〇
第二百二十五章	頭位ニ於ケル内回轉術	五四三
第二百二十六章	產婆携帶用器具	五四四
第二百二十七章	產婆ノ社會及ビ法律規則ニ關スル事項	五五八

挿圖目次

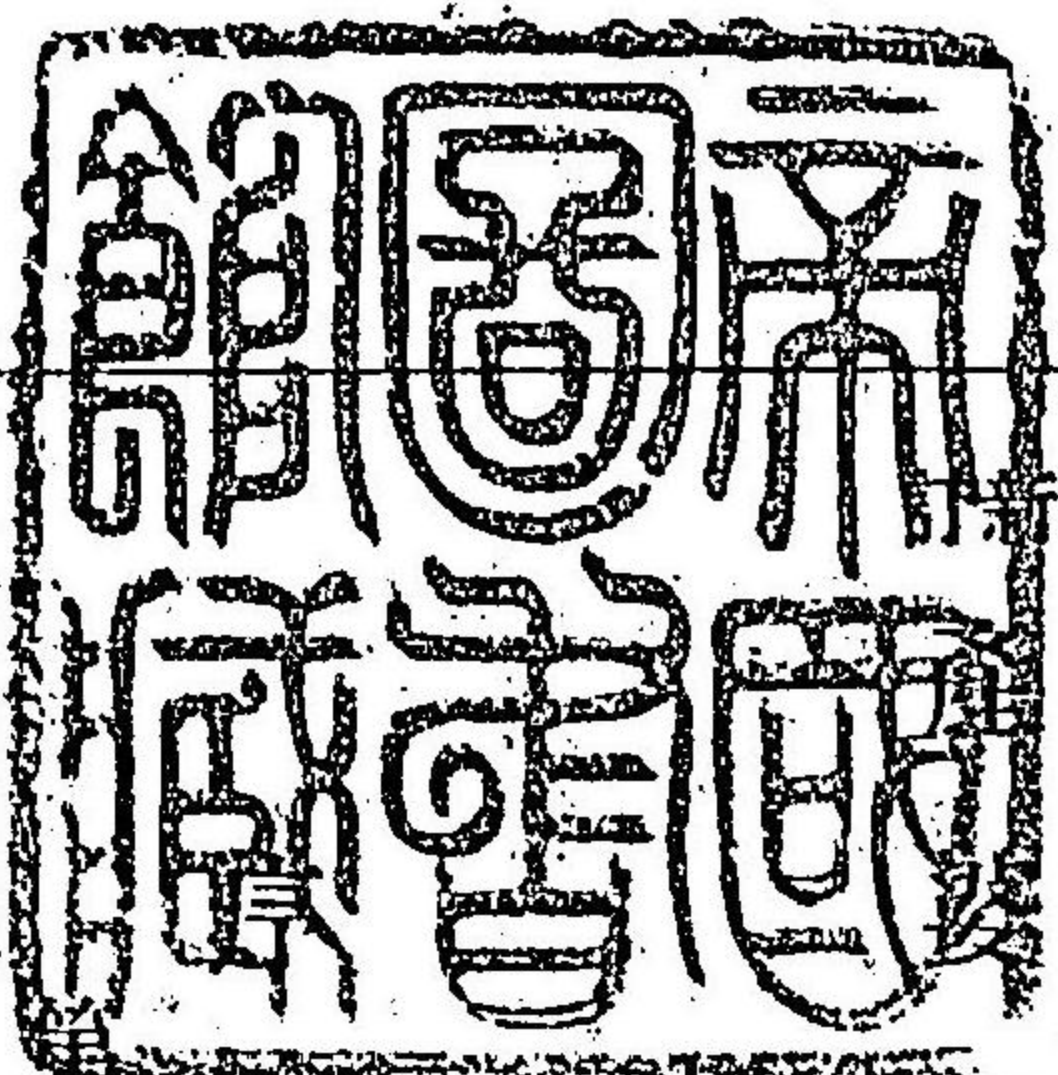
第九十七圖	後屈子宮妊娠ノ圖	三三一
第九十八圖	懸垂腹ノ圖	三三三
第九十九圖	子宮壁ヲ切割シテ葡萄狀胎ヲ現ハセル圖	三三五
第一百圖	喇叭管妊娠ノ圖	三四九
第一百一圖	正規骨盤斷面ノ圖	三七九
第一百二圖	單扁平骨盤斷面ノ圖	三七九
第一百三圖	佝僂病性扁平骨盤斷面ノ圖	三八〇
第一百四圖	全狹窄骨盤斷面ノ圖	三八〇
第一百五圖	佝僂病性扁平骨盤ノ圖	三八二
第一百六圖	骨軟化骨病性狹窄骨盤ノ圖	三八三
第一百七圖	横徑狹窄骨盤ノ圖	三八四
第一百八圖	斜徑狹窄骨盤ノ畧圖	三八五

第百九圖	骨瘤性狹窄骨盤ノ圖	三八五
第百十圖	狹窄骨盤ノ兒頭緊シク骨盤内ニ嵌入セントスルノ圖	三八九
第百十一圖	腦水腫胎兒ノ圖	三九三
第百十二圖	重複畸形胎兒ノ圖	三九四
第百十三圖	重複畸形胎兒ノ骨格ノ圖	三九五
第百十四圖	無頭兒ノ圖	三九七
第百十五圖	頭蓋缺損胎兒ノ圖	三九八
第百十六圖	横位胎兒ノ圖	四〇〇
第百十七圖	横位ノ胎兒緊シク骨盤内ニ壓入セラレ殆ント横位ノ外形ヲ失ヘルモノヲ示ス圖	四〇二
第百十八圖	横位ノ胎兒自己産出ヲ營ムノ圖	四〇六
第百十九圖	双胎ノ頭蓋位ト足位即チ頭蓋位ニ於ケル下肢脱出ノ高度ニ至レルモノヲ示ス圖	四〇八

第百二十圖	臍帶緊シク頸部ニ纏絡シ胎兒死亡ノ原因ヲナスヲ示ス圖	四一〇
第百二十一圖	臍帶緊シク轉振セルモノヲ示ス圖	四一二
第百二十二圖	横位ノ子宮將サニ破裂ヲ生ゼントスルヲ示ス圖	四一八
第百二十三圖	全前置胎盤ノ圖	四三〇
第百二十四圖	邊緣前置胎盤ノ圖	四三一
第百二十五圖	側前置胎盤ノ圖	四三二
第百二十六圖	子宮下部ノ前置胎盤ヲ形成スル境界ヲ示ス圖	四三三
第百二十七圖	人工胎盤剝離法ノ圖	四五〇
第百二十八圖	乳頭帽子ノ圖	四七二
第百二十九圖	人工呼吸法甲ノ圖	四八四
第百三十圖	人工呼吸法乙ノ圖	四八五

第三百三十一圖	兒體ヲ倒懸スル人工呼吸法ノ圖	四八六
第三百三十二圖	前圖ニ同シ	四八七
第三百三十三圖	一日中體溫變化ノ表(一例ヲ示ス)	五三四
第三百三十四圖	横位ニ於ケル内回轉術ノ圖	五四二
第三百三十五圖	頭蓋位ニ於ケル内回轉術ノ圖	五四三
第三百三十六圖	產婆携帶用器具ヲ開展シテ示セル圖	五五一
第三百三十七圖	全產婆携帶用器具ヲ提籃中ニ收メタル圖	五五四
第三百三十八圖	產婆用器具ヲ結束シ現ハセル圖	五五四
第三百三十九圖	改造セル產婆携帶用器具ノ圖	五五七

新訂 產婆學講本下卷目次終



學講本

醫學士 千葉稔次郎校訂

高橋辰五郎著述

第一章 論 產婆及ビ產婆學

〔第一項〕產婆 凡ソ產婆ナル者ハ正規ノ分娩即チ平易ニシテ毫モ危險ノ虞レナキ分娩ヲ自ラ處置シ又ハ產科醫ノ助手トナリテ各種ノ分娩ニ關與ス可ク其他妊娠產摩及ビ初生兒ノ看護ニ就キテ其務メヲ盡ス可キモノトス。

〔第二項〕產婆學 上記ノ理由ニ基キ產婆學ナルモノハ妊娠分娩及ビ產摩ニ就キ產婆ニ必要ナル智識ヲ授クルモノナリ而シテ其妊娠分娩及ビ產摩ハ正規ニシテ容易ナルアリ異常ニシテ危險ナルアリ故ニ產婆學

ニ於テハ此正規及ビ異常ニ就キ各別ニ之レヲ説明ス可シ且ツ此等ノ説明ニ就キ正當ニ理解セシメンニハ先ヅ豫カジメ人體ノ解剖及ビ生理ノ概畧ヲ説キ示サハル可ラズ。

〔第二項〕産婆學ノ區分 前項ノ主旨ニヨリ産婆學ヲ區別シテ次ノ八篇トナス。

- 第一篇 人體畧論
- 第二篇 正規ノ妊娠及ビ其取扱法
- 第三篇 正規ノ分娩及ビ其取扱法
- 第四篇 正規ノ産褥及ビ其取扱法
- 第五篇 異常ノ妊娠及ビ其取扱法
- 第六篇 異常ノ分娩及ビ其取扱法
- 第七篇 異常ノ産褥及ビ其取扱法
- 第八篇 一般看護法ノ概畧

第二章 産婆職務上ノ要件

〔第四項〕産婆ノ任務 凡ソ産婆ノ任務ハ〔一〕妊婦ニハ妊娠中ニ必要ナル攝生法ヲ教示シ産婦ニハ補助ヲ與ヘテ苦痛ヲ軽減シ且ツ其分娩ヲ容易ナラシメ産褥中ニ在リテハ産婦及ビ初生兒ノ看護ヲ營ムニ在リ〔二〕妊娠分娩又ハ産褥ニ際シ醫師ノ治療ヲ要スル異常アルトキハ善ク之レヲ認識シ時ヲ過タズシテ醫師ニ託セザル可ラズ〔三〕急遽ノ間産科醫又ハ醫師ノ未ダ到ラザルノ際ニ在リテハ己レノ習得セル規則ニ由リ自ラ其危急ヲ處置セザル可ラズ〔四〕其他産科醫ノ施術スルニ當リテハ之レヲ補助シ且ツ己レノ委託セラレタル事項ハ適當ニ施行ス可キモノトス。――

以上ノ他諸種ノ婉産ニ際シ盡クス可キノ任務ハ各之レヲ其條下ニ詳説ス可キモノトス。

〔第五項〕産婆志願者ノ資格 〔一〕年齢ハ二十歳乃至三十五歳ニシテ〔二〕其手及ビ指ハ不器用ナラズ且ツ畸形皮膚病等ナク〔三〕感覺ハ遲鈍ナ

ルコナク殊ニ其視力聴力及ビ觸覺ハ良巧ナル可シ四精神遲鈍ナラズシテ意志明カニ且ツ判斷力ニ富ミ五身體ハ强健ニシテ善ク勤勞ニ耐ユ可ク六勉強力ニ乏カラズ七讀書筆記ヲ能クセザル可ラズ——以上ノ資格ヲ具エザルトキハ善ク其術ヲ學ビ且ツ完全ニ其業務ニ服スルコト能ハザルモノトス。

〔第六項〕産婆術ノ良否

産婆術ハ之レヲ學ビ知ルコト明カニ且ツ親切ニ之レヲ營ムトキハ大ニ幸福ヲ人世ニ與フルモノナリ然レドモ若シ之レニ反シ産婆ニシテ必要ナル學問及ビ習練ヲ缺キ若クハ其職務ヲ行フコト不親切ナルトキハ極メテ有害ナリトス此故ニ産婆ノ不適當ナルニヨリ母體若クハ小兒ヲシテ死ニ陥ラシメ一家ノ幸福ヲ損シ若クハ母兒兩體ノ死ヲ致スニ至ルコト決シテ其例ニ乏シカラザルナリ。

〔第七項〕産婆術ハ善ク實地ニ習練スルヲ以テ最モ緊要ナリトス

是レ此術ハ人ノ生死ト健康トノ關係スル所ニシテ甚ダ重要ナルモノナルニヨル産婆若シ唯書籍ノミニ就キ習學セルトキハ實地ニ

當リ誤謬ノ判斷ヲナシ或ハ症狀ノ輕重ヲ誤認シ漫リニ狼狽シ若クハ必要ノ處置ヲ等閑ニシテ救フ可カラザルノ失策ヲ醸スコトアリ故ニ産婆ハ自ラ其術ヲ行フニ先ダチ必ズ熟練ナル師ニ就キテ各分娩ノ輕重緩急ヲ知り其適應ノ處置ニ習熟スルヲ以テ緊要ナリトス。

〔第八項〕産婆ハ妄リニ産科手術ヲ行フ可カラズ

産科手術

ナルモノハ博キ學識ニヨリ精シク手術前後ノ情況ヲ察シ嚴密ナル防腐法其他ノ諸準備ヲ整ヒ確實ニ之レヲ行フ可キモノニシテ産婆ノ擔任ス可キ所ニアラズ産婆若シ妄リニ之レヲ行ハハ或ハ不必要ノ手術ヲ施コシ或ハ其手術ニヨリテ却テ甚ダシキ異常ニ陥ラシメ或ハ手術ニヨリテ損傷疾病等ヲ得セシメ却テ大害ヲ招クニ至ル可シ是レ産婆ノ妄リニ産科手術ヲ行フ可ラサル所以ナリ但シ危急ノ場合ニシテ醫師ノ未ダ到ラサルトキハ止ムヲ得ズ一二ノ手術ヲ行フ可キコトアリ此ノ如キモノハ各々其條下ニ説述ス可シ。

〔第九項〕産婆ハ自ラ疾病ヲ處置ス可ラズ

凡ソ人ノ疾病ニ就

キ産婆ノ學ブ所ハ極メテ狹小ニシテ單易ナルモノナリ。加之産婆ハ醫師ニアラザルガ故ニ。固ヨリ疾病又ハ變狀ノ存スルニ當リ之レヲ診斷シテ普ク適當ノ處置ヲ盡クスコト能ハザルモノナリ。若シ患婦ノ治療ヲ醫師ニ託セズシテ。切要ノ時期ヲ過ギ去ラシムルトキハ。母體又ハ小兒ノ生命ヲ損スルニ至ルコトアリ。是レ最モ慎ム可キ所ナリ。

〔第一〇項〕産婆タルモノ、職責「甲産婆ノ自重及ビ職務上ノ秘密

産婆ハ自ラ其職務ヲ尊ビ重ンジ。決シテ自カラ己レノ業務ヲ賤シム可

ラズ。又職務上ノ秘密ヲ守ランコトヲ要ス。妄リニ業務上ノ事項ヲ話シ。産

家ノ内事ヲ他人ニ暴露スルガ如キハ最モ誠ム可キモノトス。

乙産婆ハ修學ニ熱心ナラザル可ラズ。産婆ハ概シテ正規ノ妊娠分娩其

他ノ取扱ヲナシ。異常アルヲ見バ之レヲ醫師ニ託スルヲ以テ足レリトナ

スト。雖ドモ。原ト正規ト異常トノ境界ハ最モ隱微ナルモノアルガ故ニ之

レヲ知ルコト決シテ易カラズ。且ツ普通ノ取扱法ト雖ドモ高尙ノ學理ニ

基クコト極メテ多キガ故ニ。産婆タルモノハ常ニ教科書ヲ讀ミ。産婆學雜

誌等ヲ閱シ。熟達セル産科醫ノ談話ヲ聽キ。以テ己レノ必要ナル學問ヲ養ハザル可ラズ。否ラザレバ實地ニ當リ。處置スル所毎ニ其當ヲ得ズ。母兒共ニ其健康ヲ損シ。甚ダシキニ至リテハ其生命ヲ害セシムルニ至ルコトアリ。

丙産婆ハ勇氣ヲ蓄ヒ沈着ヲ主トシ。慈愛温和寡慾ニシテ且ツ品行方正ナラザル可ラズ。産婦ハ甚ダシキ苦痛ヲ訴ヘ。若クハ將サニ死ニ陥ラント

シ。一家哀ミニ沈ムノ間ニ居リ。自ラ其處置ニ任ジ。若クハ醫師ノ助手トナリテ能ク其職務ヲ盡スハ。即チ勇氣アリテ且ツ沈着ナラザル可ラズ。又産

家貧困ニシテ産婆ニ十分ノ禮遇ヲ盡スコト能ハザルカ。若クハ頑固ニシテ産婆ノ命ヲ用キザルモノト雖ドモ。亦能ク之レニ適當ノ處置ヲ與ヘ。其

職務ヲ全フセンニハ大ニ温和ニシテ慈愛心ニ富マンコトヲ要ス。之レニ反シ。富者ニ媚ビテ之レニ諂ヒ。貧者ヲ賤ミテ之レヲ疎ンズルガ如キコトアラバ。決シテ其職務ヲ盡スコト能ハザルモノナリ。其他一身ノ品行ハ最モ謹マンコトヲ要ス。即チ若シ其身ニ脩マラザル所アレバ。假令業務ニ熟

達シ學問ニ秀ヅト雖ドモ。既ニ世人ノ敬愛ヲ失ヒ。空シク不名譽ノ裡ニ埋モルハニ至ル可シ。

子産婆ハ業務ニ熱心ナラザル可ラズ。即チ善ク業務上ノ諸準備ヲ整ヒ。器具藥品等ハ必ず清潔ニシテ且ツ缺乏ナカラシメ。何時ニテモ産家ノ招キニ應ズルヲ得可ラシム可シ。又日々遭遇セル業務上一般ノ事項ハ必ず之レヲ記録ニ止ルヲ要ス。此ノ如ク熱心ナルトキハ。益々其術ニ熟達スルノミナラズ。心常ニ樂ンテ業務ニ服スルノ益アリ。又業務上ノ事項ヲ記録スルトキハ。記憶ヲ確カニシ。業務ノ便利ヲ得且ツ自ラ興味ヲ生ジ。求メズシテ其業務ニ勉勵スルニ至ル可シ。

〔戊〕産婆ハ業務ノ暇アレバ。務メテ學ヲ勵ミ。又ハ善良ノ文書ニ由リテ其氣質ヲ養ヒ。決シテ不良ナル小説演劇等ニ耽ルコト勿ル可シ。是レ本務ヲ完カラシムルノ要法ナリ。

第一編 人體畧論

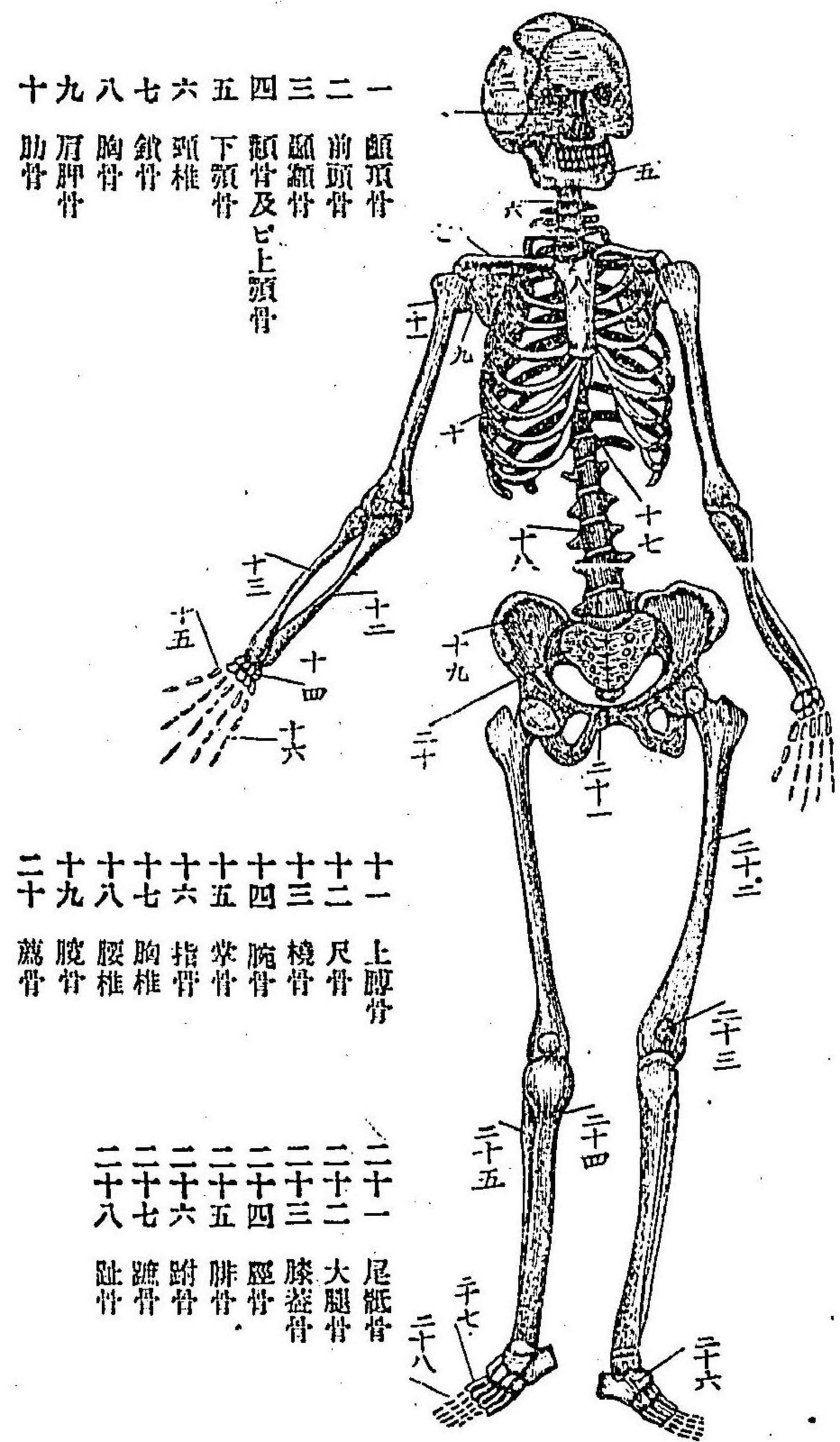
第三章 人體ノ構成

〔第一一〕項 人體 ハ主ニ骨、軟骨、靱帶、筋肉、脈管、神經、内臟、外皮、結締織及ビ血液ヨリ構成セラレ。

〔第一二〕項 骨 ハ概シテ石灰質ヨリ成レル堅固ノ體ニシテ筋肉ノ支柱トナリ。或ハ腔洞ヲ造リ。貴要ノ臟器ヲ舍ラシム。又諸骨聯合シテ關節ヲ構成ス。身體中ニハ次ノ諸骨ヲ有ス。

- 頭蓋骨 八
- 顔面骨 十四
- 脊椎骨 二十四
- 薦骨 一
- 尾骶骨 四
- 胸骨 一

第一圖 人體諸骨之圖



舌骨	一
肋骨	二十四
上肢骨	六十四
鎖骨	二
肩胛骨	二
上膊骨	二
尺骨	二
橈骨	二
腕骨	十六
掌骨	十
指骨	二十八
下肢骨	六十二
股骨	二
大腿骨	二

膝蓋骨	二
脛骨	二
腓骨	二
跗骨	十四
蹠骨	十
趾骨	二十八

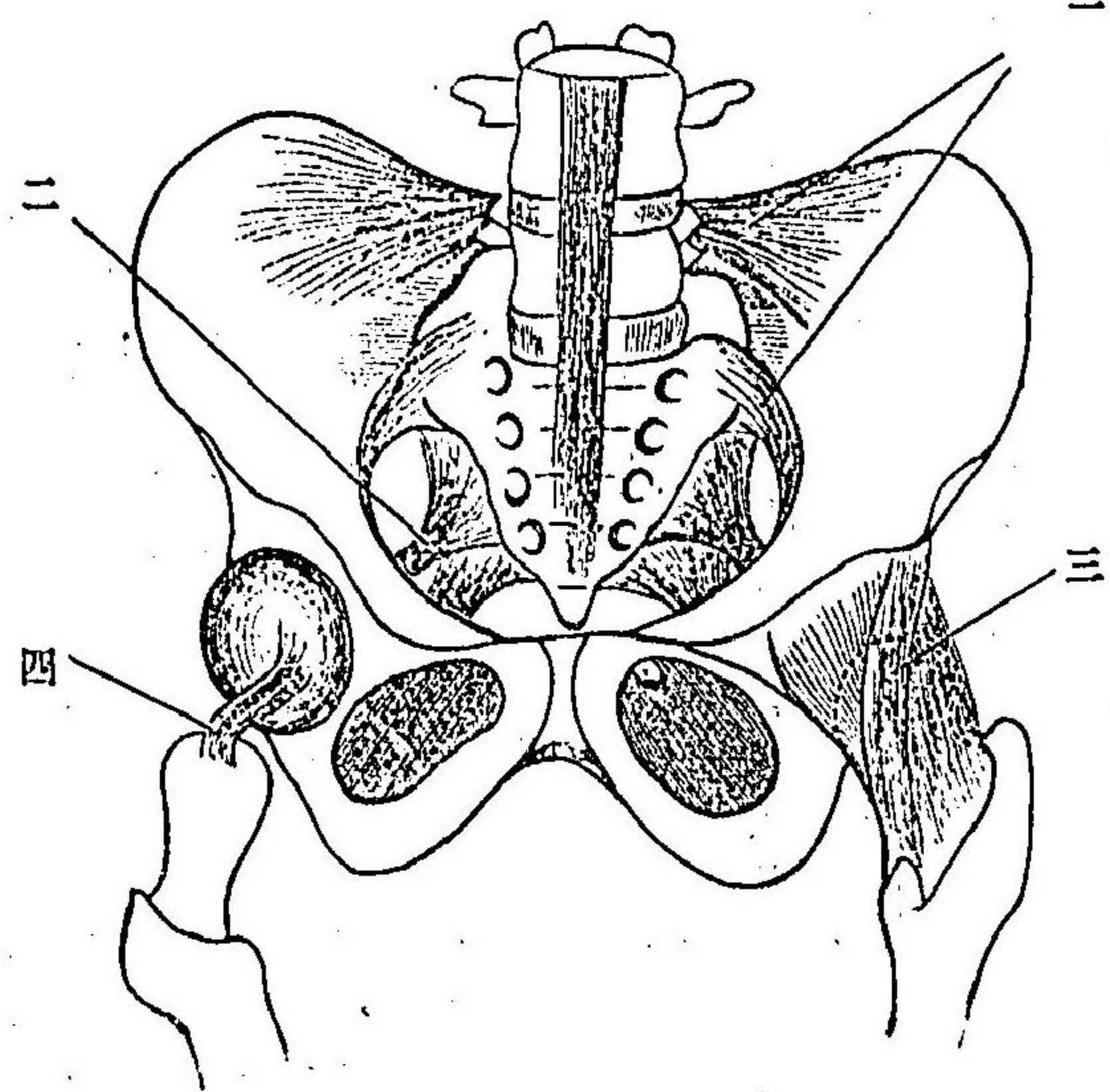
以上諸骨ノ全數ハ二百〇三個トス。此等諸骨ノ連合セルモノヲ骨格ト稱ス。此外耳中ニ六個ノ聽骨、手及ビ足ニ各四個ノ種子骨アリ。

【第一三項】軟骨 ハ軟キ骨ニシテ胸骨ト肋骨トノ間軟骨又ハ耳翼鼻尖等ノ内ニアリ。又胎兒ノ骨ハ初メ軟骨ナレドモ變ジテ堅キ骨トナルモノナリ。

【第一四項】靱帶 ハ色白ク其質強キモノニシテ主ニ骨ノ關節ヲ包ミ其關節ヲ連合セシムルモノナリ。關節ニ二種アリ甲可動關節乙不動關節是ナリ。甲ハ大腿肩胛膝肘ノ關節

第二圖

骨盤ニ就テキ靱帶ノ關節ヲ連合セシムルヲ示ス

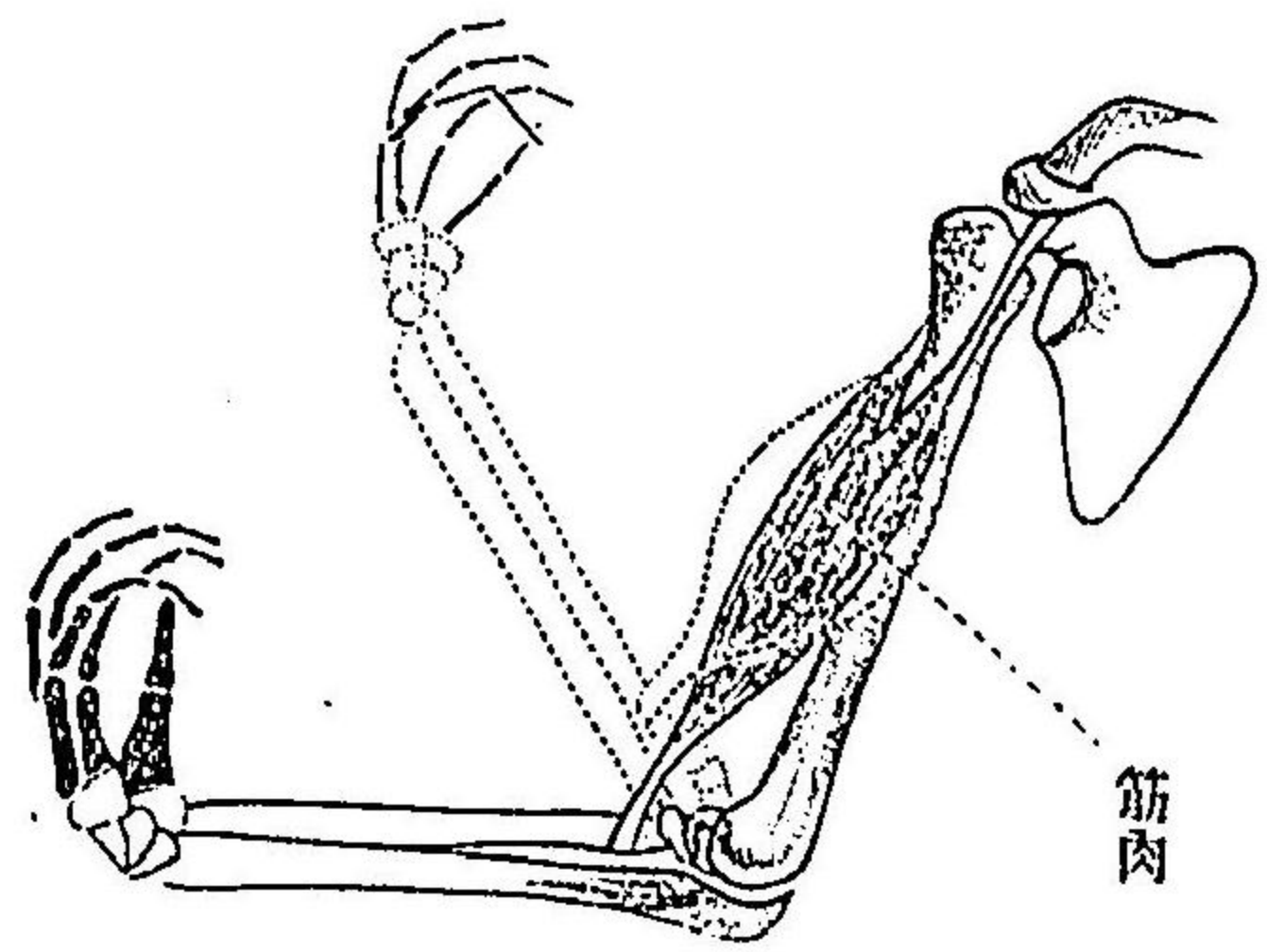


- 一 薦腸關節ノ靱帶
 - 二 薦骨坐骨縫合、恥骨縫合ノ如キ、毫モ運動セザルモノ
 - 三 股關節ノ靱帶
 - 四 股關節内ノ靱帶
- （關節ヲ離隔セシメテ露セルモノ）
- 【第一五項】筋肉ニ二種アリ。横紋筋及ビ滑平筋是ナリ。

リ横紋筋トハ随意ノ運動ヲナス者即チ俗ニ肉ト名クル者ニシテ其色赤ク筋纖維ト稱スル細微ノ線狀ノ集合セルニヨリテ成リ顯微鏡ヲ以テ檢スルトキハ横紋ヲ現ハス。此筋ハ主ニ一ノ骨ヨリ他ノ骨ニ連ナリ其收縮

筋肉ノ圖

上膊ニ於ケルモノヲ示ス



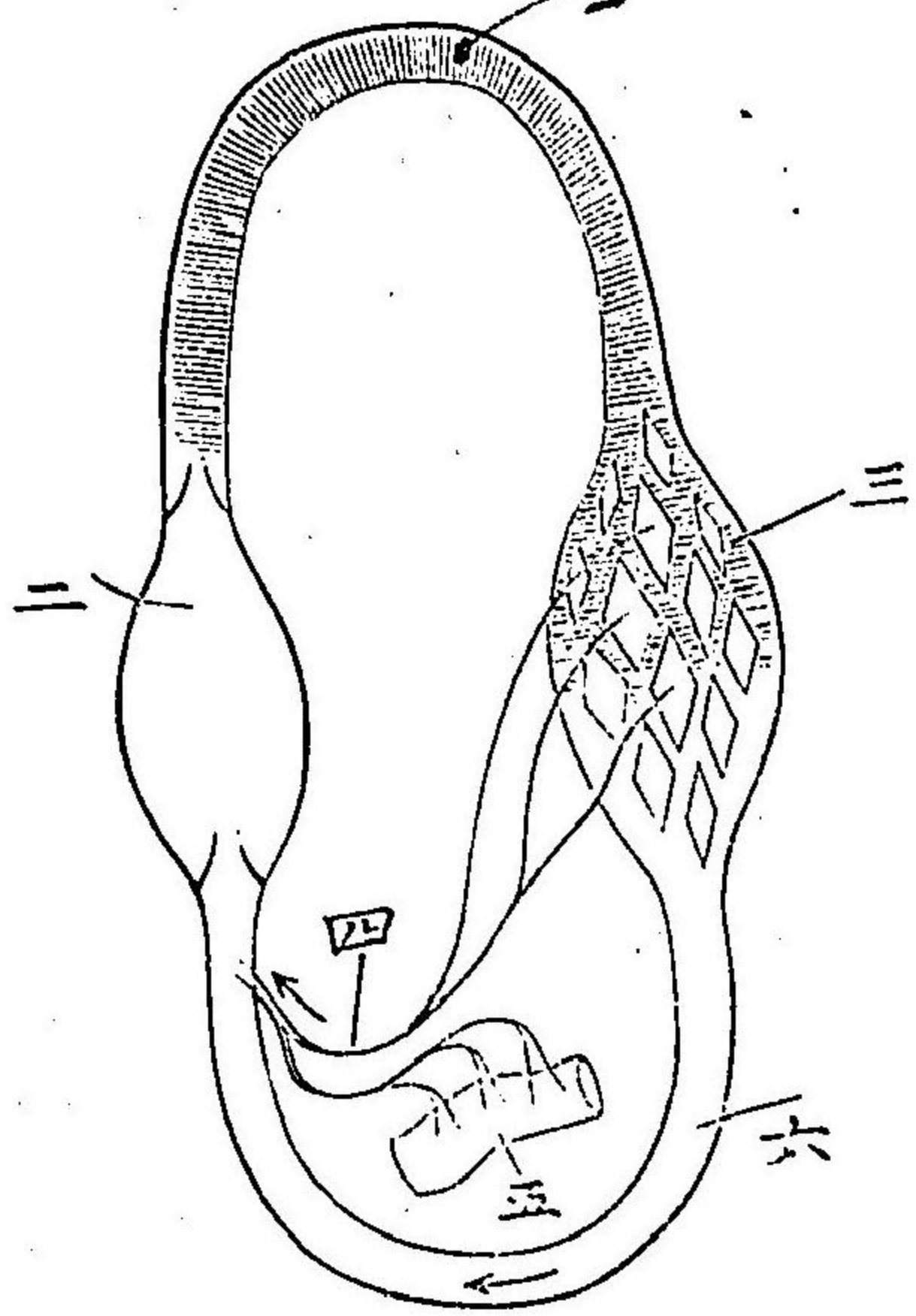
點數ハ筋
收縮シ前
膊ノ舉上
セラル、
ナ現ハス

ニ因リ、身體ノ運動ヲ營マシムル者ナリ、筋ノ骨ニ附着スル端ニハ腱ヲ現ハシ、其附着部ヲ強固ナラシムルノ用ヲナス。滑平筋トハ胃、腸、膀胱、血管等ノ壁質ヲナスモノニシテ、精神ノ主宰ヲ受ケズ、緩慢ノ運動ヲ營ムモノトス。

第一六項 脈管

ニハ動脈、靜脈及ビ水脈管アリ。動脈トハ、搏動スル血管ニシテ、心臟ヨリ起リ、頭、上肢、下肢、等、普ク全身ニ分布シ、恰モ樹枝ノ如ク漸次ニ相分レ、終ニ至細ノ管(毛細管)トナリ、以テ靜脈ニ移行ス。靜脈ハ毛細管ヨリ起リ、漸ク集合シ、終ニ大管トナリ、心臟ニ還ル。血液ハ心臟ヨリ出デ、動脈ヲ經、毛細管ヨリ靜脈ニ移リ、之レヨリ更ニ心臟ニ戻ル者

第四 脈管ノ假想圖



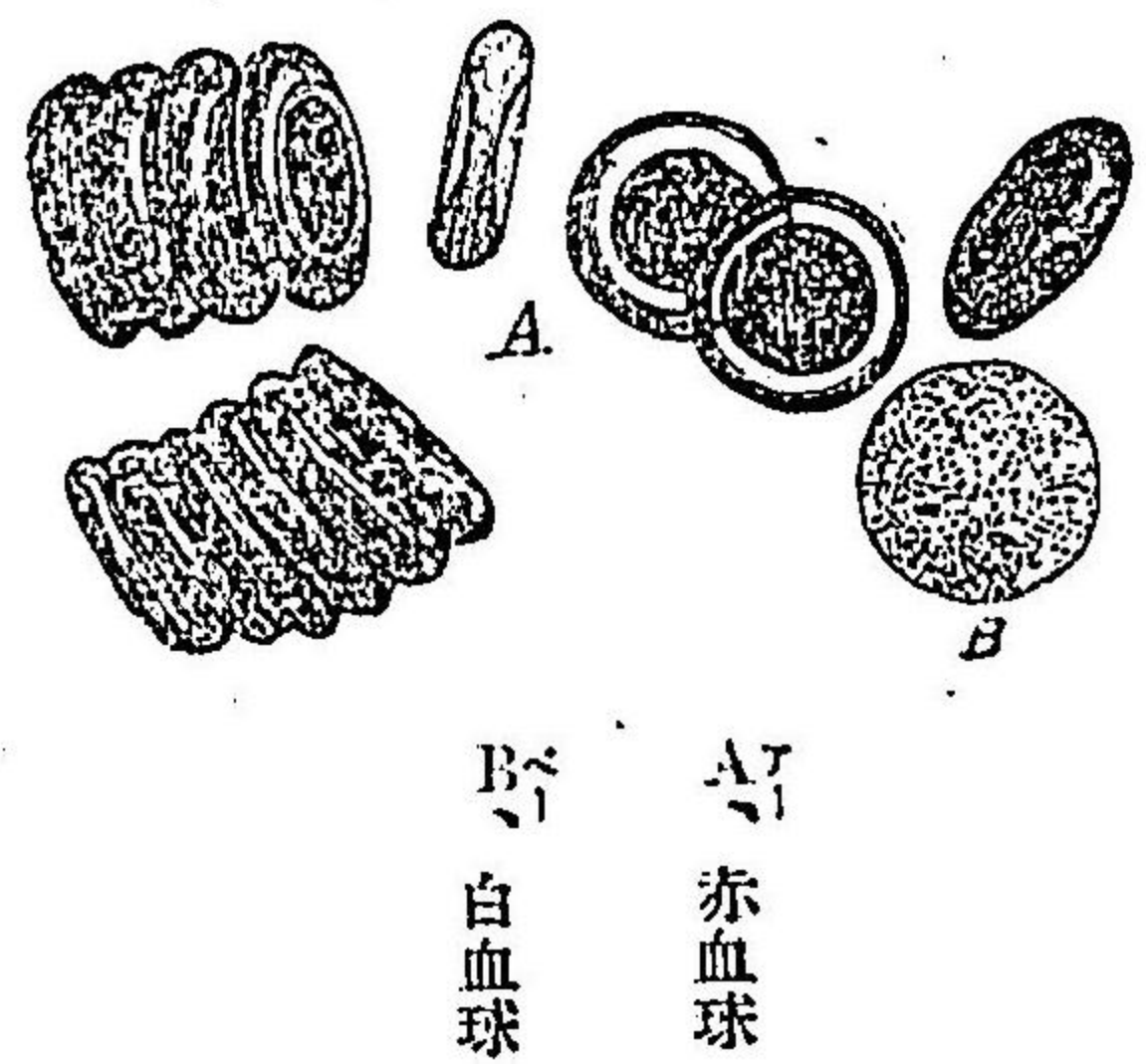
一 動脈
二 心臟
三 毛細管
四 水脈管
五 腸管
六 靜脈

ナリ。水脈管ハ、毛細管ノ周圍ニ於テ、總テノ組織ノ間隙ヨリ起リ、漸次ニ相集マリ、數々水

脈管ヲ經由シ、終ニ左右二條ノ大管ヲナシ、頸部ノ下際ニ於テ、各靜脈中ニ開口ス。此水脈管ハ、毛細管ヨリ滲出スル血液ノ成分即チ淋巴液ヲ再ビ血中ニ導ビクモノトス。其腸ヨリ起レル水脈管ハ、食物ノ消化ニヨリテナル白色ノ乳糜ヲ含メルヲ以テ、乳糜管ト稱ス。淋巴腺ハ身體各所ニ存在シ、而シテ其著シキモノハ、頸部、腋下、鼠蹊部等ニ存シ、皆ナ細小ニシテ柔軟ナルモノナレトモ、病變ヲ受クルトキハ、増大シ

硬固トナリ始メテ觸知セララル、ニ至ル瘰癧ト稱スルモノ即チ此類ナリ。
 「第一七項」血液 血液ニ二種アリ。鮮紅色ナル動脈血及ビ暗青赤色ナル靜脈血是ナリ。此ノ如ク其色ノ相異ナレルハ、酸素ヲ含ムノ多少ニヨルモノニシテ、動脈血ハ多ク酸素ヲ含ミ、靜脈血ハ之レニ反シ、大ニ炭酸ニ富メルモノトス。

血球ノ圖 一千五百倍



血液ノ成分ヲ大別シテ、三種トス。赤血球、白血球及ビ血漿是ナリ。今血液ヲ顯微鏡下ニ檢スルトキハ、扁平圓形ナル無數ノ小球ヲ見ル。之レヲ赤血球トナス。血液ハ此血球ニヨリテ、赤色ヲ呈スルモノナリ。白血球ハ白色ニシテ、其數少ナク、多クハ圓形ヲナシ、間々諸種ノ變形ヲ呈ス。血漿ハ帶黃色ニシテ、二種ノ血球ヲ其中ニ浮遊セシム。血液ハ、

血管外ニ出ヅルトキハ、血漿ヨリ纖維素ナル凝固物ヲ生ジ、血球ト共ニ一塊ヲナシ、所謂血液ノ凝固ヲ營ム。血漿中ノ凝固セザル一分ハ、澄明ノ液ニシテ、凝固物中ヨリ分離ス。之レヲ血清ト名ク。

血液ナルモノハ、生活ノ原動力ヲナスモノニシテ、身體ノ諸組織ニ營養物ヲ與ヘ、又ハ老敗物ヲ攝取シテ體外ニ排泄スルノ媒介ヲナス而シテ、身體生活ノタメニ消耗セララル。所ハ、絶エス食物ニヨリテ補給セララル。全身體中ノ分泌物即チ尿、汗、唾液、胃液、胆汁、乳汁等ノ如キハ、皆ナ血液ノ成分中ヨリ泌別セララル、モノトス。

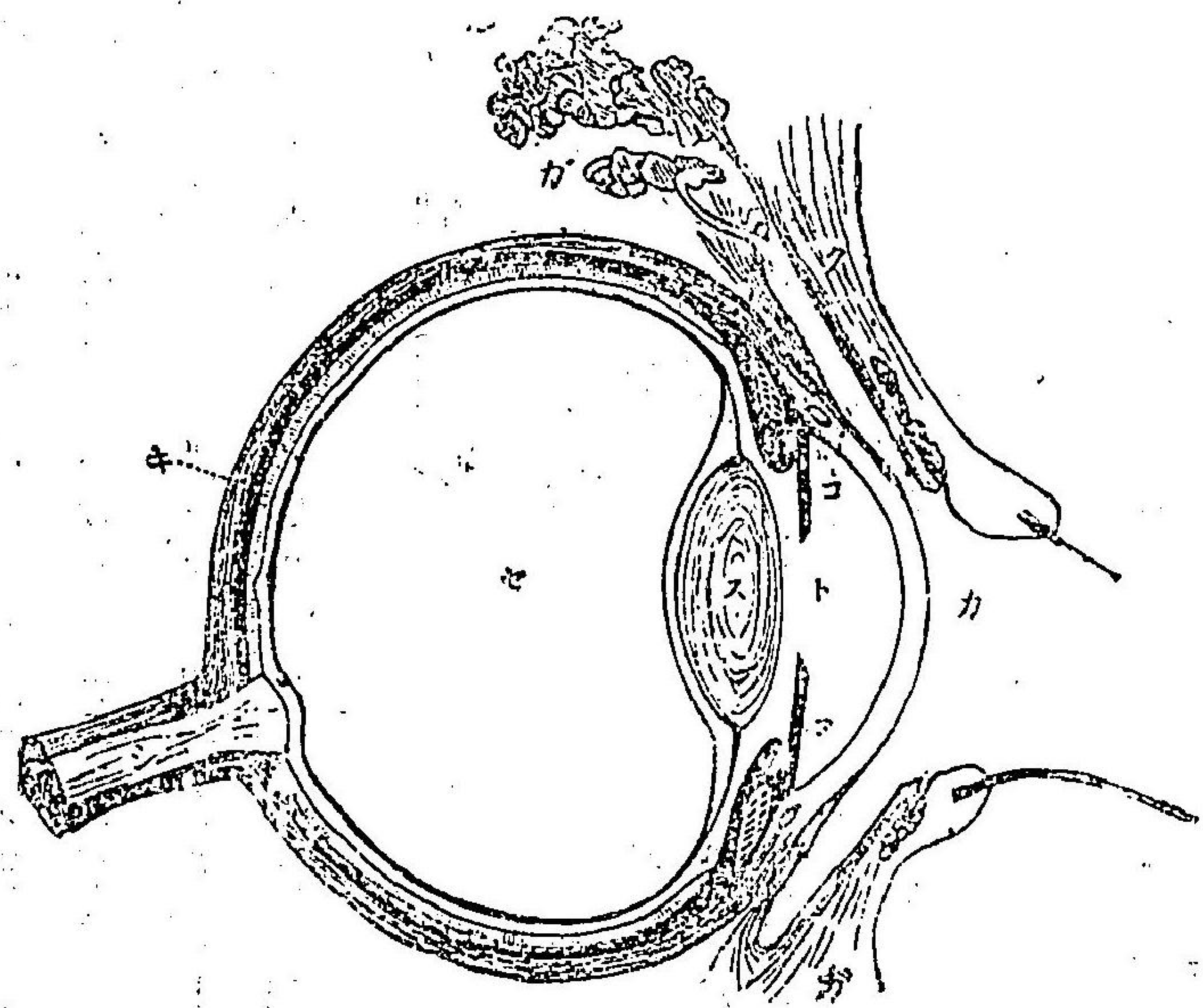
「第一八項」神經系 神經ハ、腦髓及ビ脊髓ヨリ出デ、身體ノ各部ニ分布シ、其感覺ト運動トヲ起サシムルナリ。其色白クシテ、恰モ絹絲ノ如シ。小ナルモノハ見ルコト能ハズ、而シテ感覺ヲ司ドルモノハ、知覺神經ト稱シ、運動ヲ營ムモノハ、之レヲ運動神經ト唱フ。又交感神經ト名クルモノアリ、主トシテ、内臓及ビ血管ニ分布シ、各臟器ヲシテ、各々固有ノ官能ヲ營マシム。腦髓トハ、頭蓋腔中ニ在リテ、精神ノ舍ル所。脊髓トハ、脊椎骨管中ニ存シ、主

トシテ運動ヲ主ドルモノトス。其他五管器ト云フモノアリ。眼、耳、鼻、舌、皮膚ヲ云フ。此五管器ハ腦髓ヨリ來レル各種特異ノ神經ヲ受容シ、其神經ニヨリ、固有ノ官能ヲ營ム者ナリ。

眼ノ視覺ヲ司ル主要ノ部ヲ、眼球トナス。眼球ハ眼窩ノ内ニ位シ、其前面ニハ、上下ノ眼瞼ヲ有ス。眼瞼ハ、皮膚筋肉及ビ軟骨ヨリナリ、裏面ニハ眼瞼結膜ヲ貼附ス。

眼球ノ外殼ハ、角膜ト鞏膜(白膜)ヨリナル。角膜ハ、前方ニ存セル透明ノ膜ニシテ、恰モ硝子ノ如シ。鞏膜ハ、自餘ノ大部分ヲ包メ、白色鞏固ノ膜ナリ。眼球内ニハ、虹彩、水晶體、硝子體等ヲ藏シ、眼球ノ後方ニハ、視神經之レニ聯ナリ。前方ニハ、角膜ノ周邊ヨリ鞏膜上ニ、眼球結膜アリテ、眼瞼結膜ニ移行ス。虹彩ノ中央ニハ、圓形ノ一孔アリ、明暗ニ從ツテ縮張ス。之レヲ瞳孔トナス。| 眼球ノ上外方ニハ、涙腺アリテ、涙液ヲ分泌ス。涙液ハ、眼内ヲ潤ホハシ、内皆ノ部位ニ集リ、遂ニ眼瞼縁ニ存セル小管(涙管)ヲ經テ、鼻腔内ニ注グ。耳ヲ分チテ三部トナス。外耳、中耳及ビ内耳是レナリ。

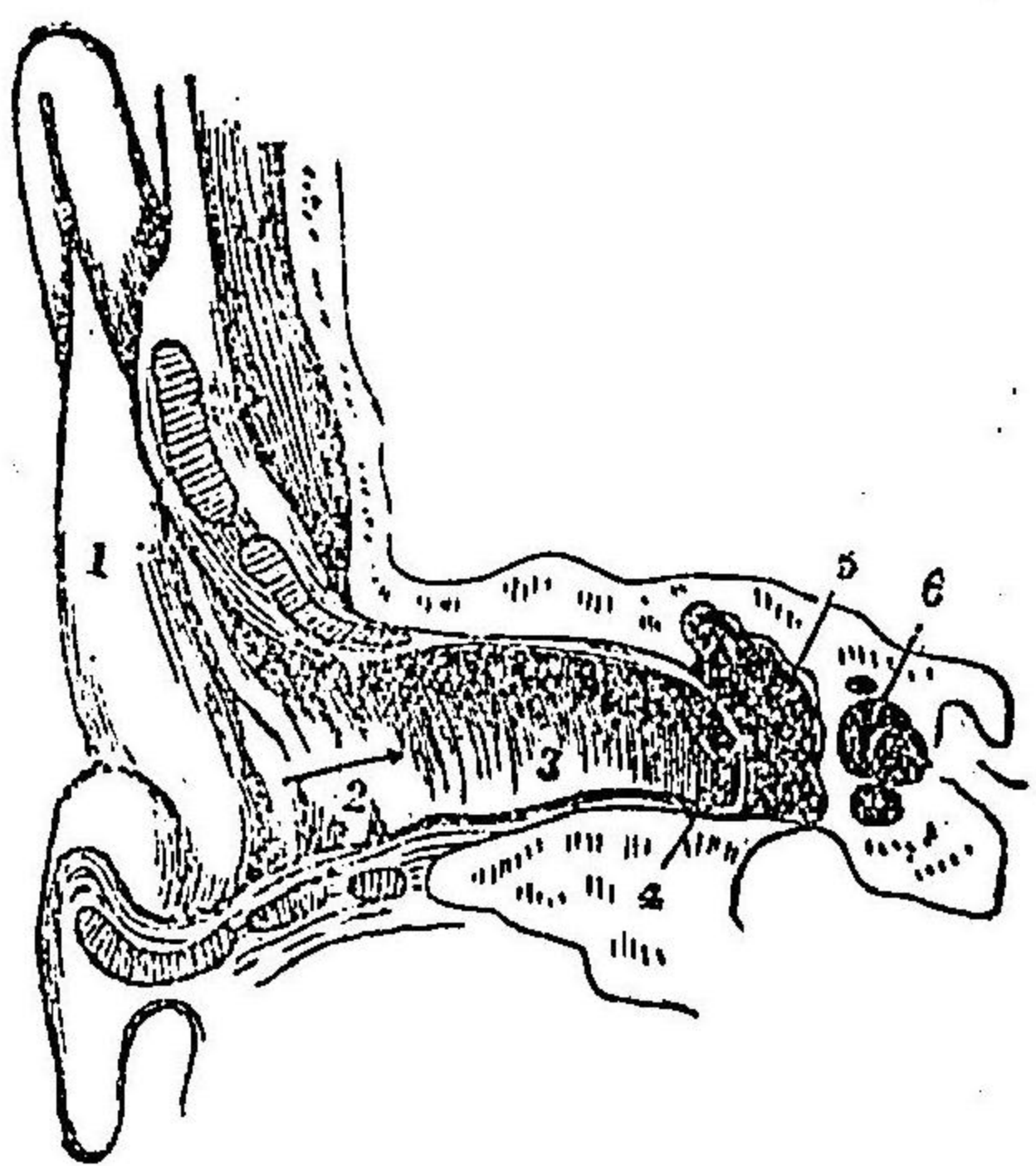
第 六 圖
眼 球 縱 斷 圖
(ス 示 テ 以 テ 像 想)



カ、上下眼瞼各一條ノ睫
ク、結膜
カ、角膜
キ、鞏膜
コ、虹彩
ド、瞳孔
ス、水晶體
セ、硝子體
シ、視神經
ル、涙腺

外耳ハ更ニ小分シテ耳翼・外聽道及ビ鼓膜ノ三トナス。就中耳翼ハ外方ニ露ハルノ部ニシテ、内質ハ軟骨ヨリナリ、其形チ貝殼狀ヲナシ、内ニ隆起ト凹窩トヲ現ハシ、内方ニ通ズルノ一孔ヲ外聽道口ト稱ス。耳翼ノ下方ニ下垂スル柔軟部ヲ耳垂トナス。○外聽道ハ、外聽道口ト鼓膜ノ間ニシテ、其

耳ノ想像圖（縱斷）



- 1、耳翼
- 2、外聽道軟骨部
- 3、外聽道硬骨部
- 4、鼓膜
- 5、中耳
- 6、内耳

大部ハ、顛顚骨ノ骨質内ニ存ス。○鼓膜ハ鼓狀ノ薄膜ニシテ、中外耳ノ間ニ緊張シ、全ク兩部ヲ遮斷シ、音響ノ波動ヲ受ケテ、顛動シ、其感覺ヲ内部ニ傳フルノ用ヲナスモ

顛ハ音「シヨ
フ」(「シヨ」
ナリ)一般ニ
「ナリ」ト誤リ
讀ム

第七圖

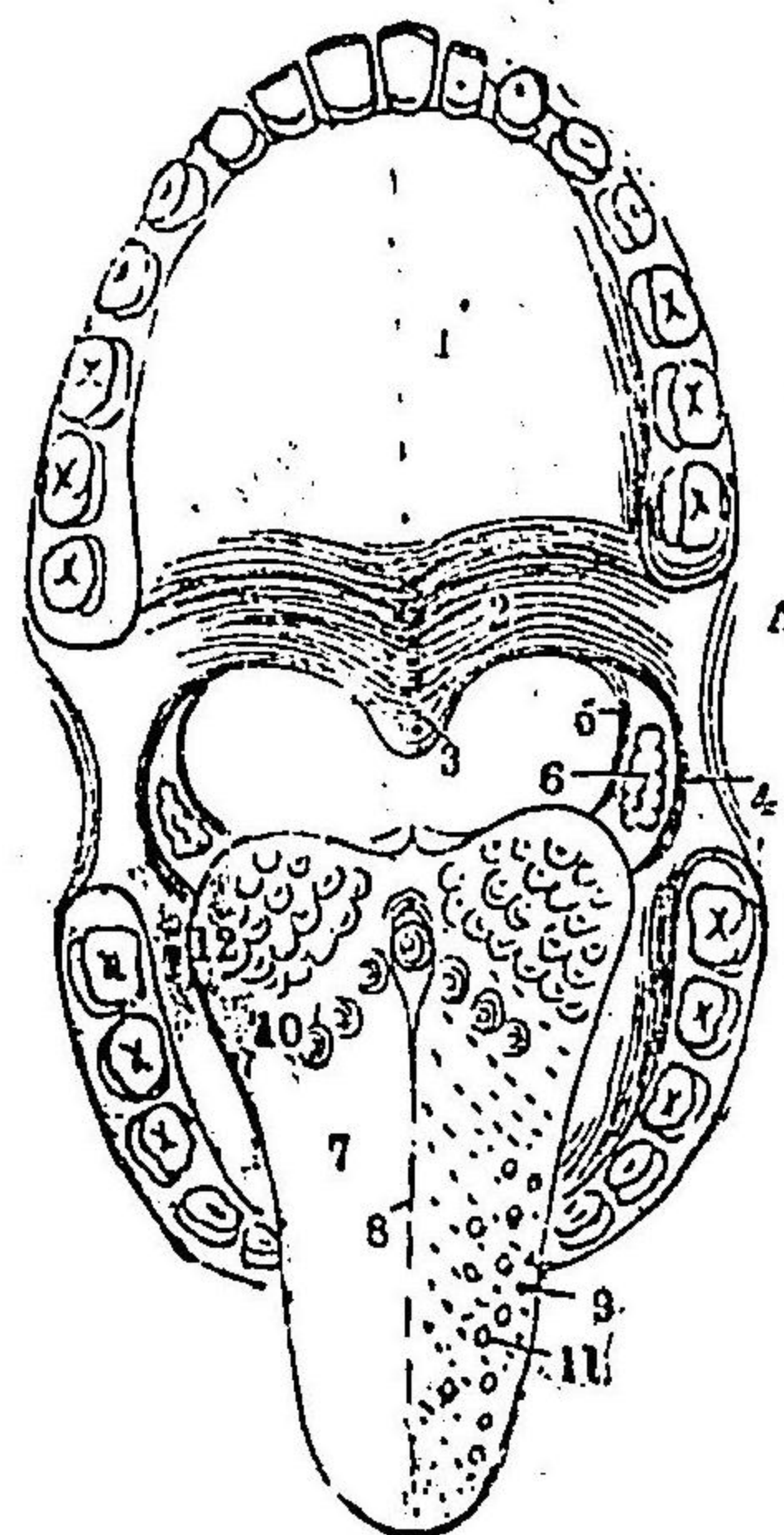
ノトス。
中耳及ビ内耳ハ、顛顚骨内ノ腔洞ニシテ、數個ノ聽骨、弓狀又ハ蝸牛殼狀ノ骨管ヲ有ス。就中内耳ハ聽神經ノ分布セル部位ニシテ、聽管中ノ最要部ヲナス。○中耳ハヨースタク氏管ト名ル小管ニヨリテ、咽頭ニ通ジ、中耳内ニ存スル空氣ノ壓力ヲシテ、外氣ト同一ナラシメ、且ツ分泌物ヲ導クノ用ヲナス。

鼻ハ、嗅覺ヲ司ドルノ部ヲ鼻腔トナス。鼻腔ハ主トシテ、左右兩上顎骨ヨリ成リ、鼻中隔ニヨリテ、左右兩部ニ區分セラレ、前ハ鼻孔ヲ以テ、顔面ニ開口シ、後ハ咽頭腔ニ通ズ。鼻腔ノ粘膜ハ頗ル厚ク、夥多ノ分泌腺ヲ有シ、盛ニ粘液ノ分泌ヲ營ム。又、數多ノ血管ヲ有スルガ故ニ、甚ダ出血(衄血)シ易シ。○鼻腔中、嗅覺ヲ司ル部ハ、其上方ニシテ、下方ハ呼吸ヲ營ムモノトス、而シテ其部狹隘ナルガ故ニ、粘膜腫脹スルトキハ、甚ダシク呼吸ノ障害ヲ呈スルモノトス。

舌ハ口腔底ニ位シ、扁平橢圓形ヲ呈シ、舌骨ヲ以テ其基底トナシ、縱横ニ

組織セル筋質ヨリ成リ、運動甚ダ巧ナリ、舌ノ表面ニハ、諸種ノ小乳頭輪廓
舌及ビ口腔(全ク開張セルモノ)ノ圖

第八圖



- 1、硬口蓋
- 2、軟口蓋
- 3、懸壺垂
- 4、前口蓋弓
- 5、後口蓋弓
- 6、扁桃腺
- 7、舌
- 9、絲狀乳頭
- 10、輪廓樣乳頭
- 11、蕈狀乳頭

樣乳頭、糸狀乳頭、蕈狀乳頭アリテ味覺ヲ司ドルモノトス。舌ハ其後部ヲ舌根、中部ヲ舌背、前端ヲ舌尖ト稱ス。
口腔ノ前部及ビ側部ニハ、齒牙及ビ齒齦アリ、底ニハ舌ヲ有シ、頂上ヲ口蓋トナス。口蓋ハ前方ヲ硬口蓋、後方ヲ軟口蓋ト唱フ。口腔ノ後方ハ咽頭腔ニ移行ス。此移行部ハ即チ軟口蓋ノ後端ニシテ、中央部ニハ懸壺垂アリテ

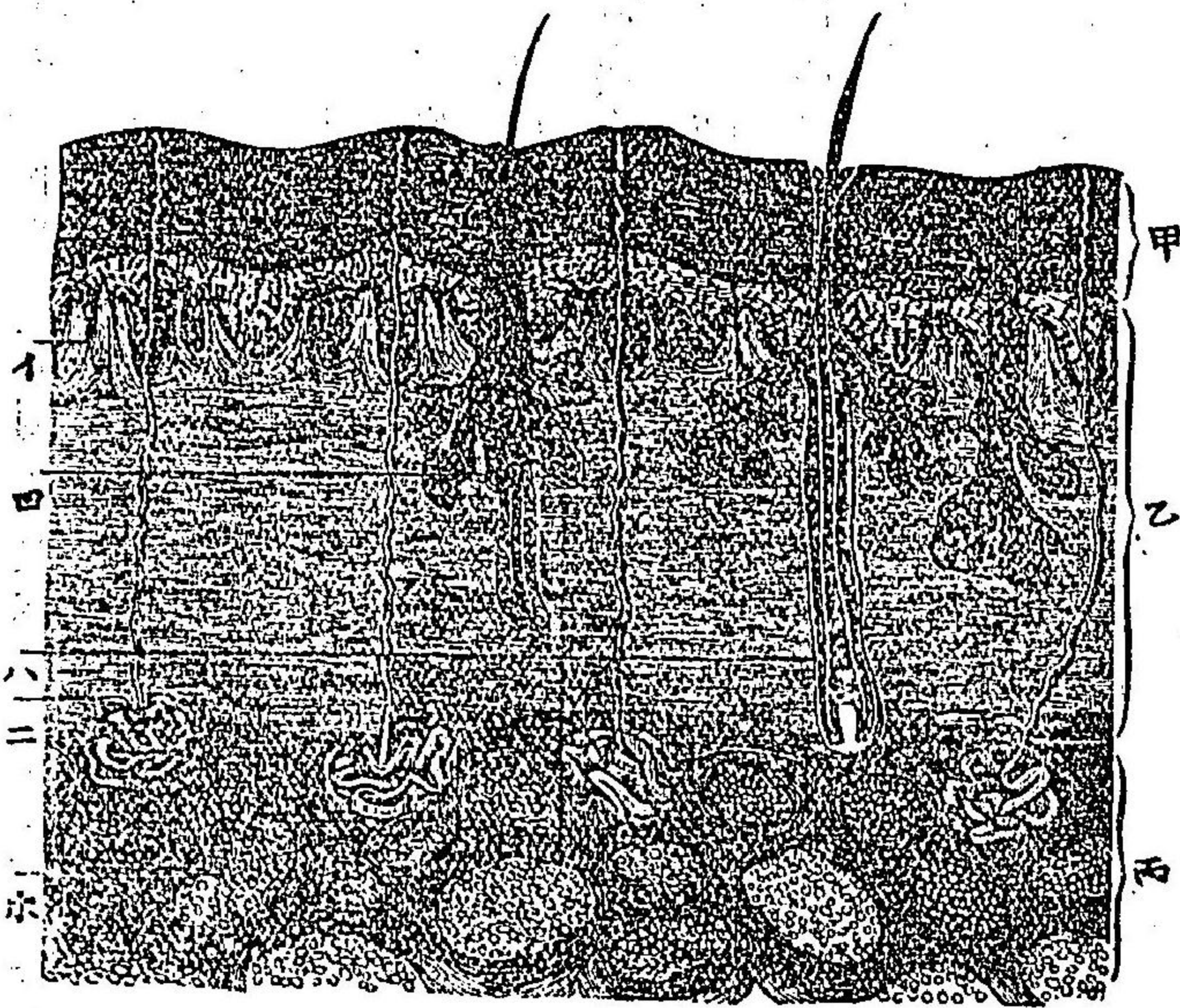
軟口蓋ヨリ下垂シ、兩側ニハ軟口蓋ノ緣端各々兩分シテ前後兩個ノ皺襞ヲナス。之レヲ前後ノ口蓋弓ト名ヅク。兩口蓋弓ノ間ニハ扁桃腺アリ、咽頭ハ前上方ハ鼻腔ニ、前中部ハ口腔ニ、前下方ハ喉頭ニ通ジ、側方ニハヨースタク氏管開口シテ中耳ニ交通シ、下方ハ直チニ食道ニ移行ス可シ。其内腔ヲ咽頭腔ト稱ス。

〔第一九項〕内臓 トハ頭蓋腔、胸廓及ビ腹腔内ニ存スル機關ニシテ腦、脊髓、肺臟、心臟、胃、腸、肝、脾、腎臟、膀胱、子宮等ヲ云フ。

〔第二〇項〕皮膚 ハ五管ノ一ニシテ、觸覺、寒暖ノ感覺ヲ司ドルノ外、身體ノ内部ヲ保護シ、汗ノ分泌ヲ營ム者ナリ。又、毛、髮、爪、甲ハ皮膚ニ屬スルモノトス。

皮膚ノ組織 皮膚ハ三層ニ區別セラレ、最外層ヲ表皮、次ヲ真皮、第三層ヲ皮下結締織トナス。表皮ハ上層ハ扁平、下層ハ圓形ナル數多ノ細胞層ヨリ構成セラレ、其上層ナルハ、逐次ニ鱗屑狀ヲナシ、剝脫スルニ至ル。真皮ハ神經、血管ノ末端、毛根、汗腺、皮脂腺等ヲ具ヘ、最上層ニハ乳頭狀ヲナセル無數

皮膚ノ組織 横断面



- 甲、表皮
 - 乙、真皮
 - 丙、皮下結締
 - 織
 - イ、乳頭
 - ロ、皮脂腺
 - ハ、毛嚢
 - ニ、汗腺
 - ホ、脂肪組織
- ノ小隆起(乳頭)ヲ現ハス。皮下結締織ハ網狀ヲナセル結締織維ヨリ成リ。皮膚ヲ、骨筋肉等、在下ノ組織ニ聯結スルノ用ヲナシ。其網眼中ニハ、夥多ノ脂肪ヲ含ム。汗腺ハ細管纏絡シ、絲球狀ヲナセルモノ

第九圖

ニシテ、其排泄管ハ、表皮ヲ穿通シテ外方ニ開口ス。皮脂腺ハ葡萄狀ノ腺ニシテ、脂肪ヲ分泌シ、其排泄管ハ毛嚢内(毛囊ハ毛根ヲ包ム膜嚢)若クハ表皮面ニ開口ス。

粘膜 ハ眼内口、鼻、胃、腸、氣管等ノ内面ヲ被覆スルモノニシテ、皮膚ノ一連續ヲナシ、分泌腺ヲ有シ、諸種ノ分泌液ヲ出シ、其面滑澤ニシテ、常ニ滋潤スルモノナリ。

〔第二一項〕結締織 トハ細線ヨリ成レル網狀物ニシテ、總テノ臟器ノ間ニアレドモ、殊ニ皮下筋肉ノ間ニ存シ、身體各器ノ連結ヲナサシムル者トス。

脂肪 ハ結締織ノ間ニ合マル、者ニシテ、主トシテ皮下結締織ノ中ニ多シ。

第四章 人體外部各部分ノ區別

〔第二二項〕人體 ハ外部ヨリ區別スレバ、甲頭部、乙軀幹、丙四肢ノ三ト

ナス。以下第五乃至第七章ニ於テ之レヲ記述ス可シ。

第五章 頭部

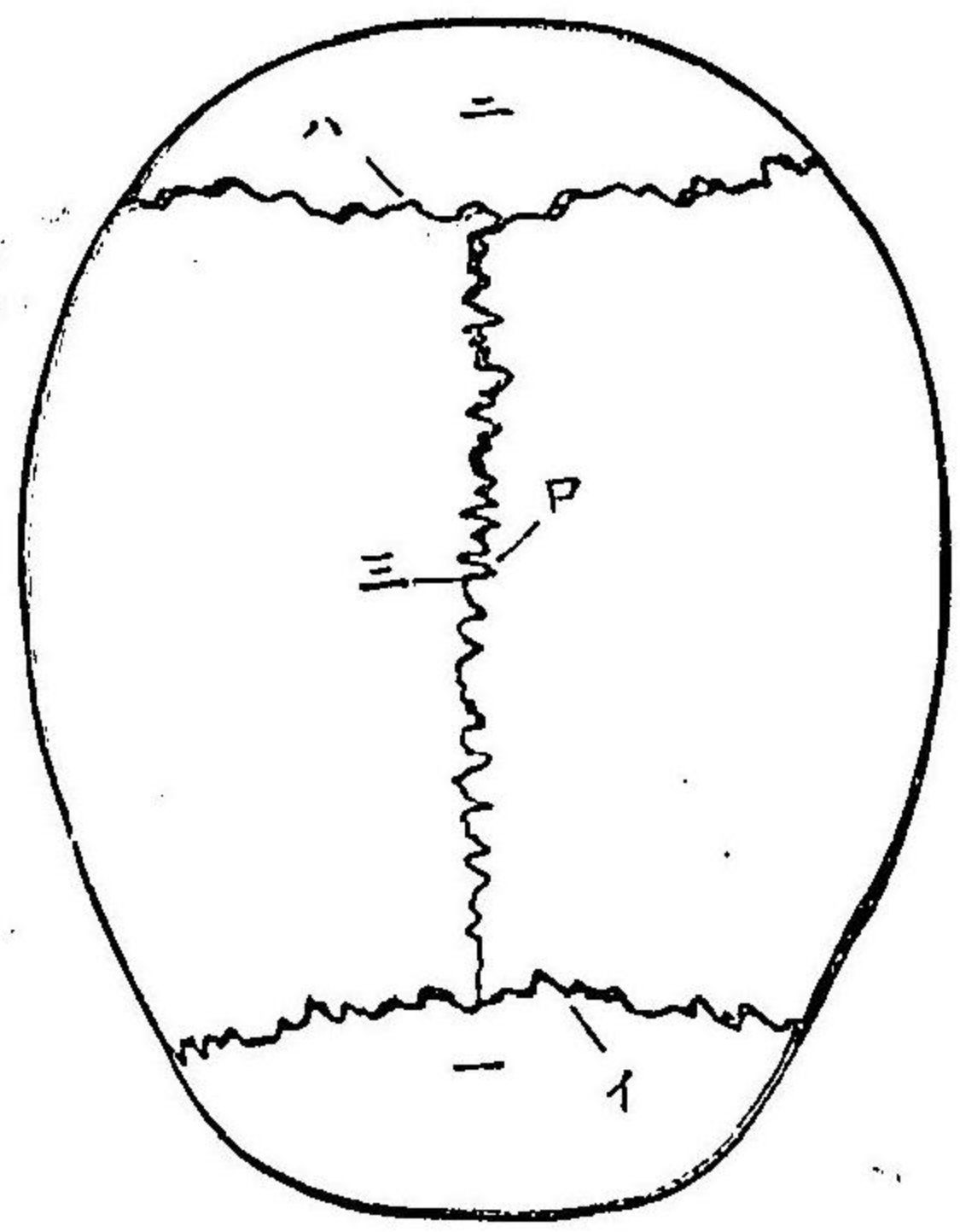
〔第一三項〕頭部 ハ更ニ分テテ頭蓋ト顔面トノ二トナス。

〔第一四項〕頭蓋 ハ腦髓ヲ容ル、骨ノ筐ニシテ、八個ノ骨ヨリナル、即チ次ノ如シ。前頭骨又ハ額骨(一個)顛頂骨(二個)後頭骨(一個)篩骨(一個)蝴蝶骨

(二個)顛顚骨(二個)是レナリ。

此等ノ諸骨ハ、大抵扁平ニシテ、互ニ接合スル所ハ鋸齒狀ヲナシ良ク嵌合ス、之レヲ頭蓋骨ノ縫合ト云フ。初生兒ノ縫合ハ多クハ化骨セズ、而シテ、二個或ハ三四個ノ縫合相接合スル部ニハ、稍大ナル骨ノ間隙ヲ現ハス、之レヲ顛門ト名ク。顛顚骨ノ下部ニ耳竅ヲ現ハス又頭蓋ノ内腔ヲ頭蓋腔ト稱ス。頭蓋ノ底面後頭骨ノ中部ニ大ナル圓形ノ一孔アリ、後頭孔ト云フ、即チ頭蓋腔ト脊髓管トノ通路ナリ。頭蓋外部ノ名稱ハ最上部ヲ顛頂部トナシ、其前部ヲ前頭部トナシ、顛頂ノ後部ヲ後頭部トナシ、頭蓋ノ側方、耳ノ前

第十圖 頭蓋頂面(大人)ノ圖



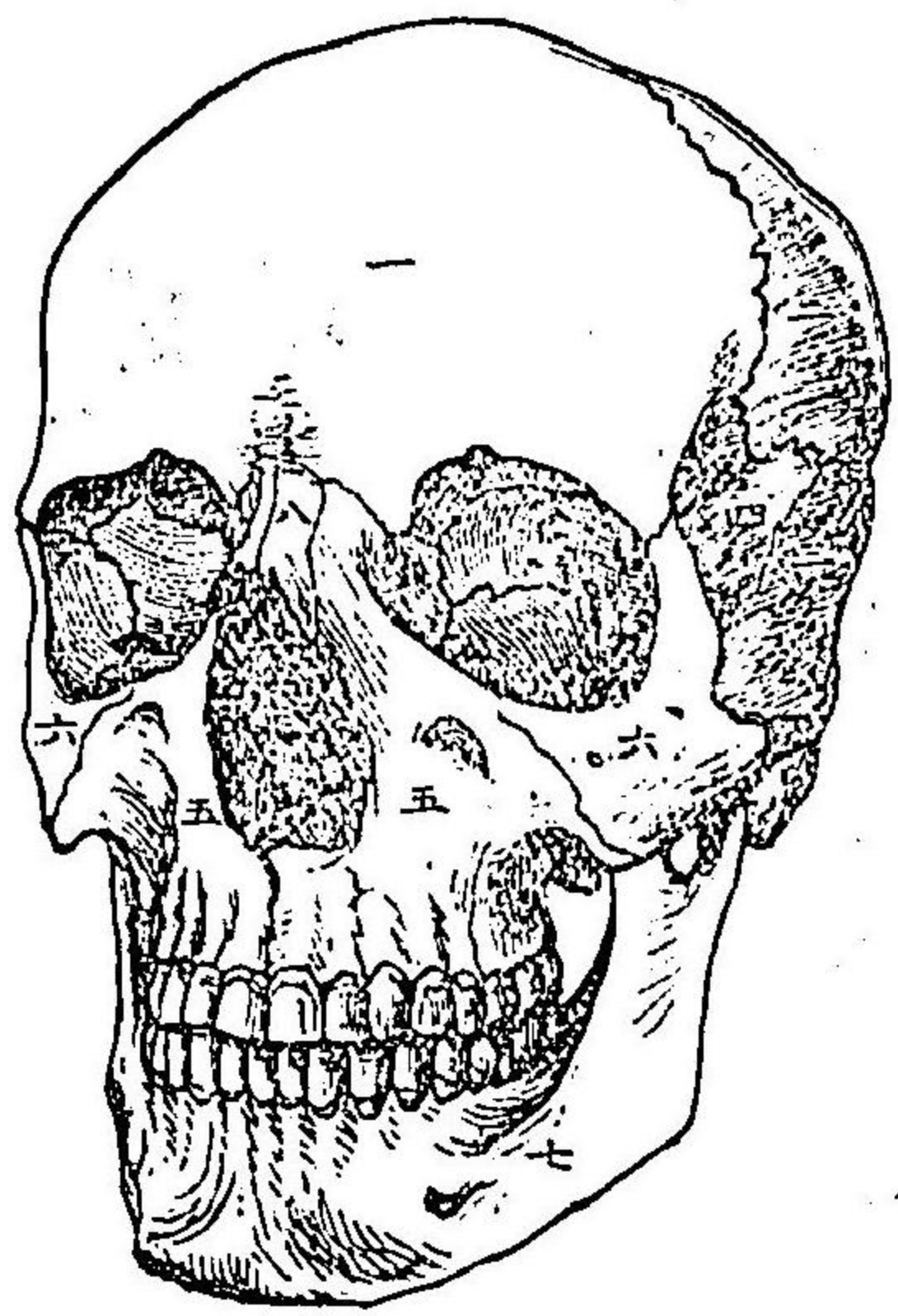
- 一 前頭骨
- 二 後頭骨
- 三 顛頂骨
- イ 冠處縫合
- ロ 矢狀縫合
- ハ 三角縫合

上部ヲ顛顚部トナス。

〔第二五項〕顔面 ハ多クノ骨ヨリ成レルモ、其外面ニ現ハレテ、主要ナルモノハ、鼻骨、上顎骨、頰骨及ビ下顎骨トナス。

顔面骨ノ中央ニ鼻竅ヲ現ハシ、鼻竅ノ上方ニ兩個ノ眼窩アリ。又上下顎骨ノ間ニ口ヲ形成ス。

頭蓋及ヒ顔面諸骨ノ圖



第十圖

- 一 前頭骨(又ハ額骨)
- 二 顛頂骨
- 三 額骨
- 四 蝴蝶骨ノ一部
- 五 上顎骨
- 六 顎骨
- 七 下顎骨
- 八 鼻骨

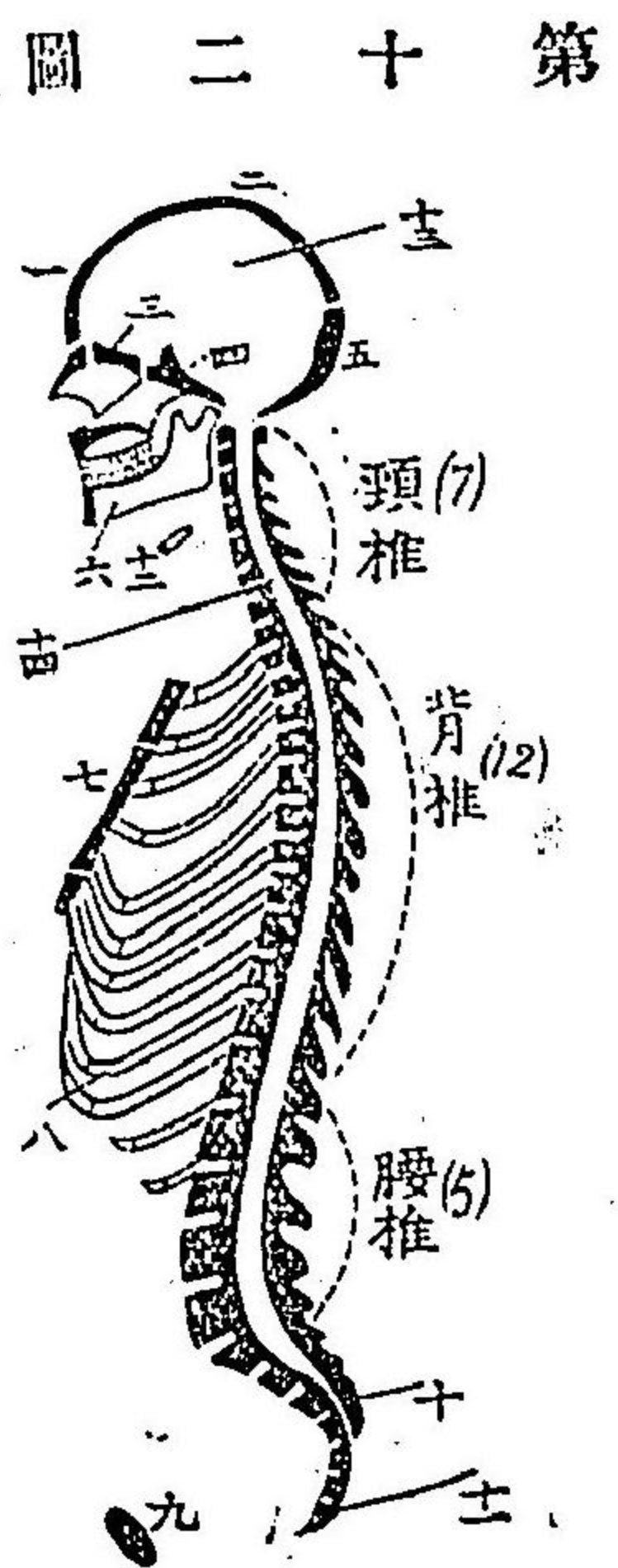
「第二六項」顔面中主要ナル部ノ名稱 鼻ノ中央上下ニ連ナル高所ヲ鼻梁又ハ鼻背ト云ヒ鼻ノ下端鼻孔ノ兩側ニ開張セル部ヲ鼻翼ト稱シ兩眉ノ間ヲ眉間ト唱ヒ口ノ兩側ヲ口角又ハ口吻ト名ケ鼻ノ外側稍高起セル部ヲ額部ト呼ビ額部ノ下部口角ノ外方ヲ頰部ト稱ヘ下顎中央ノ稍尖レル部ヲ命ジテ頤部トナス。又眼ノ内端ハ之レヲ内眥ト謂ヒ外

端ヲ外眥ト號ス。

第六章 軀幹

「第二七項」軀幹 ハ又頭部胸部及ヒ腹部ノ三ニ分ツ而シテ脊柱ト骨盤ニヨリテ支ヘラル此脊柱ハ頸椎七胸椎十二腰椎五ヨリナリ脊髄管ヲ

頭及ヒ軀幹ノ諸骨ヲ縱割シテ示セル圖



第二十圖

- 一 前頭骨
- 二 顛頂骨
- 三 額骨
- 四 蝴蝶骨
- 五 上顎骨
- 六 顎骨
- 七 下顎骨
- 八 鼻骨
- 九 鼻骨
- 十 鼻骨
- 十一 鼻骨
- 十二 鼻骨
- 十三 鼻骨
- 十四 鼻骨
- 十五 鼻骨
- 十六 鼻骨
- 十七 鼻骨
- 十八 鼻骨
- 十九 鼻骨
- 二十 鼻骨
- 二十一 鼻骨
- 二十二 鼻骨
- 二十三 鼻骨
- 二十四 鼻骨

ハ大腿骨ニ連リ子宮膀胱直腸等ヲ容ルモノトス此骨盤ニ就キテハ第九章ニ詳論ス可シ。

〔第二八項〕頸部 ハ前部、左右側部及後部ニ分ツ。前部ニハ皮下ニ喉頭、氣管、甲状腺アリ。側部ニハ筋肉及貴要ナル大血管、神經アリ。後部ハ又項部ト稱シ、皮下ニ頸椎棘狀突起ヲ現ハス。頸椎ト氣管トノ間ニハ食道アリ、一食道ハ、胸腔ヲ過ギ、横膈膜ヲ穿テ、胃ニ聯通スルモノトス。

〔第二九項〕胸部 ニ於テハ、諸骨連合シテ胸廓ヲナス。即チ胸廓ノ前部ハ、胸骨及肋軟骨ニシテ、側部ハ左右各十二個ノ肋骨、後部ハ十二箇ノ背椎ヨリ成レリ。一胸廓前面ノ上部ニ於テ、横ニ胸骨ノ上端ヨリ外方、肩胛骨ノ一突起ニ聯ナレル長骨アリ、之レヲ鎖骨ト云フ。上肢ト胸廓トノ連鎖ヲナスノ骨ナリ。肩胛骨ハ胸廓後面ニ在リ、各側ノ上部ニ位シ、三角形ヲナシ、上肋骨ヲ連結セシム。又胸廓ノ前面ニハ、各側ニ各々一ノ乳房ヲ現ハス。婦人ニ在リテハ、其乳房頗ル大ナルヲ見ル。一胸廓ノ内面ハ滑澤ノ薄膜ヲ以テ被覆セラル、之レヲ肋膜ト名ク。呼吸ノ際、常ニ肺ノ表面ト滑摩シ、密着スルモノトス。一胸廓内ニハ肺臟、心臟及大血管ヲ藏ス。

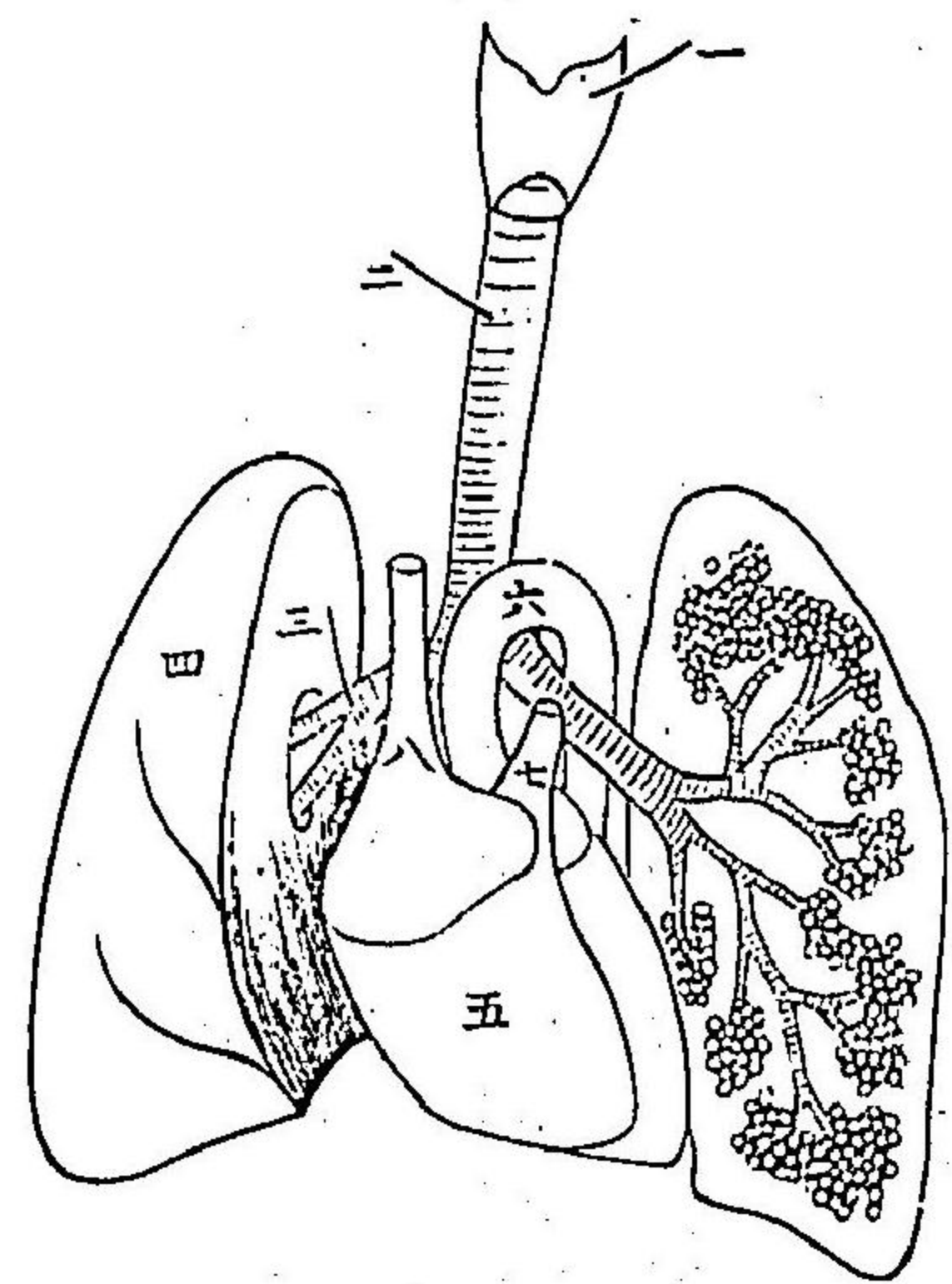
〔第三〇項〕肺臟 ハ左右二個アリ。空氣ヲ出入セシメ、呼吸作用ヲ營

ム所ノ膜。囊ニシテ、其原質ハ毛細氣管枝末端ノ膨大シテナセル最モ細少ナル肺胞ヨリ成リ、肺胞ノ周圍ハ、毛細血管ヲ以テ包擁セラル、モノニシテ、無數ノ肺胞ハ相合シテ恰モ海绵狀ヲナシ、以テ全肺ヲ構成スルモノトス。

氣管及ビ氣管枝 氣管ハ、指環狀ヲナセル多數ノ軟骨相聯接シテ成リ、上ハ喉頭ニ連リ、下

心臟及ヒ肺臟ノ圖

第三十圖



- 一 喉頭
- 二 氣管
- 三 氣管枝
- 四 心臟
- 五 大動脈
- 六 肺動脈
- 七 肺動脈
- 八 上大靜脈

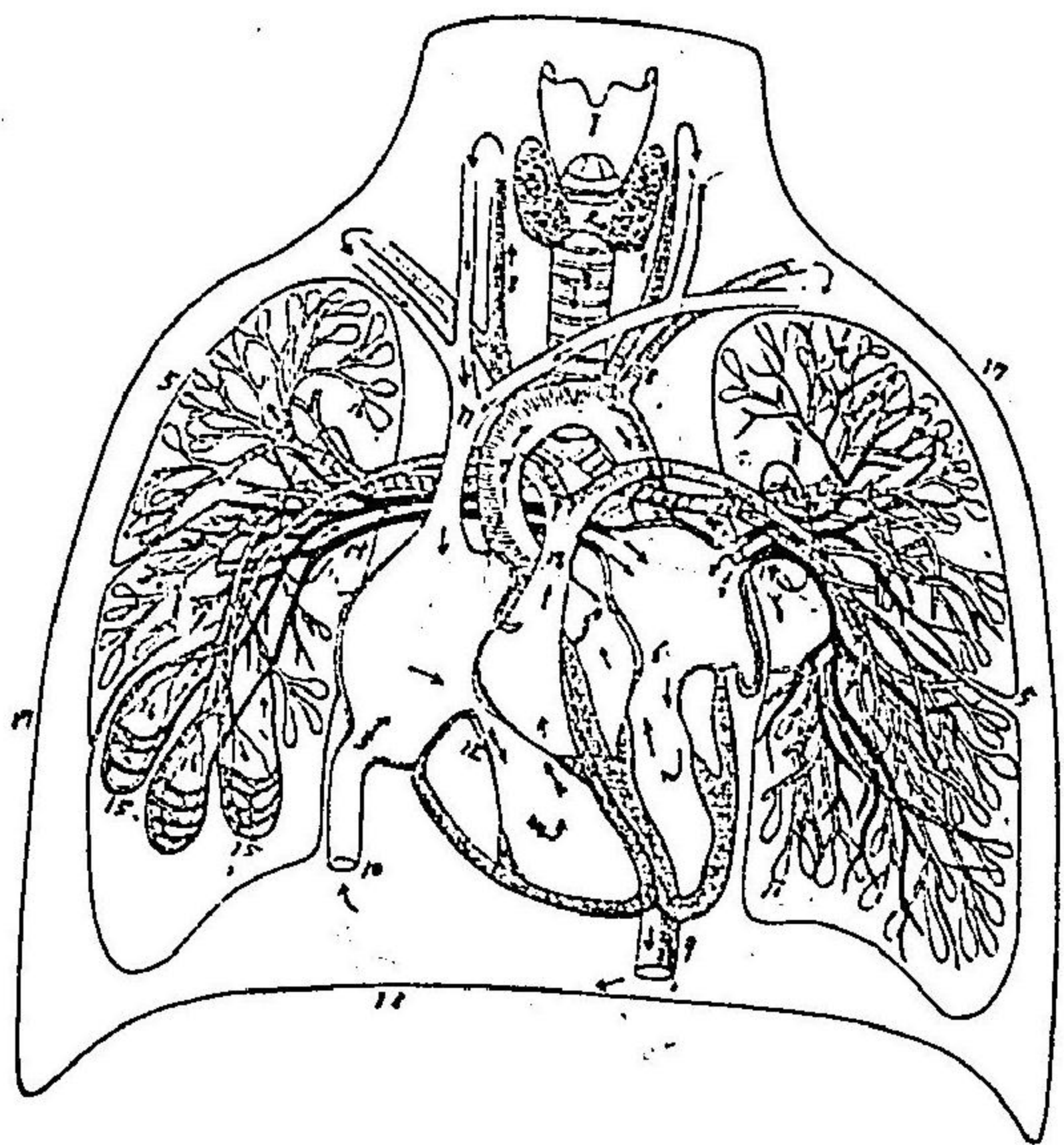
右方ナルハ内部ヲ現ハシ、護膜囊狀ヲナセル肺胞ヲ示ス。

ハ喉頭ニ連リ、下リテ胸廓内ニ入り、二枝ニ分レ、氣管枝トナリ、肺中ニ進入シ、更ニ漸次ニ細分シテ小氣管枝トナリ、益相分レテ毛細氣管枝トナリ、遂ニ

肺胞ヲ形成スルモノトス。
 肺臟ノ作用 吸氣ノ際ハ、胸廓擴張スルヲ以テ、肺臟ハ外圍ノ壓力ヲ失ヒ、
 而シテ口頭ヲ通ジテ壓入スル空氣ノ壓力ノ爲メニ、自ラ膨脹シ、即チ吸氣
 ヲナス。此際肺胞中ニ於テ、空氣ノ酸素ヲ血中ニ取り、同時ニ炭酸及ビ水蒸
 氣ヲ血中ヨリ出シ、以テ靜脈血ヲ變ジテ動脈血トナス。次ニ胸廓縮小シ呼
 氣ヲ營ムノ際、炭酸及ビ水蒸氣ヲ含メル空氣ハ、肺胞ヨリ外方ニ向テ壓出
 セラル、モノトス。

「第三一項」心臟 ハ兩肺ノ中間ニ位シ、全身ノ血液循環ヲ支配スル臟
 器ニシテ、左右二部ヨリ成リ、各々瓣膜ヲ具ヘ、其狀恰モ唧筒ノ如ク自ラ縮
 張シ、以テ血液ヲ流動セシムルモノトス。心臟ノ兩部ハ、各々同一ノ構造ヲ
 有スルモノニシテ、各部更ニ二區ニ分カル。右ハ右房及ビ右室、左ハ左房及
 ビ左室トナス。而シテ右房ハ上下ノ二大靜脈ヲ受ケ、開ケル瓣膜ヲ通ジテ
 右室ニ移行シ、右室ハ肺動脈ニ聯リ、茲ニ瓣ヲ具フ又左房ハ四條ノ肺動脈
 ヲ容レ、同ジク開ケル瓣膜ヲ通ジテ、左室ニ移行シ、左室ハ更ニ大動脈ニ聯

胸廓内ニ於ケル心臟肺臟及ヒ動靜脈ノ關係ヲ示ス圖



- 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
- 1 喉頭
 - 2 甲狀腺
 - 3 氣管
 - 4 左右ノ肺臟
 - 5 左心
 - 6 上行大動脈
 - 7 上肢及ヒ頭部ニ循ル動脈
 - 8 下行大動脈
 - 9 下大靜脈
 - 10 上大靜脈
 - 11 右心
 - 12 肺動脈
 - 13 肺靜脈
 - 14 肺動靜脈ノ中間、毛細管トナリテ肺胞ヲ圍繞スルモノ
 - 15 肺胞(氣管枝ノ末端)
 - 16 胸廓ノ橫隔膜

圖 四 十 第

リ。茲ニ瓣ヲ有ス。此ノ如クニシテ、心臟縮張ノ働作ニヨリ、右心ハ、全身ヨリ
 還リ來レル陳舊青色ノ血液ヲ受ケ、之レヲ肺ニ送り、左心ハ肺ヲ流通シテ

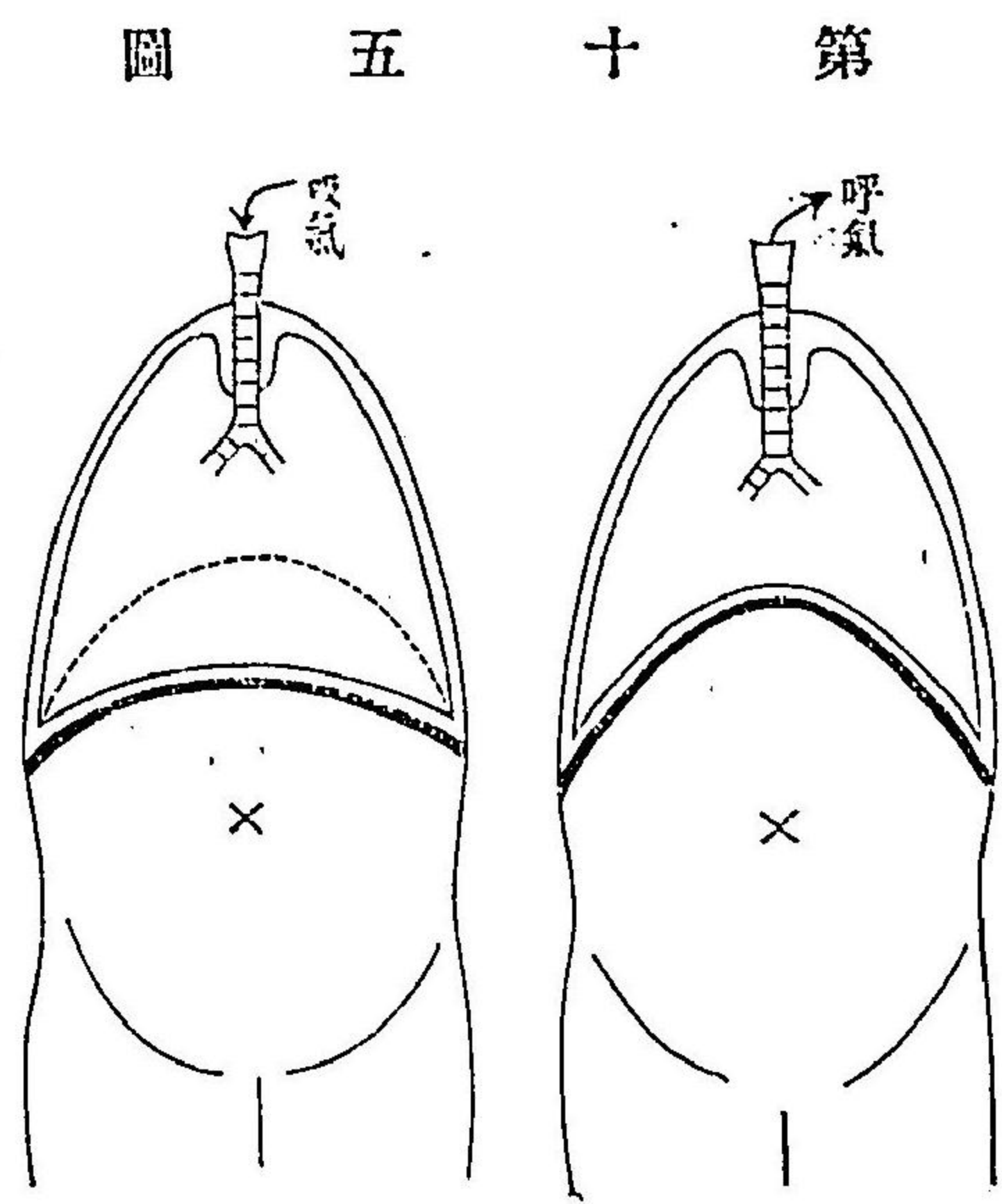
炭酸ヲ放チ酸素ヲ取り新鮮紅色トナレル所ノ血液ヲ受ケ之レヲ全身ニ送リ出スモノナリ、心臟ノ瓣膜ハ血液ヲシテ流動前進セシムル所以ノモノニシテ、血流反行セントスレハ直チニ閉合シ之レヲ決シテ逆流セザラシムルノ用ヲナス。若シ此瓣膜ニ缺損ヲ生ズルトキハ、血液逆流シ、所謂心臟病ヲナシ、全身ノ血行ニ大障害ヲ致サシムルモノトス。

〔第三二項〕動脈靜脈及ビ脈搏 血液ノ、心臟ヨリ出デテ全身ニ循環リ行ク血管ヲ動脈ト云ヒ、心臟ノ收縮ニ從ツテ搏動ス、又、全身ヨリ心臟ニ還ルノ線路ヲ靜脈ト稱ス、搏動スルコトナク、皮下ニ青キ蚯蚓ノ如キ線ノ現ハル、ハ、此靜脈ノ一系ナリ、動脈ノ搏動ハ、之レヲ脈搏ト名ケ、大人ノ脈搏ハ一分間凡ソ七十二回ナリ。

〔第三三項〕橫隔膜 胸廓ノ下底即チ肺臟心臟ノ直下ニハ、筋肉ヨリ成レル穹窿形ノ一膜アリ、橫隔膜ト云フ即チ胸腔ト腹腔トノ境界ヲナシ、食道大動脈及ビ大靜脈之レヲ穿通ス、此膜ハ縮張ヲナシ、主トシテ呼吸ノ作用ヲ營マシム。

〔第三四項〕呼吸ノ運動 ハ胸廓及ビ橫隔膜ノ縮張ニヨリ營マル、モノニシテ、橫隔膜ニ就キテハ、此膜緊張收縮スレバ、膜ノ穹窿部腹腔ニ向テ低下シ、同時ニ起ル所ノ胸廓ノ擴張ト共ニ、肺臟ヲ擴ガラシム、此際、空氣ハ自ラ鼻腔、喉内、氣管ヲ通ジテ、擴張セル肺中ニ流入ス、吸氣トハ即チ是レ

橫隔膜ノ縮張ニヨリ呼吸ヲ營マルノ畧圖



甲、橫隔膜弛ミ延ビテ上方ニ昇リ肺臟縮小シ呼吸ヲ生ズルヲ示ス

乙、橫隔膜縮ミ張リテ腹腔内ニ降リ肺臟擴張シ吸氣ヲ發スルノ圖點線ハ(甲)ノ橫隔膜ノ位置ヲ示ス

ナリ之レニ反シ、胸廓ノ縮小ト共ニ、橫隔膜弛緩延張スル時ハ、腹内ノ壓迫ニヨリテ、其穹窿部再ビ胸廓内ニ昇リ、以テ肺臟ヲ壓縮シ、其中ノ空氣

胃ハ心窩ニ位シ、食道ト腸トノ中間ヲ占メ、其形囊狀ヲナシ、鹽酸ヲ含メル液ヲ分泌ス、之レヲ胃液ト云フ即チ胃内ノ消化ヲ司ドルモノトス。

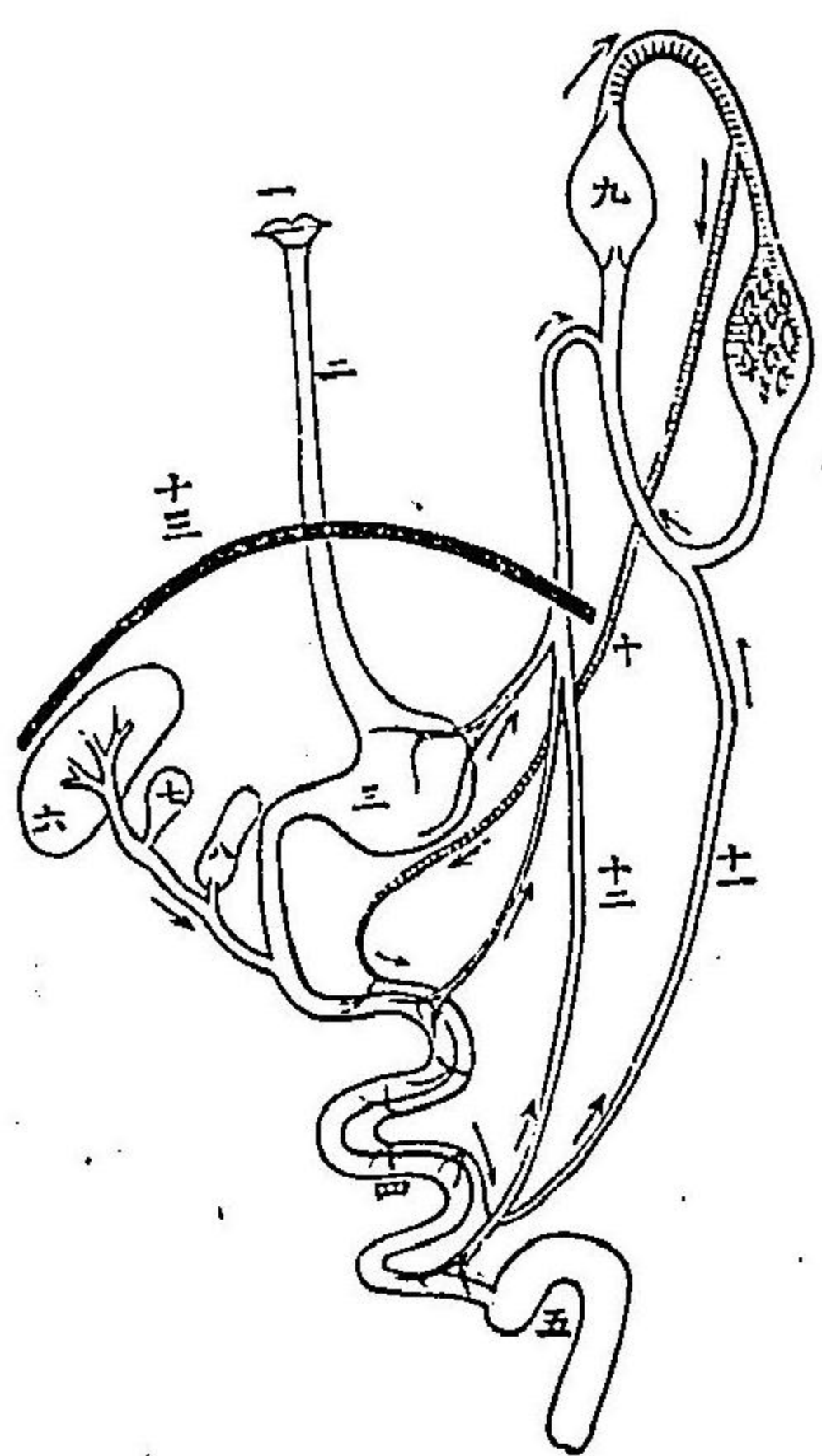
〔第三八項〕腸 ハ上ハ胃ニ接シ、下ハ肛門ニ終レル護謨管ノ如キ器ニシテ、小腸ト大腸トヨリ成レリ。長サ八迷半(即チ凡ソ二丈八尺ニシテ小腸七迷大腸一迷半)アリテ、腹腔内ニ纏廻シ、腸液ト名クル消化液ヲ分泌ス、而シテ小腸ヲ分チテ、十二指腸、空腸、回腸トナシ、大腸ヲ更ニ盲腸、結腸、直腸ニ區別ス。此大腸ニ就キテハ、尙ホ第十八章ニ説ク所アリ、就テ之ヲ見ル可シ。

〔第三九項〕肝、膽及ビ脾 肝及ビ脾ハ腸ノ外部ニ位シ、各消化液ヲ分泌シ之レヲ腸内ニ注グ。其ノ肝ヨリ出ヅルモノヲ膽汁ト云ヒ、脾ヨリ製セルモノヲ脾液ト稱ス。其他、膽(胆嚢)ハ膽汁ヲ貯蓄スル臓器ナリ、而シテ肝臓ノ位置ハ、横隔膜ノ下ニシテ胃ノ右方ニ在リ、膽ハ又肝臓ノ下ニ位ス。脾ハ胃ノ下方ニシテ小腸ノ間ニ存ス。

〔第四〇項〕食物ノ消化 食物ハ初メ胃中ニ達スレバ、胃ノ運動ニヨリ能ク胃液ニ混ジ、漸次ニ消化シ粥狀トナル、之レヲ糜粥ト稱ス、食物既ニ

消化器系ヨリ營養分ノ、血管系ニ進入セル道路ヲ示假ス想圖

第十 八 圖



- 一 口
- 二 食道
- 三 胃
- 四 小腸
- 五 大腸
- 六 肝
- 七 膽
- 八 脾
- 九 心臟
- 十 動脈
- 十一 靜脈
- 十二 水脈管又ハ乳糜管トモ云フ
- 十三 横隔膜
- 十四 肛門

消化器系ヨリ營養分ノ、血管系ニ進入セル道路ヲ示假ス想圖

消化シテ糜粥トナルバ、胃ハ其下口ヲ開キ腸ニ送ル。食物ノ糜粥胃ヨリ腸ニ下ル時ハ、脾液、膽汁及ビ腸液之レニ混和シ、更ニ良ク消化シ腸ノ内面ヨリ吸收セラレ、一分ハ水脈管ヲ經テ靜脈中ニ混ズ、乳糜是レナリ。一分ハ直ニ腸ノ血管中ニ入り、其ニ血液ノ必要分ヲ補フモノナリ。又、食物中ノ消化セザルモノハ、腸管内ニ在リテ、吸收セラル、コトナク漸次ニ腸ノ下部ニ輸送セラレ、消化管中ノ分泌物、其他諸種ノ產物ヲ伴ヒ、終ニ肛門ヨリ排出セラル、之レ

ヲ糞トナス。

〔第四一項〕脾 ハ左季肋部内に於テ、胃ノ左側ニ在リ、血液ノ製造ヲ司
ドルモノナリ。

〔第四二項〕泌尿器又ハ泌尿器 ハ腎臟、輸尿管、膀胱及ビ尿道ニシテ、
腎臟ハ左右二個アリ、腰椎ノ兩側ニ位シ、其形蠶豆狀ヲナス。尿ハ此内ニ分
泌セラレ、輸尿管ヲ通リテ膀胱中ニ蓄積シ、其滿ルニ至レバ、尿道ヨリ排泄
セラル、泌尿器連續ノ状態ハ第三十四圖ヲ參看ス可シ。

〔第四三項〕子宮、卵巢等 ハ腹腔ノ下部、骨盤内ニ位ス。其詳細ノ説明
ハ之レヲ第十四章乃至第十八章ニ譲ル。

第七章 四肢

〔第四四項〕四肢 ヲ分チテ、上肢、下肢ノ二トナス。

〔第四五項〕上肢 ハ更ニ分チテ、肩胛部、上膊、前膊、腕部、掌部及ビ指トナ
ス。肩胛部ハ肩胛骨ノ位セル部ニシテ、前側ニハ鎖骨アリテ、胸骨ニ聯ナリ、

以テ上肢ヲ胸廓ニ連接セシム。上膊ニハ上膊骨アリ、前膊ニハ内方ニ尺骨、
外方ニ橈骨アリ。上膊ト前膊トノ接合セル後側部ヲ肘ト云フ。腕部ニハ八
箇ノ腕骨アリ。又掌部ニハ五箇ノ掌骨、指ニハ、拇指ニ二節、他ノ四指ニ各三
節ノ指骨アリ。手トハ腕部、掌部及ビ指ノ三部ヲ總稱セルモノナリ。

〔第四六項〕指ノ名稱 ハ第一ヲ拇指、第二ヲ示指、第三ヲ中指、第四ヲ
環指、又ハ無名指、第五ヲ小指ト云フ。

〔第四七項〕下肢 モ亦分チテ、腕部、髀部、上腿、下腿及ビ足部トナス。即チ
下腹部ノ外方、腸骨翼ノ部位ヲ腕部トナシ、腕部ノ後下方ニ當リ、筋肉ノ甚
シク膨隆セルノ部ヲ髀部トナス。上腿ニハ大腿骨アリ、身體中最大ナル骨
ナリ。而シテ此骨ノ上ハ骨盤ノ髀臼ニ關節シ、下ハ脛骨ニ連ナル。大腿骨及
ビ脛骨ノ連合スル部ヲ膝ト云ヒ、後面ヲ膝髁ト名ク、膝ノ關節ヲ膝關節ト
稱シ、其關節ノ前側ニ膝蓋骨アリ。下腿ニハ二個ノ骨アリ。内ハ即チ脛骨ニ
シテ外ヲ腓骨ト稱シ、下腿後側ニ於ケル筋肉ノ膨隆部ヲ腓腸部トナス。足
部ハ後方ニ突隆セル部ヲ踵ト名ケ、下面ヲ蹠ト稱シ、前部ニハ趾ヲ具フ。

足部ノ骨ニハ三種アリ、跗骨七箇、蹠骨五箇、趾骨十四箇是ナリ、就中趾骨ハ、跗趾ニ二個、其他ノ諸趾ニハ各三個宛ナリトス。

〔第四八項〕足趾ノ名稱　ハ第一ヲ第一趾、又ハ跗趾、第二ヲ第二趾、第三ヲ第三趾、第四ヲ第四趾、第五ヲ第五趾、又ハ小趾ト稱ス。以上、上肢及ビ下肢ノ諸骨ハ、第一圖ニ就キテ之レヲ看ル可シ。

第八章 婦人ニ固有ナル體格

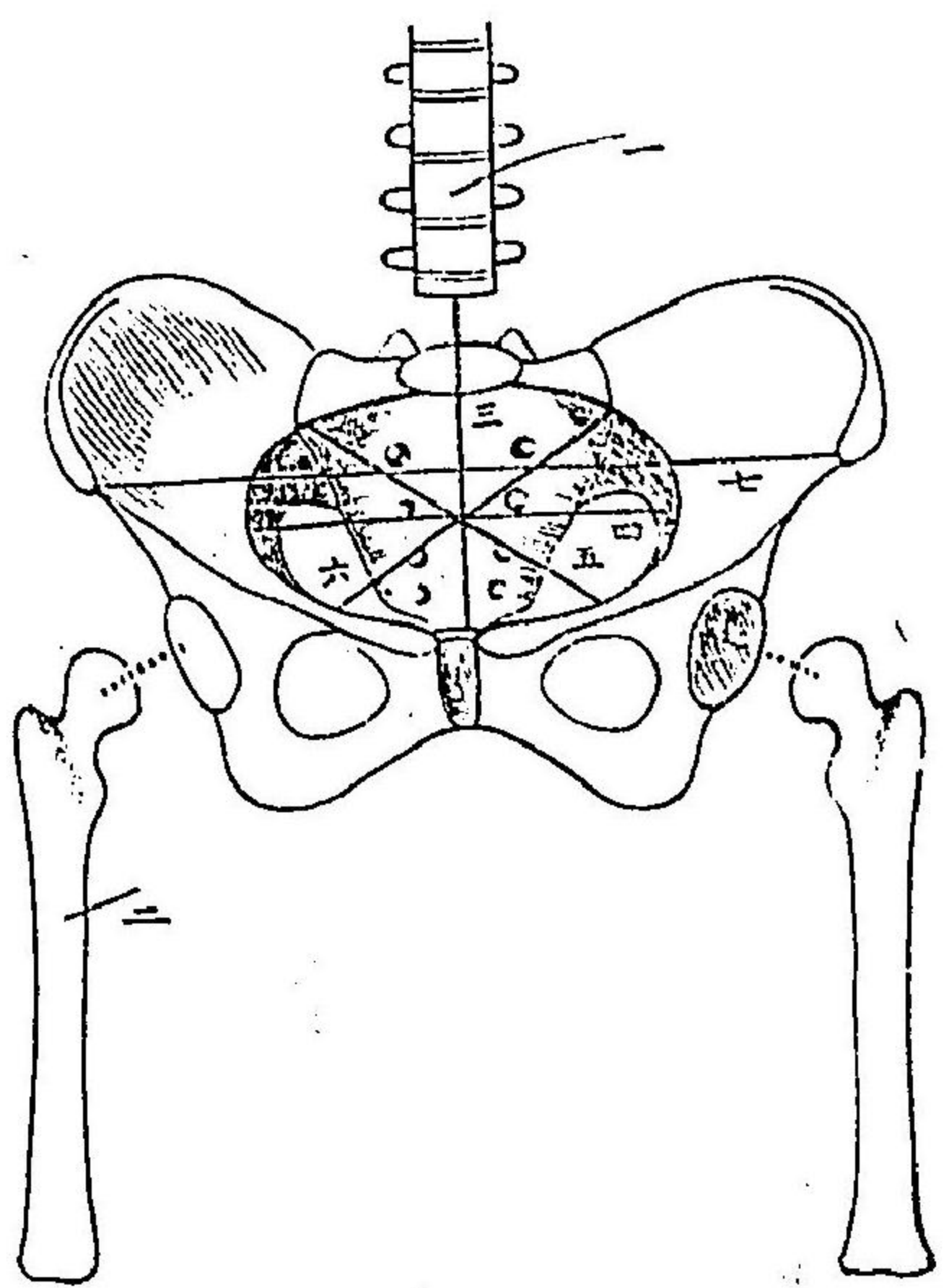
〔第四九項〕婦人　ハ骨格及ビ筋肉ハ弱少ナレドモ、脂肪ノ發生ト骨盤ノ發育ハ優大ナルモノナリ、就中、婦人ニ最モ緊要ナルハ骨盤ノ狀態ナリ、是レ胎兒ハ骨盤内ヲ通リテ産出スルモノナルニ由ル。

〔第五〇項〕男女骨盤ノ差異　ハ頗ル著シキモノナリ、即チ女子ノ骨盤ハ、全形大ニシテ短ク、骨盤腔ハ潤大ニシテ淺ク、(即チ短ク)下口ハ殊ニ大ナリ、薦骨尾骶骨共ニ短クシテ著シク、後方ニ凸出シ、恥骨及ビ坐骨ハ高徑短ク、恥骨縫際ノ横徑廣シ、恥骨弓ハ男子ニ於テハ七十五度ナレドモ、女子ニ在リテハ九十度乃至九十四度ナリトス。

第九章 骨盤

子ニ在リテハ九十度乃至九十四度ナリトス。

第十圖



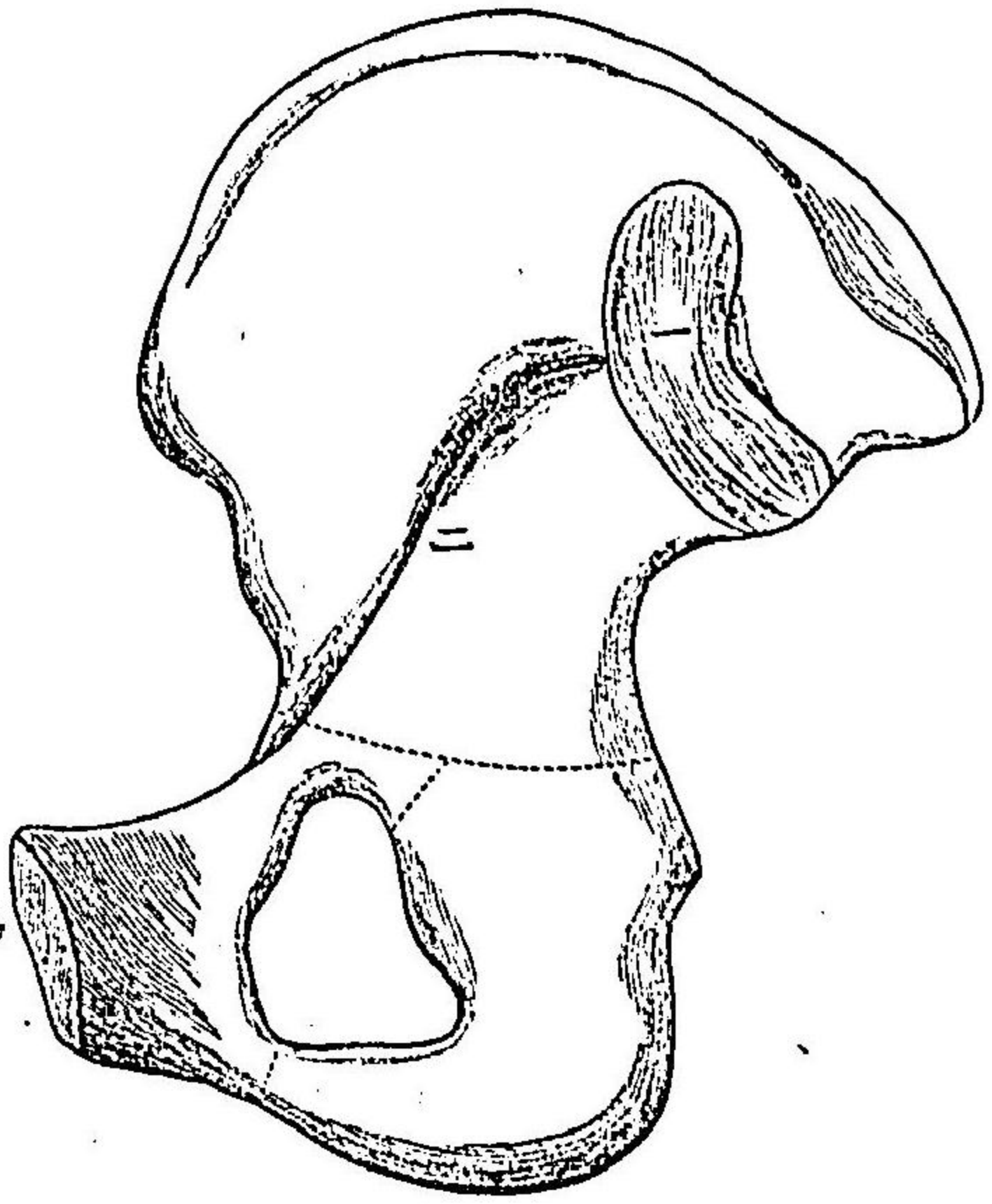
- 一 股椎
- 二 大腿骨
- 三 直徑線
- 四 横徑線
- 五 第一斜徑線
- 六 第二斜徑線
- 七 左右腸骨前上棘間ノ距離

〔第五一項〕骨盤　ハ腰部ノ骨ニシテ、腰椎ト大腿骨ノ間ニ位シ、盤狀ヲナスヲ以テ此ノ名アリ、之レヲ區別スレバ、臑骨或ハ無名骨、薦骨及ビ尾骶

ナス。此骨ハ小兒ノ時軟骨ヲ以テ連結セル三個ノ骨ヨリ成ル。腸骨、坐骨、耻骨ト稱ス。十四五歳ニ及ビ其間ニ存スル軟骨ハ、化骨シテ堅ク癒着シ、以テ脆骨ヲナシ、其癒合部ニハ隆線ヲ現ハシ、以テ之レヲ微知セシム。

〔第五項〕腸骨 ハ脆骨ノ上部ヲナセルモノニシテ、形チ恰モ鋤ノ如シ。之レヲ區別シテ體ト翼又ハ板トナス。其上縁ハ彎曲ニシテ弓狀ヲナス。

第 二 十 二 圖
圖ノ面内骨脆



腸骨前上棘ト云フ其前端ヲ腸骨前上棘ト云ヒ後端ヲ腸骨後上棘ト名ク又前上棘ノ下方ニハ前下棘アリ後上棘ノ下ニハ後下棘ヲ現ハス腸骨ノ内面ハ稍凹陥ヲ呈シ腸骨窩ヲナス腸骨窩ノ下方ニ弧形線アリ其後方

- 一 耳狀面
- 二 弧形線
- 三 恥骨軟骨接合面

ニ耳狀ノ粗糙面アリ之レヲ耳狀面ト名ク薦骨トノ關節面ナリ腸骨ノ外面ハ稍膨隆ヲ呈シ髂部筋肉ノ附着部ヲナス腸骨體ハ強厚ニシテ狭ク他ノ坐骨及ビ耻骨ノ體部ト共ニ髌臼ヲ構成ス。

〔第五六項〕坐骨 ハ體ト二枝ヨリナル體ハ強厚三角形ヲナシ髌臼ノ一部ヲ形成シ後縁ノ下方ニ坐骨棘ヲ出ダス下行枝ハ體ノ下方ニシテ下端ニ坐骨結節ヲ呈ス上行枝ハ下端ヨリ斜メニ内上方ニ赴キ耻骨下行枝ト連続ス。

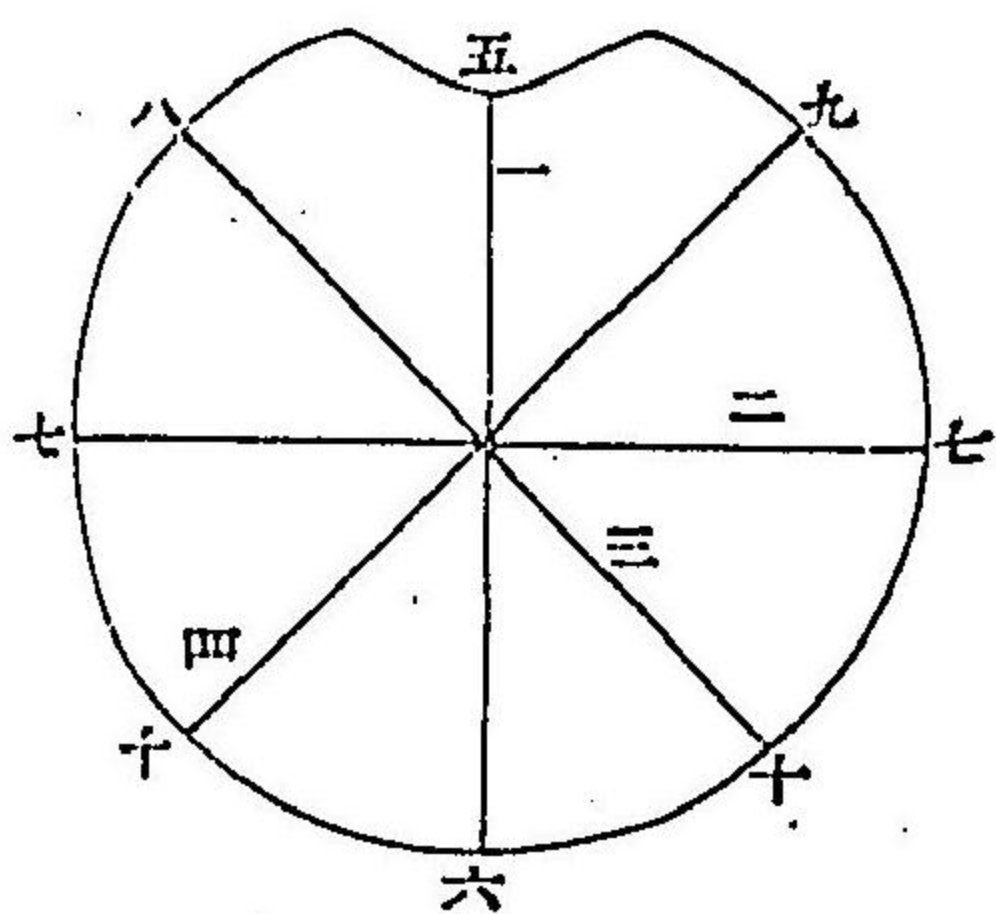
〔第五七項〕恥骨 モ亦體ト二枝ヨリ成ル體ハ髌臼ノ前下方ニシテ其上部腸骨トノ接際ニ腸結節ヲ現ハス即チ腸骨及ビ恥骨ノ癒合部ナリ地平枝ハ體ヨリ前内方ニ赴キ内端ニハ軟骨トノ接合面ヲ現ハス即チ左右ノ恥骨ハ軟骨ニヨリテ相接合スルモノナリ其接合部ヲ恥骨縫際ト稱フ接合面ノ上方ニハ恥骨結節ヲ呈ス下行枝ハ地平枝ノ内端ヨリ下外方ニ向フ坐骨及ビ恥骨ノ各兩枝ハ相連合シ圍擁シテ一孔ヲ形成ス之レヲ閉鎖孔ト稱フ。

〔第五八項〕髀臼 ハ杯狀ノ深窩ニシテ、腸骨、坐骨及ビ恥骨ノ三骨體相癒合セル中央部ニ在リ。大腿骨頭ヲ受容シ、股關節ヲ形成ス。

第十章 大骨盤及ビ小骨盤

〔第五九項〕大小骨盤 ハ左右腸骨、薦骨、尾骶骨及ビ第五腰椎ノ四種(骨數八箇)ヨリナル。無名線ヲ以テ、大小骨盤ノ境界トナス。無名線ハ即チ小骨盤入口ノ形狀及ヒ徑線ノ圖

圖 三 十 二 第



直徑線
一 橫徑線
二 第一斜徑線
三 第二斜徑線
四 薦骨岬
五 恥骨縫際
六 左右無名線
七 最廣部
八 右薦腸關節
九 左薦腸關節
十 右腸恥結節
十一 左腸恥結節

骨盤ノ入口ナリ。

〔第六〇項〕小骨盤

ハ其廣サ僅カニ兒頭ヲ通過セシムルニ足ルヲ以テ、分娩ニ當リテ、甚ダ緊要ノ關係アリ。此ノ如ク緊要ナルヲ以テ、通常單ニ骨

盤ト稱スレバ、直ニ小骨盤ヲ指スモノトス。小骨盤ヲ分テテ、骨盤入口(上口)骨盤出口又ハ下口及ビ骨盤腔ノ三トナス。

〔第六一項〕骨盤入口(上口)

ハ即チ無名線ノ部ニシテ、其線ハ後ハ薦骨岬ヨリ始マリ、側部ハ、腸骨弧形線ニ至リ、前ハ、腸恥結節ヲ過ギ恥骨地平枝ノ上縁ヨリ、恥骨縫際ノ上縁ニ於テ、左右ヨリセルモノ相會合シ、以テ骨盤入口ヲ形成ス。此入口ノ形狀ハ、殆ド葵ノ葉ノ如ク、其大サハ三種ノ經線ヲ以テ表示セラル。即チ直徑線、橫徑線及ビ斜徑線是ナリ。但シ日本婦人ニ於ケル徑線ノ長サハ、調査ノ數少ナク、未ダ規定スルニ至ラザルヲ以テ、茲ニハ獨逸婦人ノ徑線ヲ示セリ。但シ日本婦人ニ於ケルモノハ、參考トシテ之レヲ小欄内ニ示セリ。就テ看ル可シ。

直徑線 薦骨岬ノ中央ヨリ恥骨縫際上縁ノ中央ニ達スルモノ
長サ十一仙迷(凡ソ三寸六分六厘)

橫徑線 左右腸骨無名線中部ノ最大ナル距離
長サ十三仙迷半(凡ソ四寸五分)

斜徑線：二線アリ。一ハ右斜徑線又ハ第一斜徑線ニシテ、右薦腸關節ヨ

リ左腕骨ノ腸恥結節ニ至リ、一ハ左斜徑線又ハ第二斜徑線ニシテ、左薦腸關節ヨリ右腸恥結節ニ達スルモノニシテ、兩線互ニ交叉ス。長各十二仙迷半(凡ソ四寸八分六厘)

日本婦人骨盤徑線ノ計測 近時我國ニ於テ計測セラレタル(帝國大學小金井大澤兩博士計測本邦婦人骨盤徑線ヲ獨乙婦人ノ骨盤徑線ニ對比シ示セバ次ノ如シ)

	日本婦人	獨逸婦人
骨盤入口直徑線	一〇、七仙迷	一一、〇仙迷
骨盤入口橫徑線	一一、一仙迷	一一、三仙迷
骨盤入口右斜徑線	一一、二仙迷	一一、五仙迷
骨盤入口左斜徑線	一一、一仙迷	一一、五仙迷
骨盤出口直徑線	一一、一仙迷	一一、五仙迷
骨盤出口橫徑線	一一、六仙迷	一一、〇仙迷
骨盤出口斜徑線	一一、〇仙迷	一一、〇仙迷
坐骨棘間之距離	一一、七仙迷	凡ソ二、七五仙迷
對角直徑線	六十四度	凡ソ五十五度
骨盤入口平面之傾斜	七十六度	九十四度乃至
恥骨角		

〔第六二項〕骨盤腔 トハ骨盤入口ヨリ骨盤出口ニ至ルノ間ヲ云ヒ、其

後壁ハ薦骨及ビ尾骶骨ニシテ、側壁ハ坐骨及ビ腸骨ノ下部、前壁ハ左右ノ恥骨ヨリナレリ。形狀ハ入口ト異ニシテ、前後ニ廣ク、横徑ハ却テ短カシ、又骨盤腔内ニハ骨盤廣部及ビ骨盤狹部ノ二部アリ。甲ハ薦骨ノ第二及ビ第三椎ノ連合部ヨリ恥骨縫際後面ノ中央ニ達スル線ノ部位ニシテ、骨盤腔中ノ最モ廣キ部ヲナシ、乙ハ薦骨及ビ尾骶骨ノ關節ヨリ恥骨縫際後面ノ下線ニ至ル線ノ部位ニシテ、骨盤腔中最モ狹キ所トナス。第二十八圖中〔二〕ハ骨盤廣部ノ直徑線(長サ十二仙迷七五即チ凡ソ四寸二分五厘ニシテ)〔三〕ハ骨盤狹部ノ直徑線ナリ(長サ十一仙迷半即チ凡ソ三寸八分三厘) (骨盤廣部ノ横徑ハ兩髌白部ノ内面ノ間ニシテ長サ十二仙迷、骨盤狹部ノ横徑ハ兩坐骨棘間、長サ十仙迷ナリトス)

〔第六三項〕骨盤出口(下口) ハ後ハ尾骶骨ノ尖端、前ハ耻骨弓、左右ハ兩坐骨結節ヨリナレリ。其經線ヲ示スコト次ノ如シ、但シ斜徑線ハ、其後端軟部ヨリナルガ故ニ、其長徑ヲ定メズ。

直徑線

耻骨縫際ノ下線ヨリ尾骶骨ノ尖端ニ至ル。

九、五仙迷(凡ソ三寸一分六厘)

分娩時ニハ尾骶骨後方ニ移動スルガ故ニ凡ソ

十一、五仙迷(凡ソ三寸八分三厘)

横徑線 兩坐骨結節間

十一、仙迷(凡ソ三寸六分六厘)

〔第六四項〕大骨盤

ハ小骨盤ノ上部ニ位シ、後ハ第五腰椎、左右ハ

腸骨翼前ハ骨質ヲ缺キ、腹壁ノ下部ヲ以テ成ル。大骨盤ハ、分娩ノ際、直接ニ緊要ノ關係ナシト雖モ、其状態ヲ明カニスルトキハ、小骨盤ノ形状ヲ概知シ得ベシ。而シテ大骨盤ニ於テモ、數種ノ徑線ヲ定ム。骨盤外計測法ニヨリテ之レヲ測定ス可シ。即チ此外計測法ニヨリテ檢スベキモノハ、外直徑線、外斜徑線、左右腸骨前上棘間ノ徑線、左右腸骨櫛間ノ徑線及ビ左右大轉子間ノ徑線是ナリ。就中產婆ニ於テ概チ檢知シ得可キハ、前上棘間ノ徑線トナス(第二篇ヲ參看ス可シ)。次ニ各徑線ノ距離ヲ記ス可シ。但シ、日本婦人ニ於ケル計測數ハ、未ダ一般ニ承認セラレ、ニ至ラザルガ故ニ、茲ニハ、主

トシテ獨乙婦人ノ徑線ヲ記載セリ。

外直徑線

第五腰椎棘狀突起ヨリ恥骨縫際ノ前面ニ至ル

二十仙迷(日本婦人十八仙迷)

外斜徑線

一側ノ腸骨後上棘ヨリ他側ノ腸骨前上棘ニ至ル

二十二仙迷(日本婦人二十仙迷)

左右腸骨前上棘間ノ距離(徑線)

二十五仙迷(日本婦人十三仙迷)

左右腸骨櫛間ノ距離(徑線)

二十八仙迷(日本婦人十六仙迷)

左右大轉子間ノ距離(徑線)

三十二仙迷(日本婦人十八仙迷)

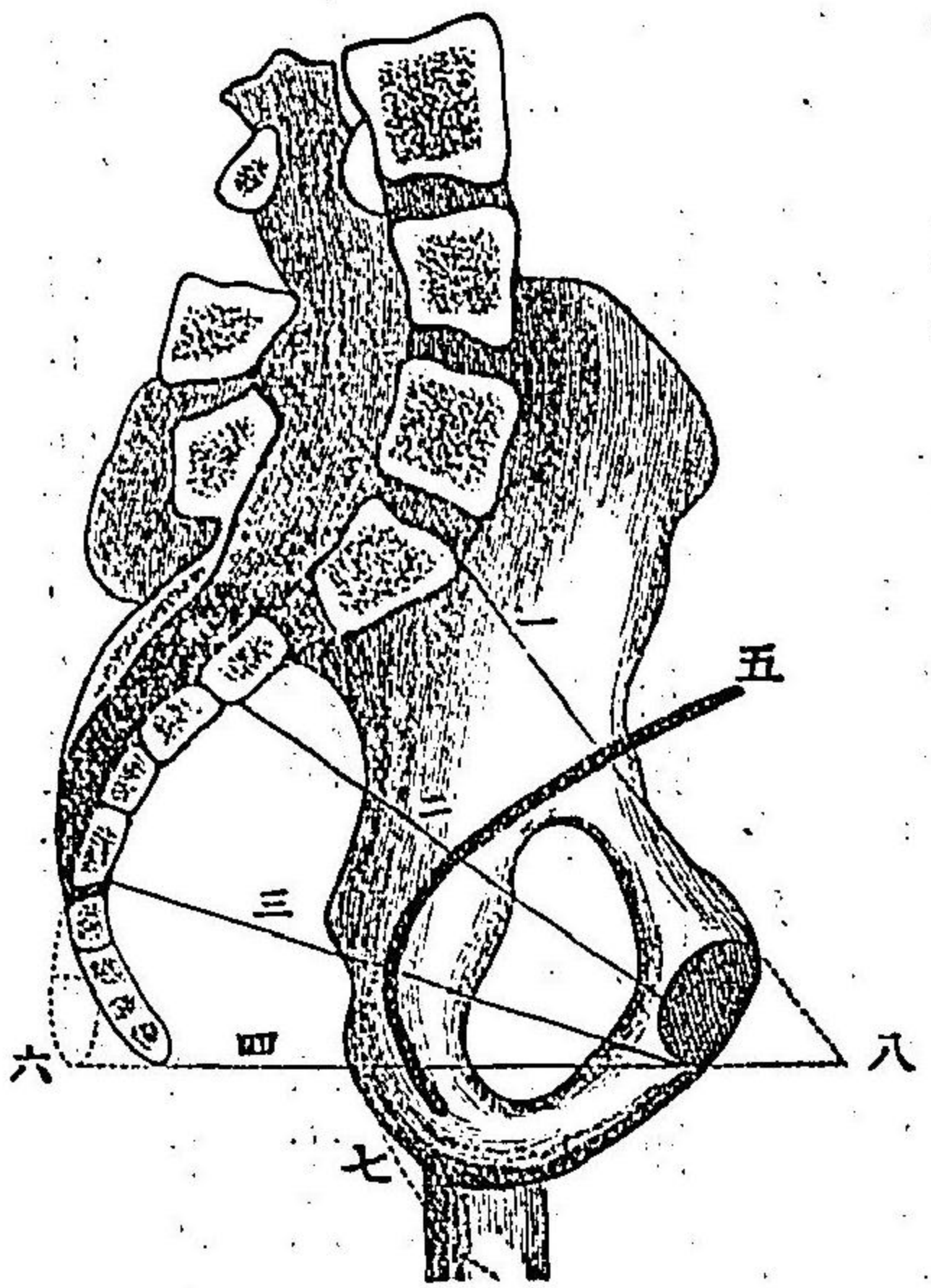
〔第六五項〕骨盤ノ高徑 即チ薦骨岬ヨリ尾骶骨ノ尖端ニ至ル迄、凡

ソ十二仙迷。骨盤前壁即チ耻骨ノ高サ、四仙迷ナリトス。

〔第六六項〕骨盤腔ノ彎曲及ビ誘導線 恥骨縫際後面ノ突隆ト

骨盤後壁ノ凹陷ニヨリ、骨盤腔ノ彎曲ヲ生ズ。彎曲ノ方向ハ、骨盤上口、腔及ビ下口中ニ於ケル各直徑線ノ中點ヲ連結セルモノニシテ、殆ンド耻骨縫

骨盤誘導線ノ圖 分娩時ニ於ケル變化(彎曲セ
ル點線)ヲ示シ且ツ骨盤傾斜ノ角度ヲ附記ス



- 一 骨盤入口ノ直徑線
- 二 骨盤腔ノ直徑線(骨盤廣部)
- 三 同ク骨盤腔ノ直徑線(骨盤狹部)
- 四 骨盤出口ノ直徑線
- 五 誘導線
- 六 分娩時ニ尾骶骨後方ニ移動スルヲ示ス
- 七 分娩時ノ誘導線ノ方向ヲ示ス
- 八 骨盤傾斜ノ角度

際ヲ中心トシテ畫ケル圓線ト相同ジ。此彎曲線ハ、分娩ノ際、小兒ノ經過ス可キ經路ニシテ、之レヲ名ケテ誘導線ト云フ而シテ、此名アル所以ハ、小兒娩出ノ方向、若クハ手指又ハ器械ヲ產道内ニ送入スルノ際ハ、皆ナ此線ノ方向ニ誘導セラレ、ニ由ルモノトス。

圖 四 十 二 第

〔第六七項〕骨盤ノ傾斜 トハ骨盤入口平面ノ地平線ニ對スル傾斜ヲ云フモノニシテ、其入口平面ト地平線トノ造レル角度ハ、凡ソ六十度五十五度乃至六十四度ナリトス。但シ此角度ハ、其骨盤ノ位置、腸骨前上棘ト恥骨結節トノ兩部、鉛直ノ位置ヲナセルノ際ニ測定スルモノトス。

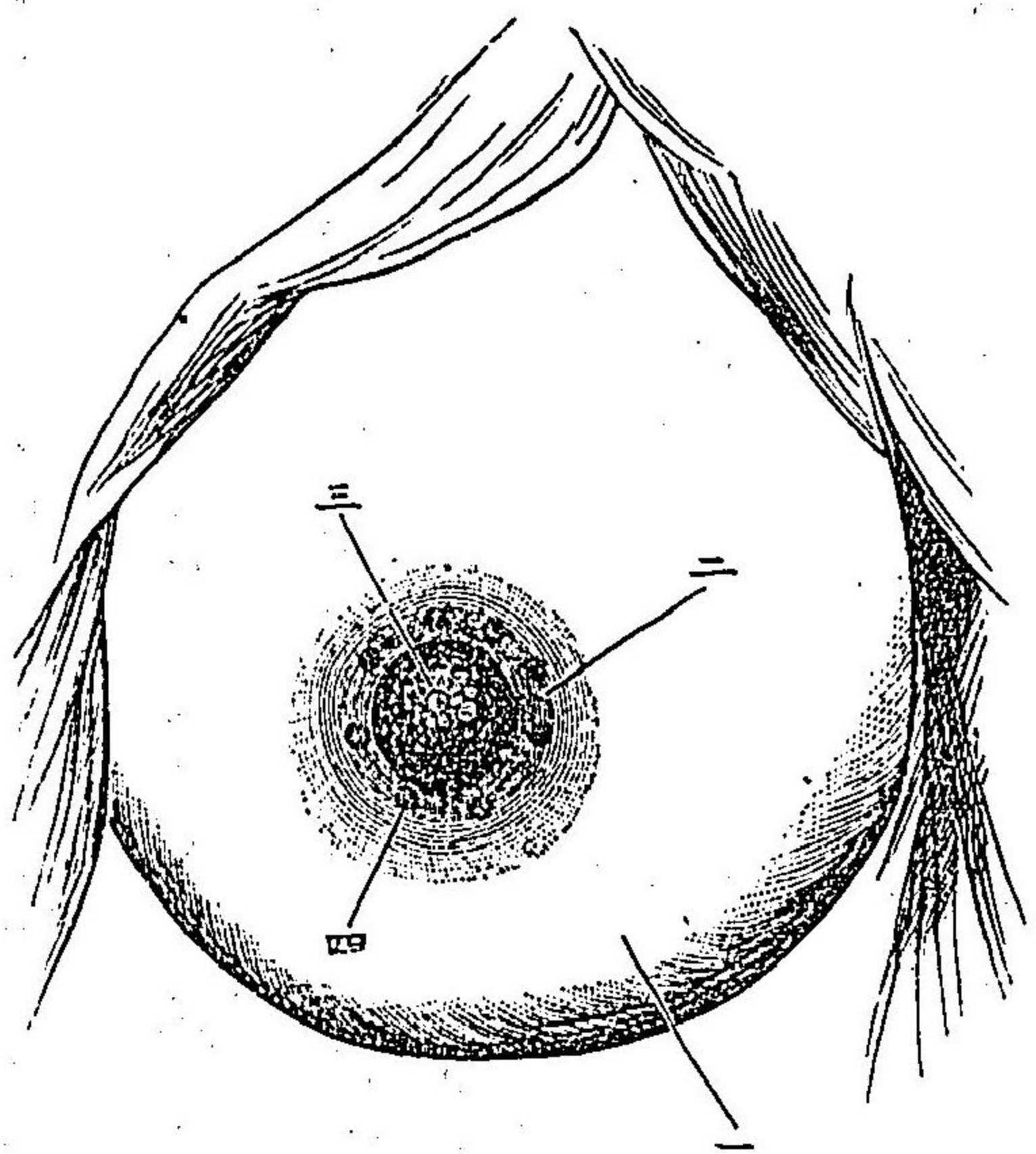
第十一章 婦人生殖器ノ論

〔第六八項〕婦人生殖器 ヲ別チテ内生殖器及ビ外生殖器ノ二トナス。交接妊娠、分娩、授乳等ヲ營ムモノナリ而シテ内生殖器トハ、陰子宮、喇叭管、卵巢及ビ附屬諸靱帶ヲ云ヒ、外生殖器トハ乳房及ビ外陰部ヲ云フ。

第十二章 乳房

〔第六九項〕乳房 ハ乳汁ノ分泌ヲ營ムノ器ニシテ、胸部ノ前面、第三乃至第六肋骨ノ間ニ在リ、形ハ鐘狀ヲナシ、乳體及ビ乳頭又ハ乳嘴ヨリナル。乳體ハ圓形ニ膨隆シ、頂部ニ赤色ノ一部ヲ現ハス。之レヲ乳暈ト云フ。妊娠

乳房ノ圖



- 一 乳體
- 二 乳暈
- 三 乳頭
- 四 皮脂腺

中ニハ其色濃厚トナリ、甚ダシク黒色ヲ帶ブル者アリ、又妊娠セル婦人ノ乳暈ニハ十乃至二十個ノ大ナル皮脂腺(モン)トゴメリ

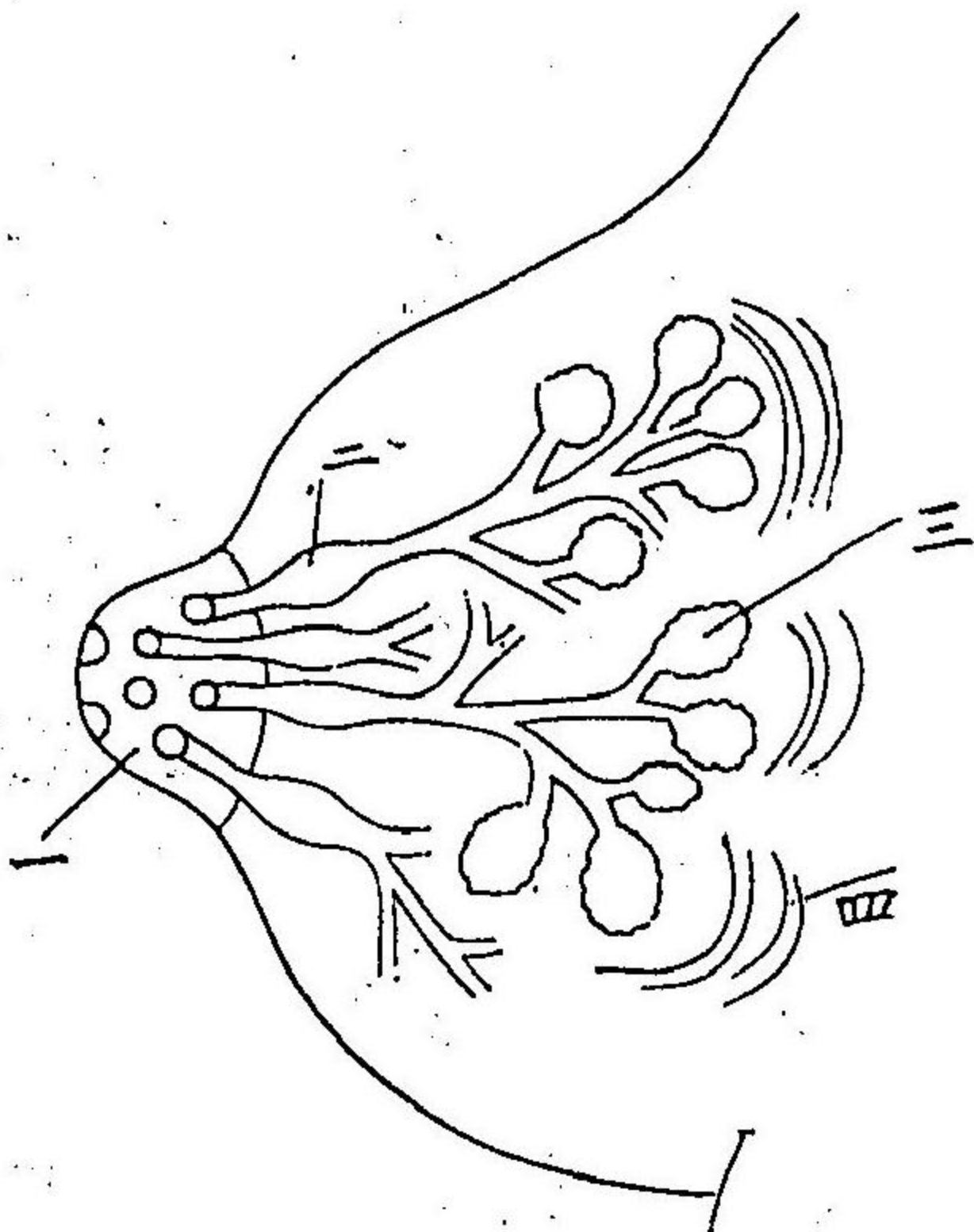
氏腺ヲ現ハス乳暈ノ中央ニ在ル結節ハ、即チ乳頭ナリ。乳頭ニハ數個ノ小孔アリ、之レヨリ乳汁ヲ涌出セシム。乳房中ニ在リテ、乳汁ヲ分泌スルモノヲ乳腺ト云フ。

圖五十二第

第七〇項 乳腺

ハ數個ノ腺胞相集マリテ、葡萄狀ヲナセルモノナリ。

圖六廿第 乳房内ノ腺乳部ノ圖



- 一 乳頭
- 二 輸乳管
- 三 膨大部ハ即チ輸乳管竇ナリ
- 四 乳腺腺胞
- 四 皮脂腺

各胞ノ排泄管ハ相合シテ輸乳管ヲナシ、終ニ乳頭ニ達シ、茲ニ開口ス。其開口部ノ近部ニハ稍膨

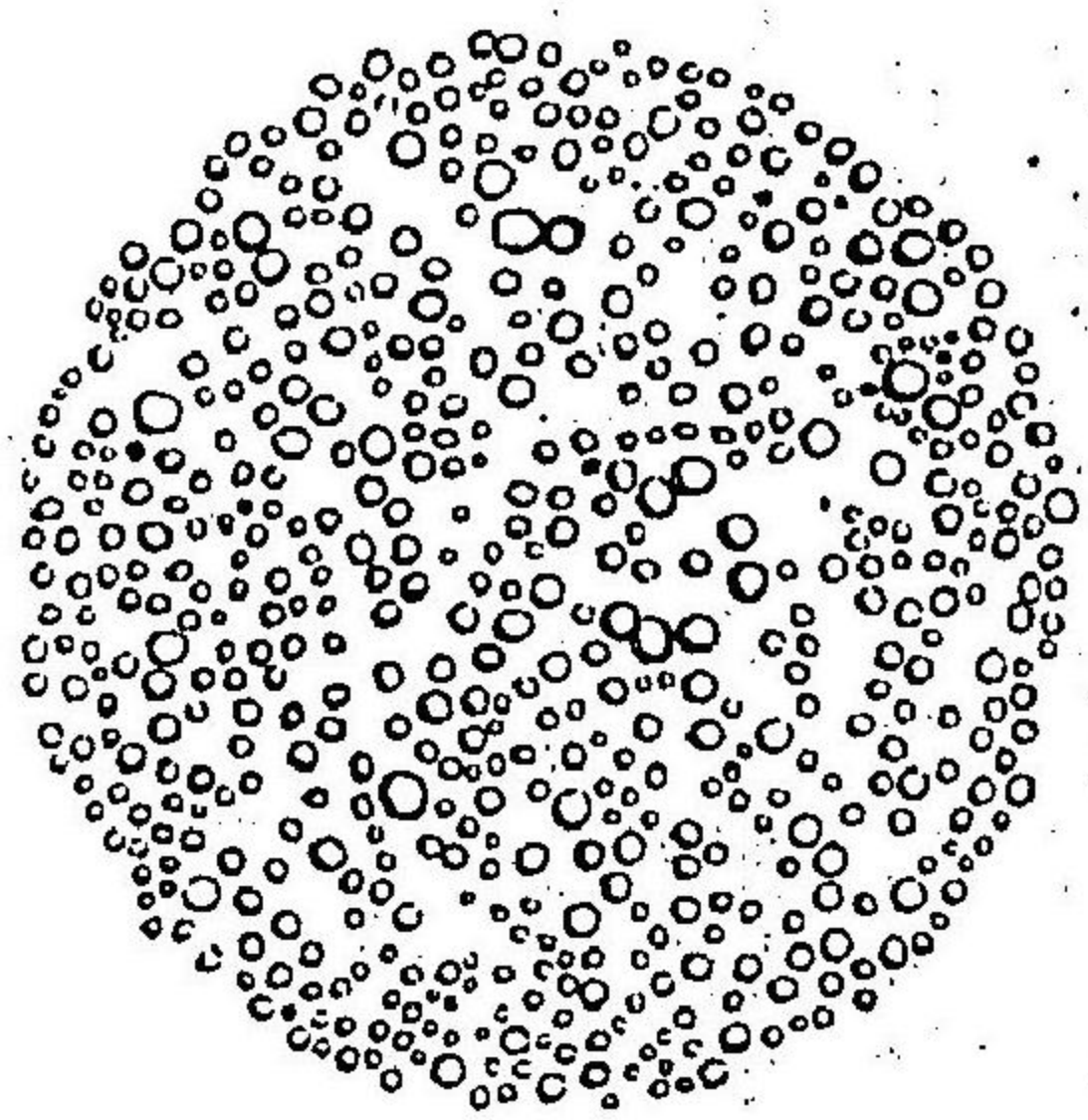
大ヲ呈シ、乳汁ノ滯溜部ヲナス。之レヲ輸乳管竇ト名ク。又、乳腺腺胞ノ周圍ニ、多量ノ脂肪組織アリ、之レヲ肥脂囊ト名ク。

第七一項 乳汁 乳腺々胞内ニ分泌セラレ、白色ノ液ニシテ、水、脂肪、乾酪、乳糖、食鹽、其他ノ鹽類ヲ含有ス。尙乳汁ニ就キテハ、第四篇ヲ參看ス可シ。

第七二項 乳球

乳汁ヲ顯微鏡ニテ照檢スレバ、夥多ノ小球ヲ見ル。

第七二項 圖ルセ檢テニ鏡微顯ヲ汁乳



示チ球乳

之レヲ乳球ト云フ。即チ脂肪ノ小塊ナリ。此ノ乳球ヲ除去スルトキハ、透明ノ液トナル。之レヲ乳清ト稱ス。即チ乳糖、乾酪及ビ鹽類ノ水ニ溶解シ存セルモノナリ。

第七三項 初乳

乳汁ノ初メテ分泌スルヤ、二乃至四日間ハ、乳汁甚ダ稀薄ニシテ水様ヲナシ、黃色ノ細片ヲ含ム。之レヲ初乳ト名ク。初乳ハ、初乳小體及ビ多量ノ蛋白質ヲ含有シ、煮沸スレバ、蛋白質ニヨリテ凝固ヲ呈ス、此ノ如クニシテ初乳ハ、遂ニ通常ノ乳質ニ移行スルモノトス。

第十三章 外陰部

第七四項 外陰部

ハ腹壁ノ下部ト肛門ノ間ニシテ、其中部ニ大陰唇、上部ニ陰阜、下部即チ肛門ノ前部ニ會陰ヲ現ハス。其他、前連合、後連合、小陰唇、前庭、陰唇繫帶、陰核、尿道口、腔口、處女膜、舟狀窩、バルトリン氏腺等アリ。

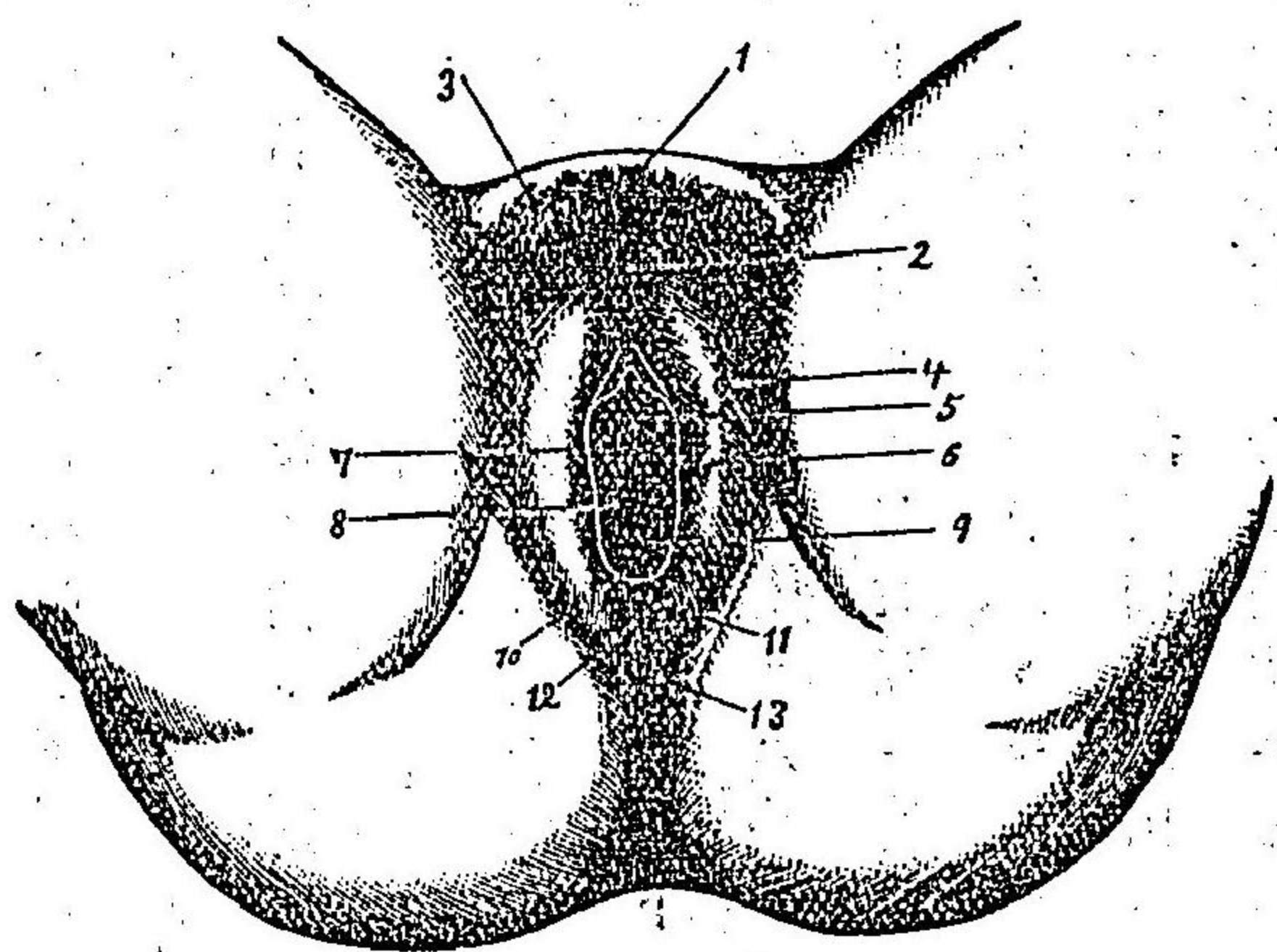
第七五項

大陰唇

- 1 陰阜
 - 2 前連合
 - 3 陰核
 - 4 大陰唇
 - 5 前庭
 - 6 小陰唇
 - 7 尿道口
 - 8 腔口
 - 9 處女膜
 - 10 舟狀窩
 - 11 陰唇繫帶
 - 12 後連合
 - 13 會陰
- ハ皮膚ノ厚キ
縦皺ニシテ、
内ニ多量ノ脂
肪ヲ藏シ、表面
稍暗色ヲ呈シ、
僅ニ陰毛ヲ生
ズ。左右大陰唇
間ヲ陰門裂孔
又ハ陰裂ト名

第八二項 圖

外陰部ノ圖



ク、大陰唇ノ前端、陰阜ノ下方ニ在リテ、左右互ニ連合セルノ部ヲ前連合ト云フ。又、大陰唇ノ後端會陰ノ前部ニ在リテ、同ジク左右相連合スルヲ後連合。會陰ノ一部ト名ク。後連合ノ前ニハ、陰唇繫帶アリ。大陰唇ノ内方ニハ、小陰唇アリ。

〔第七六項〕小陰唇 ノ外面ハ大陰唇ニ移行シ、内面ハ赤色ヲ呈シ粘膜狀ヲナシ、上端ハ二脚トナリテ、陰核ノ上下ニ達シ、上脚ハ、陰核ノ上側ニ於テ、左右二者互ニ連結シ、陰核包皮ヲナス。下端ハ漸次ニ狹小トナリテ、膣口ノ兩側ヲ圍ミ、下部ニ至リテ左右互ニ連結シ、陰唇繫帶ニ移行ス。小陰唇ハ、通例大陰唇ニヨリテ被覆セラル、モノナレドモ、時トシテハ主トシテ經産婦ニ於テ頗ル長クシテ、陰裂間ニ挺出スルモノアリ。又小陰唇ノ下部ハ、發育微弱ニシテ、大陰唇ニ合シ、消失ニ歸スルコトアリ。

〔第七七項〕バルトリン氏腺 小陰唇ノ内方、膣口上部ノ兩側ニ、バルトリン氏腺アリテ、小陰唇及ビ處女膜ノ間ニ開口ス。

〔第七八項〕陰核 ハ前連合ノ下部ニ位セル長圓形ノ小隆起ニシテ小

陰唇ノ上端之レニ連結ス、陰核ノ下部ニハ前庭アリ。

〔第七九項〕前庭 ハ三角形ノ平坦部ニシテ中央ニ尿道口ヲ現ハス。尿道口ノ周圍稍隆起ス之レヲ尿道口隆起トナス。前庭ノ下方ニハ膣口アリ。

〔第八〇項〕處女膜并ニ處女膜根及ビミルナ狀肉阜 處女膜ハ、通例膣口ノ周圍ニ附着シ、中央ニ縱形ノ孔ヲ現ハス。此膜ハ、通例第一回ノ交接ニヨリテ、數所ニ斷裂ヲ生ジ、所謂處女膜根ヲナス。又、處女膜根ハ、分娩ノ際多クハ壞滅シ、其遺殘セルモノハ、膣口ノ周圍ニ於テ、數箇ノ小疣狀物ヲナス、之レヲミルナ狀肉阜ト名ク。

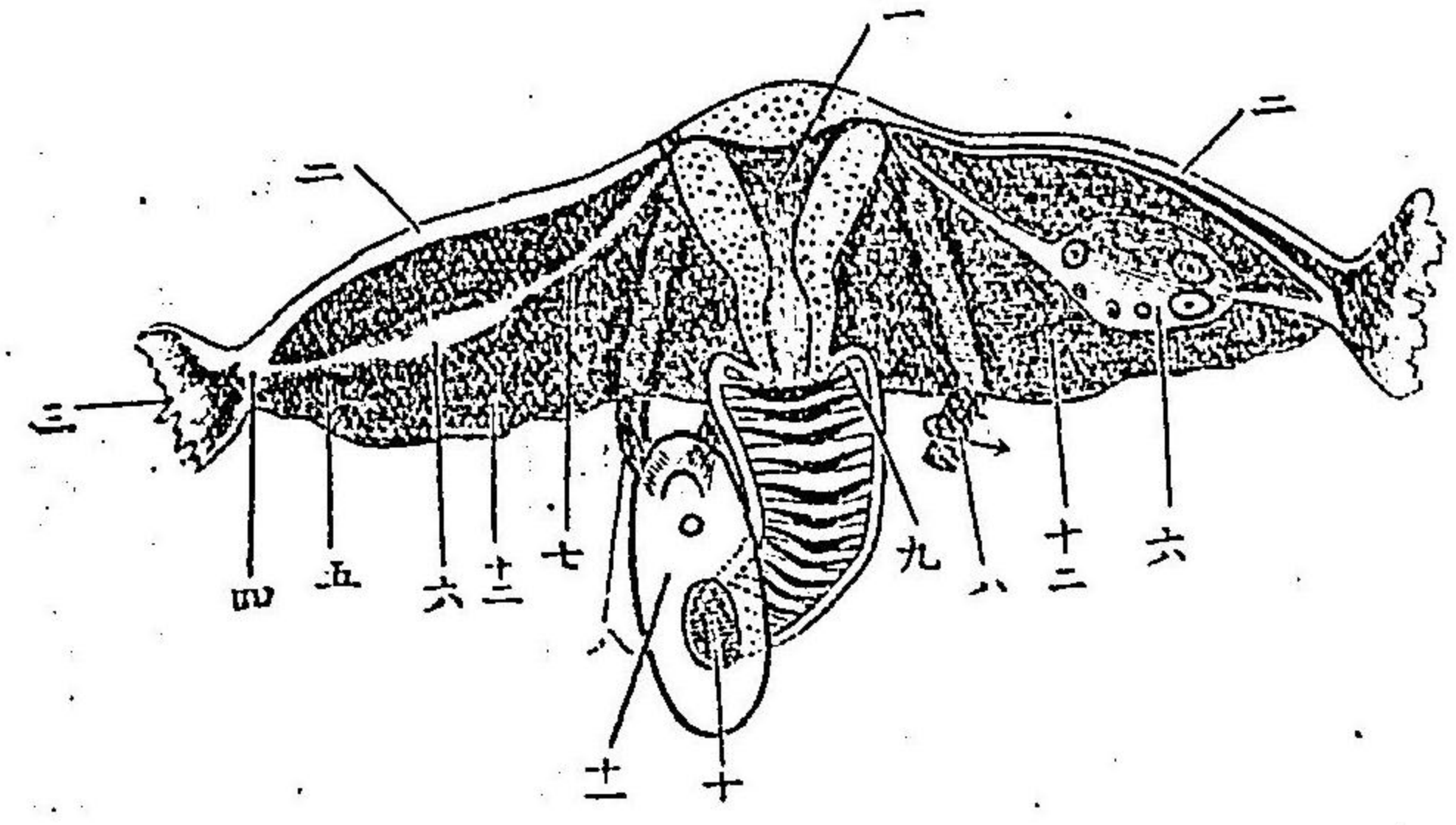
〔第八一項〕陰唇繫帶 ハ後連合ノ前方、兩大陰唇間ニ附着シ、通例最初ノ分娩ヲ以ツテ斷裂ス可シ、陰唇繫帶ト處女膜トノ間ニ凹窩アリ、之レヲ舟狀窩トナス。

〔第八二項〕陰阜 ハ耻骨縫際ノ部ニシテ、皮下ニ多量ノ脂肪ヲ藏シ、最も隆起シ茲ニ陰毛ヲ叢生セシム。

〔第八三項〕會陰 ハ陰唇繫帶ト肛門ノ間ニシテ分娩ノ際甚シク延張シ分娩ノ處置不適當ナルトキハ往々破裂ヲ生ズルモノナリ。

第十四章 腔

第十二圖 內外生殖器ノ連續ヲ示ス



子宮及ヒ左側ノ喇叭管卵巢ノ切斷セルヲ示ス

一 子宮
二 喇叭管
三 卵線
四 鼓膜
五 卵巢卵線
六 卵巢
七 卵巢繫帶
八 四靱帶
九 腔穹隆部
十 腔口
十一 外陰部
十二 廣靱帶

〔第八四項〕腔 ハ腔口ヨリ子宮ニ達スル膜管ニシテ通常ハ其前壁ト後壁ト互ニ密着シテ空隙ヲ剩サズ其長ツ凡ソ十仙迷ニシテ骨盤誘導線ノ方向ニ從ヒ前方ニ彎曲ス上端ハ子宮腔部ヲ圍擁シ且ツ上方ニ向フテ囊狀ニ膨出ス

其膨出部ヲ前及ビ後ノ腔穹隆部ト稱ス又腔ノ前後壁ニハ著ルシキ皺襞ヲ呈ス之レヲ前後ノ腔柱ト名ク。

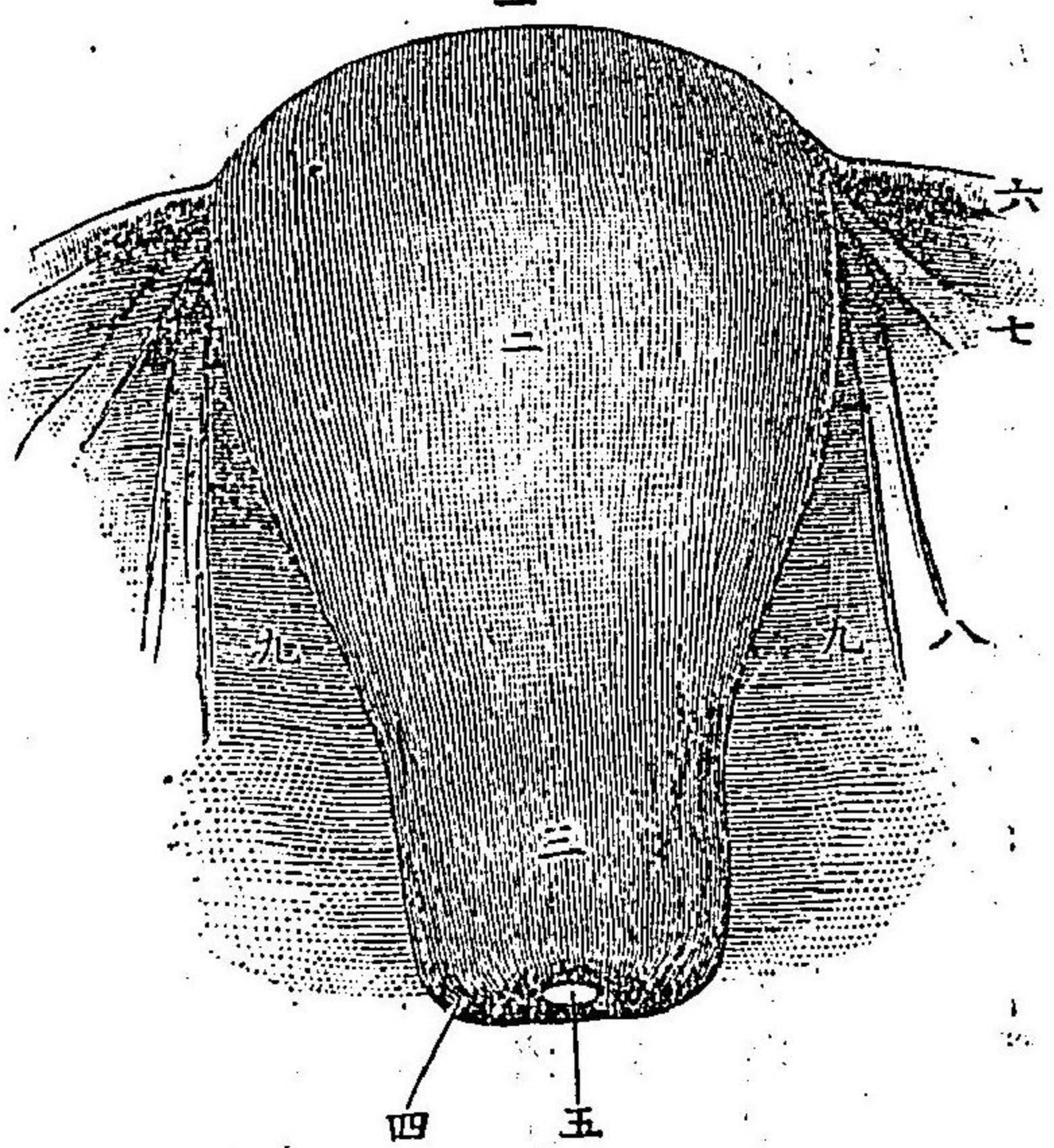
第十五章 子宮

〔第八五項〕子宮 ハ平滑筋纖維ヨリ成レル囊狀ノ器ニシテ扁平梨子狀ヲ呈シ前面ハ殆ンド平坦ニ後面ハ稍膨隆シ位置ハ腔管ノ上ニ位シ前ハ膀胱後ハ直腸ニ接シ左右ハ喇叭管圓靱帶廣靱帶等ヲ附着セシム其長サ凡ソ八仙迷ヲ有シ前方ニ傾歛シ且ツ稍前屈ス但シ其傾斜ノ位置ハ膀胱及ビ直腸ノ盈虛ニヨリテ變化シ或ハ甚ダシク傾キ或ハ直立シテ薦骨岬ニ偏倚スルコトアリ子宮ヲ區別シテ底體及ビ頸トナス其內腔ヲ子宮腔ト稱ス。

子宮底 ハ鈍圓ニシテ子宮ノ最上部ヲナシ前方ニ向ヒ兩側ニハ喇叭管圓靱帶卵巢靱帶ヲ附麗ス。

子宮體 ハ底及ビ頸ノ間ニ在ル部ニシテ兩側ニハ廣靱帶ヲ附着セシ

子宮ノ圖 附屬器ヲ具フルモノヲ示ス



子宮頸并ニ子宮腔部 子宮頸ハ子宮體ノ下部ニシテ、其一部ハ腔内ニ突出ス之レヲ子宮腔部ト云フ。腔部ノ中央ニ子宮外口ヲ現ハス。子宮外口 ハ即チ子宮腔ノ開口部ニシテ、稍圓形ヲナスモ、既ニ分婉ヲ經レバ、周圍ノ腔部ニ破裂ヲ生ズルガ故ニ、横裂又ハ不

第三十圖

正形ヲ現ハス。尙ホ此區別ニ就キテハ、第二篇ヲ參看ス可シ。子宮腔并ニ子宮内口及ビ子宮頸管 子宮腔ハ三角形ヲナシ、一角ハ下方ニ在リテ、兩角ハ上方ニ位シ、喇叭管ノ内腔ニ連通ス。下方ノ一角ハ、即チ子宮外口ナリ。但シ、子宮外口ノ上部凡ソ二仙迷半ニシテ、内腔頗ル狹小トナル之レヲ子宮内口ト云フ。即チ子宮頸及ビ體ノ連合部ニ當レリ。内口及ビ外口ノ間ハ子宮頸ノ部ニシテ、之レヲ子宮頸管ト稱ス。其中央部ハ、稍廣濶ナリ。

第十六章 喇叭管、卵巢及ビ附屬諸韌帶

「第八六項」喇叭管 ハ其形喇叭ニ似タルヲ以テ名ク、或ハ又、輸卵管ト稱ス。其數二個アリ。其所在ハ、子宮底ノ兩側ニシテ、横ニ扁韌帶ノ上緣内ニ位シ、蜿蜒タル屈曲ヲ有ス。管ノ内端ハ、細少ニシテ子宮ニ連接ス。是レヲ喇叭管ノ子宮口ト云フ。其外端ニ至ルニ從ヒ、漸次ニ増大シ、終ニ壺狀ノ膨大部ヲナス。之レヲ喇叭管ノ壺腹ト名ケ、腹腔内ニ開口ス。而シテ、壺腹ノ口緣

ハ數箇ノ小片ヲ附ス之レヲ剪綵トナス。就中一片ノ剪綵ハ頗ル長クシテ卵巢ニ連ナル之レヲ卵巢剪綵ト唱フ。喇叭管ノ長サハ凡ソ十仙迷ニシテ中央ノ大サ畧ボ箸ノ如シ。

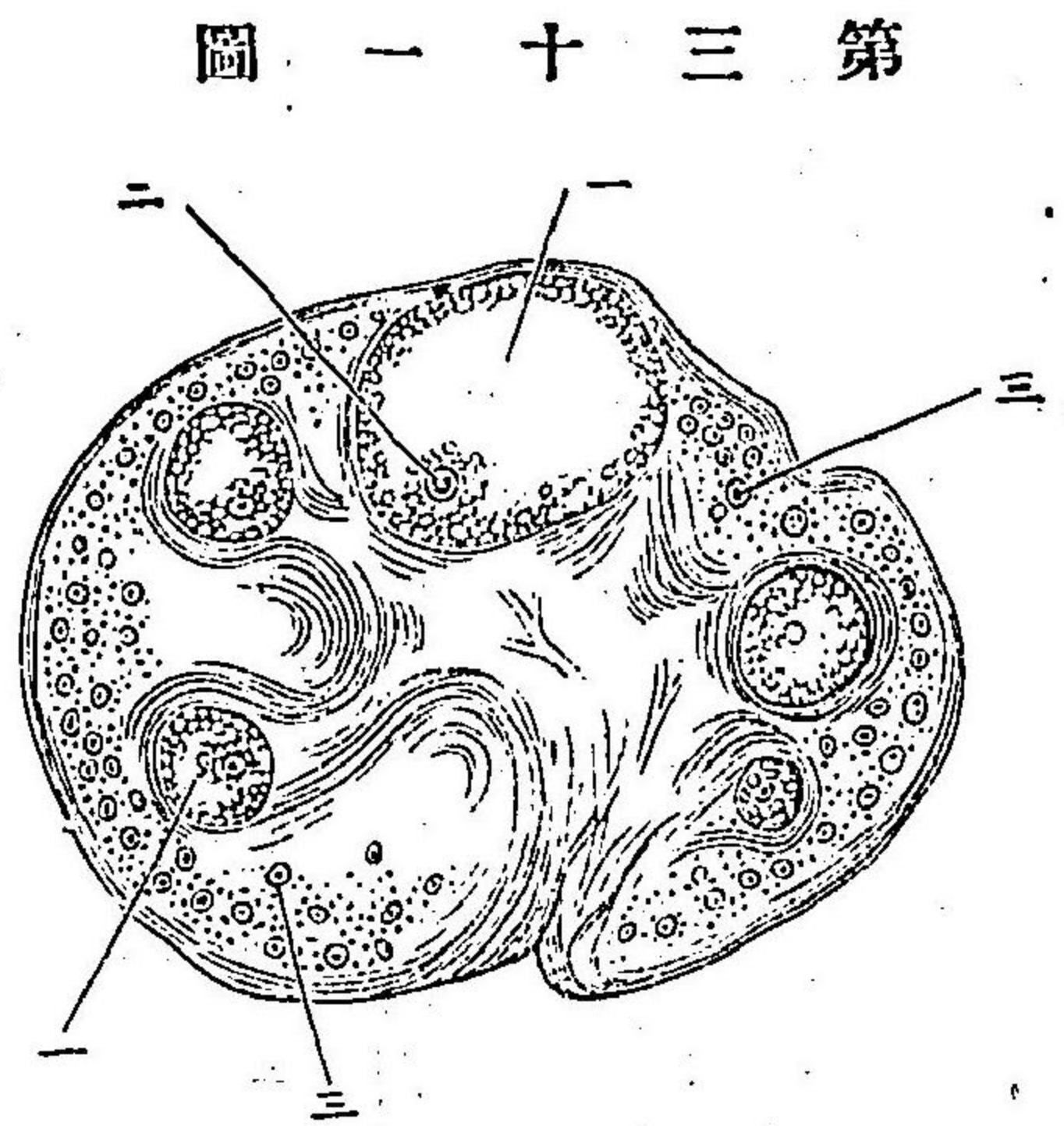
〔第八七項〕喇叭管ノ作用 此管ハ卵巢ニ生ズル卵ヲ剪綵ヨリ壺腹ニ受ケ之レヲ子宮腔ニ導ビクノ用ヲナスモノトス。

〔第八八項〕卵巢 ハ其形ト大サハ畧ボ鳩卵ノ如ク扁形ノ兩層間ニ在リ其外端ハ卵巢剪綵ニ連ナリ内端ハ卵巢韌帶ニ接ス其質内ニ濾胞及ビグラーフ氏胞ヲ藏ス。

〔第八九項〕濾胞及ビグラーフ氏胞 卵巢ノ質中ニハ無數ノ小胞アリ之レヲ濾胞ト云フ濾胞ノ發育セルモノヲグラーフ氏胞ト名クグラーフ氏胞ハ内ニ透明ノ液ト卵トヲ含ム。グラーフ氏胞發育成熟スレバ破裂シ卵ヲシテ脱出セシムルモノトス。

〔第九〇項〕卵 ハ透明層、蛋黃層、胚胞、胚斑ノ四部ヨリナリ大サニ密迷(凡ソ七厘)ノ細胞ニシテグラーフ氏胞成熟シ破裂スルノ際即チ婦人ノ月

卵巢ヲ割斷シテ示セル圖



一 グラーフ氏胞
二 卵
三 濾胞

經開始スルノ時期ニ於テ破裂セルグラーフ氏胞内ヨリ脱出シ喇叭管内ヲ通り通例此部ニ於テ交接ニヨリ生殖器内ニ進入セル男子ノ精蟲ト合シテ受胎シ子宮腔内ニ達シ其内ニ發育シ遂ニ胎兒ヲ生成スルモノナリ但シ卵ノ精蟲ニ

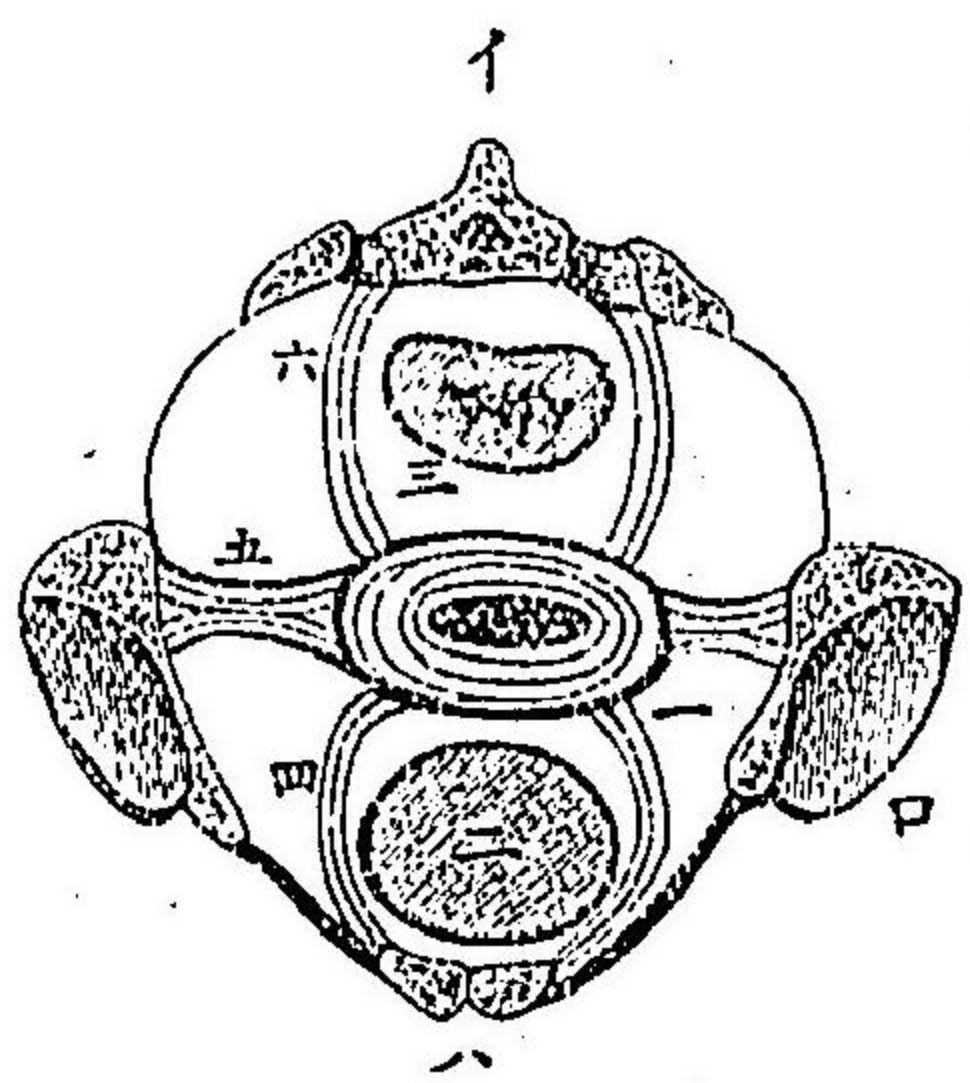
會合スルハ只喇叭管内ノミナラズ卵巢ヨリ子宮内ニ至ルノ間各所ニ之レヲ營ムコトヲ得ベシ卵若シ受胎スルヲナケレバ子宮内ヲ出デ體外ニ排出セラル。
〔第九一項〕眞黃體及ビ假黃體 破裂セルグラーフ氏胞ハ其内腔

漸次ニ黄色ヲ呈スルニ至ル之レヲ黄體ト名ク。而シテ妊娠セルノ際ハ其黄體第三四ヶ月ニ至ルマデ増大シ、著シク發育ヲ現ハス。之レヲ眞黄體トナス。之レニ反シ、妊娠セザルトキハ、其發育微小ナリ。之レヲ假黄體ト名ヅク。此兩種ノ黄體ハ、其後共ニ癍痕ヲナシテ癒合シ、卵巢ノ表面ニ、小ナル凹陥ヲ留ムルモノトス。

〔第九二項〕月經及ビ婚嫁期 卵ノ卵巢ヲ離ルルノ時期ハ、年齢凡ソ十四五歳ノ候ニシテ通常、其期ニ月經ヲ現ハス可シ。此ノ如ク始メテ月經發スルノ期ヲ婚嫁期ト云フ。其期以後、卵ハ、毎月一回宛、卵巢ヲ離レ、以テ月經ヲ催起ス可シ。

月經 グラフ氏胞破裂ノ際、其刺激ニヨリ、骨盤内臓器ノ充血ヲ致シ、子宮内臓(粘膜炎)ニ於テハ、其充血殊ニ著シク、爲メニ分泌増盛シ、且ツ血液、血管ヨリ漏泄シ、以テ月經ヲ現ハスモノトス。○月經ハ、稀薄暗赤色ノ液ニシテ、凝固スルノ性ナク、其量大凡ソ九十グラム乃至二百四十グラムヲ有シ、概テ四週間即チ二十八日ヲ以テ反覆潮來ス可シ。日本婦人月經ノ

第三十二圖



子宮諸部ノ略圖
骨盤内臓器ヲ骨盤ト共ニ地
平ニ切斷シテ示セルモノ

- 一 子宮
- 二 膀胱
- 三 直腸
- 四 圓韌帶
- 五 扁韌帶
- 六 薦骨子宮韌帶
- イ 薦骨
- ロ 腹骨ノ髌臼部
- ハ 耻骨

持續ハ、概シテ之レヲ云ヒバ、凡ソ十四五歳ニ始マリ、四十九歳ヲ以テ終ルモノトス。

〔第九三項〕扁韌帶

扁韌帶又ハ廣韌帶ハ子宮ノ前後ヲ被覆セル腹膜ノ兩葉ヨリ

成リ、子宮ヲ骨盤ノ兩側ニ連結セシメ、其兩葉内ニハ、子宮ニ分布スル血管、淋巴管、神經ヲ通ジ、喇叭管、卵巢、卵巢韌帶及ビ圓韌帶ヲ藏ス。

〔第九四項〕圓韌帶 ハ筋組織ヨリナレル圓形ノ帶ニシテ、左右各一條

アリ、子宮底ニ於テ、喇叭管ノ下側ヨリ起リ、扁韌帶内ヲ前外方ニ經過シ、鼠蹊部ノ組織内ヲ通り、陰阜ニ抵止ス。妊娠中ニハ頗ル増大シ、高妊娠(妊娠臨月ニ近キモノヲ云フ)ニ在リテハ、鉛筆大ニ達ス。圓韌帶ノ作用ハ、子宮底

ヲ前方ニ牽引シテ、前轉ノ位置ヲ取ラシメ、分娩時ニハ、子宮底ノ上昇ヲ牽掣スルモノトス。

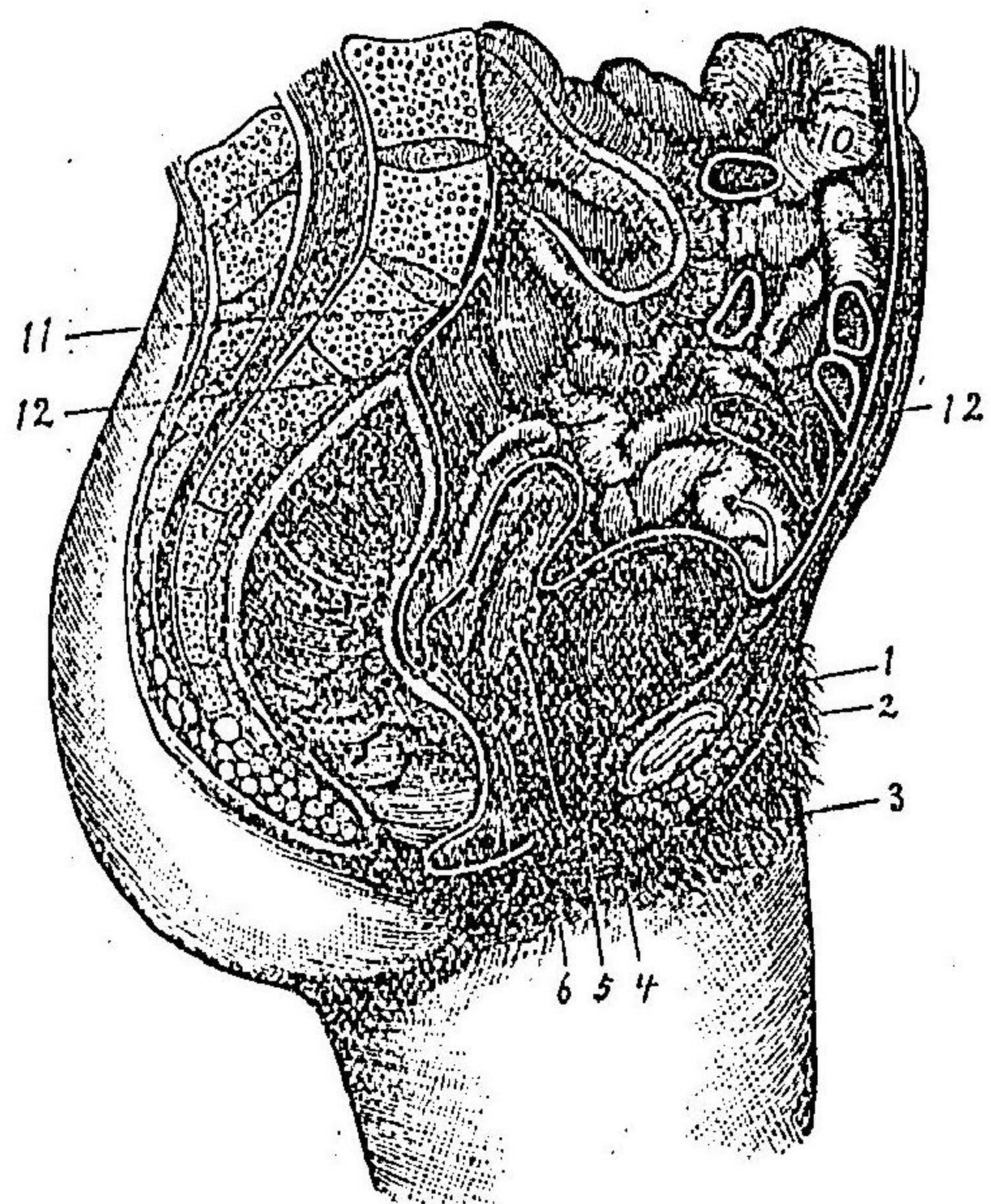
〔第九五項〕薦骨子宮靱帶 モ亦タ、筋組織ヨリ成レル靱帶ニシテ、二條アリ、子宮頸ヨリ後方ニ赴キ、直腸ヲ挟ミ、薦骨ニ附着ス。此靱帶ノ作用ハ、圓靱帶ニ反シ、子宮頸ヲ後方ニ支持スルモノトス。

第十七章 腹膜

〔第九六項〕腹膜 ハ薄キ滑澤ノ膜ニシテ、腹腔ノ全内面ト、腹腔内諸臓器ノ表面ヲ被包スルモノナリ。今骨盤内ニ於ケルモノヲ記述ス可シ、即チ前腹壁ノ裏面ニ貼附セル腹膜ハ、膀胱ノ前上面ヨリ後面ニ至リ、子宮内口ノ部分ニ於テ、上方ニ翻ヘリ、子宮ノ前壁及ビ底部ヲ被ヒ、次に後壁ヲ下リ、其前壁ニ存セルモノト共ニ、全ク子宮體ヲ挟ミ、子宮ノ兩側ニ於テハ、前後ノ二層相合着シテ、廣靱帶ヲナス。又、後腔穹窿部ニ至レル腹膜ハ、再び上方ニ翻リ、所謂デッグラス氏窩ヲ造リ、次に直腸ニ到達スレバ、孔ヲナシテ直

腸ヲ穿通セシメ、遂ニ骨盤後壁ニ達シ、之レニ沿フテ上行ス可シ、直腸ヲ穿通セシムルノ部ハ、直腸表面ノ腹膜ト相合スルモノナリ。

骨盤内臓器ノ位置及ヒ腹膜經過ノ圖



- 1 陰阜
- 2 恥骨縫際
- 3 小陰唇
- 4 大陰唇
- 5 尿道口
- 6 陰道口
- 7 直腸
- 8 子宮
- 9 膀胱
- 10 小腸
- 11 薦骨岬
- 12 腹膜

第三十三圖

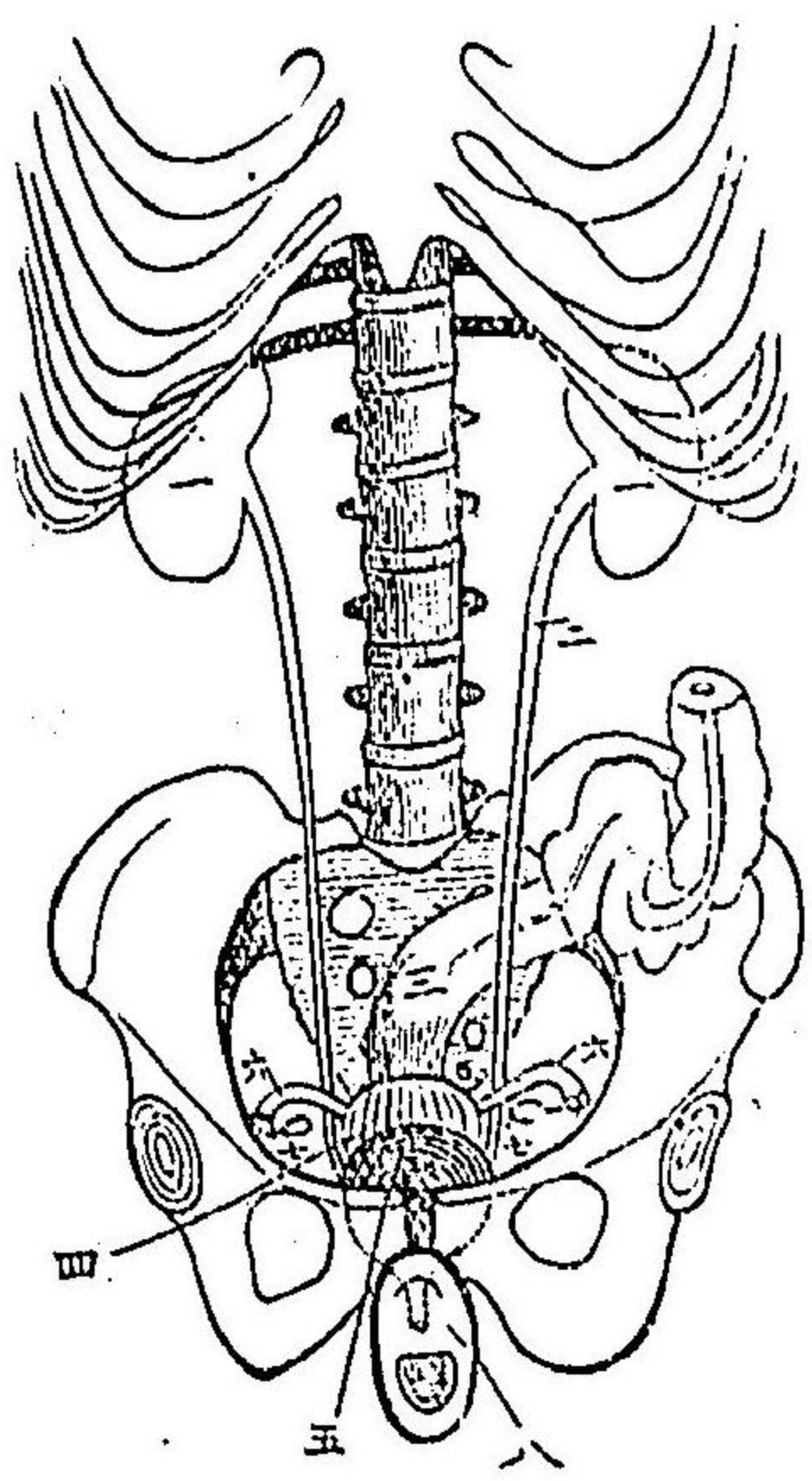
第十八章 膀胱及ビ直腸

第九七項膀胱及直腸 ハ生殖器ト共ニ小骨盤内ニ位ス。

第九八項膀胱 ハ子宮ト耻骨縫際ノ間ニ在ル膜嚢ニシテ腎臟ヨリ

骨盤内ニ於ケル生殖器尿管及ヒ尿管ノ關係ヲ示スノ圖

圖 四 十 三 第



- 一 腎臟
- 二 輸尿管
- 三 直腸
- 四 子宮
- 五 膀胱
- 六 尿管
- 七 卵巢
- 八 外陰部

スルニ至レバ耻骨縫際ノ上方ニ挺出ス。而シテ膀胱ノ盈虚ニヨリ子宮ノ位置ハ前方若クハ後方ニ移動スルモノトス。

第九九項尿道 膀胱ヨリ外部ニ通ズルノ道ヲ尿道トナス。尿道ハ大

輸尿管ヲ經
送リ來レル
尿ヲ貯藏ス
ルノ器ナリ。
其空虚ナル
トキハ深ク
小骨盤ノ深
部ニ潜ミ、甚
ダシク膨滿
ノ

サ器ホ鉛筆ノ如ク三仙迷ノ長サヲ有シ膀胱ノ下部ヨリ起リ耻骨縫際ノ下縁ニ沿ヒ彎曲シテ前方ニ向ヒ前庭ニ開口ス尿道口即チ是ナリ。

第一〇〇項直腸並ニ大腸 直腸ハ薦骨ト子宮及ビ陰ノ間ニ位

セル大腸ノ一部ニシテ左薦腸關節部ニ於テ結腸ノ下部ヨリ始マリ斜メニ薦骨ノ中線ニ近ツキ且ツ其凹面ニ沿フテ下リ尾骶骨尖端ヨリ前方凡ソ三仙迷ノ部ニ開口ス此口ヲ肛門トナス。

大腸 トハ直腸結腸及ビ盲腸ノ三部ヲ總稱スルモノニシテ其結腸ハ右腸骨窩部ニ於テ始マリ茲ニ小腸ト連結シ下ハ盲腸ニ移行シ盲腸ノ下部ニハ蟲様ノ突起ヲ垂下セシム之レヲ蟲様垂ト名ク而シテ結腸ハ上方肝ノ下面ニ至ルマデ昇行シ此ヨリ左ニ折レテ胃ノ前下方ヲ過ギ左季肋部ニ至リ下方ニ屈曲シ左薦腸關節部ニ至リ直腸トナル其大畧ハ第十七圖ニ示セリ就テ見ル可シ。

第二編 正規ノ妊娠及ビ其取扱法

第十九章 誘導篇

〔第一〇一項〕正規ノ妊娠及ビ其取扱法 二就キテハ、始メニ妊娠トハ如何ナルモノナルヤヲ説キ、次ニ母體中ニ生育セル胎兒ノ状態ヲ述ベ、母體ノ全身ニ顯ハル、現象ヲ講ジ、妊娠ノ検査法ヲ説キ、最後ニ其取扱法即チ攝生法ヲ論ス可シ。

第二十章 妊娠

〔第一〇二項〕妊娠 トハ婦人ノ體内ニ於テ胎兒ヲ養成スルノ時期ヲ云フ。而シテ此妊娠ハ、兩性ノ交接ニヨリ、男子ノ精蟲ハ婦人ノ生殖器内ニ進入シ、其卵ト結合シ、所謂受胎ヲ營ムニヨリテ始マリ、通例二百八十日ヲ經分、娩ニ至リテ終ルモノナリ。

第二十一章 受胎セル卵ノ變化

〔第一〇三項〕卵既ニ受胎セルトキ ハ子宮内ニ於ケル其脱落膜(子宮粘膜炎ノ肥)中ニ包被セラレ、漸次ニ變化ヲ呈ス。即チ卵内ニ數多ノ細胞ヲ生ジ、次ニ其細胞悉ク外壁ニ集附シ一種ノ膜トナリ、更ニ此膜ノ一部ニ橢圓形ノ肥厚部ヲ生ズ。之レヲ胚板ト名ク。此胚板ハ即チ胎兒ヲ生ズルノ原ナリ。

〔第一〇四項〕胎兒ノ生成 卵内ニ生ゼル胚板ハ、其周縁ヨリ内方ニ向テ捲屈シ、以テ圓筒狀物ヲナス。其圓筒ノ一端ハ稍膨大シテ頭部ヲナシ、眼、耳、口、鼻ヲ生ジ、他端ハ臀部トナル。而シテ胴部ノ兩側ニ於テ、上部及ビ下部ヨリ突起ヲ生ジ、上肢ト下肢トヲナス。胚板周縁ノ捲屈セル縁端ハ、中央部ニ集合シ、茲ニ臍部ヲ形成ス可シ。卵ハ此ノ如ク變化シ、テ内ニ胎兒ヲ完成スルトキハ、之レヲ成熟卵ト云フ。

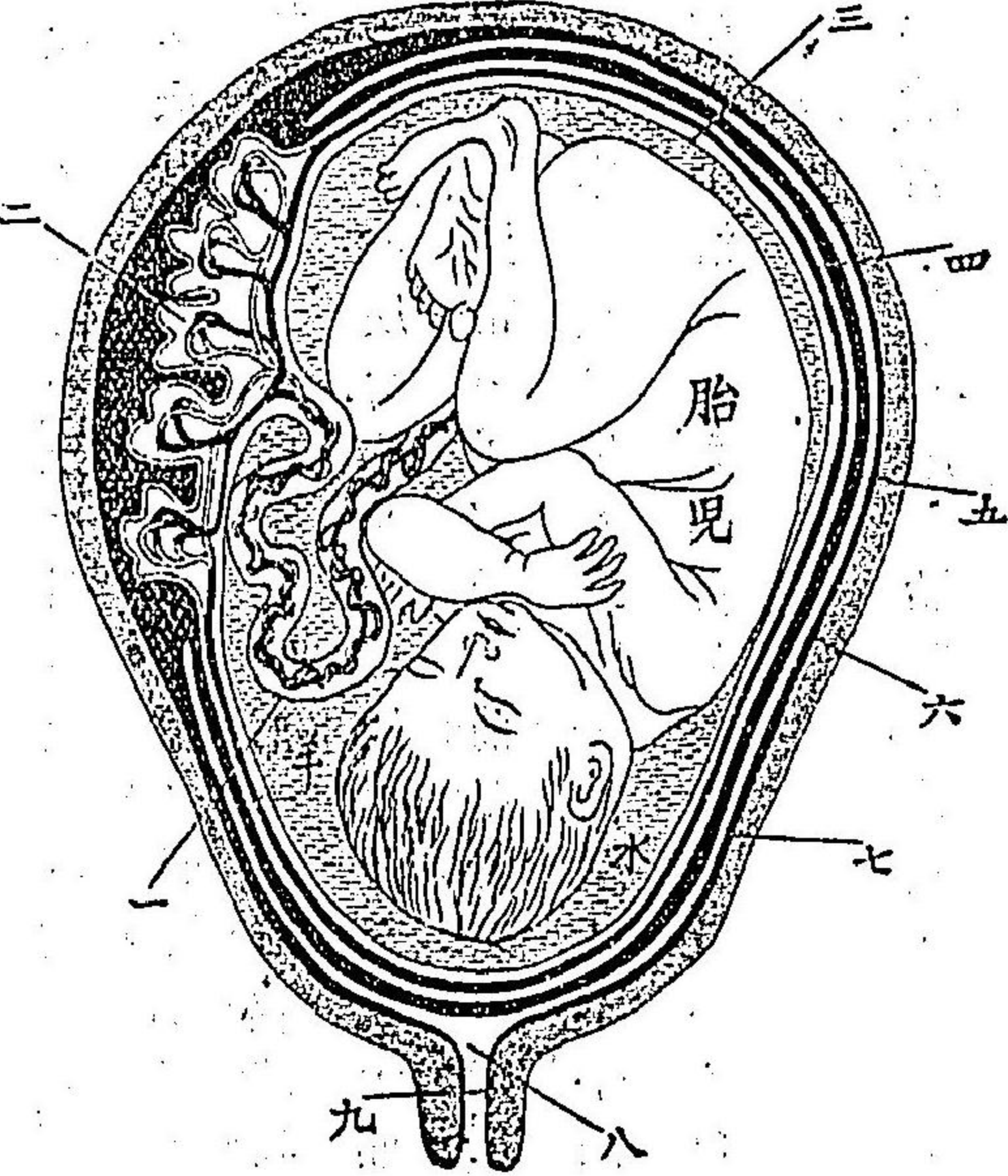
第二十二章 成熟卵

〔第一〇五項〕成熟卵 トハ卵内ニ胎兒ヲ完成セルモノニシテ、之レヲ區別スレバ五種アリ。第一胎兒、第二臍帶、第三胎盤、第四卵膜、第五羊水是ナリ。

〔第一〇六項〕卵膜 ハ薄クシテ稍紙ヨリ厚キニ過ギザレハ原ト三層ヨリナレリ。最内層ヲ羊膜、次ヲ絨毛膜、外層ヲ鰾轉脫落膜ト稱ス。此三層ハ互ニ密着シテ一葉ヲナシ、以テ無口囊ヲ造リ、内ニ羊水ヲ盛り、其水中ニ胎兒ヲ栖息セシム。次ニハ、卵膜各層ノ生ズル有様ヲ述ブ可シ。

〔第一〇七項〕卵膜各層ノ生成 初メ妊娠ヲ營ムニ當リ、子宮ノ粘膜ハ著シク肥厚シテ、恰モ天鵝絨ノ觀ヲナス、之ヲ脫落膜ト云フ。此膜ノ一部ニ卵ノ附着スルトキハ、附着部ノ周圍ニ於テ、脫落膜著シク増息突起シ、終ニ卵ヲ包被スルニ至ル。之レヲ鰾轉脫落膜ト云フ、又鰾轉脫落膜ニ對シ、其他ノ脫落膜ヲ眞脫落膜ト唱ヒ、胎盤附着部ノ膜ヲ、特ニ床狀脫落膜ト名

第三十五圖 成熟卵ノ圖
卵膜ノ三層ヲ分離シテ示ス



- 一 臍帶
- 二 胎盤
- 三 羊膜
- 四 絨毛膜
- 五 鰾轉脫落膜三、四、五ヲ合セテ卵膜ト云フ
- 六 眞脫落膜
- 七 子宮壁
- 八 子宮内口
- 九 子宮頸管
- 十 子宮外口

ク。○絨毛膜ハ卵ノ透明層ヨリ生ジ、初メ其膜ノ全外面ニ絨毛ヲ現ハシ、以テ營養物ヲ周圍ヨリ取ルノ用ヲナスモ、後ニハ胎盤部ヲ除クノ外、漸次ニ其絨毛ヲ消失シ、二ヶ月末ニ至レバ、透明ノ薄膜ヲナスモノナリ。○羊膜ハ

胚板周圍ノ膜ヨリ成レルモノニシテ、臍帶ヲ包被シ、胎兒外皮ノ一系ヲナスモノナリ。

〔第一〇八項〕脱落膜ノ狀況 眞脱落膜ハ妊娠三ケ月中ニハ最

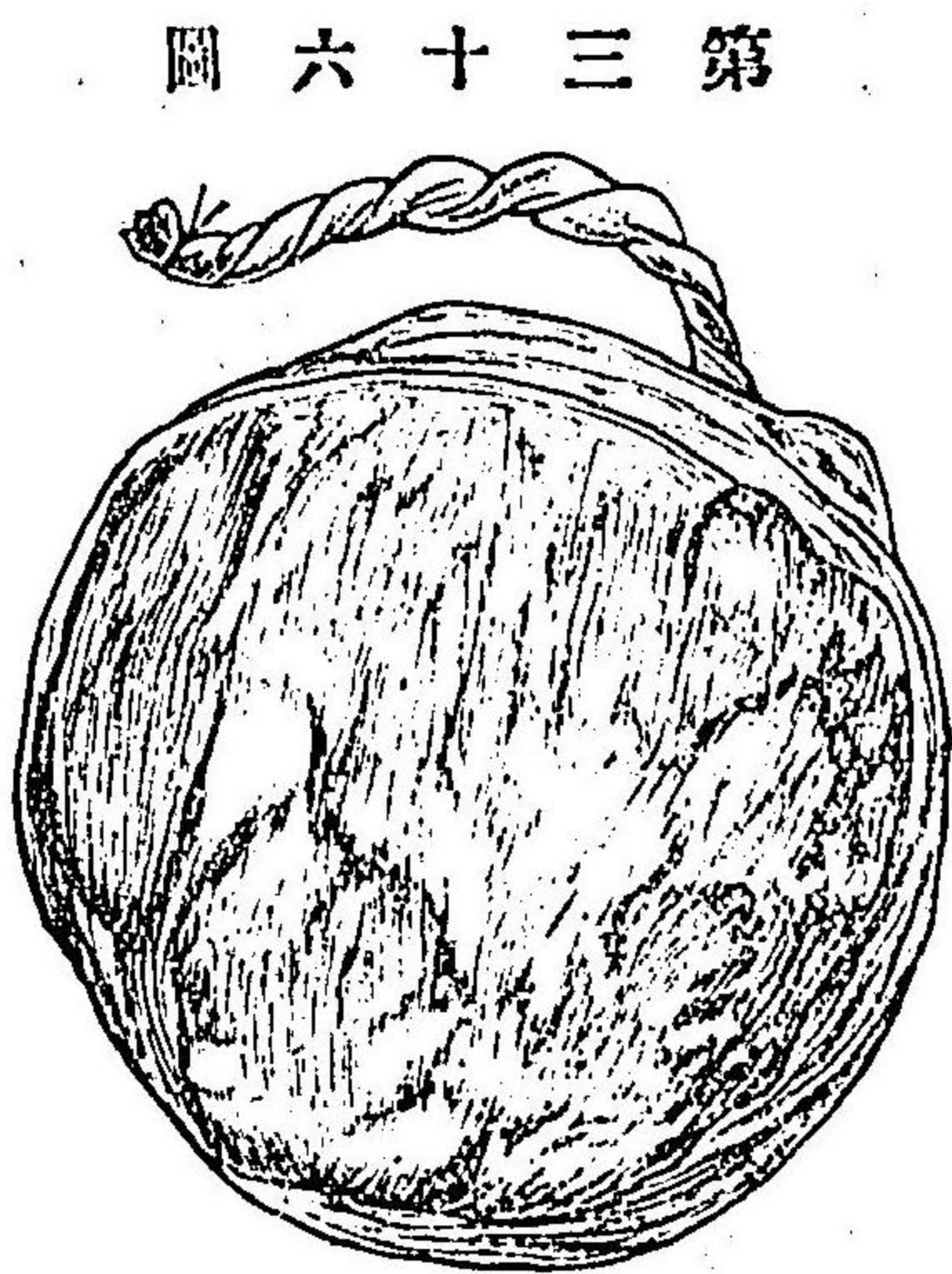
モ厚ク、其厚サ四乃至七密迷ニ達シ、爾後漸次ニ菲薄トナル。又眞脱落膜ト翻轉脱落膜トノ間、ハ三ケ月ニ至レバ消失シ、兩膜互ニ密着シテ遂ニ一葉ヲナス。床狀脱落膜ハ、後チ胎盤ノ母體部ヲナスモノトス。

〔第一〇九項〕胎盤 扁平橢圓形ナル海綿狀物ニシテ、青赤色ヲ帶

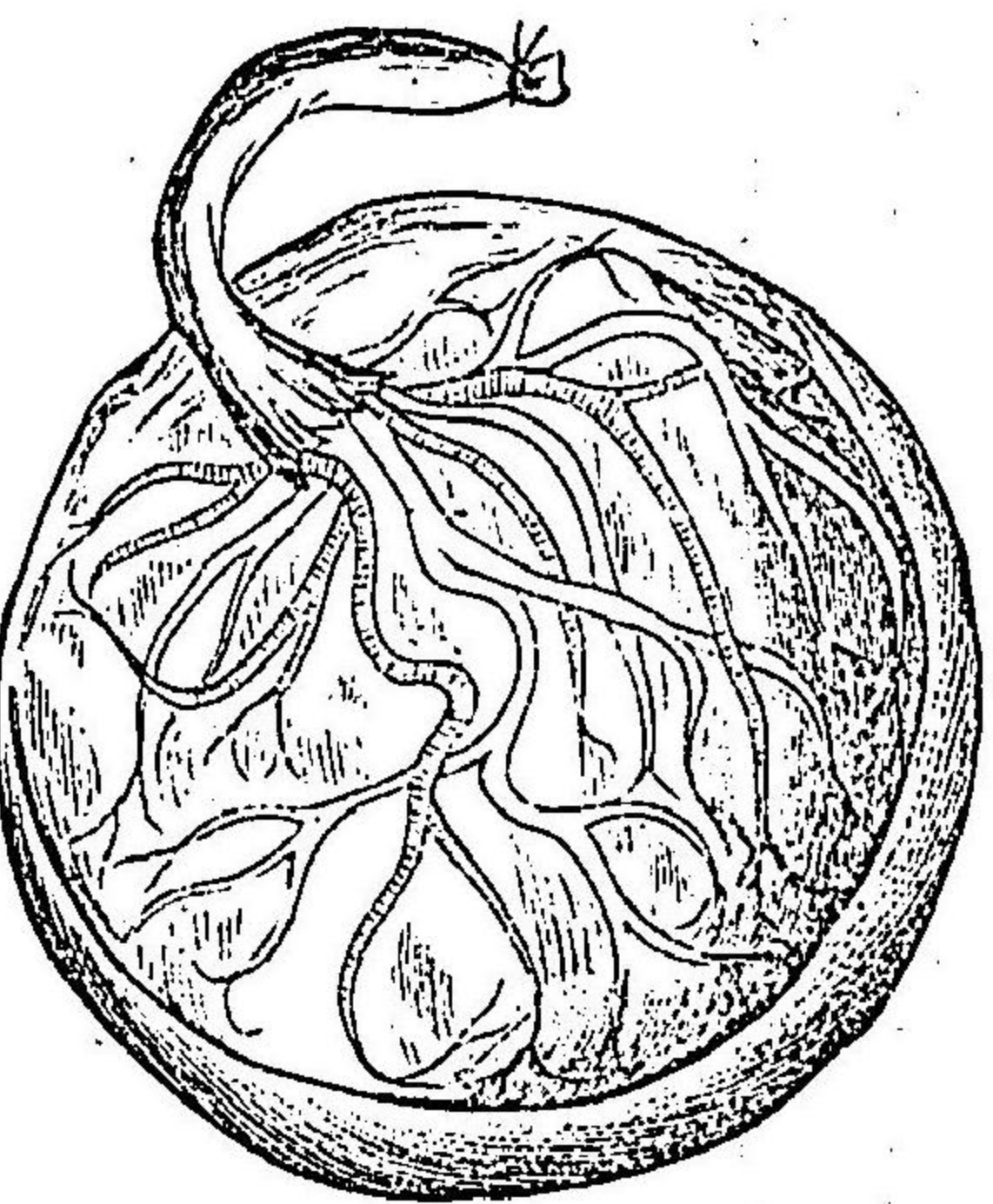
ブ。妊娠ノ末期ニ至レバ廣サ凡ソ十六仙迷乃至二十仙迷、厚サ凡ソ三仙迷重サ凡ソ五百瓦アリ。通常ハ子宮體ノ前壁若クハ後壁ニ附着シ、其附着面ハ凹凸不平ニシテ襤褸狀ヲ呈シ、以テ子宮壁ノ不平面ト嵌合密着ス。又胎兒ニ對スル一面ハ平滑ニシテ羊膜ヲ被ムリ、數多ノ血管ヲ現ハシ、通例其中央ニ臍帶ヲ附着セシム。

〔第一一〇項〕胎盤ノ効用 胎盤ハ胎兒ト母體トノ血液成分ノ交換ヲ媒スルモノニシテ、胎兒ハ之レニヨリ、身體ノ老敗物(炭酸、尿素等)ヲ母體

胎盤子宮面ノ圖



胎盤胎兒面ノ圖



第三十六圖

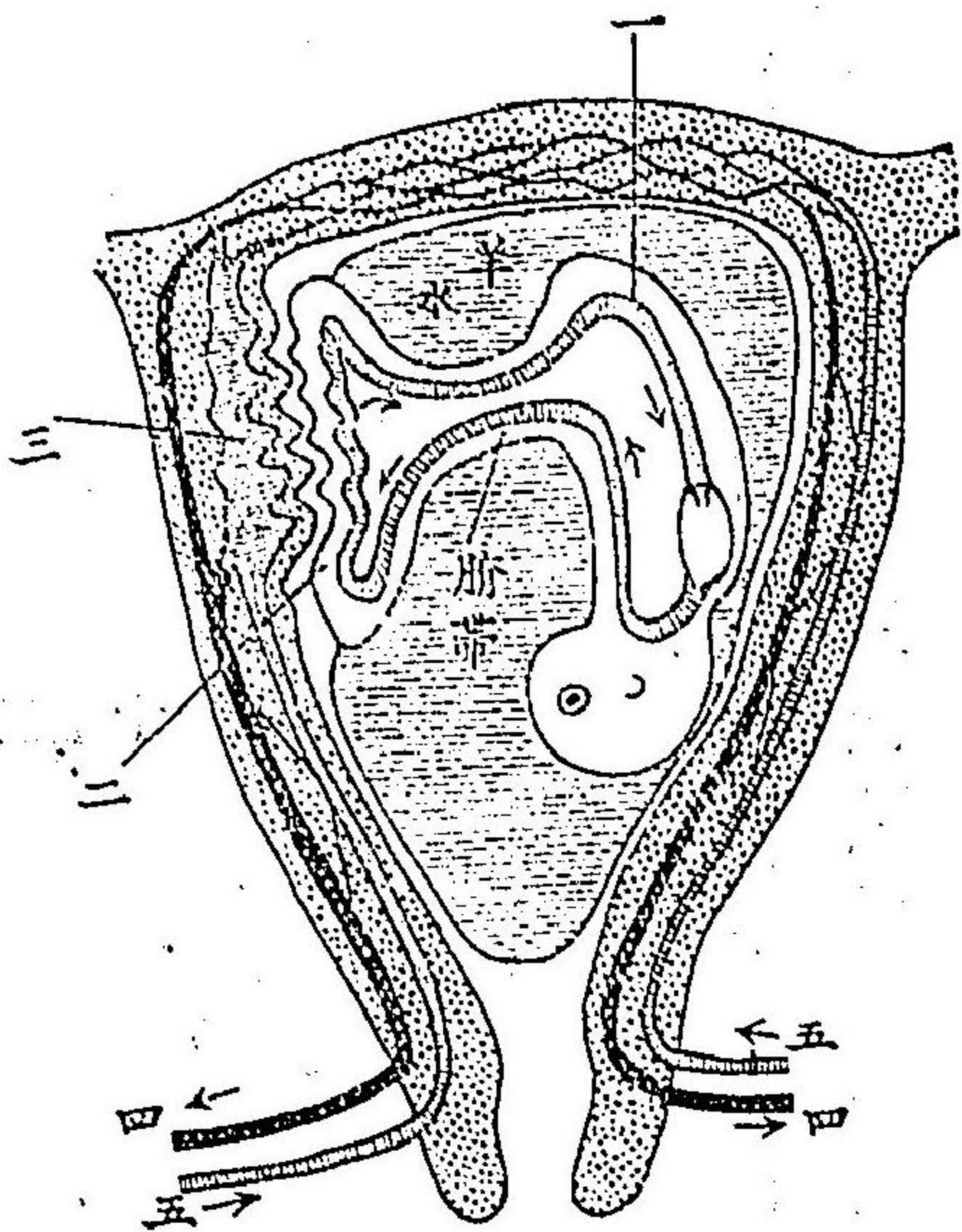
第三十七圖

血中ニ送り、更ニ營養物(酸素、蛋白質、糖分、鹽類、水等)ヲ母體ヨリ攝取ス。此故ニ胎盤ハ大人ニ於ケル肺(主ニ酸素ヲ取り、炭酸ヲ排泄スルモノナリ)及ビ胃腸ノ用ヲ兼用スルモノニシテ、極メテ緊要ノ器ナリ。之レニヨリテ、胎盤若シ子宮壁ヨリ剝離スルトキハ、胎兒ハ直ニ死ニ陥ルモノトス。

第一一一項 臍帶

ハ長サ五十仙迷大サ小指ニ均シク臍帶鞘ヲル

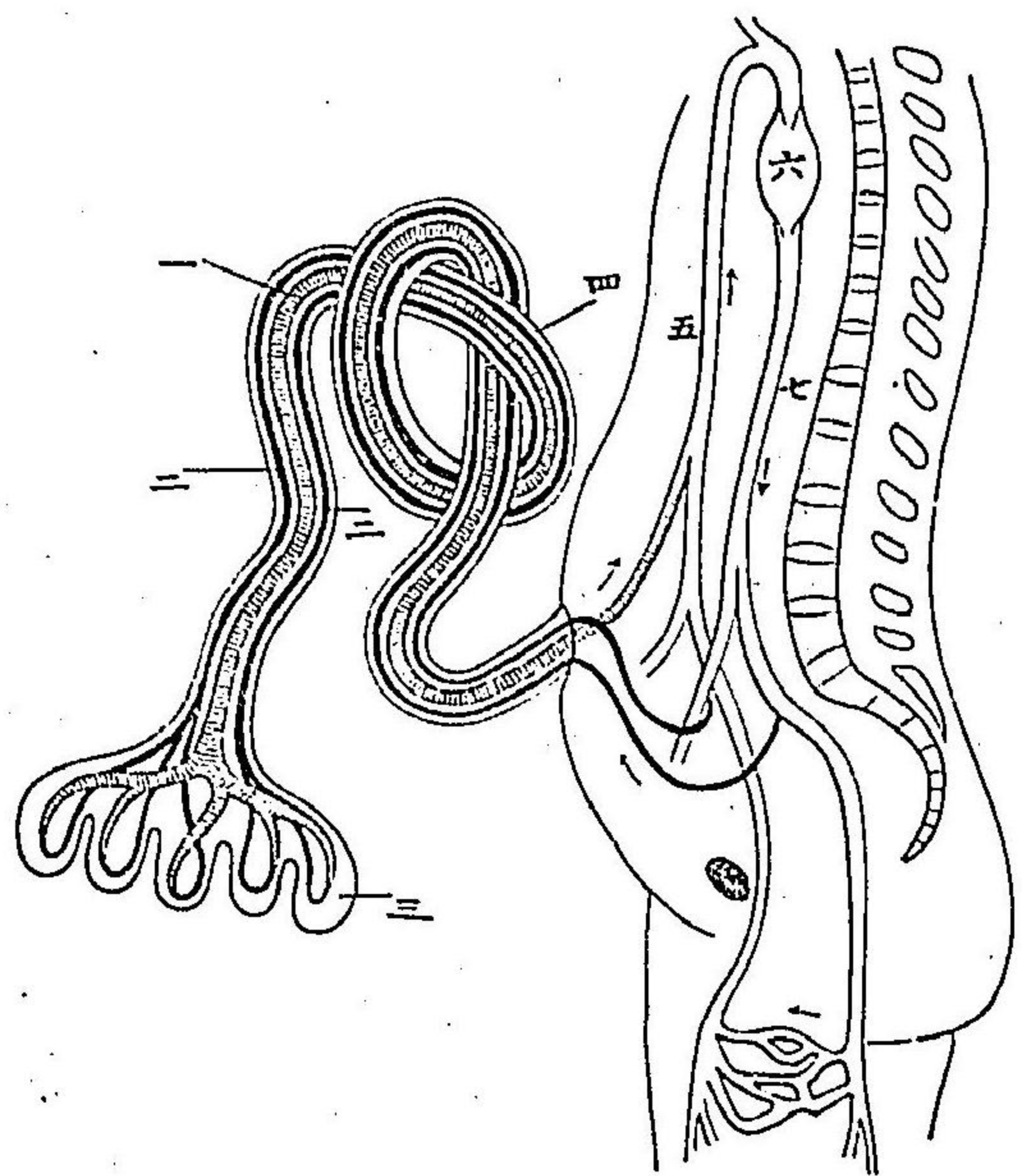
第三十三圖
ニ互面平不兩ノ盤胎ヒ及壁宮子
液血ノ宮子ト液血ノ兒胎シ合嵌
圖想假ノス示ヲルス觸接相ト



- 一 胎兒ノ血管
- 二 胎盤
- 三 子宮血管ノ膨大セルモノ
- 四 靜脈
- 五 動脈

トシノ氏酸肉ニ條ノ臍動脈一條ノ臍靜脈ヨリ成ル胎兒ノ子宮内ニ生活スルノ間ハ臍帶動脈ニヨリテ絶ヘズ搏動ヲ現ハス○又子宮内ニ於テ臍帶ハ著シク縲曲スルガ故ニ胎兒ノ手足頸等ニ纏絡スルコトアリ又ワルトン氏酸肉ノ堆積血管ノ屈曲ニヨリテ假結節ヲ現ハシ或ハ自ラ結バリテ

第三十九圖
ニ並路徑ノ脈靜脈動帶臍
圖想假ノス示ヲ節結真



- 一 臍帶靜脈
- 二 臍帶動脈
- 三 胎盤
- 四 眞結節
- 五 大靜脈
- 六 心臓
- 七 大動脈

眞結節ヲ生ス臍帶ハ胎兒ノ臍ヨリスレバ右ヨリ左ニ向ヒテ轉振シ索狀ヲ呈ス一臍帶ノ附着部ハ通例胎盤ノ中央ナレモ時トシテハ其邊緣ニ抵止スルコトアリ稀レニハ臍帶先ヅ卵膜ニ抵止シ其血管是ヨリ數條ノ分枝ヲナシ以テ胎盤中ニ進入スルモノアリ

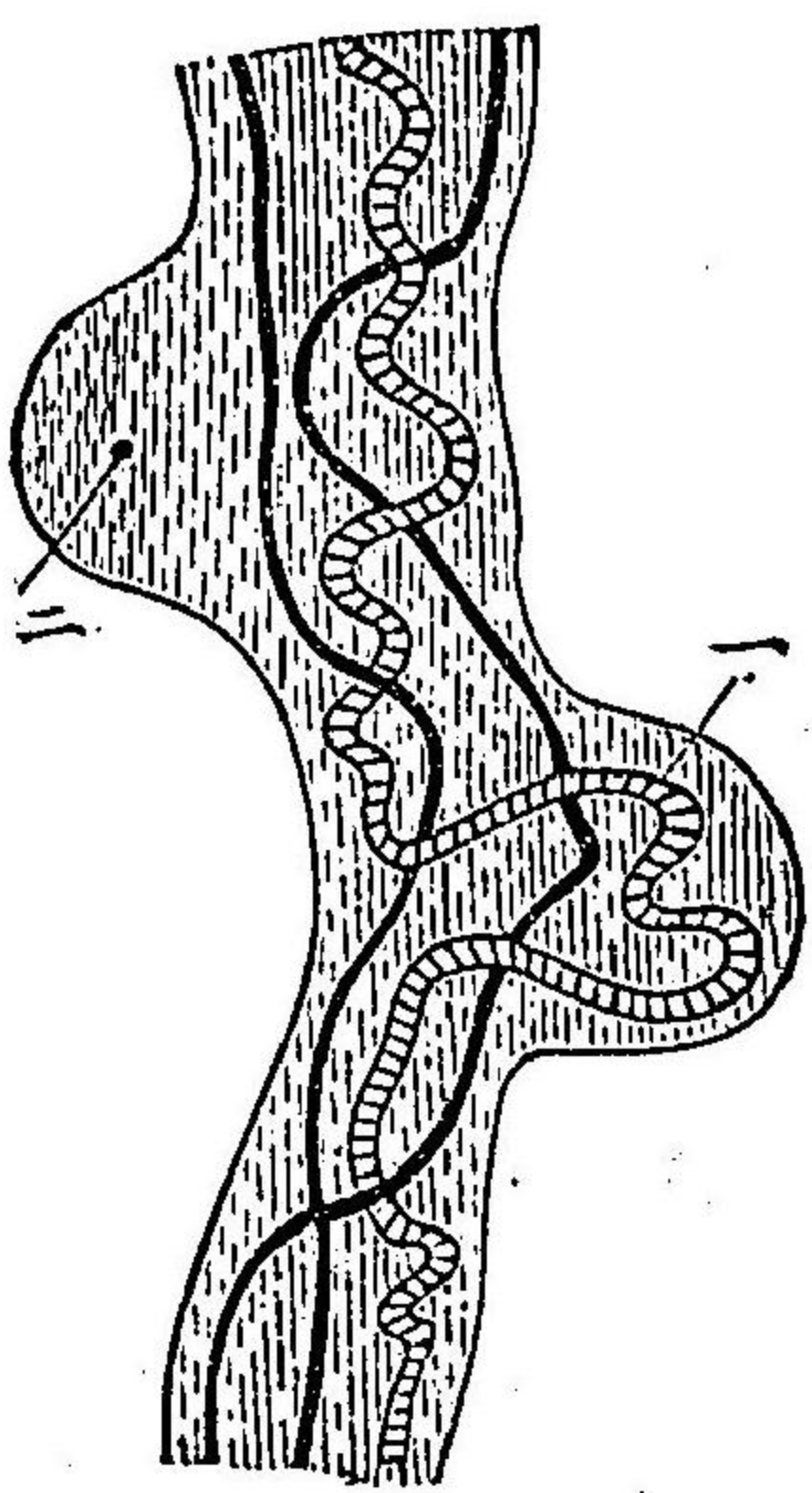
【第一一二項】臍帶動脈及ビ靜脈 二條ノ臍動脈ハ胎兒下腹ノ動脈ヨリ起リ、臍ヲ出デ、胎盤ニ達シ、漸次ニ樹枝狀ニ分岐シ、毛細管トナリ、普ク胎盤ノ絨毛中ニ入り、以テ母體ノ血管ニ密接シ、是レヨリ臍靜脈ノ末梢ニ移行シ、漸次ニ集合シ、終ニ一條ノ臍靜脈トナリ、臍ニ入りテ胎兒腹内ノ大靜脈ニ連リ、以テ新鮮ノ血液ヲ兒體ニ供給スルモノナリ。

臍帶ヲ壓迫スルトキ ハ血行全ク廢止シ、五分間以上ヲ經レバ、胎兒ハ死ニ歸スルモノナリ。

【第一一三項】羊水並ニ假羊水

羊水ハ又胎水ト稱シ、初メハ清澄ナレドモ、後漸ク混濁シ、妊娠ノ終リニ至レバ、五百乃至一千瓦アリ、此液

第十四圖 臍帶假結ノ假想圖



一 血管ノ風曲ニヨルモノ
二 フルトン氏液内ノ堆積ニヨルモノ

ナレドモ、後漸ク混濁シ、妊娠ノ終リニ至レバ、五百乃至一千瓦アリ、此液

ノ作用ハ二胎兒ノ栖息ス可キ腔間ヲ造リテ、其運動ヲ容易ナラシメ、二衝突、打撲等ノ如キ外來ノ害力ヲ防ギ、三臍帶、胎盤等ノ壓迫ヲ免レシメ、且ツ胎兒ノ運動ヲ母體ニ感ゼシムルヲ少ナカラシメ、四胎兒各部ノ癒着ヲ防ギ、五分娩時ニハ胎胞ヲ造リテ、產道ヲ開大シ、且ツ其漏泄ニヨリテ、產道内ヲ滑澤ニスルニ在リ、一時トシテ、羊膜ト絨毛膜ノ間、又ハ、絨毛膜ト鰓轉脫落膜ノ間ニ液ヲ蓄ルコトアリ、分娩ノ際、羊水ニ先ダテテ流泄ス。之レヲ假羊水ト云フ、羊膜絨毛膜間ニ在ルモノヲ或ハ、中間羊水ト云フ、羊水ノ混濁ハ、脫落セル毳毛、上皮片及ビ胎脂ヲ混ズルニヨルモノトス。

【第一一四項】後産 トハ胎盤、臍帶及ビ卵膜ノ三者ヲ總稱スルモノナリ。此三者ハ、胎兒分娩ノ後チニ產出スルヲ以テ名ク。

第廿三章 胎兒各月ノ徵候

【第一一五項】

第一月末 ニハ身長大凡ソ一仙迷、眼ハ僅ニ發生シ、鼻、口、四肢等ハ未ダ

其形ヲ成サズ。全體強ク彎屈シ、恰モ蛆蟲ノ如シ。全卵ハ鳩卵大ナリ。
第二月末 ニハ身長大凡ソ四仙迷、眼、耳、鼻、口ヲ形成シ。四肢ニ關節ヲ生
ジ、明カニ人體ノ形ヲ認ム可ク、全卵ハ鶏卵大ニ至ル。

第三月末 ニハ身長大凡ソ九仙迷、手指ト足趾トヲ區別ス可ク、全卵ハ
鷄卵大ニ至リ、絨毛膜ノ大部ハ絨毛ヲ失ヒ、胎盤ハ既ニ形成セラル。

第四月末 ニハ身長大凡ソ十六仙迷、外陰部ニハ男女ヲ區別ス可ク、皮
膚ニ毳毛ヲ生ズ。

第五月末 ニハ身長大凡ソ二十五仙迷、頭髮ヲ生ジ、始メテ心音ヲ聽ク
可シ。

第六月末 ニハ身長大凡ソ三十仙迷、眼瞼開クト雖モ、尙ホ瞳孔膜ヲ以
テ鎖サル。

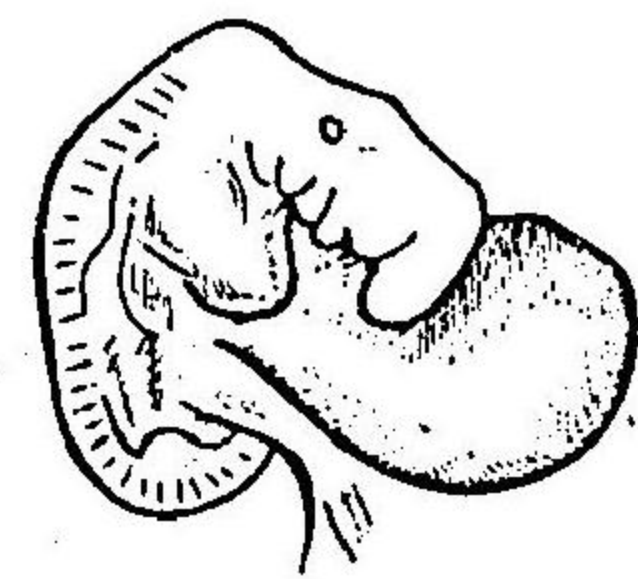
第七月末 ニハ身長大凡ソ三十五仙迷、多クハ眼裂開キ、顔ハ皺襞アリ
テ老人ノ如ク、産出スレバ啼ク、凡ソ滿七月以後ニ産出セルモノハ、生活シ
得可キ者ナレドモ、甚ダ虛弱ナルガ爲メニ、大抵死亡スルヲ免レズ、又、時ト

第十四圖

妊娠十二日ヲ
至タル人卵
ノ自然大

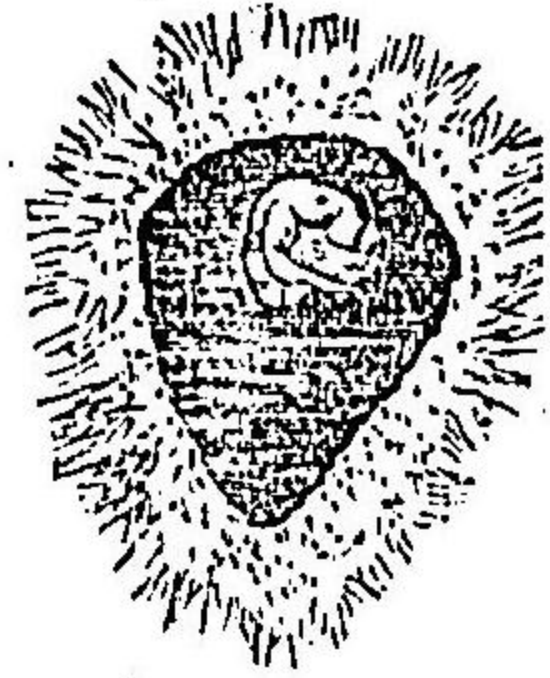


妊娠第一日
ノ胎兒ノ大
五倍ノ大

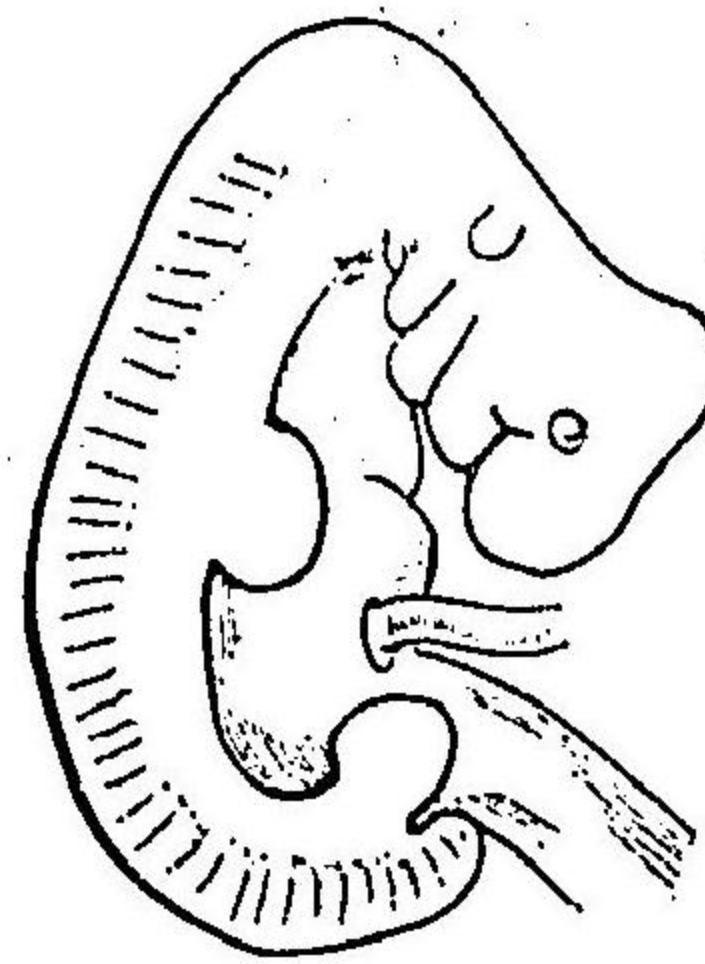


第十四圖

同上ノ卵膜
ニ在ルモノ
ノ自然大



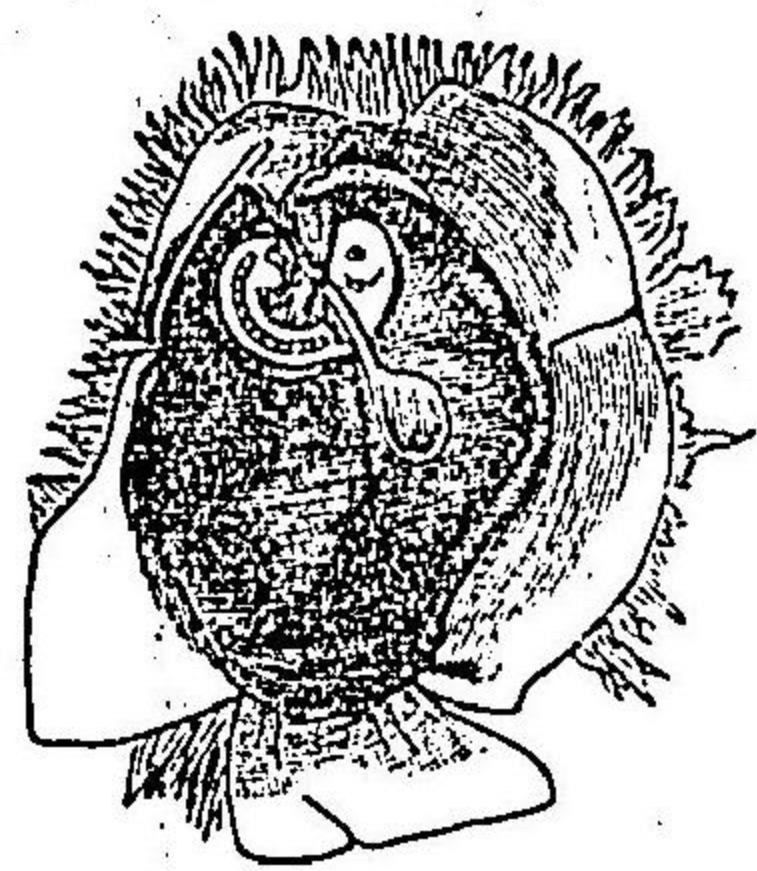
妊娠二十八日ヲ經タル胎兒ノ
圖五倍大



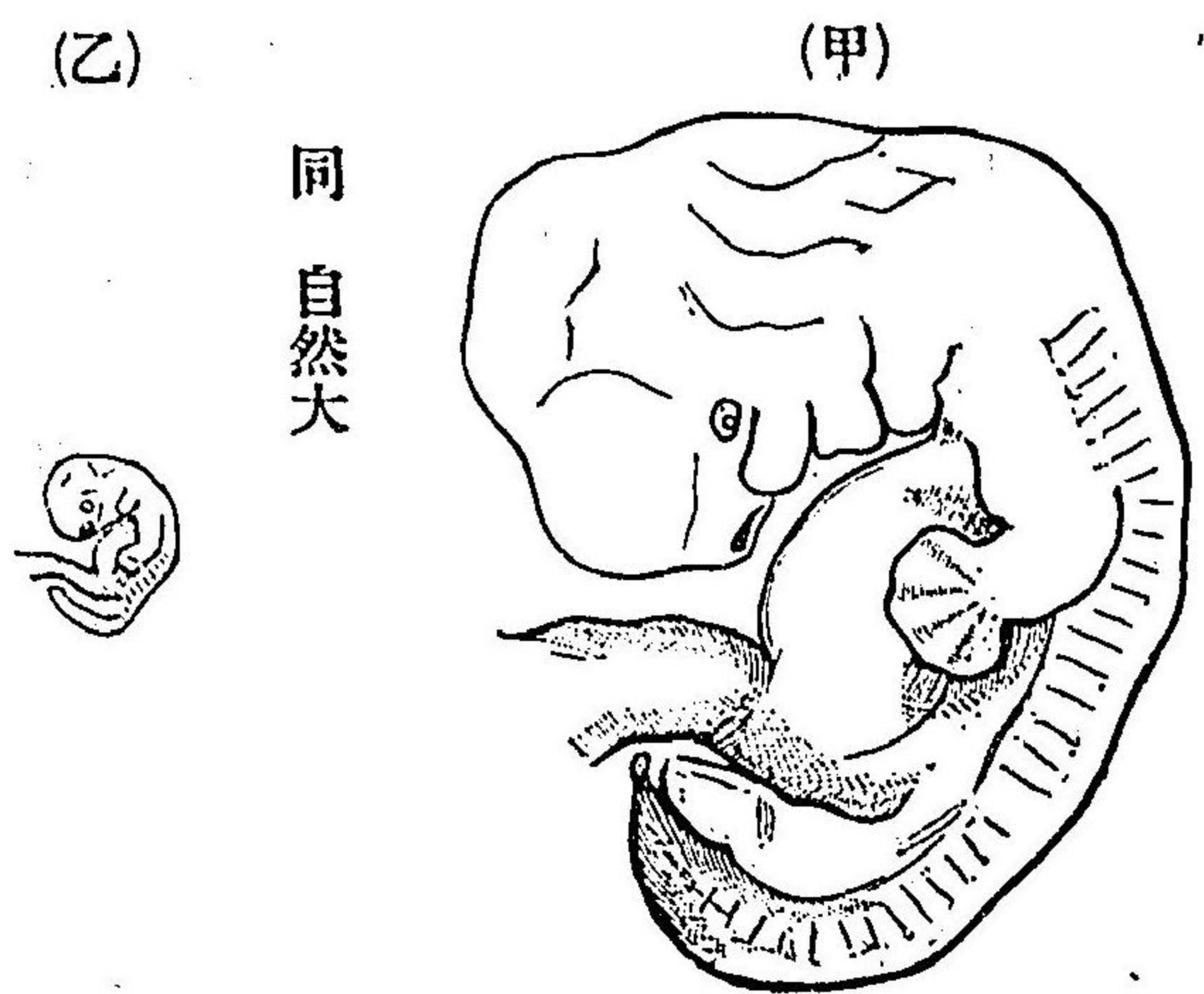
同自然大



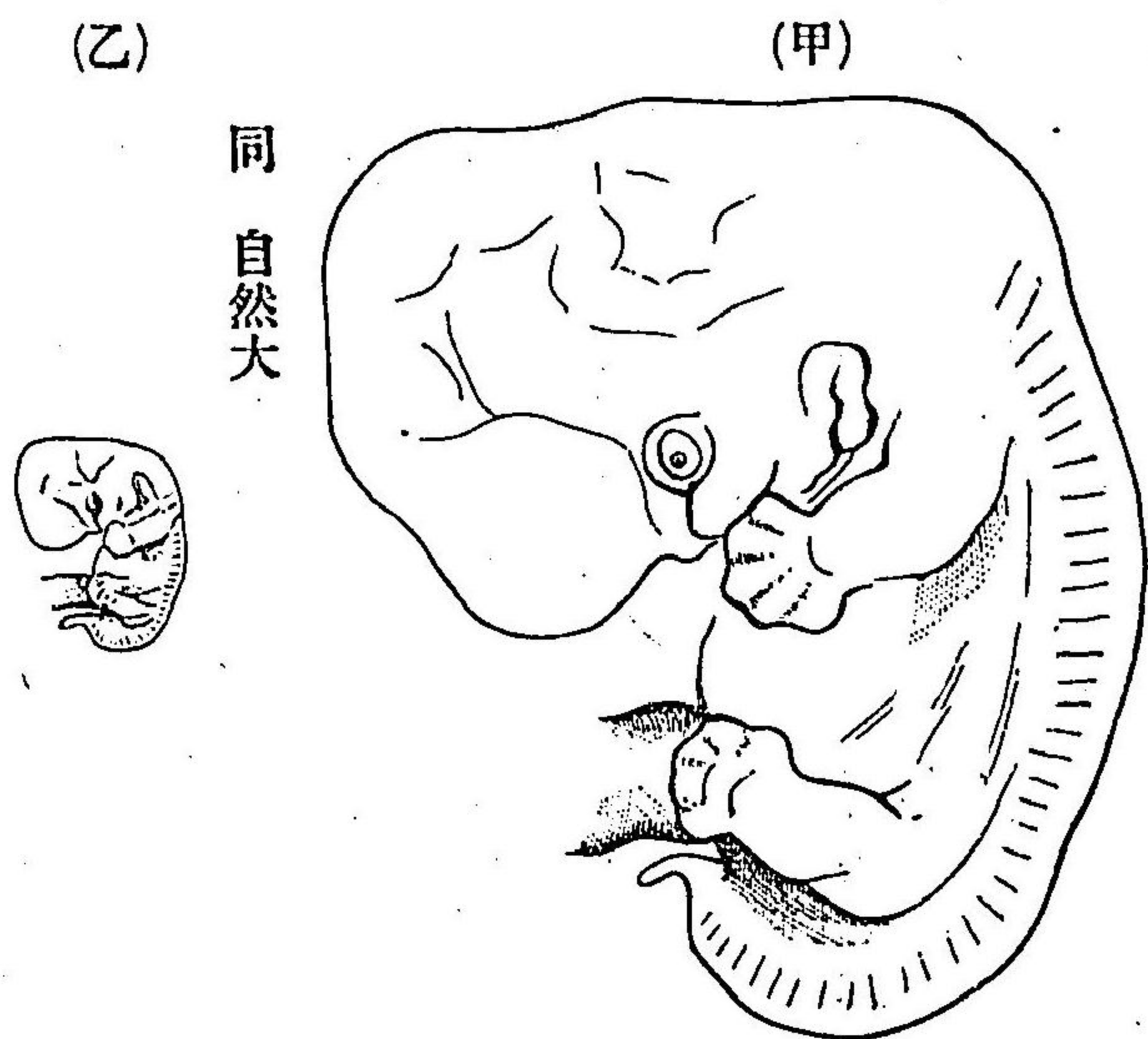
同卵膜腹内ニ在ルモノノ自然大



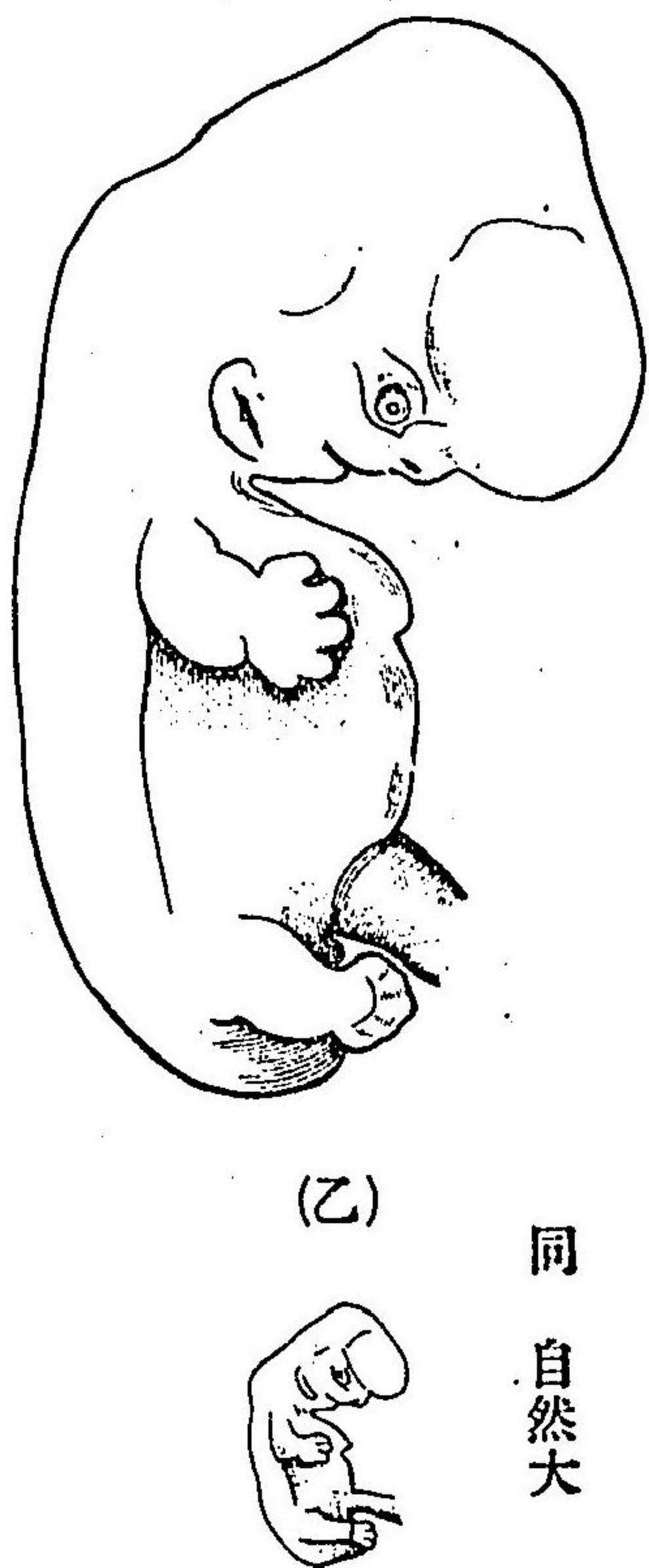
第四十四圖
妊娠第三十三日ヲ經タル胎兒ノ圖
五倍大



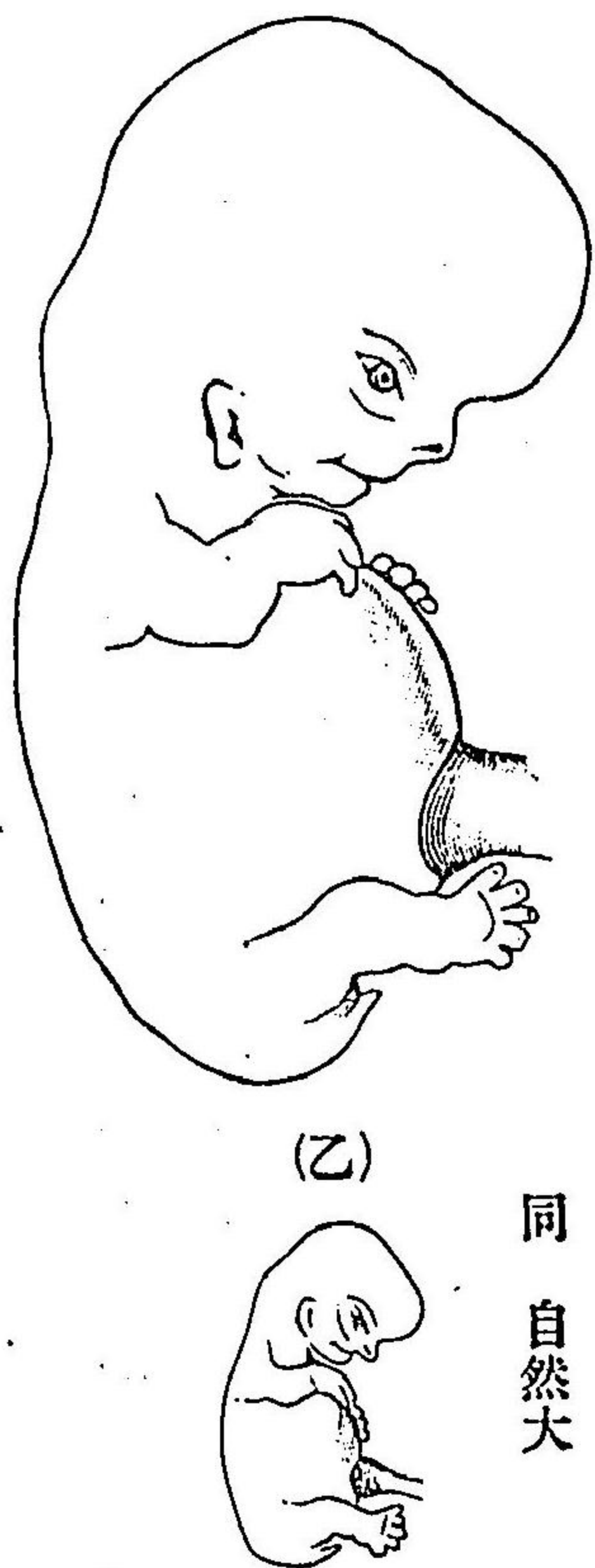
第四十五圖
妊娠四十二日即チ六週ヲ經タル胎兒ノ圖
五倍大



第四十六圖
妊娠十九日
即チ七週
ヲ經タル
胎兒ノ圖
四倍大



第四十七圖
妊娠十六日
即チ八週
ヲ經タル
胎兒ノ圖
三倍大



シテハ、全ク哺乳シ得ザルモノアリ。

第八月末 ニハ身長大凡ソ四十仙迷ヲ有シ、眼裂ハ全ク開ク、而シテ男兒ナレバ通例、睪丸ハ尙ホ鼠蹊管内ニ在リテ、陰囊内ニ下ラズ、女兒ナルトキハ、小陰唇ハ大陰唇間ヨリ突出ス。此時期ノ産出ハ、頗ル注意シテ養育スレバ、生存シ得ルモノトス。

第九月末 ニハ身長大凡ソ四十五仙迷、脂肪發生シ、頗ル肥ユ。

第十月末 ニハ身長大凡ソ五十仙迷、發育完成シ、毳毛消失シ、爪ハ稍指趾ノ端ヲ出ヅ、成熟胎兒即チ是ナリ、尙ホ第二十四章及ビ第二十五章ニ詳論ス可シ。

【第一一六項】胎兒各月ノ體重

ハ固ヨリ精密ニ確定スルヲ能ザルモノナレドモ、其概畧ヲ舉グレバ、第三月末ニハ二百五十瓦、第四月ニハ百二十瓦、第五月末ニハ二百八十瓦、第六月末ニハ六百三十四瓦、第七月末ニハ千二百十八瓦、第八月末ニハ千九百瓦、第九月末ニハ二千五百瓦、第十月末ニハ三千百瓦ナリトス。

【第一一七項】上ニ記セル妊娠ノ月ハ通常ト異ニシテ、四週間即チ二十八日ヲ以テ一ヶ月トス。是レ妊娠ノ持續日數ナル二百八十日ヲ十ヶ月ト看做スルニヨル。

【第一一八項】胎兒ノ身長ハ原ト西洋人ニ就キテ論ゼル者ナリ、日本人ハ一般ニ短小ナルガ故ニ、大凡ソ半割(百分ノ五即チ二十分一)ノ長サヲ減ズルヲ佳トス。而シテ以上記セル身長ハ、大略ヲ示セルモノニシテ、偏ニ記憶ニ便ナラシメンガ爲メ、次ノ表ニ基ツキ定メタルモノトス。

身長(仙迷)	數月
1×1=1仙迷	一
2×2=4 "	二
3×3=9 "	三
4×4=16 "	四
5×5=25 "	五
6×5=30 "	六
7×5=35 "	七
8×5=40 "	八
9×5=45 "	九
10×5=50 "	十

右第五ヶ月迄ハ、各々月數ヲ自乗シ、第六ヶ月以後ハ、其月數ニ常ニ五ヲ乗ジタルモノナリ。

第二十四章 成熟胎兒

【第一一九項】成熟胎兒 トハ十ヶ月即チ二百八十日ヲ經タルモノヲ云フ。其身長凡ソ五十仙迷凡ソ一尺六寸六分。體重凡ソ三千百瓦凡ソ八百二十四瓦。肩胛ノ廣徑凡ソ十二仙迷。腰部ノ廣徑凡ソ十仙迷。身體頗ル肥ユ。産出スレバ高聲ヲ放チテ啼ク。且ツ尿ヲ泄シ、暫クニシテ暗褐色粘稠ナル胎便胎糞ヲ排泄ス可シ。又胎兒ノ皮上ニハ多量ノ白色ナル脂肪ヲ附着セシム。之レヲ胎脂胎兒皮垢ト云フ。即チ剝脱セル上皮下皮脂肪ノ分泌物トヨリ成レリ。其他成熟胎兒ノ毛髮ハ三仙迷ノ長サヲ有シ、爪甲ハ稍指趾ノ端ヲ出ヅ。

【第一二〇項】成熟胎兒ノ大小 ハ一様ナラズ、小ナルハ身長四十八仙迷、體重二千七百瓦、大ナルハ身長五十八仙迷、體重六千瓦以上、第六編過大ナル胎兒參照ニ至ル。而シテ通例ハ母體ノ年齢加ハ、ルニ從フテ胎兒ノ大サヲ増シ、凡ソ四十歳ヲ以テ極度トナシ、後チ再ビ減却ス。

可シ、又、男兒ハ女兒ニ比スルニ大ナルヲ常トス。

【第一二二項】胎尿 ハ膽汁、粘液、表皮片、毳毛等ヨリナレリ。其ノ表皮片及ビ毳毛ヲ含有スルハ胎兒ノ羊水ヲ嚥下スルニ基クモノトス。

第二十五章 成熟胎兒ノ頭蓋

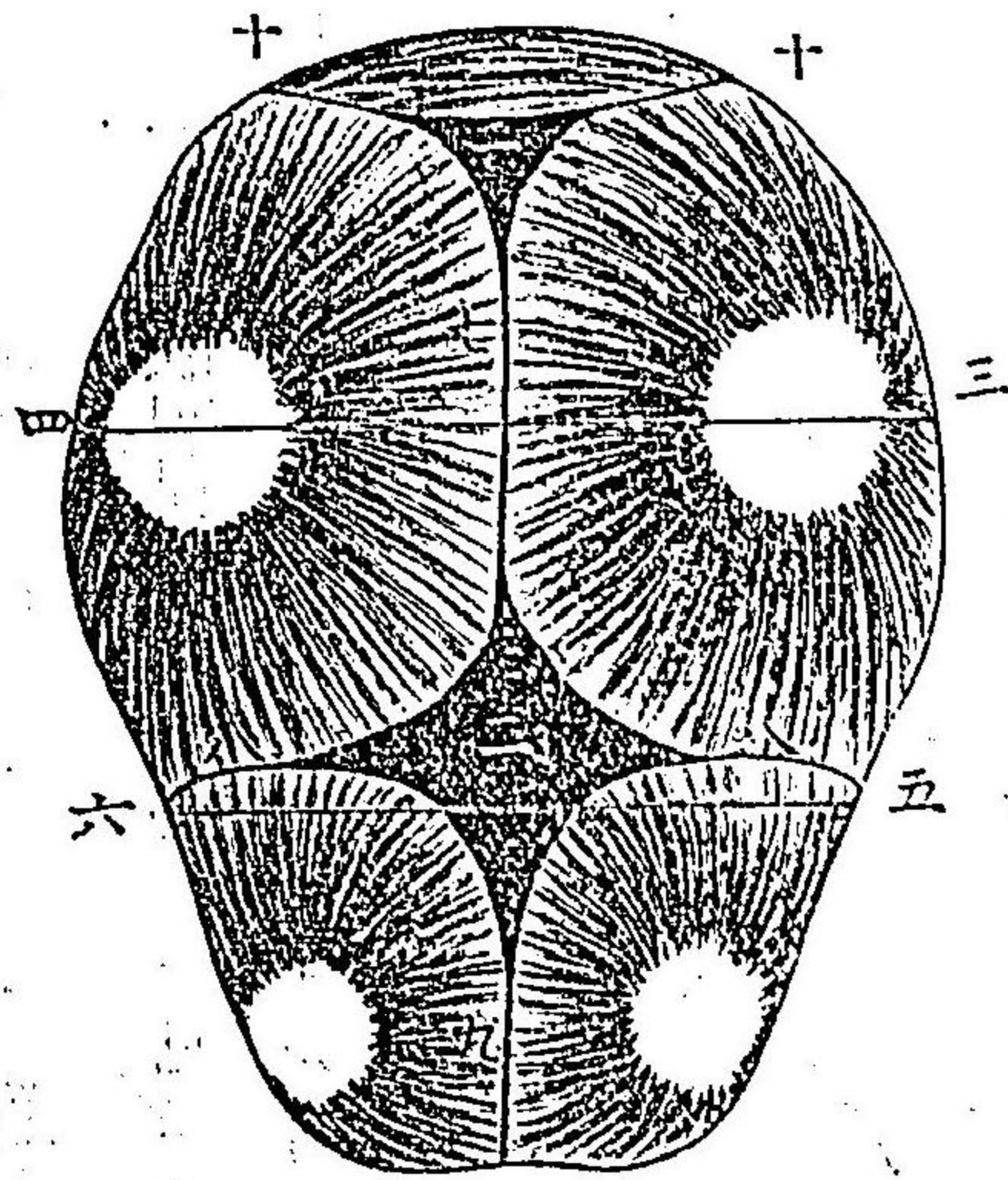
【第一二二項】成熟胎兒ノ頭蓋 ハ兒體中最モ大ニシテ堅ク、分娩ニ緊要ノ關係アルヲ以テ、之レヲ詳説セザル可ラズ。抑モ胎兒ノ頭ハ、縫合未ダ閉鎖セズ、且ツ諸縫合ノ連接部ニ額門ヲ現ハシ、以テ分娩ノ際ニ骨縁重積シ、頭蓋ノ容積ヲ縮小スルノ作用ヲ營ム。是レ甚ダ緊要ノ件ナリ。又、胎兒ノ前頭骨ハ大人ト異ニシテ、左右二個ヨリナレルモノトス。額門ノ主要ナルモノヲ大額門及ビ小額門トナス。

【第一二三項】天額門 ハ冠處縫合ト矢狀縫合及ビ前頭縫合トノ十字形ニ交叉スル處ニ在リテ、菱形ヲナシ、生産後長ク閉合セズシテ、搏動ヲ現ハスモノナリ。

小顛門

ハ矢狀縫合ト三角縫合ノ接合スル所ニシテ、三角形ヲ呈ス。

圖八十四第 圖ノ面頂蓋頭兒胎熟成

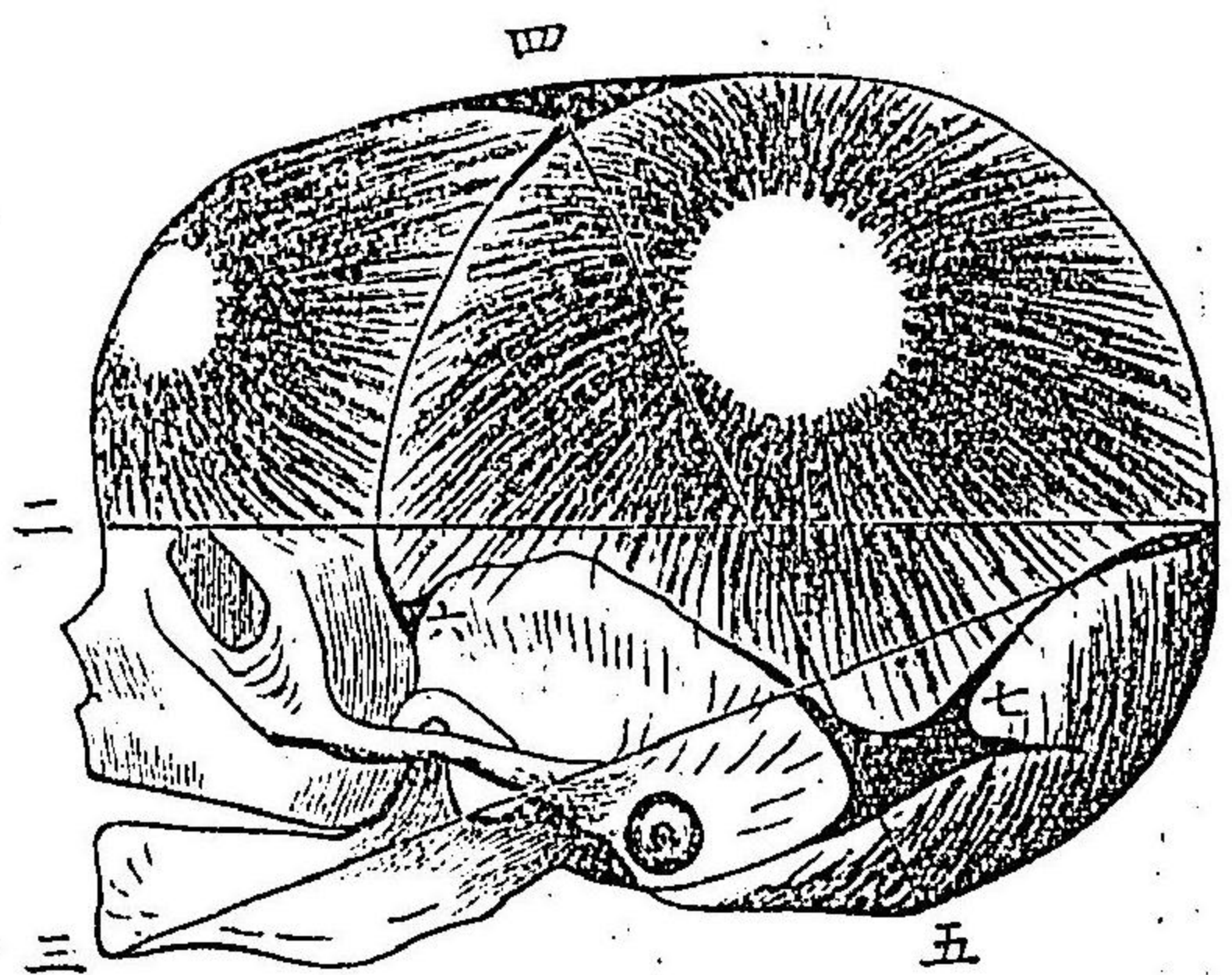


- 一、小顛門
- 二、大顛門
- 三、四、大横徑線(九、五仙迷)
- 五、六、小横徑線(八仙迷)
- 七、矢狀縫合
- 八、八、冠處縫合
- 九、前頭縫合
- 十、三角縫合

但シ、此部ニ於テハ、諸骨既ニ化骨セルガ故ニ、骨ノ間隙ヲ現ハサズ。縫合ノ會合セル部ニ於テ、三角形ノ凹陥ヲナスヲ以テ、之レヲ觸知ス可シ。

第一二四項自餘ノ顛門及ビ縫合 顛頂骨ト顛顛骨間ノ縫合

圖九十四第 圖ノ面側蓋頭兒胎熟成



- 一、二 直徑線(十二仙迷)
- 一、三 大斜徑線(十三、五仙迷)
- 四、五 小斜徑線(九、五仙迷)
- 四 大顛門
- 六 前顛門
- 七 後顛門

ヲ鱗狀縫合ト名ケ、此鱗狀縫合ト三角縫合トノ接合部ニハ後側顛門ヲ現ハシ、又顛顛骨ト前顛骨トノ間、即チ鱗狀縫合ト冠處縫合トノ間ニハ、上方ニ顛頂骨ノ一部、下方ニ蝴蝶骨ノ一部ヲ現ハシ、四骨ノ聯接セル中間ニハ、

前側顱門ヲ呈ス。但シ、此兩顱門ハ小顱門ト共ニ、成熟胎兒ニ於テハ、既ニ閉鎖セラルヲ見ル可シ。

第一二五項 兒頭ノ徑線ニ數種アリ、眉間及ビ後頭結節間ヲ直徑線、兩顱頂結節間ヲ大橫徑線、兩顱顛部間ヲ小橫徑線、直徑ニ沿フテ頭蓋ヲ一周セルヲ頭蓋周圍徑、顱部及ビ後頭結節間ヲ大斜徑線、項窩及ビ大顱門間ヲ小斜徑線ト稱ス。就中緊要ナルモノヲ左ニ示ス。

直徑線

十二仙迷

大橫徑線

九、五仙迷

頭蓋周圍徑

三十四仙迷

第一二六項 其他ノ徑線 其他、小橫徑線八仙迷、大斜徑線十三仙迷、半、小斜徑線九仙迷、半、鉛直徑線十仙迷ヲ有ス。或ハ又、前額ヨリ項窩ニ達スルノ徑線十、五仙迷ヲ小斜徑線ト稱スルモノアリ。凡ソ此等ノ諸徑線ハ、檢者ノ異ナルニ、從ヒ幾分ノ差違ヲ呈スルモノトス。

第一二七項 最小及ビ最大ナル兒頭ノ周圍徑 頭蓋ノ最小

ナル。周圍徑ハ、小斜徑線ニ於ケル周圍徑ニシテ、三十二仙迷ヲ有シ、最大ナルハ、大斜徑線ノ周圍徑ニシテ、三十六仙迷ナリ。正規ノ分娩ニ於テハ、最小ナル周圍徑ヲ以テ骨盤内ヲ通過スルモノナリ。若シ大ナル周圍徑ニ就キテ骨盤内ニ進入スルトキハ、其分娩容易ナラザルモノトス。

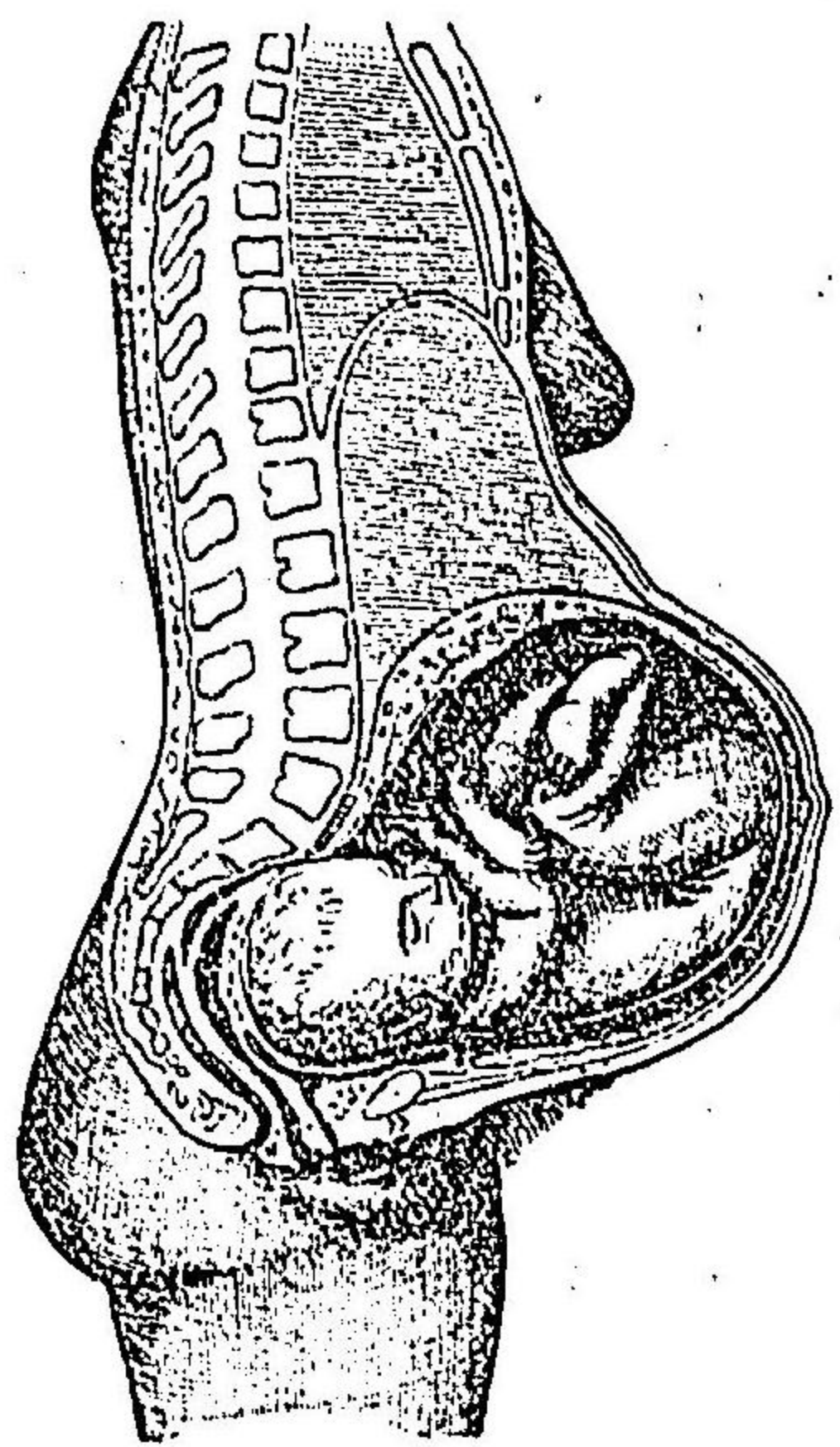
第廿六章 胎兒ノ子宮内ニ於ケル狀態

第一二八項 胎兒ノ子宮内ニ在ルヤ 三種ノ狀態ヲ區別ス可シ。一胎位、二胎向、三胎勢是ナリ。

第一二九項 胎位 子宮内ニ於ケル胎兒、縦ニ位スルトキハ、之レヲ縦位ト云ヒ、横ニ在ルトキハ、横位ト名ク。縦位ハ通常ノ位置ニシテ、横位ハ全ク異常ニ屬ス。其横位ノ數ハ全胎位ノ凡ソ六%ナリトス。

第一三〇項 胎向 トハ胎兒ノ背ノ向フ所ヲ以テ之レヲ名ク。即チ胎兒ノ背、母體ノ左ニ向フトキハ、第一胎向トナシ、右ニ對スルトキハ、第二胎向ト稱ス。第一胎向ハ、第二胎向ヨリモ多シトス。

第五十圖 妊娠末期ニ於ケル妊婦ノ矢狀断面ノ圖



胎児ハ第一頭蓋位ニシテ正規ノ體勢ナルヲ示ス

我日本ニ於テ第一胎向ハ第二胎向ヨリモ少シト唱フルモノアリ然レドモ小數ノ検査ニヨルガ故ニ未ダ確實ナラズトス。

〔第一三二項〕胎勢 トハ胎兒身體ノ姿勢ヲ云フ通常ハ背ヲ屈シ願ヲ胸上ニ着ケ四肢ヲ屈曲シテ胸腹ノ前面ニ集メ左右ノ前膊及ビ左右ノ下腿ハ各交叉シ臍帶ハ腹部ノ前面ニ於テ四肢ノ間ニ纏廻ス可シ若シ或ハ手足又ハ頸ヲ伸展シ若クハ四肢ニ臍帶ノ纏絡スルガ如キモノハ之レヲ異常胎勢トナス。

〔第一三二項〕胎位胎向及ビ胎勢ノ變化

胎位胎向及ビ胎勢ハ屢々變更スルモノニシテ縱位ハ横位トナリ第一胎向ハ第二胎向トナルガ如ク時々其状態ヲ改ムルコトアリ殊ニ胎兒小ナルカ又ハ子宮腔大ナルトキハ其變化スルコト益著シキモノトス此理ニヨリ經産婦ハ腹腔潤大ニシテ且ツ子宮壁ノ弛緩セルガ爲メ初妊婦ニ於ケルヨリモ胎位胎向胎勢ノ變更ヲ現ハスコト多シトス就中胎向ノ變化ハ甚ダ容易ナルモノニシテ第一第二ノ胎向ハ屢々互ニ相交換スルヲ見ル可シ。

第廿七章 胎兒ノ生理

〔第一三三項〕胎兒ノ營養 卵ハ最初營養物ヲ絨毛膜ニヨリ子宮ノ脱落膜ヨリ取り第三週乃至四週ニシテ臍帶血行ノ開始スルニ至レバ胎盤部ニ於テ物質ノ交換ヲ營ムモノナリ即チ胎兒ノ血液ハ臍帶動脈ヨリ胎盤ノ毛細管ニ至リ胎盤中ヲ循環スルニ當リ酸素蛋白質鹽類等ハ母體ノ血管ヨリ兒ノ血中ニ入り之レニ反シ炭酸其他ノ老敗物ハ兒ノ血管

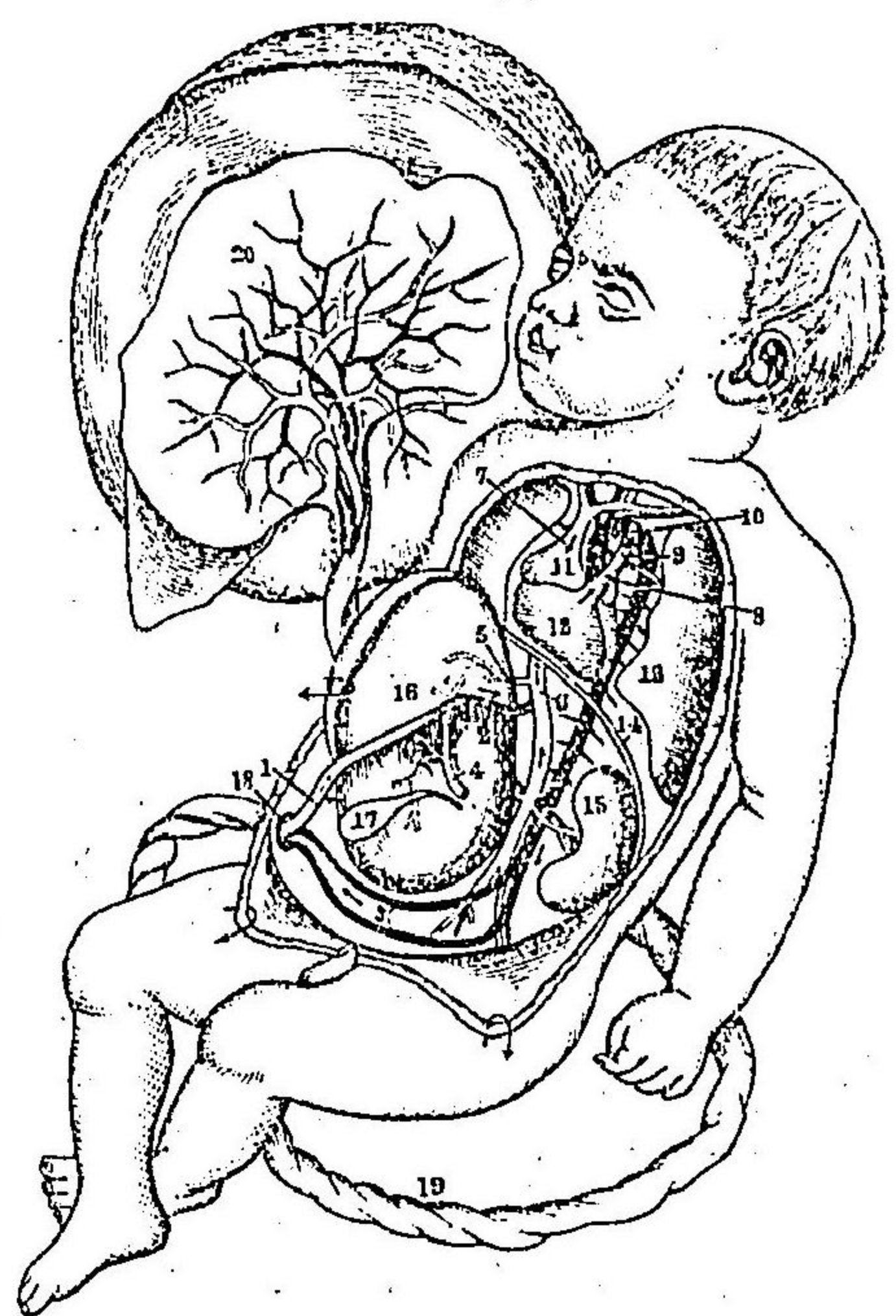
ヨリ、母ノ血中ニ謝出シ、以テ胎兒ノ生活ヲ保續セシム。此故ニ、臍帶ノ血行。一タビ壓止セラレ、五分間以上ニ亘ルトキハ、胎兒ハ死ニ歸スルモノトス。母體ノ死亡セルトキモ亦之レト異ナルコトナシ。

〔第一三四項〕無呼吸及ビ早時呼吸 胎兒子宮内ニ在リテ、胎盤ニヨリ完全ノ物質交換ヲナシ、以テ呼吸ヲ營マザルヲ無呼吸ト稱ス。今若シ或ハ、臍帶ノ血行又ハ子宮質中ノ血行不良トナルトキハ、酸素缺乏シ、炭酸過剩トナルガ爲メニ、胎兒ハ無呼吸ヲ保續スルヲ能ハズシテ、既ニ子宮内ニ於テ、呼吸作用ヲ發シ、以テ羊水、血液等ヲ吸入ス。此呼吸ヲ早時呼吸ト名ク。此如キ胎兒ハ假死ニ陥リ、其假死ノ時間久シキトキハ、眞死ニ歸スルモノナリ。

〔第一三五項〕迅速ニ母體死亡スルトキハ胎兒モ亦タ其ニ死スルヲ上述ノ如シト雖ドモ、胎兒ハ稍々遅ク絶命スルヲ常トス。

〔第一三六項〕胎兒ノ心臟ハ第五ヶ月ヨリ其搏動ヲ聽取ス可シ。其數男女ニヨリテ差異アレドモ、凡ソ百四十搏ヲ算ス可シ、而シテ胎兒自己

第十五圖



胎兒血液循環ノ圖

ノ運動、母體ノ體温充進等ニヨリテ、心動増進シ、假死ニ陥ラントスルノ際ハ、一タビ著シク减小シ、最後ニ至レハ、疾數且ツ不正トナルモノナリ。

〔第一三七項〕胎兒ノ血液循環ハ、生産後ニ於ケ

- 20 胎盤
- 19 臍帶
- 18 臍靜脈
- 17 臍動脈
- 16 肝ノ下面
- 15 肝ノ上面
- 14 横膈膜
- 13 肺
- 12 右房
- 11 右室
- 10 心動脈ノ動脈弓
- 9 心動脈ノ動脈弓
- 8 肺動脈
- 7 上下大靜脈
- 6 肝靜脈
- 5 門靜脈
- 4 臍靜脈
- 3 臍動脈
- 2 臍靜脈
- 1 臍靜脈

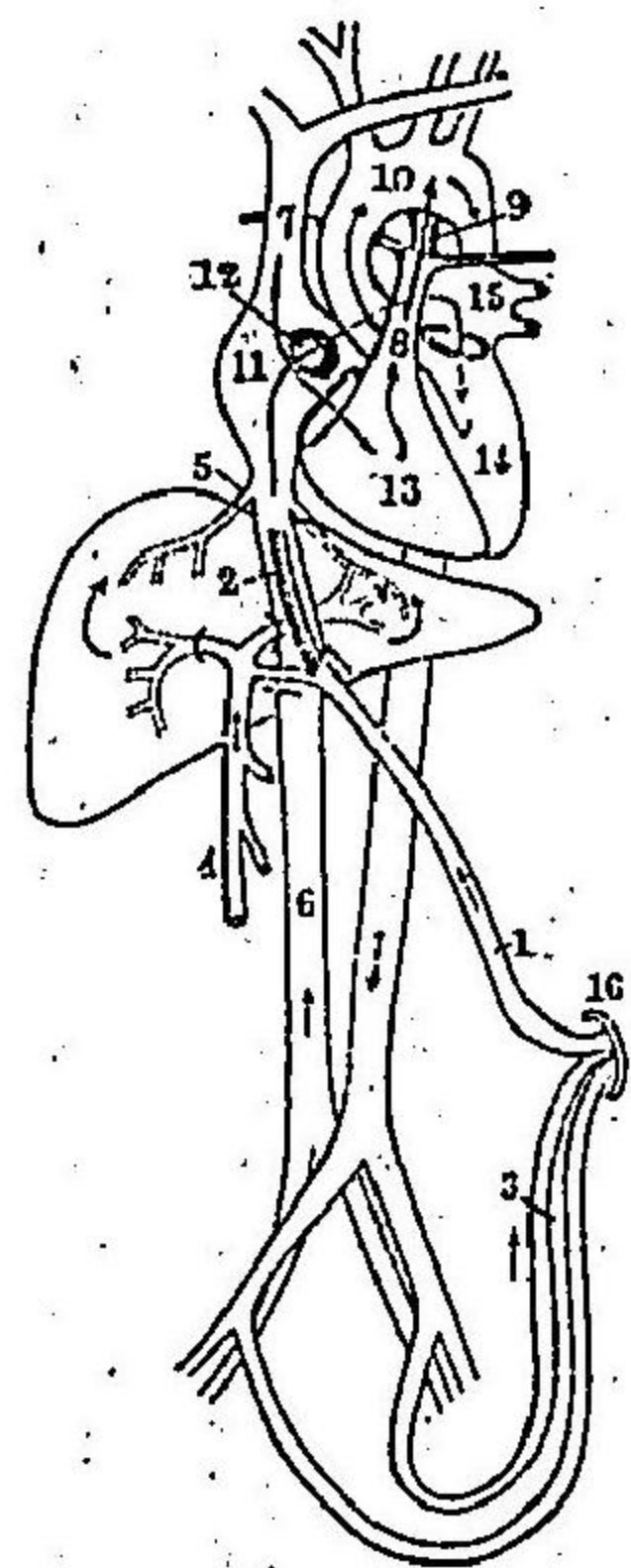
ルモノト、大ニ其關係ヲ異ニセリ。是レ、肺臟未ダ其機能ヲ營マズ、胎盤ノ血行之レヲ代理スルニヨルモノトス。而シテ心臟ノ左右兩房間ニハ、卵圓孔(生産後直チニ閉鎖シテ卵圓窩トナル)ナル一孔アリテ互ニ交通シ、肺動脈ト大動脈ノ間ニハ、ボタリー氏動脈管(生産後、動脈様靱帶トナル)アリテ兩者ヲ聯結ス。臍動脈(臍帶動脈)ハ膀胱動脈ノ一系ニシテ、骨盤内動脈ヨリ起リ、始メハ膀胱ノ側壁ニ沿フテ上行シ、遂ニ臍ニ達ス(此動脈ノ、膀胱及ビ臍ノ間ニ位セル部ハ、生産後、變ジテ靱帶トナル)臍靜脈(臍帶靜脈)ハ臍ヨリ肝ノ下面ニ亘レル靱帶内ヲ通り、肝ノ下面ニ於テ二枝ニ分岐シ、甲ハ肝ノ門脈ニ入り、乙ハ直チニ下大靜脈ニ連ル。乙ヲ名ケテ、アラントー氏ノ靜脈管ト稱フ。

胎盤ヲ循環シテ新鮮トナレル血液ハ臍靜脈ヨリ肝ノ下面ニ至リ、門脈及ビアラントー氏靜脈管ヲ經、共ニ下大靜脈ニ達シ、下大靜脈ハ下肢及ビ腹部内臟ヨリ還流シ來レル血流ヲ合セ、上體ノ血液ヲ總合セル上大靜脈ト共ニ、心ノ右房ニ注グ。茲ニ於テ右房ノ血液ハ、一部ハ

右室ニ入り、肺動脈ニ出デ、次デ其大部分ハ、ボタリー氏動脈管ヲ經テ、直チニ大動脈ニ注ギ、他ノ一部ハ、左右兩房間ニ存セル卵圓孔ヲ通りテ左房ニ入り、左室ニ出デ、以テ大動脈ニ注ギ、彼ノボタリー氏動脈管ヨリ來

同上想像圖

圖二十五第



- 1、臍靜脈
- 2、アラントー氏靜脈管
- 3、臍動脈
- 4、門脈
- 5、肝靜脈
- 6、下大靜脈
- 7、上大靜脈
- 8、肺動脈
- 9、ボタリー氏動脈管
- 10、大動脈ノ動脈弓
- 11、右房
- 12、卵圓孔
- 13、右室
- 14、左室
- 15、左房
- 16、臍

レルモノト共ニ逐次ニ全身ニ循環シ、其臍動脈ニ到レルモノハ、胎盤ノ循環ヲ營ムモノトス。又、胎兒ノ肺中ニ循グレル肺動脈及ビ肺靜脈ハ、呼吸ヲ營マザルヲ以テ、僅少ノ血液ヲ流通セシムルニ過ギズ。胎兒出産シ、呼吸ヲ營ムニ至レバ、卵圓孔、ボタリー氏動脈管、膀胱以上ノ臍動脈、

臍靜脈及ビアランチー氏靜脈管ハ其交通絶止シ、各固有ノ變化ヲ完成スルモノトス。

第廿八章 妊婦ノ生殖器官ニ現ハル、變狀

〔第一三九項〕子宮 ハ若年ノ婦人ニ在リテハ長徑凡ソ三十五仙迷ニ達シ、其容積ハ五百倍餘ニ至ル。而シテ子宮ノ位置ハ、始メ一二ヶ月間ハ、深ク骨盤内ニ下降シ、後チ漸次ニ上昇シ、第四ヶ月ニ至レバ、大骨盤内ニ出ツ。又、子宮口ハ妊娠ノ末期ニ及ベバ、後上方ニ退キ、薦骨岬ニ近接ス。

子宮粘膜炎 ハ卵ノ受胎スルニ及ビ、著シク肥厚シ、脱落膜トナリ、其一部ハ殊ニ増息シ、翻轉セルガ如キ狀ヲナシテ卵ヲ包被ス。翻轉脱落膜是ナリ。脱落膜ハ分娩ノ際、其質中ヨリ分離シテ剥脱ス可シ。是レ脱落膜ノ名アル所以ナリ。

子宮血管 ハ甚ダシク増大シ、且チ其長サヲ増スガ故ニ、蜿蜒トシテ

蛇行シ、互ニ吻合シテ、著シキ網狀ヲナシ、其動脈ハ直チニ靜脈ニ移行スルモノアリ。此ノ如ク血管ノ増大スルガ爲メニ、胎盤ノ剝離等ニヨリ血管ヲ損傷スルトキハ、甚ダシキ出血ヲ生ズルモノナリ。

〔第一三九項〕膈及ビ外陰部 ハ著シク弛緩シ、内腔濶大トナリ、分泌増進シ、其液ハ帶青白色ヲナス。又、前庭、膈壁、子宮腔部ハ、變色シテ帶青赤色ヲ呈ス。大陰唇ハ時トシテ靜脈ノ怒張ヲ生ズルコトアリ。

〔第一四〇項〕子宮ノ周圍部 ハ子宮ノ増大スルニ隨ヒ、壓迫セラレ、種々ノ變狀ヲ呈ス、即チ膀胱ニハ尿意頻數トナリ、直腸ニ於テハ便秘ヲ發シ、血管ヲ壓迫スレハ、大陰唇、下肢等ニ浮腫若クハ靜脈ノ怒張ヲ致シ、神經ノ壓迫セラレ、トキハ、下肢ニ電擊性ノ掣痛ヲ發シ、時トシテハ麻痺ヲ生ズルコトアリ。

〔第一四一項〕月經 ハ妊娠中、閉止スルヲ常トス。然レドモ、稀ニハ初メ一二月ノ間尙ホ月經ヲ現ハスコトアルヲ見ル。其他、妊娠中、月經ニアラザル出血ヲ見ルコトナキニアラズ。

〔第一四二項〕乳房 ハ漸次ニ増大シ、柔軟トナリ、乳暈ハ赤色乃至黒褐色ヲ呈シ、稀薄水様ノ乳汁ヲ分泌ス。注意シテ乳房ヲ壓搾スルトキハ、其漏出スルヲ見ル可シ。之レヲ初乳トナス。

第廿九章 妊婦ノ生殖器以外ニ現ハルル

變狀

〔第一四三項〕妊娠ハ通例、疾病ニアラズ。ト雖ドモ、種々ノ異狀ヲ現ハスモノトス。而シテ異狀ノ甚ダシカラザルモノハ、固ヨリ生理的ニ屬セシム可キモノナリ、即チ次ノ如シ。

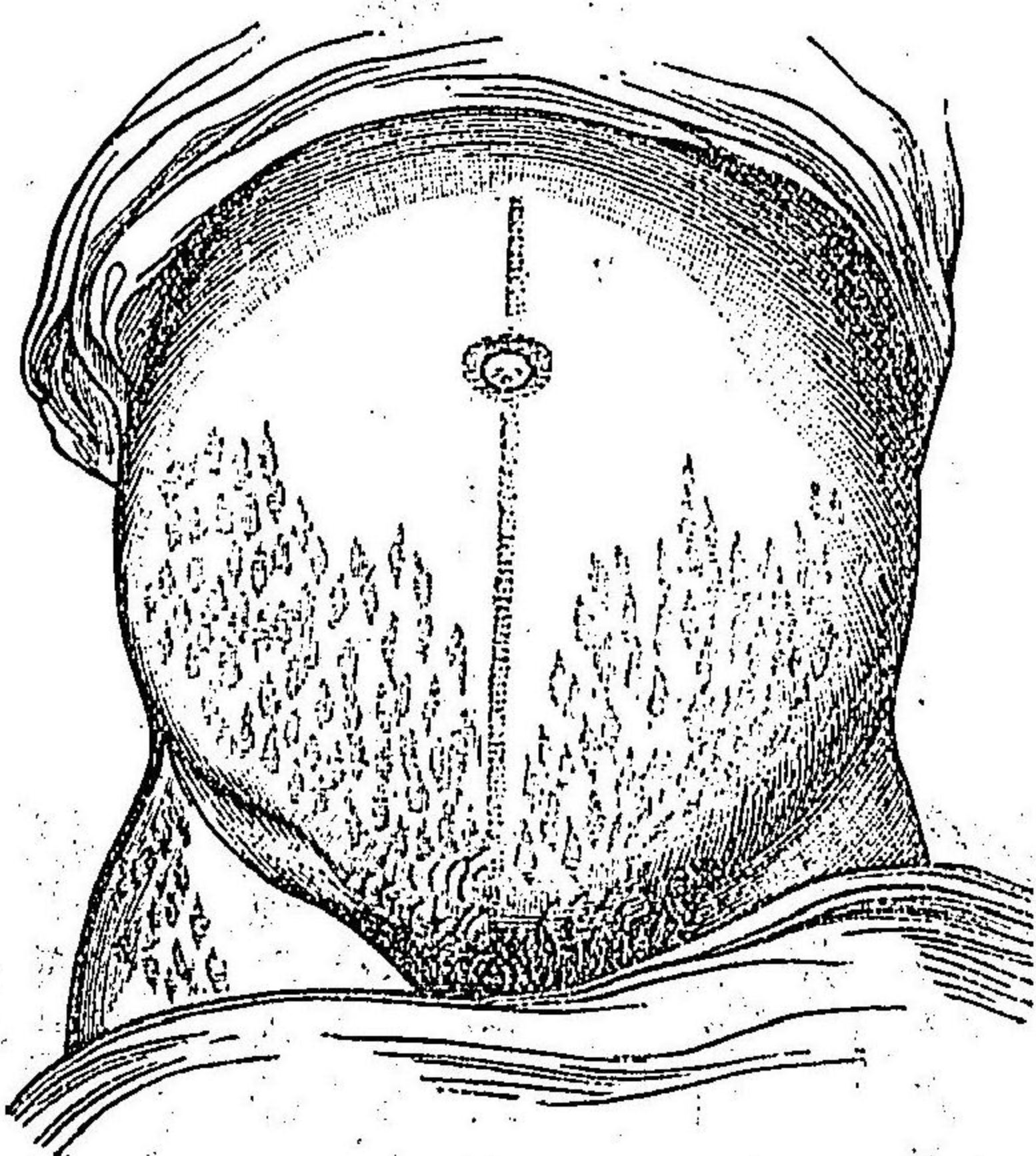
〔第一四四項〕**神経系** ニ於テ頭痛、齒痛、腰痛、關節痛ヲ發シ、時トシテハ卒倒スルコトアリ。其他精神變調シ、或ハ哀ミ、或ハ爽快ヲ感ズルモノアリ。

〔第一四五項〕**消化器系** ニハ惡心、嘔吐、早朝空腹時ノ嘔吐、便秘、食物嗜好ノ變換ヲ現ハシ、時トシテハ唾液ノ分泌甚ダシク増進シ、又ハ灰炭、白墨等ヲ嗜ミ食スルモノアリ。

〔第一四六項〕**皮膚** ハ色素ノ沈着ヲ生ジ、乳房、生殖器、白條ノ部位ニ褐色ヲ現ハシ、顔面

第五十三圖

妊婦ノ線圖



線條ヲ呈ス、之ヲ妊娠線ト云フ。妊娠線ハ分娩後、白色ニ變ジ、永ク遺殘スルモノナリ。其他、青年ノ婦女ハ強度ナル脂肪ノ發育ニヨリ、臀部、大腿等ニ、妊

色ヲ現ハシ、顔面ニ於テハ、眼圍、鼻背等ニ之レヲ生ズ。又、腹部ノ膨大、乳房ノ腫脹ニヨリテ、其部ノ皮膚緊張シ、爲メニ、乳房、腹壁ノ前面等ニ於テ、皮膚ノ質中ニ裂線ヲ生ジ、皮面ニ帶赤色ノ

娠線ト同一ノ線條ヲ現ハスモノナリ。

第一四七項「血行器」ニ於テハ多クハ心臟ノ機能變常シ、血液ノ頭部胸部等ニ幅濼スルニヨリテ、眩暈、血胸、内苦悶、心悸、亢進等ヲ致ス。

第一四八項「全身ノ血液」ハ子宮ノ増大ニ伴フテ、血管領ノ増加スルニ從ヒ、其全量ヲ増スト雖ドモ、胎兒ノ營養ノ爲メニ、其成分ヲ消費スル所アルガ故ニ、赤血球、蛋白質等ハ減却シ、水分ハ増量シ、以テ貧血稀血ノ狀ヲ呈スルヲ多シトス、又、血管領廣大トナリ、且ツ腹内壓ノ増加スルガ爲メニ、心臟ハ大ニ機能ヲ催進セラレ、ニ至ル。是レ各部ニ血液ノ幅濼ヲ來ス所以ナリ。

第一四九項「全體ノ形狀」ハ腹部ノ強ク前方ニ突出スルガ爲メニ、上體ヲ後方ニ反張セシム。

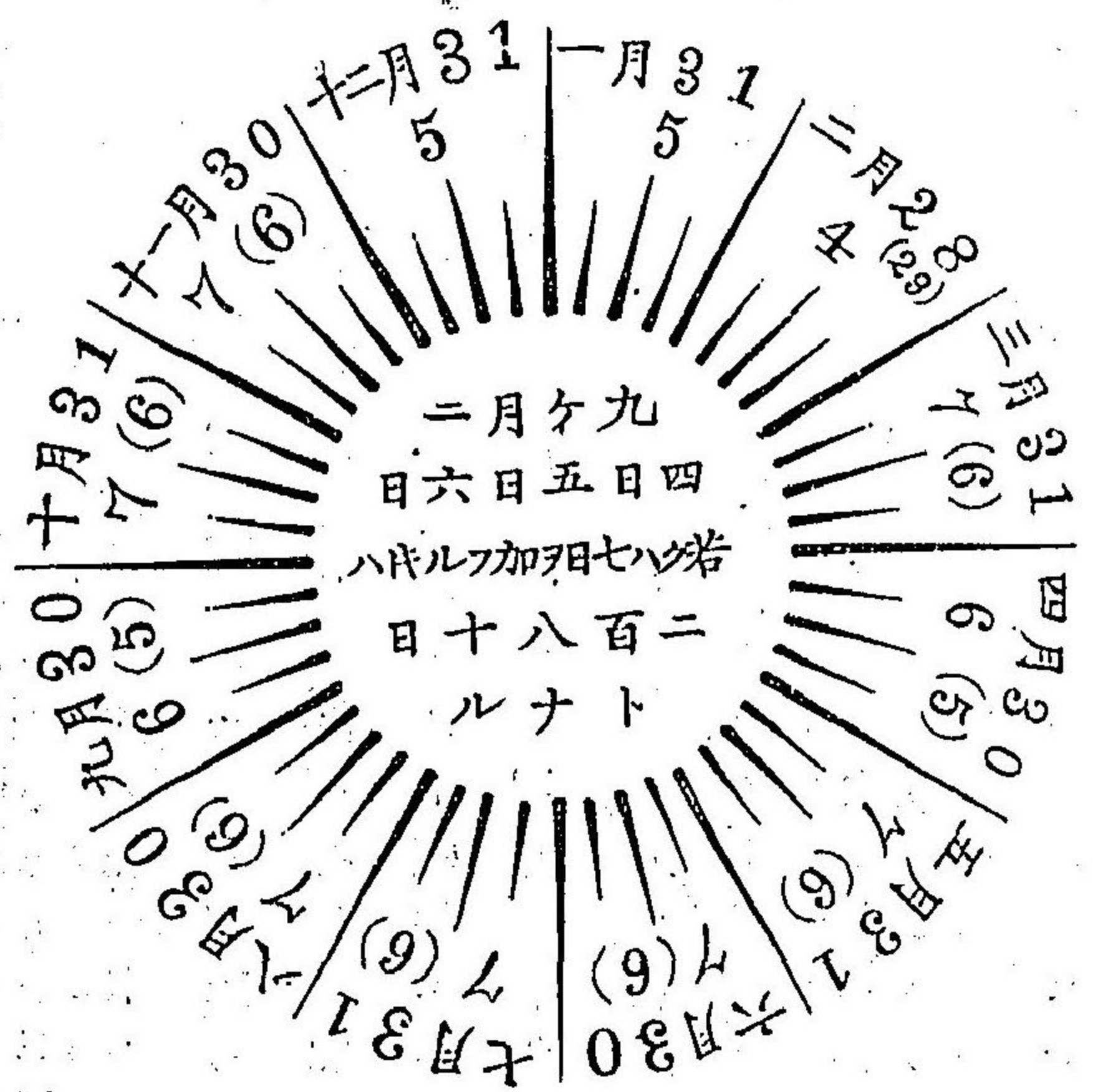
第一五〇項「臍窩」ハ漸次ニ淺クナリ、妊娠ノ末期ニ至レバ、多クハ胞狀ヲナシテ突出スルニ至ル。

第三十章 妊娠ノ持續即チ分娩時算定法

第一五一項「概略ノ算定」 妊娠ノ發起ハ、終末月經ノ第一日ヨリ算ス可キモノニシテ、其持續ハ平均二百八十日(短キハ二百四十日、長キハ三百二十日)ヲ常トス。故ニ、分娩ノ期日ヲ概算スルニハ、終末月經ノ第一日ヨリ三ヶ月ヲ減ジ、之レニ七日ヲ加フルヲ法トス。今、十二月ノ一日ニ終末月經ヲ見タリトスレバ、之レヨリ三ヶ月ヲ減ジ、九月一日ヲ得、更ニ七日ヲ加フレバ、九月八日トナル、即チ翌年ノ九月八日ニ分娩スルモノト概知ス可シ。

第一五二項「稍精密ナル算定」 上法ノ如クスルモ、月ノ大小等ニヨリ精密ニ第二百八十日ヲ知り難キヲ以テ、第五十四圖「分娩日測算」ニヨリ、之レヲ算定スルモ亦可ナリ。即チ、此圖ニヨリ、分娩日ヲ算出セントセバ、終末月經ノ月ヨリ左方ニ三ヶ月ヲ算ヘ、各月ノ下ニ記セル數字ヲ、月經日ニ加フ可キモノトス。括弧内ニ記セルモノハ、閏年ニ用ユルモノナリ。今、十二月一日ヲ終末月經ノ第一日トスレバ、左方ニ三ヶ月ヲ

第五十四圖 分娩日算曆ノ圖



「第一五三項」受胎セル日ヨリ分娩ニ至ル日數ハ概シテ、二百七十二日乃至二百七十五日ナリトスルガ故ニ、其受胎ノ期日ヲ知ルトキハ是レヨリ分娩日ヲ算出スルヲ得ベシ。但シ此日數モ亦固ヨ

算ハ九月ヲ得
其一日ニ六日
ヲ加ヘ、九月七
日トナル。閏年
ニ在リテハ九
月六日ナリ即
チ終末月經ノ
第一日ヨリ二
百八十日ニ精
當スルモノナ

リ一定セルモノニアラズシテ、最モ短キハ二百三十六日、最モ長キハ三百三十四日ニ至ルノ差異アリト云フ。

「第一五四項」初メテ胎動ヲ發スルヨリ分娩ニ至ルノ時日

初メテ胎動ヲ發スルハ、凡ソ第二十週ニ在ルヲ以テ、妊婦ノ始メテ胎動ヲ感ゼシ日ニ、二十週ヲ加ヘテ分娩期日トナスノ法アリ。然レドモ、胎動ヲ感ズルハ確實ナラザルガ故ニ、此法ヲ實際ニ適用ス可ラズ。

「第一五五項」子宮底ノ下降セルヨリ分娩ニ至ルノ時日

分娩前四週日ヨリ、子宮底ハ漸次ニ下降ス可シト雖ドモ、此モ亦分娩日ノ測定法ニ應用シ得ベキモノニアラズ。

第卅一章 妊娠ノ徵候

「第一五六項」婦人妊娠スレバ、一定ノ徵候ヲ發スト雖ドモ、其徵候ニハ不確實ナルモノ、疑ハシキモノ、及ビ確實ナルモノ、三種アリ。

「二」不確實ナル徵候ハ第二十九章ニ説述セルガ如ク、神経系ニ發ス

ル變狀(頭痛精神ノ變調等)消化器系ノ變狀(惡心嘔吐便秘等)其他(血行器泌尿器等)ニ發スル變狀之レニ屬ス。

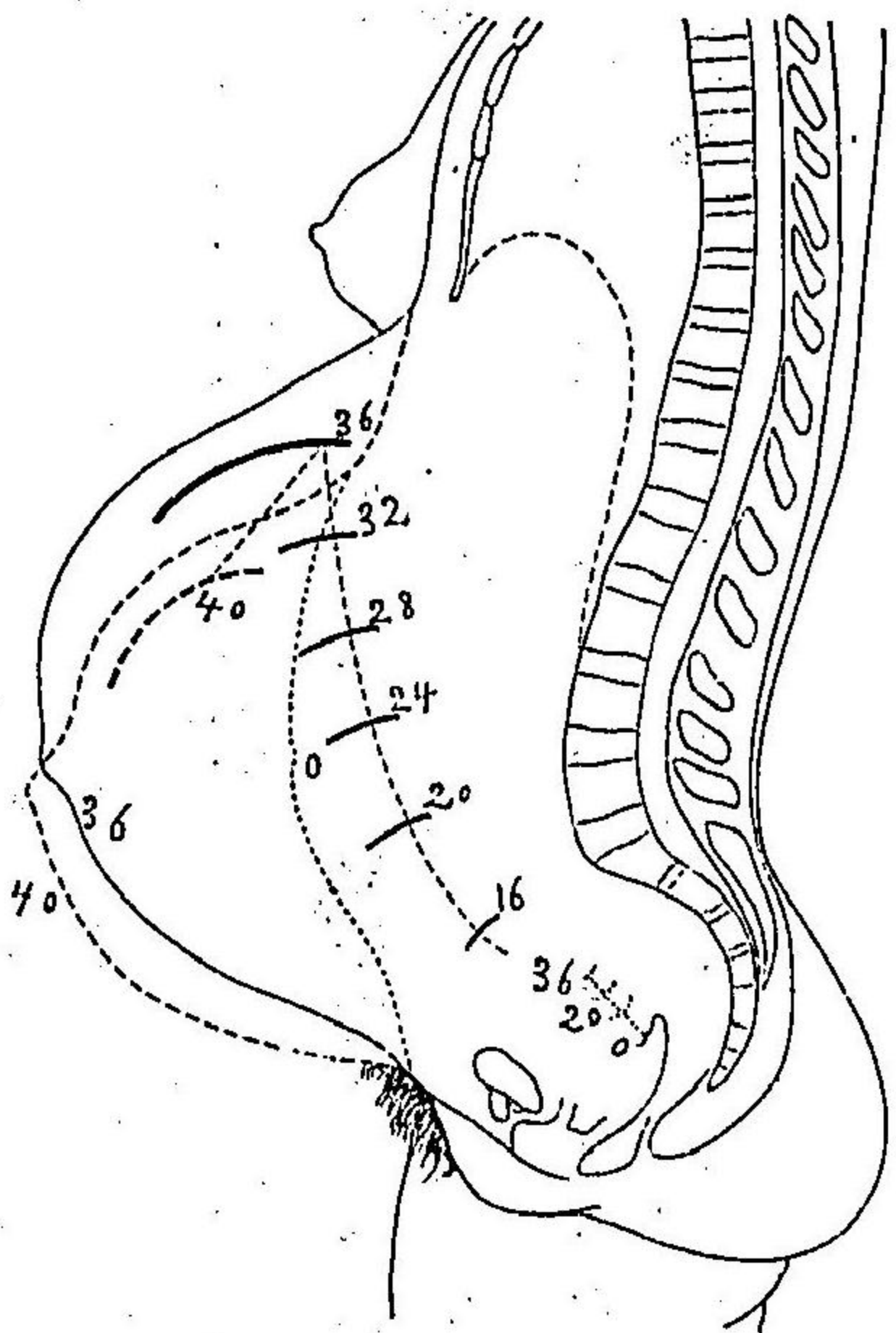
二疑ハシキ徴候 ハ生殖器ニ發スル變狀ニシテ甲)月經閉止乙)子宮増大シ圓形ニシテ柔軟トナルヲ丙)前庭腺壁子宮腔部等ニ帶青赤色ヲ現ハス丁)乳房ハ腫脹シ着色ヲ呈スルヲ是レナリ此等ノ徴候ハ妊娠ノ重要ナル徴候ニ屬スレドモ各妊娠之レヲ現ハスノ度ニ輕重アルト他ノ子宮諸病ニ於テモ亦之レヲ發スルコトアルガ故ニ此徴候ノミヲ以テハ未ダ極メテ確實ニ妊娠ナルコトヲ診斷シ得ザルモノトス。

三確實ナル徴候 ハ胎兒ニ屬スルモノニシテ甲)胎兒ノ心音及ビ臍帶雜音乙)胎動丙)甚ダ明カニ胎兒ノ體部ヲ觸知スルコト是レナリ此三ノ徴候ハ五ヶ月以後ニ至リ始メテ現ハルモノナルガ故ニ五ヶ月以前ニ在リテハ妊娠ノ極メテ確實ナル診斷ヲ下スコト能ハザルヲ通規トナス而シテ此等ノ諸徴ハ妊娠之レヲ自覺セルモノニアラズシテ外方ヨリ確カニ認知セルモノナラザル可カラズ否ラザレバ到底誤リヲ免ル可ラズ。

第卅二章 妊娠毎月ノ徴候

〔第一五七項〕妊婦自己ノ證言 妊婦ノ自ラ妊娠第何ヶ月ト稱スルハ往々正シカラサルヲアリ又時トシテハ自ラ求メテ虛言スルコトアリ故ニ之レヲ確ムル爲メニ検査ヲ施コスヲ緊要ナリトス初妊婦ノ妊娠

第五十五圖 各月各子宮位ノ圖



數字ハ各週ヲ顯ハス 骨盤内ニ於ケルリ乃 至36ハ子宮腔部ノ週ヲ透フテ上昇シ二十週若クハ三十六週ニ於ケル所在ヲ示シ腹腔内ノ10乃至36ハ子宮底ノ十六週若クハ三十六週ノ所在ヲ表ス點線ハ第四十週ノ位置ヲ示ス臍ノ内方0符ハ通常ノ臍部ヲ現ハス

各月ヲ鑑定ス可キ徴候ハ左ノ如シ。但シ内部ノ検査ヲ施コスニハ必ず嚴重ナル消毒法ヲ行フベキモノトナス(第三十五章参照)。

〔第一五八項〕妊娠第一月末 ニ於テハ、熟練ナル検査ニヨルトキハ、子宮體ノ稍柔軟トナルヲ見ルベシ。子宮ノ大サハ幾分カ増加ス可シト雖モ、月經時ノ腫大ト區別シ得ザルモノトス。腔ノ分泌ハ頗ル増多ス。

〔第一五九項〕妊娠第二月末 ニ至レバ子宮ハ漸次ニ柔軟トナリ、鵝卵大ニ至ル。子宮腔部ハ頗ル弛緩シ、柔軟トナリ。乳暈、白條ノ部位ニ着色ヲ始ム。

〔第一六〇項〕妊娠第三月末 ニ於テハ、精シク検査スレバ、屢々妊婦ノ下腹少シク凸出スルヲ認ム。子宮ハ兒頭大ニ達シ、殆ンド小骨盤内ヲ充タシ、腔ノ前穹窿部ヨリ容易ニ觸ル、トヲ得、双合検査法(第三十八章)ヲ施コスニ子宮體ハ柔軟トナリ、殆ンド餅ノ如キヲ知ルベシ。乳房ハ稍々充滿緊張ス。

〔第一六一項〕妊娠第四月末 ニ在リテハ子宮ハ全ク骨盤内ヲ充

タシ。子宮底ハ、耻骨縫際ノ直上ニ於テ球形ヲナシ、外検査ニヨリ容易ク觸ル、トヲ得ベシ。聴診ニヨリ、子宮血管ノ雜音ヲ認識シ、間々、胎動ノ雜音ヲ聴取シ得ベシ。

〔第一六二項〕妊娠第五月末 ニ於テ、子宮底ハ殆ンド臍ト恥骨縫際トノ中間以上精シク云ヘバ、臍下二指横徑ノ部ニ昇リ、妊婦ハ、此月末ヨリ胎動ヲ感ジ、外検査ニヨリ、胎兒ノ心臓音ヲ聴ク可シ。但シ、時トシテハ之レヲ聴取ヲ得ザルコトアリ。

〔第一六三項〕妊娠第六月末 ニ至レバ、子宮底ハ凡ソ臍ノ高サニ在リ。胎兒ノ體部ヲ觸知ス可シ。

〔第一六四項〕妊娠第七月末 ニ至レバ、子宮底ハ臍上三指横徑ノ部ニ昇リ、下腹ハ膨大シテ、妊娠線ヲ現ハス。

〔第一六五項〕妊娠第八月末 ニ於テハ、子宮底ハ臍ト劍狀突起ノ中間ニ達シ、臍窩ハ全ク平坦トナル。

〔第一六六項〕妊娠第九月末 ニ在リテハ、子宮底全ク胃窩ニ上リ、底

ノ中央部ハ、劍狀突起下ニ達シ、側部ハ全ク肋骨弓ニ接シ、全腹到ル所緊満ス。内診スルニ、經産婦ニ在リテハ、通例、子宮頸管内ニ指ヲ通ズ可ク、初妊婦ナルトキハ、子宮外口、開通スト雖ドモ、内口ハ尙ホ閉鎖ス可シ。

〔第一六七項〕妊娠第十月末ニハ子宮底ハ下降シテ終ニ第八ケ月末ノ位置ニ至リ、妊婦ハ呼吸輕易トナルヲ覺ユ。陰部ハ著シク弛緩ス。膀胱直腸ハ壓迫セラレ、ニヨリ、妊婦ハ二便頻數ノ感ヲ生ジ、又、子宮ノ收縮ヲ自覺ス可シ。但シ、子宮收縮ノ際ハ、子宮底、常ニ上昇スルモノトス。一、内診スルニ、初妊婦ニ在リテハ、子宮内口、尙ホ指ヲ通ゼザルカ多シトス。

〔第一六八項〕第八月末ト第十月末ノ區別 第十月末ト第八月末トハ、子宮底、同一ノ高サニ在レドモ、其區別ス可キモノハ次ノ如シ。但シ初妊婦ニ就キテ之レヲ云フ。

第八月末

- 一、胃部ノ腹壁頗ル緊満ス。
- 二、臍窩ハ平坦トナル。

第十月末

- 一、胃部ノ腹壁弛緩ス。
- 二、臍窩ハ突出ス。

- 三、兒頭ハ骨盤入口ノ上ニ運動ス。
- 四、子宮腔部ハ尙ホ一指節ノ長サヲ有ス。

- 三、兒頭ハ骨盤入口内ニ固定ス。
- 四、子宮腔部ハ楔狀ヲナシ僅カニ觸レ、若クハ觸レ能ハズ。

〔第一六九項〕經産婦其他ニ於ケル種々ノ異狀 以上、妊娠毎月ノ徴候ハ初妊婦ニ就キ説述シタル所ナレドモ、經産婦ニ在リテハ腹壁既ニ弛緩セルガ故ニ、子宮底ハ正シク上昇スルコトナク、主トシテ前方ニ挺出ス可シ。其甚ダシク前方ニ挺出スルモノハ、腹壁囊狀ヲナシテ下垂スルニ至ル。之レヲ懸垂腹ト云フ。又、兒頭モ分娩ニ至ルマデ全ク骨盤内ニ固定セズシテ、移動シ易キモノトス。其他、子宮腔部モ全ク消失スルコトナク、且ツ子宮外口ハ頗ル哆開ス可シ。○初妊婦ニ在リテモ、羊水多量ナルカ、胎兒大ナルカ、若クハ雙胎ナルトキハ、子宮底ハ過度ニ上昇シ、正規ニ從フモノニアラス。一、骨盤ノ狹窄アルトキハ、兒頭、骨盤内ニ進入シ能ハザルガ故ニ、第十月末ニ至ルモ、子宮底、下降スルコトナク、多ク懸垂腹ヲ生ズルモノトス。

第卅三章 妊婦ノ検査

〔第一七〇項〕検査ノ順序 妊婦ヲ診察スルニハ先ヅ次ノ順序ニヨリテ問診シ而シテ後チ検査ニ及ボス可キモノトス。

1. 姓名年齢及ビ職業。
2. 既往ノ疾病ノ有無。
3. 月經開始ノ年齢、月經ノ順不順及ビ其日數。
4. 既往ノ妊娠ノ有無。
5. 該回終末月經ノ期日。
6. 胎動ヲ感ゼルヤ否ヤ并ニ胎動初發ノ時期。
7. 妊娠末期ニ於テハ子宮底下降セルヤ否ヤ并ニ其下降シ初メタル期日。

〔第一七一項〕検査法ノ區別 妊婦ヲ診スルニ三ツノ検査法アリ、外検査法、内検査法、雙合検査法是レナリ之レヲ次章ニ詳説ス可シ。

第卅四章 外検査法

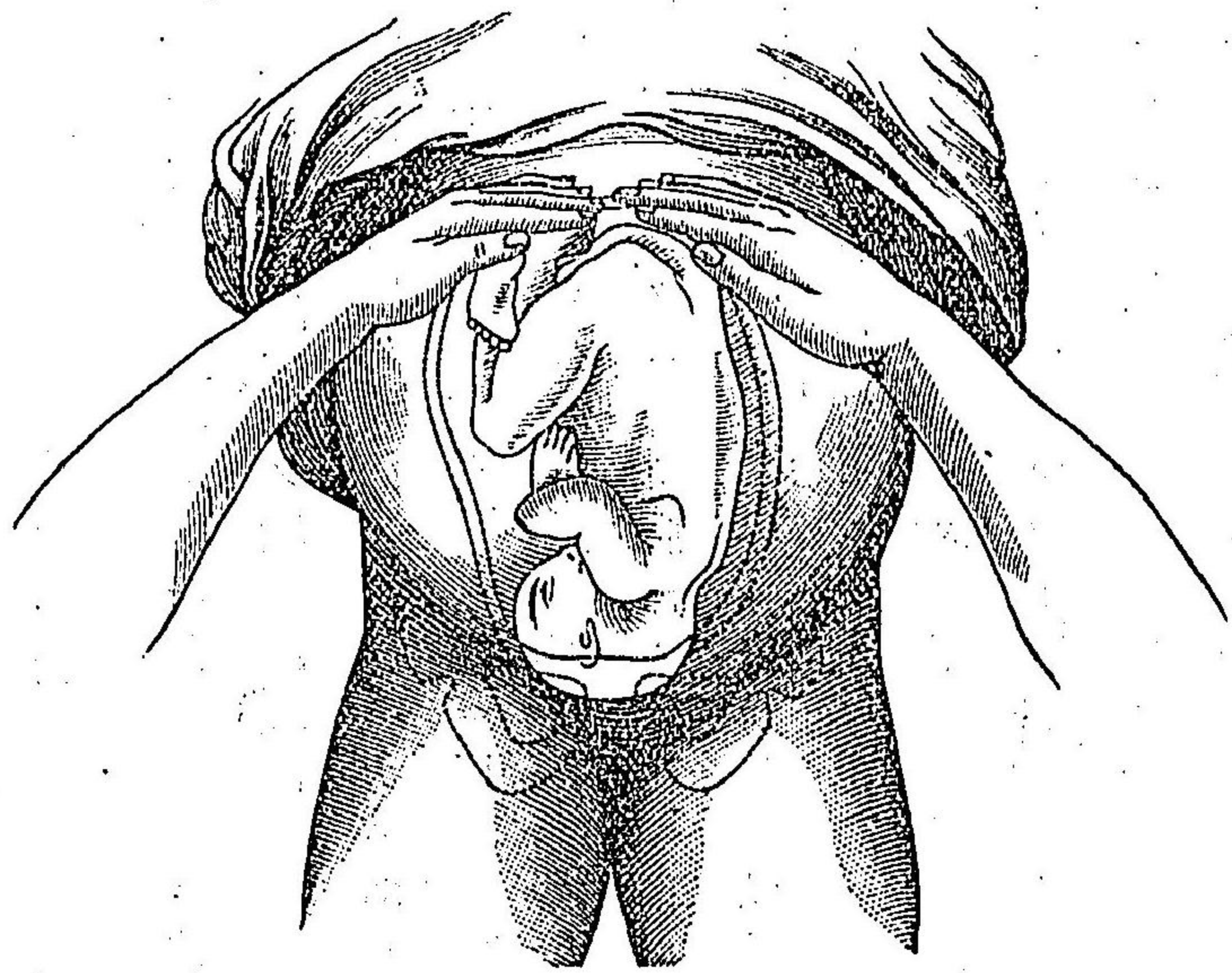
〔第一七二項〕外検査ノ區別 身體ノ外部ニ就キ検査スルヲ外検査法トナス之ヲ區別シテ甲一般ノ検査、乙腹部ノ検査、丙骨盤及ヒ足部ノ検査、丁腹部ノ聽診法、戊外陰部視診ノ五種トナス即チ次ノ如シ。

〔第一七三項〕甲一般ノ検査 既ニ問診ヲ終ラバ妊婦ノ體格、營養ノ良否、歩行ノ状態ヲ檢シ、次ニ乳房ノ形狀、乳頭ノ大小、乳腺ノ状態、皮膚ノ着色ヲ知ル可シ、此ノ如クニシテ腹部ノ検査ニ移ルモノトス。

〔第一七四項〕乙腹部ノ検査 妊婦ヲ仰臥セシメ其兩脚ヲ屈セシメ、衣服、腹帶等ハ全ク之ヲ緩解セシメ、先ヅ視診ニヨリテ腹部ノ形狀、大小、臍窩ノ状態ヲ知リ、次ニ豫メ温メタル兩手ヲ用ヒテ検査ス可シ、即チ檢者ハ妊婦ノ一側ニ坐シ、第一兩手掌ヲ上腹部ニ抵テ、子宮底ノ位置及ビ其内ニ存スル胎兒ノ體部ヲ檢シ、第一式第二式ニ子宮ノ側部ニ兩手ヲ移シ、兒背及ビ其小體部ヲ觸レ、第二式第三式ニ右若クハ左ノ一手ヲ以テ、恥骨上ニ位

第五十六圖

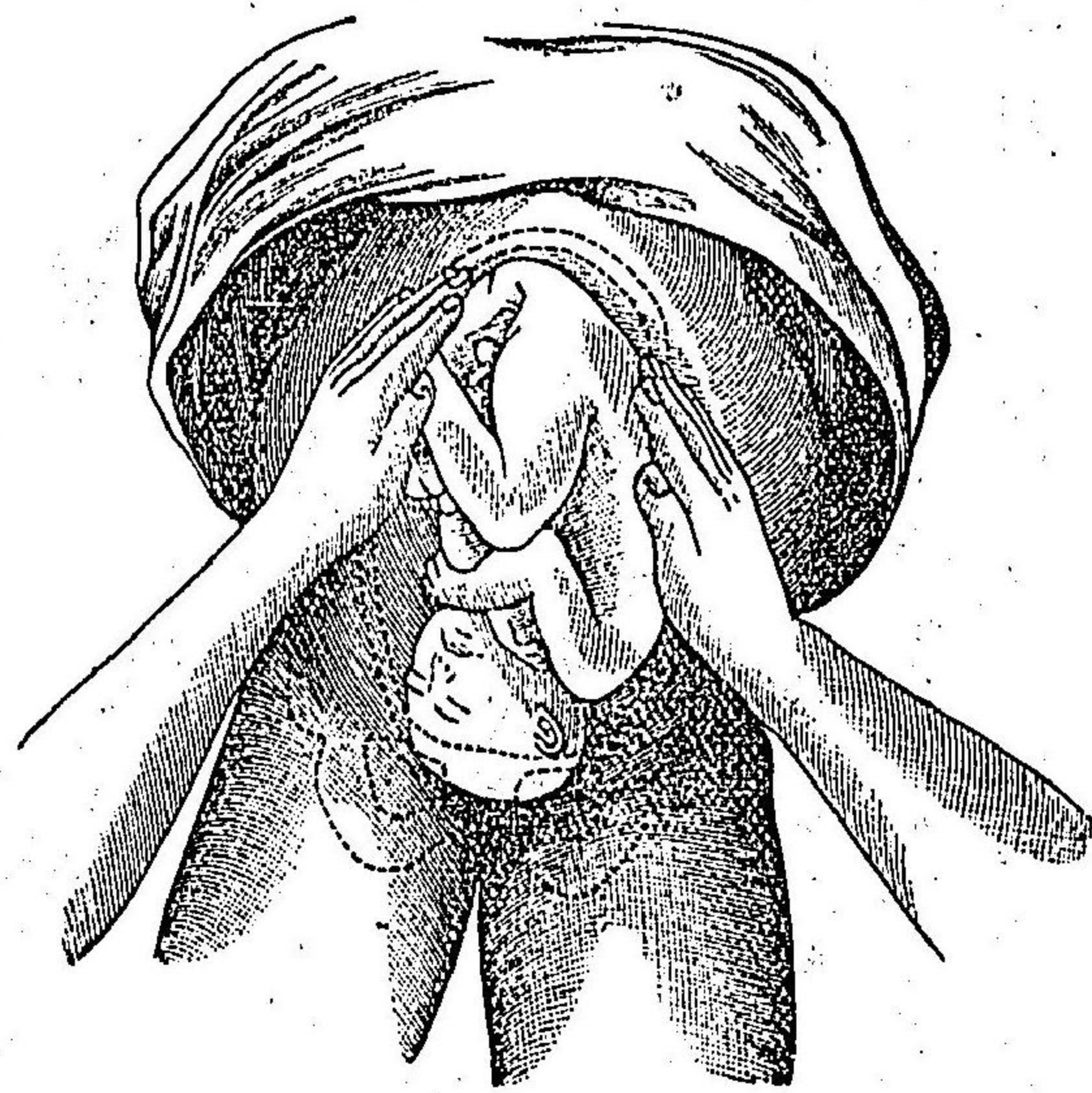
兩手ヲ上腹ニ抵テ子宮底ヲ診觸スルノ圖



セル體部ヲ把握スルガ如クニシテ觸知ス可シ。第三式第四ニ若シ下方ノ體部深ク骨盤内ニ進入セバ、檢者ハ座ヲ妊婦ノ頭部ノ方ニ移シ、兩手ヲ腹壁上ヨリ、深ク骨盤内ニ進メ、之レヲ檢知スルコトアリ。(第四式)此等ノ検査ニヨリテ、胎

第五十七圖

兩手ヲ子宮ノ兩側ニ抵テ診觸スルノ圖



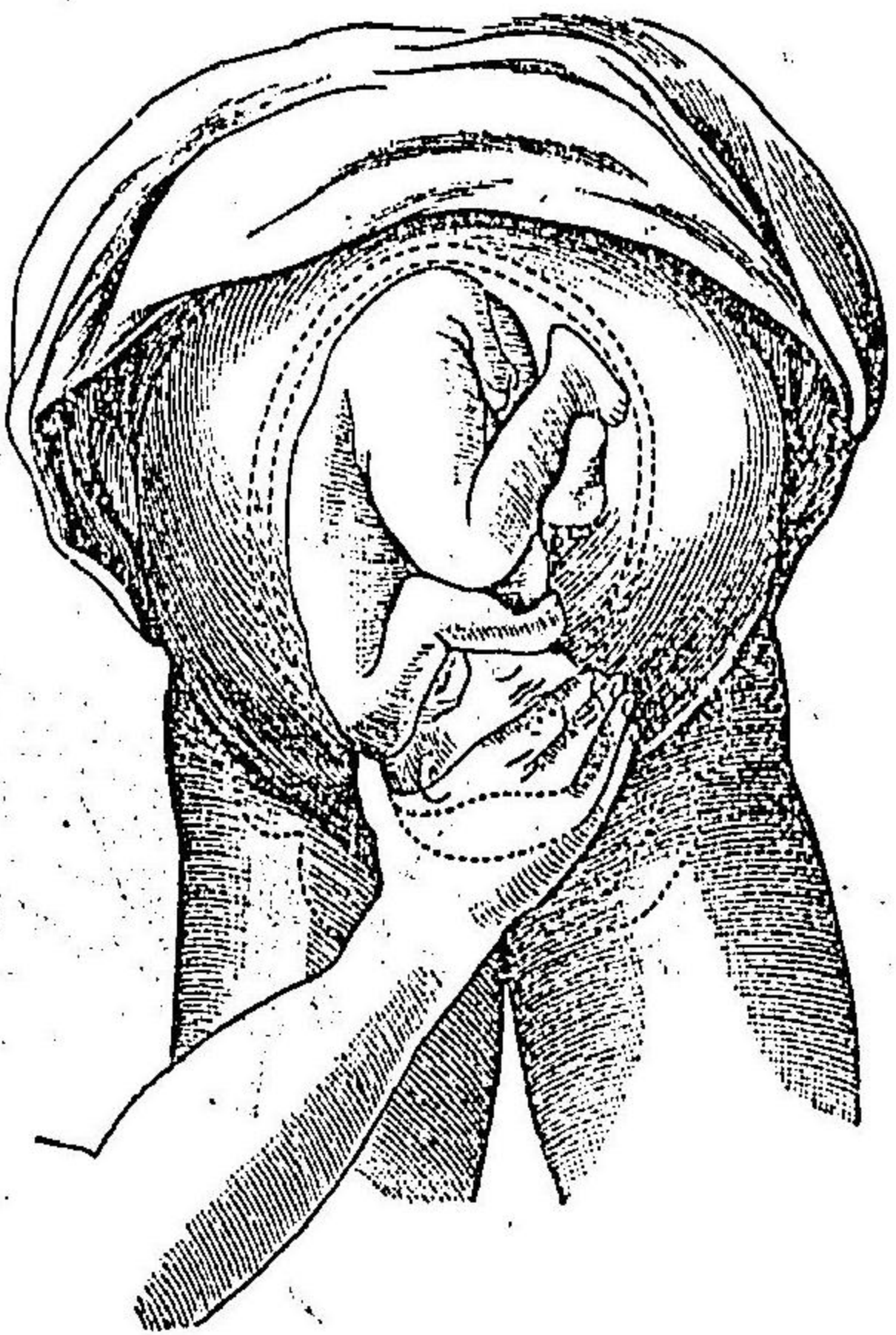
兒ノ胎位胎向、大小、移動性ヲ知ル可シ。但シ、肥滿セルニヨリ、腹壁甚ダ厚キカ、若クハ羊水多量ナルガ爲メニ、子宮壁ノ過度ニ緊張セルモノ、如キハ此検査法ニヨリテ、明カニ檢知シ難キトアリ。

「第一七五項」各體部觸診上ノ狀況

シ、且ツ頗ル固シ。一手或ハ兩手間ニ把持シ、之レヲ左右ニ振動セシムル

トキハ、兩側ノ手指ニ衝撞スルヲ感知ス可シ、臀部ナルトキハ、形狀不正
頗ル柔軟ニシテ、圓形ナラズ、振動セシムルモ、著シキ衝撞ノ感ヲ生ゼシ

第一五八圖
一手ヲ以テ把握スルガ如ク
兒頭ヲ觸診スルノ圖



面ヲ之レニ貼シテ、上下ニ推移シ試ムルトキハ、益々明カニ背面ノ狀ヲ
感知スルヲ得ベシ。四肢ハ、大小不正ナル突起狀ヲナシテ觸知セラル。
〔第一七六項〕丙骨盤外部及ビ足部ノ検査 腹部ノ検査ヲ終ラ
バ、骨盤外部ノ状態ヲ檢センコトヲ要ス、即チ左右ヨリ、兩手ヲ骨盤ノ後側ニ

ムルコトナシ。
兒背ニ在リ
テハ、手掌ヲ
貼シテ之レ
ヲ試ムルニ、
平圓ニシテ
長キ面ヲ觸
知ス可ク、掌

第五十九圖

兩手ヲ深ク骨盤内ニ進メ觸診スルノ圖



シ、兩腸骨前上棘ニ相達シ得ルコトナキヤヲ檢シ更ニ、兩足ニ就キ、浮腫、靜
脈瘤等ノ有無ヲ知り、終リニ背部ヲ檢シ、脊椎ノ彎曲ナキヤヲ視ル可シ。
〔第一七七項〕丁腹部ノ聽診法 腹部ヲ聽診スルニハ、觸診ニヨリ

送り、後チ之
レヲ腸骨櫛
ニ移シ、以テ
薦骨ノ後方
ニ突出セル
程度及ビ腸
骨櫛ノ彎曲
ノ狀ヲ檢知
シ、次ニ一手
ノ拇指ト小
指トヲ伸張

テ検査セルノ後テ前ノ如ク仰臥ノ位置ニアラシメ、聴診器ヲ腹上ニ貼シテ之レヲ行フ可シ。若シ聴診器ヲ所持セザルトキハ、一葉ノ布片ヲ腹上ニ置キ直チニ耳ヲ貼シテ聴診スルヲ要ス。而シテ聴診ニヨリテ聴キ得ベキ音ハ、胎兒ニ屬スルモノト、母體ニ屬スルモノトアリ。即チ次ノ如シ。

〔第一〕胎兒ニ屬スルモノ。

1. 胎兒ノ心臓音

2. 胎動ノ雑音

3. 臍帶ノ雑音

〔第二〕母體ニ屬スルモノ。

1. 子宮血管ノ雑音

2. 腸内瓦斯ノ雑音

3. 腹部大血管ノ雑音

胎兒ノ心臓音 ハ兒背ノ子宮壁ニ接シタル部ニ於テ、最モ明瞭ニ聴取スベシ。其數、大凡ソ百四十搏ニシテ、男兒ハ女兒ヨリ少ナキヲ常トス。第

二百〇三項参照

胎動ノ雑音 ハ指ヲ以テ物ヲ摩ルカ、若クハ撞クガ如キ音ニシテ、主ニ兒足ト子宮壁ト相摩擦スルニヨリテ發スルモノナリ。胎動ハ著シキニ至レバ、直チニ手ヲ以テ觸知シ得ルモノトス。
臍帶ノ雑音 ハ臍帶ニ壓迫若クハ締結アルノ際ニ發スルモノニシテ、吹クガ如キ雑音ナリ。只稀レニハ聴クコトアルノミ。其數ハ、胎兒ノ心臓音ト同數ナリ。

子宮血管ノ雑音 ハ妊娠ニヨリ増大セル血管中ニ血液ノ流動スルガ故ニ發スルモノニシテ、通常ハ下腹ノ兩側ニ存シ、其音大ニシテ往々心臟音ヲ掩蔽スルコトアリ。其數ハ母體ノ脈搏ト同一ナリ。
腸内瓦斯ノ雑音 ハ瓦斯ノ腸内ニ運動スルガ爲メニ生ジ、轟々トシテ雷鳴ノ如ク不規則ナルモノトス。

腹部大血管ノ雑音 ハ敲クガ如キ音ニシテ、母體ノ脈搏ト一致ス。
〔第一七八項〕戊外陰部ノ視診 モ亦タ緊要ナルガ故ニ、内検査ノ

前又ハ同時ニ之レヲ行フ可シ。外陰部ニ糜爛、新生物等アルカ、或ハ多量ノ分泌等アルトキハ、醫師ノ診察ヲ請ハシムルヲ要ス。

第卅五章 消毒法

〔第一七九項〕消毒法 ハ産婆術中ニ於テ極メテ緊要ノ事項ニ屬シ、内檢査并ニ一般分娩處置ノ際、精密ニ之レヲ行フ可キモノニシテ、若シ或ハ之レヲ忽ニスルトキハ、爲メニ産婦又ハ產婦ノ生命ヲ損スルコトアルガ故ニ、産婆ハ最モ此消毒法ヲ完全ナラシメザル可カラズ。而シテ完全ノ消毒法ヲ行ハント欲セバ、又其理ニ明カナラザルヲ得ザルニヨリ、次ニ其大要ヲ記ス可シ。

〔第一八〇項〕消毒ト防腐 消毒トハ或ル部ニ存スル病毒ヲ消滅セシムルノ意ナリ、又防腐ト稱スルコトアリ。腐敗ヲ防止スト云フノ意義ヲ有ス。必竟此二種ノ名稱ハ同一ノ事項ヲ二様ニ名ケタルニ過ギズ。何トナレバ、人體ニ於テ腐敗ヲ防止スト云フモ、病毒ヲ消滅セシムト唱フルモ、其

ニ同一事ニ過ギザルニヨル。

〔第一八一項〕腐敗 トハ、微菌ノ附着シ繁殖スルニヨリ生ズルモノナリ。然レモ、人體又ハ動物體ノ如キ生活物ニ生ズル場合ハ、通例、腐敗ト云ハズシテ、炎症、若クハ化膿ト稱ス。彼ノ肺炎、肋膜炎、膿瘍、潰瘍等ト稱スルモノハ、皆ナ、微菌ノ附着シ繁殖スルニヨリ發スルモノニシテ、其理ハ、概シテ腐敗ト異ナルコトナシ。微菌ノ中腐敗微菌、病的微菌等ノ細別アレドモ、茲ニハ、唯、概畧ヲ記スノミ。

〔第一八二項〕微菌 トハ食物ノ上、又ハ衣服ノ濕氣ヲ含メル際等ニ生ズル微菌ノ類ヲ總稱セルモノニシテ、菌類ノ類ニ屬スルモノナリ。而シテ、一般ニ微菌ト呼ブモノハ、通例、其體極メテ小サク、顯微鏡ヲ以テ數百倍ノ大サニ照シ見ルトキハ、大凡ソ粟粒ノ大サトナリ現ハル、モノナリ。此物ハ、人體ノ表面ヲ始メ、家屋、器具、其他總テノ物體ノ表面又ハ内部ニ附着シ、並ニ空氣、塵埃ノ中ニ存ス。微菌若シ適度ノ溫度ト營養物トヲ得ルトキハ、其數僅カニ一個ト雖ドモ、盛ンニ繁殖シ、暫時ニシテ、幾百

萬ノ多キニ達スベシ。例令バ、血液、肉類等ヲ取り、幾何時ノ間、之レヲ放置スルトキハ、微菌好シテ、茲ニ繁殖スルガ故ニ、其物質ノ變化即チ腐敗ヲ生ゼシメ、恐クハ、劇毒アル物質ヲ醸生スルニ至ルモノナリ。

〔第一八三項〕**身體ノ表面ニアル微菌ノ害ヲ致サザル理由** 手、其他、身體ノ表面ニハ、固ヨリ多數ノ微菌附着シ存スト雖ドモ、繁殖シテ腐敗作用ヲ生セザル所以ノモノハ、身體ノ表面ニハ表皮アリテ、善ク之レヲ被覆保護シ、微菌ヲシテ、直チニ、肉質ニ接セシムルコトナキニヨル。

〔第一八四項〕**若シ表皮ニ損傷ヲ生シ、微菌、肉質中ニ入ルトキハ** 茲ニ繁殖ス可シ。然レドモ、此間、注意ス可キハ、微菌一タビ繁殖スルモ、其毒力ナキカ、又ハ、組織ノ抵抗力甚ダ強キトキハ、微菌盛ニ繁殖スルコト能ハズ、却テ消失ニ歸シ、皮膚ノ損傷モ亦自ラ治癒スルニ至ル。是レニ反シ、微菌ノ毒力強ク、且ツ、組織ノ抵抗力弱キトキハ、微菌盛ニ繁殖シ、遂ニハ人體ノ生命ヲモ害スルニ至ルモノナリ。此ノ如ク、微

菌、身體中ニ襲來シ、障害ヲ呈スルモノヲ傳染ト稱ス。

〔第一八五項〕**産婦ニ防腐法(消毒法)ノ緊要ナル理由** 上記ノ傳染ヲ防止シ、産婦ヲシテ、産熱ノ危険ヲ免レシムルハ、即チ防腐法ノ要目ナリ。蓋シ産婦ナルモノハ、生殖器内ニ數多ノ損傷アリテ、組織ハ、充血弛緩シ、善ク微菌ノ侵入ニ適シ、且ツ、惡露ハ大ニ微菌ノ繁殖ニ良好ナルニヨリ、微菌ニ對シ、甚ダシキ危険ヲ有スルモノナリ。此故ニ産婆ハ必ず、自己ノ手及ビ検査ヲ受クル婦人ノ陰部ニ、嚴格ナル清潔法即チ消毒法ヲ施コシ、微菌ヲ消滅セシメザル可カラズ。産婆若シ消毒法ヲ忽セニシテ、妊婦若クハ産婦等ニ傳染疾患ヲ起サシムルトキハ、決シテ、其責ヲ免ル可カラザルモノトス。

第卅六章 内検査法

〔第一八六項〕**内検査ノ順序及ビ方法ノ要領** 内検査ヲ施コサンニハ、第一、検査者ハ、手指ノ爪ヲ剪リ、爪鑑子ヲ用キテ、其端ヲ圓滑ニシ、且

ツ爪垢ヲ去リ第二洗滌消毒用ノ藥液ヲ作り之レヲ消毒盤并ニイルリガ
 一トルニ容レ且ツ洗滌用ノ温湯ヲ造リ第三被檢者即チ妊婦若クハ産婦
 ニハ適當ノ臥位ヲ與ヘテ洗滌消毒ノ準備ヲナシ第四温湯石鹼刷毛ヲ用
 キ充分ニ檢者ノ手ヲ消毒シ第五先ツ温湯石鹼ヲ用キ次デイルリガ一ト
 ルニ盛レル消毒液ヲ取り外陰部ト其周圍トヲ丁寧ニ洗滌消毒シ第六檢
 者ハ更ニ其手ヲ消毒シ示指若クハ示中二指ニ石炭酸油ヲ塗り之レヲ腔
 内ニ送入シ以テ諸般ノ狀況ヲ診定センコトヲ要ス次ニ其細目ニ就キ更ニ
 之レヲ詳説ス可シ。

〔第一〕指爪ノ處置 ニ就キテハ前文中既ニ其要ヲ盡セルガ故ニ更
 ニ之レヲ説クヲ要セザル可シ但シ産婆ハ居常注意シテ其爪ヲ剪リ且
 ツ清潔ナラシメ内検査ノ際ニハ遺漏アラバ之レヲ補修スルニ止マラ
 シメンコトヲ要ス事ニ臨ミ狼狽シテ處置スルガ如キハ大ニ誠シム可キ
 所トナス。

〔第二〕洗滌消毒用液 ハ石炭酸五十瓦ヲ取り一千五百瓦ノ温湯ニ

和シ三十倍石炭酸水ヲ造リ第八篇石炭酸水調製法參看其一千瓦ヲイ
 ルリガ一トルニ盛リ五百瓦ヲ消毒用盤ニ容ル可シ又別ニ二個ノ消毒
 用盤ヲ取り高橋氏産婆携帶器具ニハ三又ハ四個ノ消毒用盤ヲ藏ス
 各々凡ソ千瓦ノ温湯ヲ盛リ一ハ石鹼ヲ用キテ手ヲ洗滌スルニ供シ一
 ハ附着セル石鹼液ヲ洗去スルニ用ユ（三十倍ハ三三三%ナリ然レトモ便
 利ノ爲メニ通例之レチ三%ト稱フ）
 或ハ三十倍石炭酸水ニ代ヘテ百倍即チ一%リゾール溶液ヲ用ユルモ
 亦可ナリリゾールハ石炭酸ニ比シテ數箇ノ優レル所アリ一水ニ溶解
 シ易キ一三手指ヲ滑澤ナラシムル一三手指ヲ滑澤ナラシムルガ故ニ
 脂油ヲ塗布スルコトヲ要セザル一四石炭酸ニ比シテ毒性少ナキ一是ナリ。

〔第三〕被檢者 被檢者ニ仰臥ノ位置ヲ與ヘ膝ヲ屈シ且ツ之レヲ開
 カシメ腹部ヨリ以下ニハ清潔ナル廣キ布巾消毒セルモノヲ用ユレバ
 最モ可ナリヲ被ヒ薦骨部ノ下ニハ小ナル枕子ヲ送入シ臀下ニハ廣キ
 受水盤ヲ挿ムヲ要ス受水盤ノ後端ハ敷布ノ端ヲ翻シテ之レヲ押サヘ
 兩側ニ於テ被檢者ノ足ヲ以テ固定セシムルヲ良トス。

〔第四〕手ノ消毒

消毒盤ヲ備ヘ先ツ刷毛石鹼ヲ用キテ五分時間洗滌シ次ニ三分時間刷毛ヲ以テ石炭酸水中ニ洗滌消毒シ

〔第五〕陰部ノ洗滌消毒

檢者ハ右側ニ坐シ傍ラニ温湯ヲ容レタル消毒盤ヲ置キイルリガートルハ凡ソ二尺ノ高サニ懸ケ此ノ如クシテ刷毛石鹼ヲ取り先ツ温湯ヲ用キテ五分時間陰阜大腿ノ内面肛門ノ周圍ニ亘リテ外陰部ヲ丁寧ニ洗滌シ次デイルリガートルノ石炭酸水ヲ用キテ三分時間前記ノ部分ヲ洗滌消毒ス可シ但シ消毒ノ際大小陰唇腔口ノ状態ヲ視恥骨弓ノ廣狹坐骨結節間ノ距離ヲ檢知ス可シ

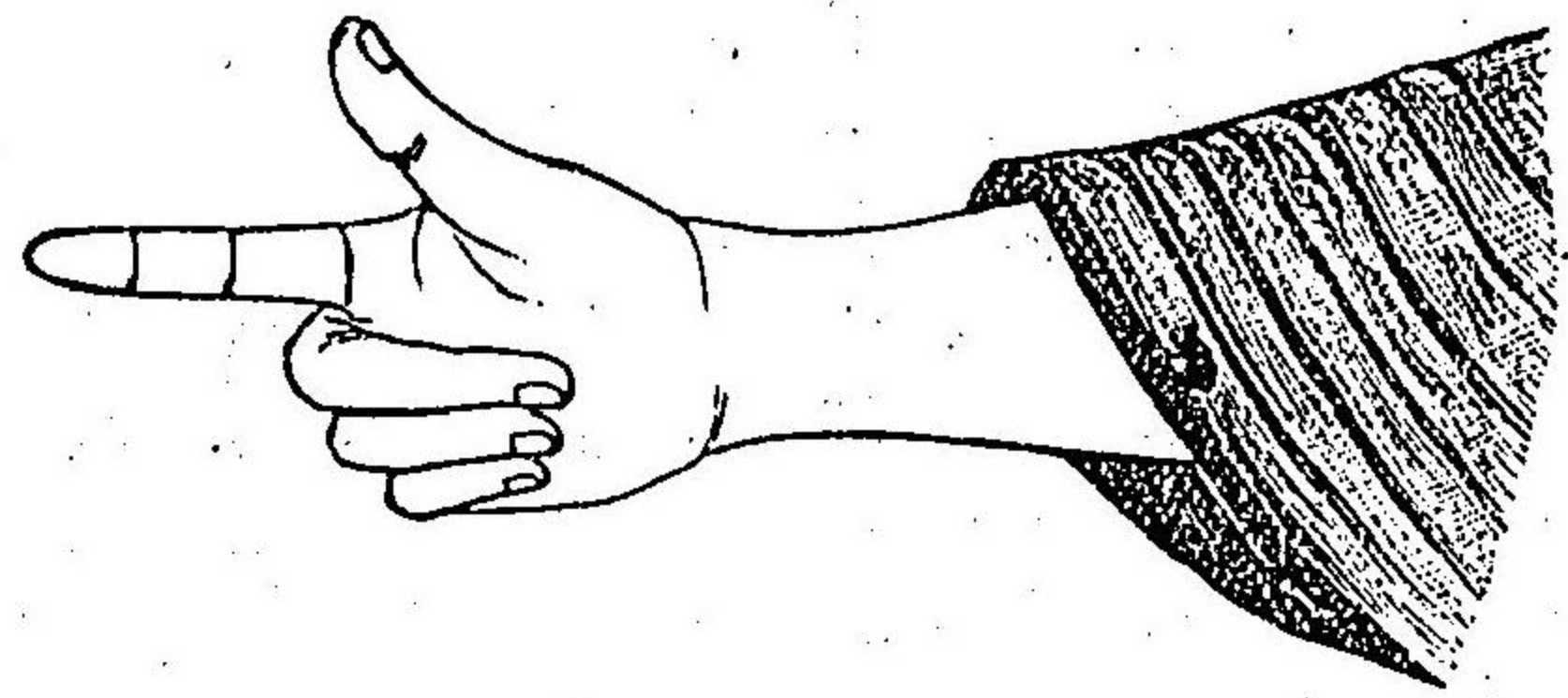
〔第六〕更ニ手ヲ石炭酸水中ニ洗ヒ

示指若クハ示中二指ヲ用キ二十倍石炭酸油ヲ塗り第一八八項ノ如ク内検査ヲ施ス可シ

〔第一八七項〕消毒ノ効充分ナル石炭酸水

ナルハ五%及ビ三%石炭酸水二十倍及ビ約三十倍石炭酸水ニシテ二%五十倍以下ノ溶液ハ其効頗ル不十分ナリトス此故ニ充分ノ消毒ヲ

第十六圖 内検査ノ手ノ方式ノ圖



望ムトキハ三%以上ノ液ヲ用キザル可カラズ而シテ若シ産褥熱實布の里等ノ傳染性患者又ハ膿汁等ニ觸レタルノ際消毒ヲ要スルトキハ必ズ五%ノ石炭酸水又一千倍昇汞水ヲ用ユ可シ唯濃厚ノ石炭酸水ハ皮膚殊ニ陰部ヲ刺激スルヲ強キガ故ニ通常ノ場合ニ於テハ稀薄ナル溶液ヲ用キザル可カラザルコト多シトス

〔第一八八項〕内検査ノ方式

既ニ消毒其他ノ準備ヲ終ラバ圖ノ如ク示指及ビ拇指ヲ伸ベ他ノ三指ヲ屈シ之レヲ陰部ニ進メ外陰部ハ豫メ之レヲ檢知ス示指ノ末端ヲ陰唇繫帶ニ抵テ腔ノ後壁ニ就キ骨盤誘導線ノ方向ニ從ヒ徐々ニ深部ニ送り而シテ先

(一)尿道ヲ前方ニ觸レ其疼痛ノ有無ヲ知リ次デ(二)前腔穹窿部ニ進ミ之ヲ隔テ胎兒ノ先進部ノ何レナルカ及ビ其位置ノ高低ヲ觸知シ更ニ(三)子宮腔部ヲ廻リテ其長短形状ヲ檢シ(四)腔部ノ頭端ノ中央ニ子宮口ヲ探リ其形状及ビ口縁ノ状態ヲ知ル可シ而シテ後テ指ノ掌面ヲ後方ニ向ケ(五)會陰ヲ内指ト外指(姆指)ノ間ニ挿ミ其硬軟ノ性(延張性)ヲ試ミ次ニ(六)腔後壁ニ就キテ先ヅ尾骶骨尖端ヲ觸レ薦骨尾骶骨關節ニ達シテハ其運動性ヲ檢シ更ニ薦骨内面ヲ上方ニ檢知ス可シ正規ノ廣サヲ有スル骨盤ニ在リテハ進ムト二三椎ニシテ既ニ之レヲ觸知スルコト能ハズ一全ク薦骨内面ヲ觸レ又ハ薦骨岬ニ達シ得ルモノハ骨盤ノ狭窄セルモノ即チ扁平骨盤ナリ終リニ(七)腔ノ全壁ヲ觸レ腔ノ廣狹壁質ノ硬軟延張性ヲ檢知シ耻骨弓ノ廣狹ヲ詳カニセンコトヲ要ス

子宮口 ハ初産婦ナルトキハ圓形經産婦ナルトキハ横裂ヲナシ且ツ乙ニ在リテハ未ダ分娩期ニ達セザルモノ子宮口哆開シ指ヲ送入シ得ルヲ常トス而シテ子宮口縁ノ状態ハ軟カナルアリ硬キアリ薄キアリ厚キアリ

リ分娩ノ際ニ於テハ子宮口漸次ニ開大シ卵膜膨出シテ胎胞ヲナシ遂ニ子宮口ハ全ク開大シ口縁消失ニ歸スルニ至ル其詳細ニ至リテハ正規分娩篇中ニ詳述ス可キモノトス

第卅七章 内検査ノ際注意ス可キ事項

(便宜ニヨリ分娩時ニ於ケル

モノモ亦茲ニ之ヲ説ク)

第一八九項 内検査前ノ入浴 檢者并ニ被檢者ハ豫メ全身浴ヲナスヲ可トス而シテ浴後ハ成丈ケ新クニ洗濯セル衣服ヲ着用ス可シ一殊ニ檢者ハ成ル丈ケ看護服ヲ撰用スルヲ良トス

第一九〇項 消毒セル手指ハ他物ニ觸ル可ラズ 規則ニ從ヒ手指ノ消毒ヲナセバ其手ノ位置ニ注意シ決シテ衣服其他ノ外物ニ觸接セザルコトヲ要ス若シ誤リテ他物ニ觸ルコトアラバ再ビ規則ニ從ヒ消毒セザル可カラズ

第一九一項「内診時、手指ノ注意」

内診ノ際ハ規則ニ從フテ其爪ヲ處置シ若シ其指ニ損傷、疣贅、炎症、潰瘍等アラバ内診ヲ禁ジ指環ヲ挿用セハ必ズ之レヲ除去センコトヲ要ス。

平時ニ在リテモ産婆ハ注意シテ手指ノ損傷ヲ受クル事物ヲ避ケ手指ヲシテ粗糲ナラシメザランガ爲メニ劇度ナル手指ノ使用ヲ禁ジ又汚穢ナル物品ニハ妄リニ手指ヲ觸レシムルコトナク若シ之レニ觸ルノ際ハ必ズ其手指ヲ消毒セザル可ラズ。

第一九二項「内診ハ決シテ濫ニ行フ可ラズ」

一タビ綿密注意ヲ以テ内診ヲ行ハバ善ク其檢知セル所ヲ記憶シ漫リニ内診ヲ反復セザランコトヲ要ス内診ノ度多數ナルトキハ從テ傳染ノ危険多キヲ免レザルモノトス。

第一九三項「産褥婦ノ内診」

分娩後ナル時ハ第九日ニ至ルマデハ内診ヲ禁ジ第九日ニ至リ一タビ内診ヲ行ヒ異常ノ有無ヲ檢知ス可シ此間若シ疾病異常ノ存スルコトアラバ産婆ハ内診ヲ試ムルコトナク

速カニ之レヲ醫治ニ託センコトヲ要ス。

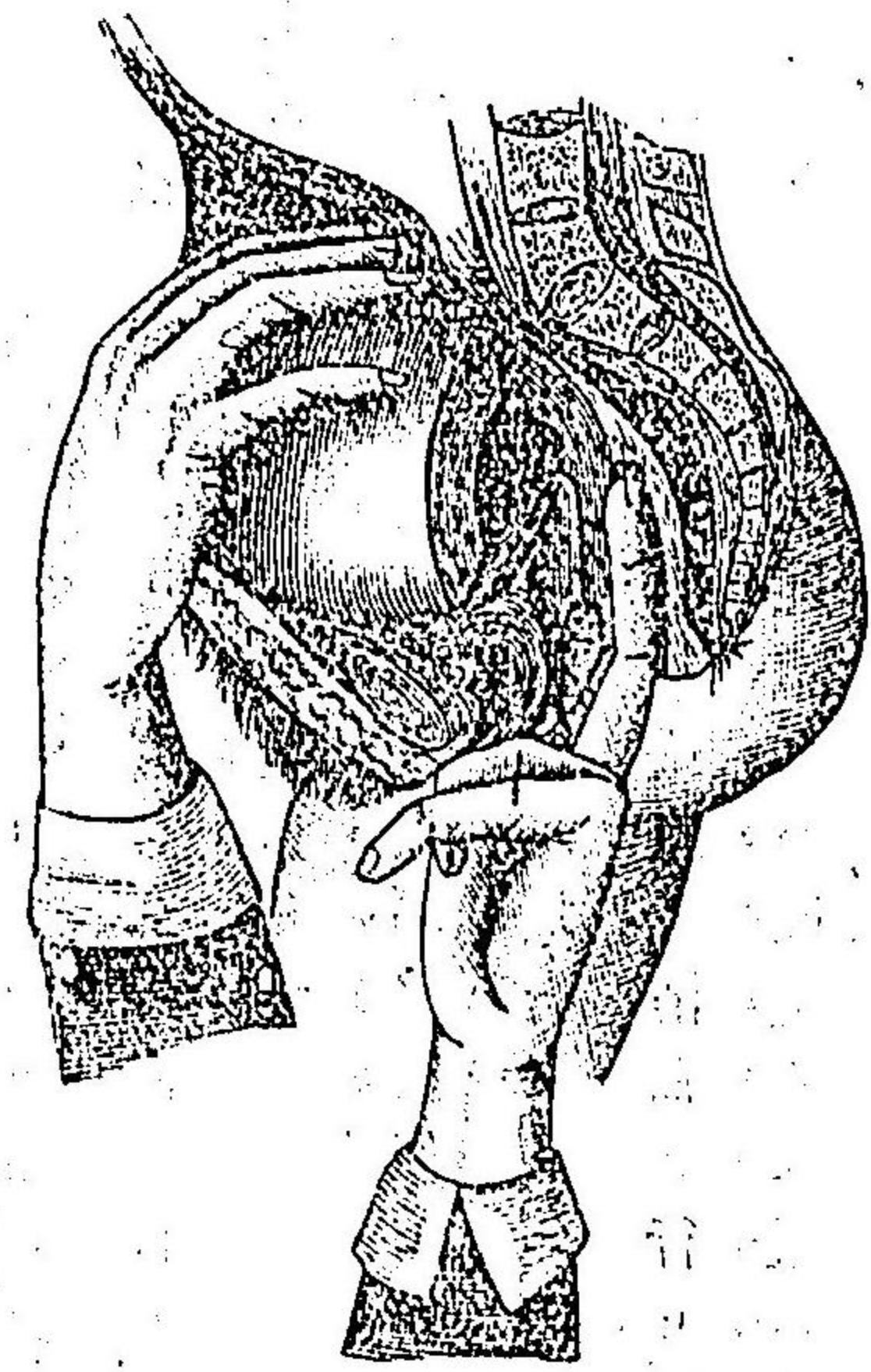
第一九四項「内診ノ際、注意ヲ要シ、若クハ、内診ヲ禁忌ス可キ場合」

一産婆若シ産褥熱、子宮炎、丹毒、實布の里等、細菌ノ傳染ニヨリテ發ス可キ病家ニ到リシコトアラバ、妊婦又ハ産婦ノ内検査ヲ行フノ前ニハ衣服ヲ交換シ可成丈ク全身浴ヲ行ヒ其手ハ成規ノ方則ニ從ヒ、嚴ニ消毒法ヲ行ハントコトヲ要ス。
二産褥熱、子宮炎、腹膜炎ノ如キ患者ヲ處置セルモノハ其間、全ク内検査及ビ外検査ヲ禁ジ止ムヲ得ザル場合ノミニ限り、必ズ先ヅ全身浴ヲ取り、新鮮ノ衣服ヲ着シ其手ハ嚴重ノ消毒ヲ行ヒ、然ル後チニ検査ニ從事ス可キモノトス。○凡テ屍體又ハ屍體ノ衣服ニ接觸スルモノモ亦之レニ準ス可キモノトス。
三産婆ノ家宅ニ産褥熱、子宮炎、丹毒、實布の里ノ如キ傳染性ノ疾患ヲ發セバ、全ク妊婦又ハ産婦ニ接スルヲ禁ジ其患者ヲ離ル、ノ後チ、凡ソ一週間ヲ經過スルニ至ル可シ。

第三十八章 双合検査法

「第一九五項」双合検査法

ハ内検査法ニ述ブルガ如ク、手指ヲ脛



子宮下部ノ切制ヲセラルタル示ス

形状及ビ移動性等ヲ明瞭ニ檢知スルヲ得ベシ。妊娠ノ初期ニ於テハ、只此双合検査法ニヨリテノミ、子宮ノ状態ヲ檢知シ

内ニ送リ、同時ニ、他手ヲ腹上ニ貼シ、子宮又ハ胎兒ノ體部ヲ下方ニ壓シ、内手ヲ上方ニ容易ニ觸診セシムルノ法ナリ。此法ニヨリ、子宮ノ硬軟、胎兒體部ノ

第六十圖 双合検査ノ法

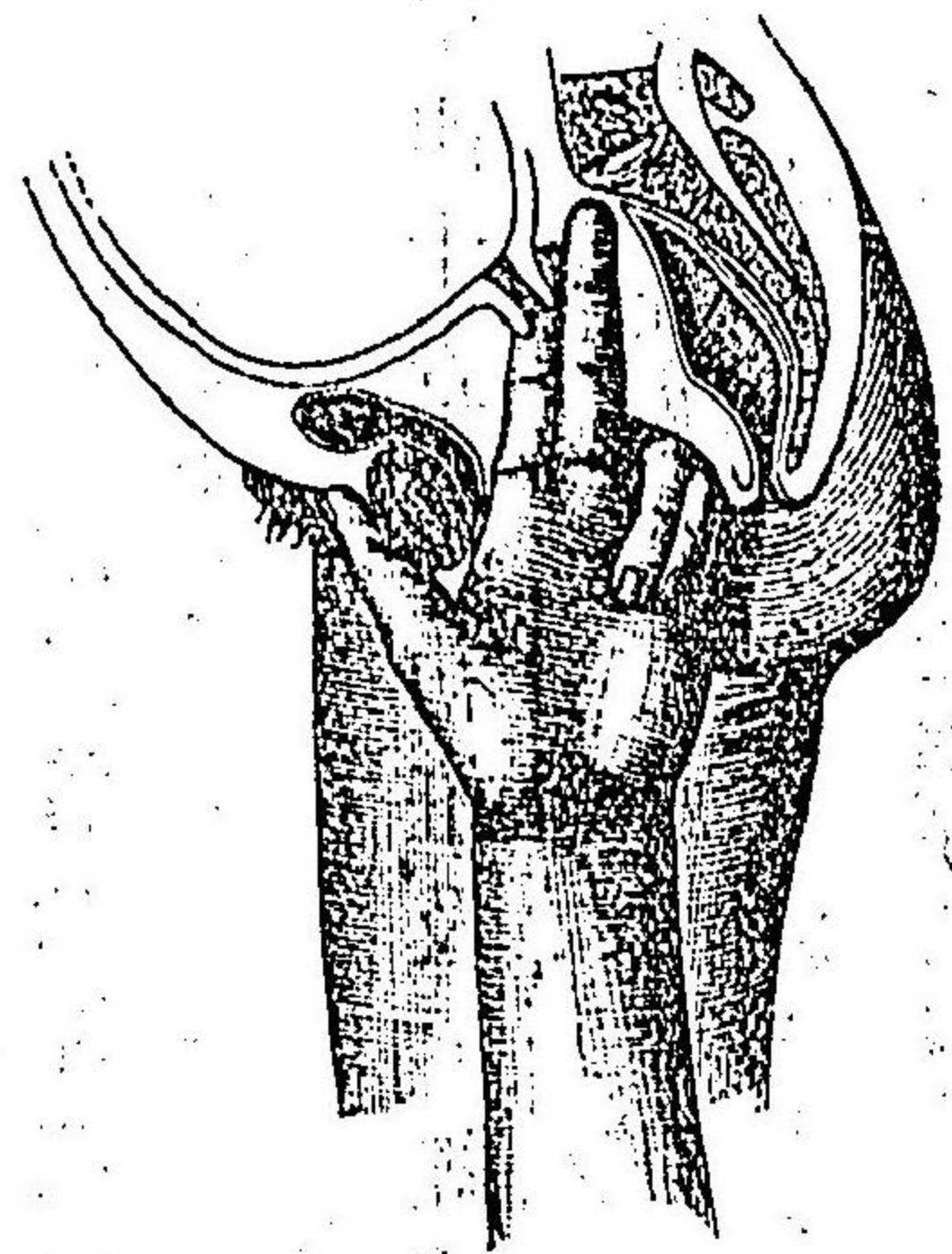
得可キモノトス。

第三十九章 骨盤徑線ノ検査

「第一九六項」骨盤直徑線ノ検査

内検査ノ際、指ヲ薦骨岬ニ向

第六十二圖 骨盤内直徑線ノ長さヲ檢スル



ケテ送入シ、容易ク之レニ達ス可キハ、骨盤直徑線ノ短小ナルモノニシテ、所謂扁平骨盤ナリ。此ノ如キモノハ、分娩容易ナラザルモノトス。尙ホ此検査ニ付キテハ、第五編、狭窄骨盤ノ章下ニ説述スル所アル可シ。

「第一九七項」腸骨前上棘間ノ検査

前章外検査「丙」ノ條下ニ述

ブルガ如ク、拇指ト小指ヲ伸展シ、兩前上棘間ニ相達シ得ルハ、骨盤ノ横徑、狹窄セルノ徴ナリ。

〔第一九八項〕耻骨弓、兩坐骨結節間距離ノ検査 モ亦第五編、狹窄骨盤ノ章中ニ論ズ可シ。

第四十章 初妊及ビ經産ノ診断

〔第一九九項〕初妊及ビ經産ノ區別 ハ通常問診ニヨリテ知ルコトヲ得ベキモ、結婚前ノ分娩等ニ屬スルトキハ、妊婦之レヲ掩蔽スルコトアリ。此場合ニ在リテハ、外陰部、子宮口等ノ状態ヲ視テ、之ヲ鑑別ス可シ。即チ次ノ如シ。

初妊婦

1. 處女膜根存ス。

2. 會陰ニ損傷ナシ。但シ經産婦ト雖

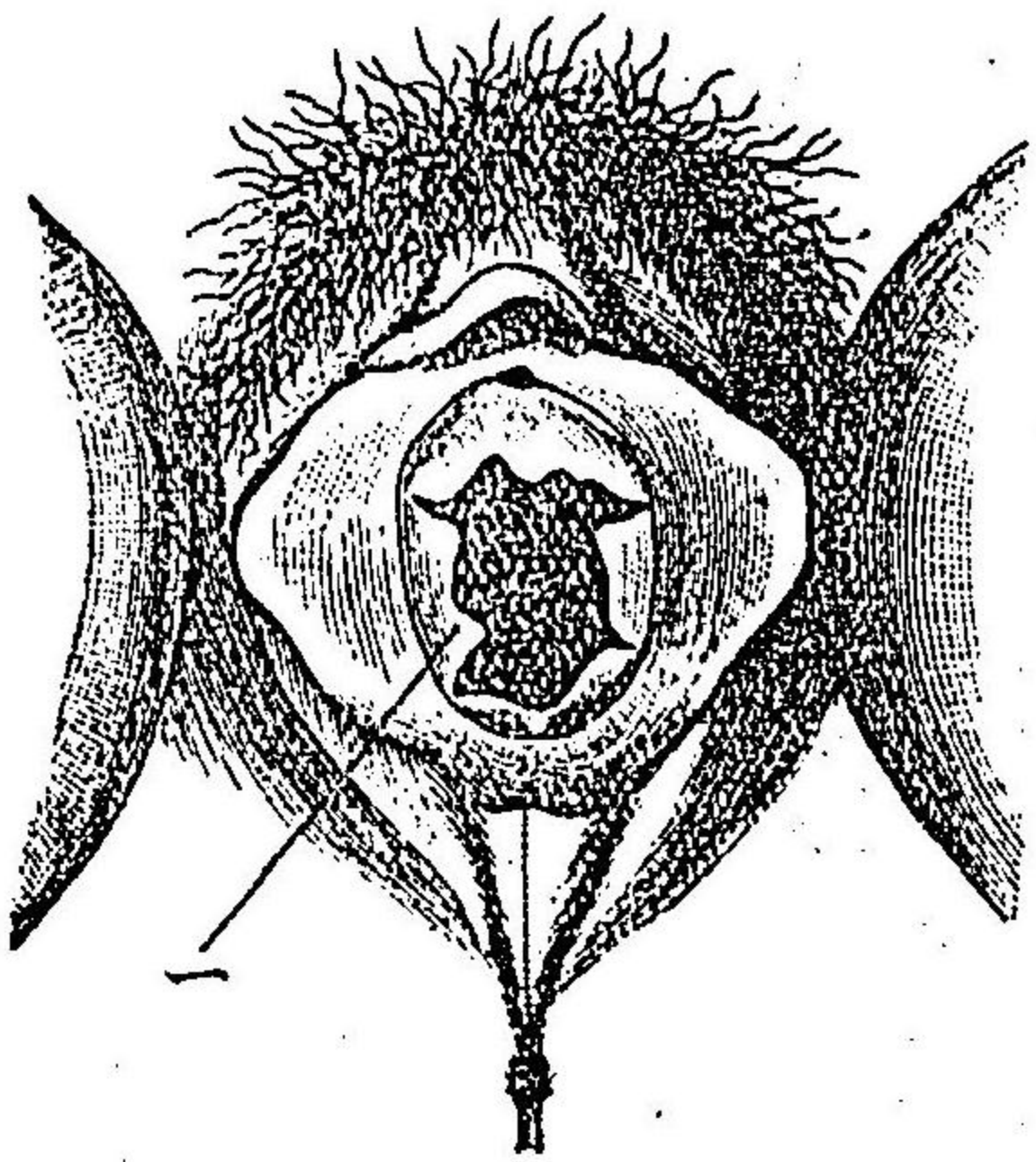
經産婦

1. 處女膜根消失シ、結節狀ヲナセルミルチ狀肉阜、數箇ヲ現ハス。

2. 會陰破裂アラバ、經産婦ナルヲ知

モ會陰ノ完全ニ存スルコトアリ。
3. 腔腔狭ク、腔壁ノ皺襞多シ。
4. 子宮口ハ稍圓形ニシテ、腔部圓滑

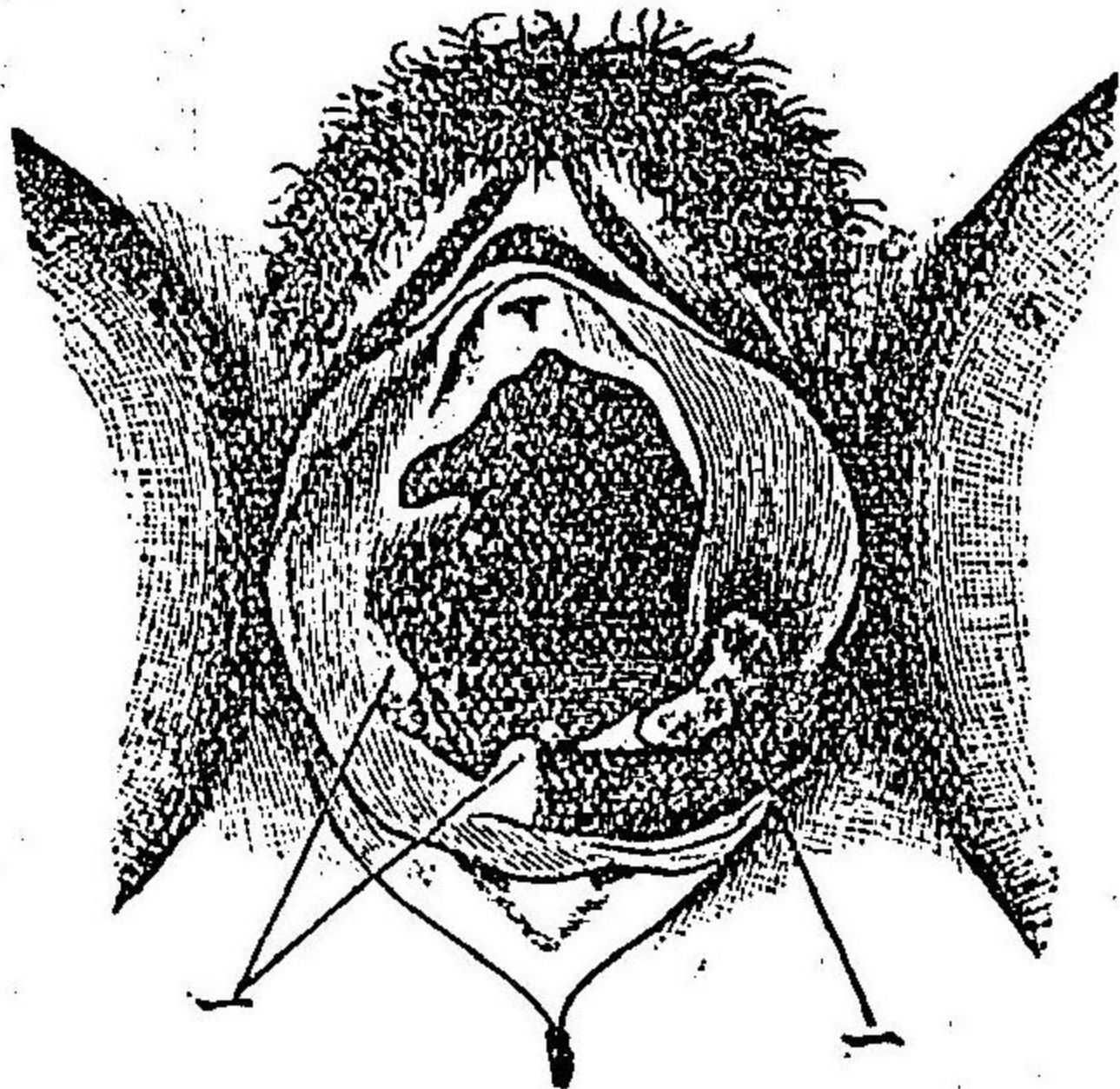
初妊婦腔口ノ圖



圖三十六第

ル可シ(但シ經産婦ト雖モ、毫モ會陰ニ損傷ナキコト多ク之レアリ)。
3. 腔壁ノ皺襞少ナク、腔腔潤シ。
4. 子宮口ハ横裂ヲナシ、腔部ハ結節

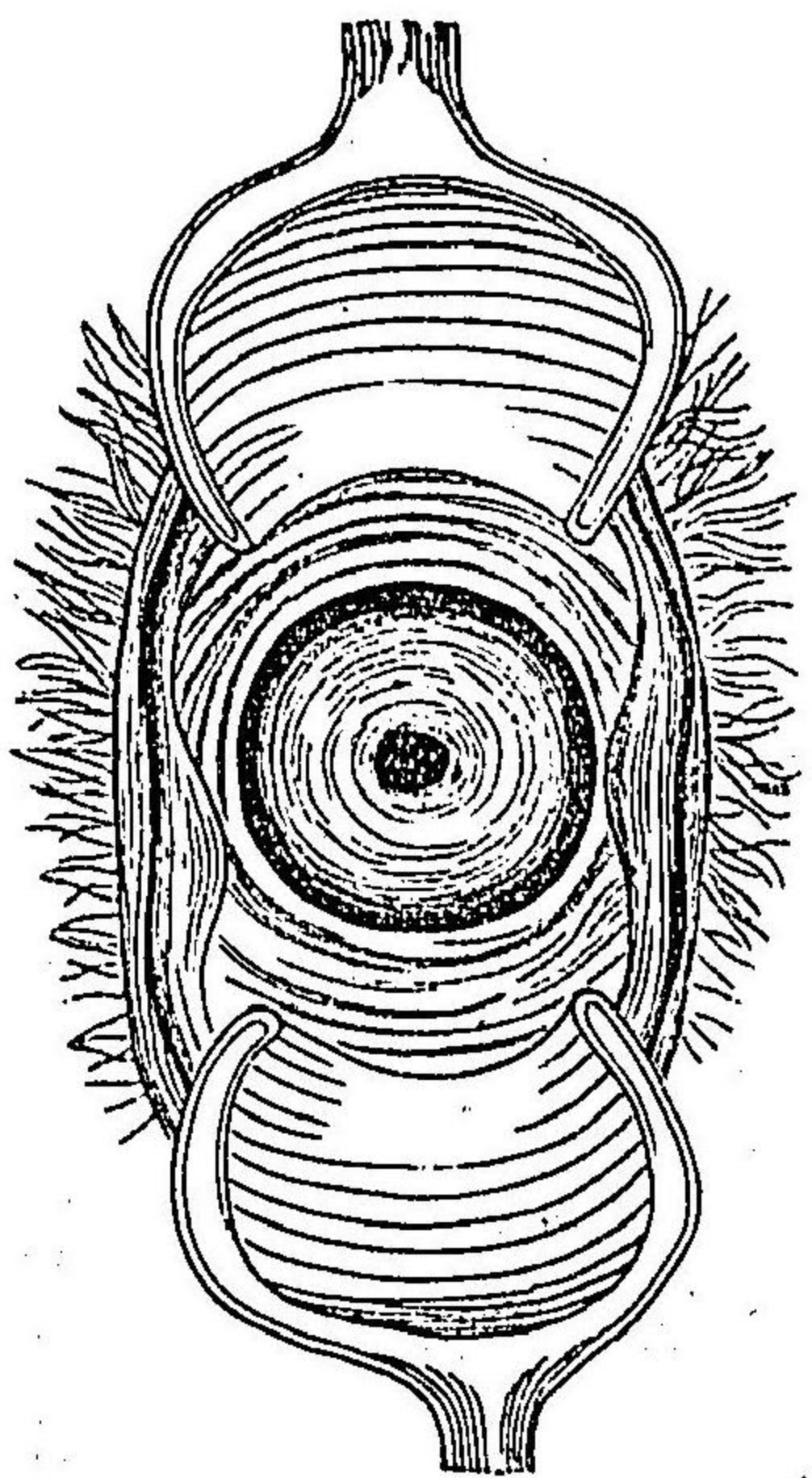
經産婦腔口ノ圖



圖四十六第

第六十五圖

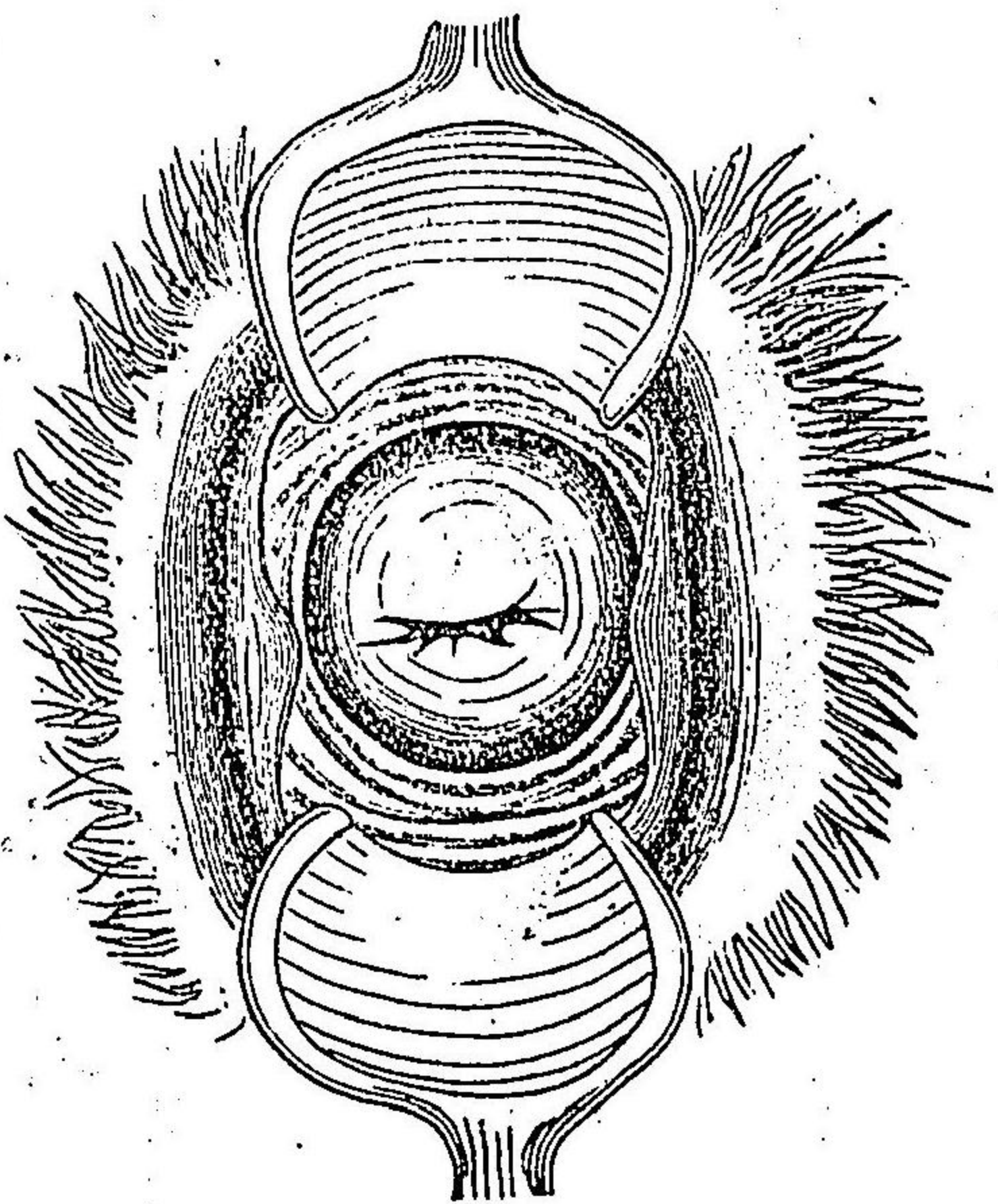
初妊婦子宮口の圖



子宮鏡ヲ用非テ陰部ヲ示ス

第六十六圖

經産婦子宮口の圖



子宮鏡ヲ用非テ陰部ヲ示ス

ナリ。妊娠ノ末期ニ至ルモ、子宮口閉鎖ス。

- 5. 第十ヶ月ニ至レバ、兒頭骨盤入口内ニ固定ス。
- 6. 帯青赤色ナル一種ノ妊娠線ヲ現ハス。

狀隆起ヲ有セルヲ觸知ス可シ。妊娠ノ末期ニ至レバ、子宮外口内ニ指ヲ通ゼシム。

- 5. 第十ヶ月ニ至ルモ、兒頭骨盤入口内ニ固定セズ。
- 6. 白色ニシテ舊キ妊娠線ト、帯青赤色ニシテ新ラシキモノト相混ジテ存ス。

第四十一章 胎兒ノ位置、生死及ビ兩性ノ檢定

〔第二〇〇項〕胎位

胎兒縦位ヲ取ルトキハ、其大體部子宮底ト耻骨縫際ノ上ニ存シ、横位ナルトキハ、子宮底及ビ耻骨縫際上ノ兩部、空虚ニシテ、大體部ハ左右兩側部ニ位シ、又頭位ナルトキハ、小體部ハ子宮底ノ左若クハ右ニ現ハル。骨盤端位ナルトキハ、子宮底ノ側部ニ小體部ヲ見ルコト

ナク、内診スレハ、柔軟ニシテ突起様ヲナセル臀部ヲ觸知ス可シ。

〔第二一〇〕一項胎兒生活セルトキ ハ第二十週(第五ヶ月)後ニ於テハ、胎動、心音ヲ認識シ得ベキヲ以テ之レヲ確ムベシ。然レドモ生活セルモ、胎動ハ毎回觸知シ得ベキモノニアラス。且ツ心音モ亦、兒背ノ後方ニ向フモノ、胎盤ノ子宮前壁ニ位スルモノ、羊水ノ多量ナルモノ、子宮雜音腸内雜音等ノ甚タシキモノニ在リテハ、之レヲ聽取シ難キコトアリ。故ニ、一回ノ検査ヲ以テ、胎動、心音ヲ認ムルコトナキモ、直チニ生存セザルモノト云フコト能ハズ。

〔第二一〇〕二項胎兒若シ果シテ死亡セルトキ ハ羊水ノ吸收セラレ、ガ爲メニ、子宮ハ漸次ニ變小シ、柔軟トナリ、胎動ハ全ク止ミ、腔内ヨリハ多量ノ分泌物ヲ泄シ、妊婦ハ倦怠、消化不良、下腹寒冷、又ハ腹内ニ異物ノ存スルガ如キヲ覺エ、數回注意シテ診察スルモ、心音胎動ヲ認ムルコトナキモノトス。

〔第二一〇〕三項男女兩性ノ診斷 ハ毎回確實ナルコト能ハザルモ

心動數、百四十以下ナルトキハ、男兒トナシ、百四十以上ナレバ、女兒トナストキハ、多クハ適中ス可シ。此他、種々ノ說アレドモ、到底應用シ得可キモノアルヲ見ズ。

第四十二章 複性妊娠(複胎)

〔第二一〇〕四項複性妊娠 ニハ二胎即チ双胎、三胎、四胎、五胎ノ別アリ。六胎モ亦一タビ之レヲ驗知セルモノアリト。双胎ノ數ハ、凡ソ八十九回ノ分娩中ニ一回、三胎ハ凡ソ七千九百回、四胎ハ凡ソ四五十萬回中ニ一回アリト云フ。

〔第二一〇〕五項複性妊娠、就中、双胎ノ原因 双胎ハ、二個ノ卵同時ニ受胎スルニ因ルモノアリ。一個ノ卵中ニ、二個ノ胚胞アルニ基クモノアリ之レニヨリテ、双胎ヲ分チテ、一卵性及ヒ二卵性ノ双胎トナス。其餘ノ複性妊娠ニ於テモ、一卵以上、數個ノ卵ニヨリテ、成生セラル、モノトス。

〔第二〇六項〕**双胎ノ受胎** ハ同時ニ在ル可キカ又ハ時ヲ異ニシテ之レヲ營ミ得可キカ尙ホ未タ確實ナラズ**双胎ハ胎兒ニ大小アリ分** 娩ノ時期ニ若干ノ時間アルヲ見ルガ故ニ直チニ時ヲ異ニシテ受胎セ
ルモノトナスハ妥當ナルモノニアラズ何トナレハ二卵性ノ**双胎ニ於** テモ營養分ヲ受クルノ多少ニヨリテ其胎兒ニ常ニ大小アルヲ見ル可
ク又一兒分娩ノ後子宮ノ緊張緩解スルニヨリ小ナル**第二兒ハ尙子宮** 内ニ存シテ發育シ得可キヲ以テナリ

〔第二〇七項〕**双胎ニ於ケル卵膜ノ關係(一卵性及ヒ二卵性ノ双胎)** 羊膜ハ胎兒外皮ノ一系ナルヲ以テ何レノ複性妊娠ニ於
テモ各兒各別ノ羊膜ヲ有スルヲ常トス但シ羊膜ノ互ニ接着セル部ニ
於テ斷裂シ消失ニ歸スルコトアルトキハ兩兒一ノ羊膜囊中ニ存スル
コトアリ○絨毛膜ハ卵ノ外圍ヨリ生ズルヲ以テ二卵性ノモノニ在リ
テハ各別ノ絨毛膜ヲ具フ可シ○鰾轉脫落膜ハ二卵性ノ**双胎ニ於テモ**
單一ナルヲ常トスレドモ若シ各卵ノ附着部遠隔スルルハ時トシテ各

別ノ鰾轉脫落膜ヲ生ジ成熟卵ニ在リテモ中隔ヲナシテ存スルコトアリ
○眞脫落膜ハ何レノ場合ニテモ單一ナルモノトス一胎盤ハ其原各胎
兒ヨリ發生スルモノナルガ故ニ各個特別ナルモノナレドモ多クハ互
ニ接合ス可ク殊ニ一卵性ノ**双胎ニ在リテハ** 通例兩胎盤血管ハ互ニ吻
合交通ヲ現ハスモノトス是故ニ分娩時ニ於テ第一兒ノ臍帶結紮ヲ忽
ニスルトキハ**第二兒ヲシテ血液ヲ失ハシムルコトアリ**一臍帶ハ各別
ナルヲ常トスレドモ時トシテハ胎盤ニ附着スルノ部ニ於テ兩者合一
シ以テ分岐スルノ狀ヲ呈スルコトアリ

〔第二〇八項〕**双胎ニ於ケル兩性(男女)ノ關係** 一卵性ノ双
胎ナル時ハ常ニ其性ヲ同フシ二卵性ナル時ハ時トシテ其性ヲ異ニシ
或ハ其性ヲ同フスルコトアリテ一定ナラザルモノトス

〔第二〇九項〕**双胎ノ診斷** 双胎ハ妊婦ノ腹部異常大ニシテ兩兒ノ
體部ヲ明瞭ニ觸知スルコト兩個ノ心音ヲ聽取スルコト内検査ニヨリテ兩兒
ノ體部ヲ診知スルコト等ニヨリ之レヲ診知ス可シ然レドモ此等ノ事項ハ

之レヲ正確ニ診定シ得ルノ機會甚ダ少ナキヲ以テ、双胎ノ診斷ハ甚ダ困難ナルヲ最モ多シトス。

腹部異常ニ大ニシテ、月數ニ適應セズ、且ツ子宮ノ中部ニ凹溝ヲ呈シ、兩個ノ胎兒ヲ有スルガ如キモ、未ダ双胎ノ確徵トナスコト能ハズ、何トナレバ、羊膜水腫若クハ過大ナル胎兒ニ於テ、常ニ此ノ如キコトアル可ケレバナリ。

兩兒ノ體部ヲ明瞭ニ觸知スルハ、羊水過多ナラズ、腹壁厚ニ失セザル際ニ於テ之レアリ、殊ニ兩兒並列シ、反對セル部分ニ兩兒頭ヲ觸ル、ノ際ヲ以テ明確ナリトス、若シ兩兒前後ニ重積スルトキハ、到底之レヲ診知スルコト能ハズ。

兩個ノ心音ヲ聽取ストハ、遠隔セル兩部ニ、心音ヲ聽キ、其中間ニハ全く心音ヲ聽取ス可ラザルノ一部ヲ存スルノ場合ヲ云フ、而シテ各心音其數ニ相異アルトキハ、二人ヲ以テ同時ニ聽取スレバ、之ヲ證明スルコトヲ得可シ、但シ羊水多量ナルカ、一兒背後方ニ向フカ、又ハ胎盤ヲ以テ

掩ハル、カ若クハ一兒死胎兒ナルトキハ、兩兒ノ心音ヲ聽取ス可ラス。

内診ニヨリテ双胎ヲ診知ス可キハ、分娩中ニ在リトス、即チ腹部ニ於テ心音ヲ聽取ス可キノ際、内診ニヨリ、軟化セル胎兒ノ先進セルヲ知ルカ、若クハ臍帶脫ノ搏動ナキモノヲ觸ル、カ、又ハ同名ノ手若クハ足、二個ヲ觸知スルカ、或ハ兩個ノ兒頭ヲ診定スルニ在リトス。

一兒既ニ分娩セルモノニアリテハ、子宮尙ホ異常ニ大ナルト、内診上、更ニ一兒ノ存スルヲ診知ス可シ、

〔第二一〇項〕三胎若クハ四胎ノ診斷 此等ノ診斷ハ、分娩前ニ於テ、之レヲ營ミ能ハザルヲ以テ常トナス。

第四十三章 妊婦ノ攝生法

〔第二一一項〕妊婦ノ攝生法 是就キ注意ス可キ事項ハ、飲食物、業務、起臥運動、精神上ノ感動、衣服、身體ノ清潔法、乳房及ビ陰部ノ處置、妊娠性症狀ノ取扱法等トナス。

〔第二一二項〕**飲食物** ハ平常ノ習慣ニ從ヒ、從來飲食セルモノハ適度ニ之レヲ用ユルトキハ、敢テ害アルコトナシ、但シ、必ズ常度ヲ誤マルコトナカラシメ、過熱ノ飲品、強烈ノ香料ハ之レヲ誡メンコトヲ要ス。又、妊娠ノ末期ニ至ラバ、一回ノ食量ヲ少ナカラシメ、數回、食ニ就カシムルヲ以テ佳トナスコトアリ。殊ニ晚餐ヲ然リトナス。妊娠性嗜好品ハ、其害アルモノニ限リ之レヲ禁止ス可シ。

〔第二一三項〕**業務** モ亦從來ノ習慣ニ隨ヒ、平時ノ如ク之レヲ營マシム可シ。唯、必ズ過劇ナルヲ避ク可シ。勞力ノ如キモ、平常慣レタル者ハ、敢テ之レヲ廢スルヲ要セズ。却テ體力ヲ強壯ナラシメ、分娩、産後ヲ佳良ナラシムルノ益アリ。然レドモ亦、必ズ慎重ニシテ、粗暴ナルコトアル可カラス。否ラサレハ、爲メニ、出血、流産等ヲ惹キ起スニ至ル可シ。特ニ最初四ケ月間ハ、最モ害ヲ醸シ易キガ故ニ、大ニ注意センコトヲ要ス。

〔第二一四項〕**運動** ハ靜居スル。妊婦ニ在リテハ、必ズ特ニ之レヲ營マシム可シ。自體及ビ胎兒ニ益アリ。但シ、舞踏、飛躍、不平坦ナル道路ノ車行、長途ノ鐵道旅行等ハ之レヲ戒シ、メンコトヲ要ス。然ラザレバ、過劇ナル業務ト異ナルコトナク、危害ヲ生ズルニ至ル可シ。乗船ハ、船量ヲ發シ、甚ダシキ嘔吐ヲ催ス可キモノハ、流産又ハ早産ヲ發スルノ恐レアルガ故ニ之レヲ誡メンコトヲ要ス。

〔第二一五項〕**起臥** ハ可及的規律ヲ正シクシテ、遅ク寢テ、睡眠不足ナルガ如キコトアル可ラズ。而シテ、起臥ノ間、常ニ心意ヲ平靜ナラシメンコトヲ要ス。

〔第二一六項〕**精神上ノ感動** 即チ恐怖、驚愕、悲哀、憤怒、嫌惡、劇度ノ喜悅等ハ可及的之レヲ避ケンコトヲ務ム可シ。故ニ感動ス可キ演劇、小説、談話等ヲ見聞スルコトヲ戒メザル可ラズ。殊ニ、難産、病床等ニ侍スルコトヲ禁ズルヲ要ス。多クノ妊婦ハ、妊娠ノ末期ニ至レバ、甚ダ悲哀ニ沈ミ、易ク且ツ分娩ノ難キヲ恐ル、ガ如キコトアルモノナルガ故ニ、産婆ハ、己レノ態度ヲ平靜ニシ、温言ヲ以テ之レヲ慰諭ス可シ。

〔第二一七項〕**衣服** ハ甚ダシク身體ヲ緊縛スルモノヲ用ユ可ラズ。

腹帯ハ妊娠ノ後半期ニ於テ適度ニ之レヲ用ユルヲ良トス。是レ腹壁ノ甚ダシキ弛緩ヲ防ギ、胎兒ノ變位ヲ豫防シ、兼テ妊婦ノ運動ヲ容易ナラシムルノ益アリ。

〔第二一八項〕身體ノ清潔法

ハ殊ニ注意シ、毎日一回、適宜ニ温浴ニ入ラシムルヲ良トス。而シテ其温度ハ、凡ソ攝氏三十八度(華氏凡ソ百度)ナル可シ。但シ、日本人ハ一般ニ高温度ノ浴湯ニ習慣セルガ故ニ、凡ソ四十二度ニ至ル迄、其温度ヲ高ムルヲ得ベキモ、長時間、高温度ノ浴ニ入ル時ハ、子宮ノ収縮ヲ喚起スルノ害アルニヨリ、注意センコトヲ要ス。虚弱ナル妊婦ニアリテハ、浴後一時間、安静ナラシムルヲ佳トス。坐浴、脚浴、冷水浴又ハ頻回ノ温浴ハ、妊婦ヲシテ之レヲ取ラシム可ラズ。否ラザレバ、流産又ハ早産ヲ致ス可シ。

陰部ハ分泌増多スルガ故ニ、温湯ヲ以テ一日數回、外陰部ヲ洗滌ス可シ。外陰部若シ多量ノ分泌ヲ現ハストキハ、冷水ヲ用キテ洗滌スレバ効アリ。

〔第二一九項〕腔内ノ洗滌

腔内モ亦過多ノ帶下アルキハ、イルリ

ガートルヲ用キ、一%微温石炭酸水ヲ以テ洗滌セシムルヲ良トス。但シ、高度ノ温熱ヲ避ケ、高壓ヲ用ユルコトナク(イルリガートル凡ソ二尺ノ高さニ懸ク)且ツ、腔内、尿管ヲ送入スルコト深キニ失セザルヲ要ス。

〔第二二〇項〕交接

ハ稀レニ且ツ温和ニ之レヲ營マシム可シ。殊ニ第八週乃至第十六週ノ間ハ注意セシメン事ヲ要ス。否ラザレバ、流産ヲ致スコトアリ。又、流産ノ癖アル婦人ニ在リテハ、最モ交接ヲ慎重ナラシム可キモノトス。

〔第二二一項〕乳房

ハ温暖ニ保チ、衣服ノ壓迫ヲ避ケシメ、乳頭ハ毎日二三回冷水ヲ以テ洗ヒ指ヲ用キ、注意シテ屢々之レヲ牽引シ、且ツ時々酒精ヲ塗布ス可シ。此ノ如クスルトキハ、乳頭ノ形状ヲ佳良ニシ、其皮膚ヲ強固ナラシムルノ効アリ。

〔第二二二項〕妊娠性症狀ノ中

便秘アラバ務メテ室外ノ運動ヲ營マシメ、熱シタル藥物又ハ炎タル藥物ヲ食セシメ、寢時及ビ早朝、其他、一日數回、時間ヲ定メテ清水若クハ温湯ヲ飲用セシムルヲ要ス。此ノ如クス

ルモ尙ホ便道不良ナルトキハ、日々、温石礮液ノ灌腸ヲ行ヒ、又ハ醫師ノ診察ヲ請ヒ、緩和ノ下劑ヲ服セシム可シ。

嘔吐アル者ニハ、消化シ易キ食物ヲ少量ニ與ヘ、數回、食ニ就カシムルヲ以テ可トナスコアリ。早朝ノ嘔吐ニハ、牛乳等ノ滋養物ヲ麝中ニ飲用セシメ一時間ヲ經テ起床セシムルヲ良トス。

此他、總テノ妊娠性症狀ハ醫療ニ就カシムルヲ要ス。

第三篇 正規分娩及ヒ其取扱法

第四十四章 誘導編

〔第二二三項〕此三篇ニ於テハ、分娩トハ如何ナルモノナルヤヲ説キ、正規ノ分娩ニ就キテ其狀況ヲ論シ、次ニ分娩ヲ處置スルニハ如何ノ方法ト、何等ノ必要アルカヲ述べ、且ツ講習ノ便ヲ謀リ、不正規即チ異常ナル縦位ノ分娩ニ就キ、其分娩ノ狀況ト、緊要ナル處置方法ヲ記シ、終リニ、分娩中ニ於ケル胎兒生死ノ徵候、其他ヲ説カント欲ス。

第四十五章 分娩及ヒ其區別

〔第二二四項〕分娩 トハ胎兒、其附屬物ト共ニ、産出力ニヨリテ母體ヲ離ル、ヲ云フ。

〔第二二五項〕分娩ノ區別 分娩ニ、正規分娩ト異常分娩トノ二アリ。正規分娩トハ人工ノ助ケヲ要セズシテ、平易ニ産出スルヲ云ヒ、異常分

及ビ外陰部是レナリ。

〔第二二八項〕軟部産道ノ方向 分娩ノ際ハ、會陰ノ前下方起立ノ位置ニ就キテ之レヲ云フニ延張スルガ爲メニ軟部産道ノ下端ハ、全ク前方ニ向ヒ其方向ハ、骨盤誘導線ノ方向ニ從ヒ前上方ニ赴クモノトス。此故ニ分娩ノ際之レヲ處置スルニハ、常ニ胎兒ヲ此方向ニ導クヲ要ス。然ラザレバ娩出セシムルコト難ク且ツ會陰ヲ破裂セシムルニ至ルモノナリ。

第四十七章 産出力

〔第二二九項〕産出力 ハ更ニ之レヲ分チテ三トナス。甲子宮ノ收縮力即チ陣痛乙腹壓丙膈壁ノ收縮力はナリ。

〔第二三〇項〕甲陣痛 ハ疼痛ヲ伴ヘル子宮ノ收縮ニシテ産出力中其最モ主要ナルモノトス。陣痛發スルノ際手ヲ腹上ニ貼スレバ明カニ子宮ノ收縮シ硬固トナレルヲ觸知ス可シ。此陣痛ハ固ヨリ隨意ニ生ゼシム可キモノニアラザレドモ精神ノ感動ニヨリ時トシテハ其強サヲ變ゼシ

ムルヲアリ○又陣痛ハ温熱摩擦等ノ刺激ヲ子宮ニ施コシ若クハ醫藥ヲ用ユルトキハ之レヲ催起セシムルヲ得ルモノトス。

陣痛ノ三期及び其休憩時

陣痛ニ三期アリ進行期極期及ビ退行期ト云フ。進行期トハ子宮ノ收縮漸次ニ増進スルノ期ニシテ極期トハ其收縮極度ニ達シ少時稽留スルノ期ヲ云ヒ退行期トハ爾後子宮ノ收縮再ビ弛緩スルノ時期是レナリ。此三期ヲ合スレバ一陣痛ノ長サハ六十秒ヨリ百秒ニ至ル。一陣痛經過スレバ暫時間休止ス。之レヲ陣痛休憩時或ハ陣痛間ト稱ス。

分娩痛

トハ陣痛ト胎兒ノ産道ヲ擴張シ通過スルノ際ニ發スル疼痛トヲ併セテ名ケタルモノナリ。此故ニ分娩痛ハ兒頭ノ外陰部ヲ出ヅルノ際ニ當リ最モ強劇ナルモノナリ。分娩痛ハ陣痛ト同一視ス可ラズ。

〔第二三二項〕乙腹壓

トハ呼吸ヲ停止シ手足ヲ固定シ腹壁及ヒ横膈膜ヲ收縮セシメ腹腔ヲ狭少ニシ以テ腹腔ノ内容物ヲ下方ニ壓出スルノ作用ニシテ分娩ノ際産出期ニ於テハ甚ダ緊要ナルモノナリ。此腹壓ハ

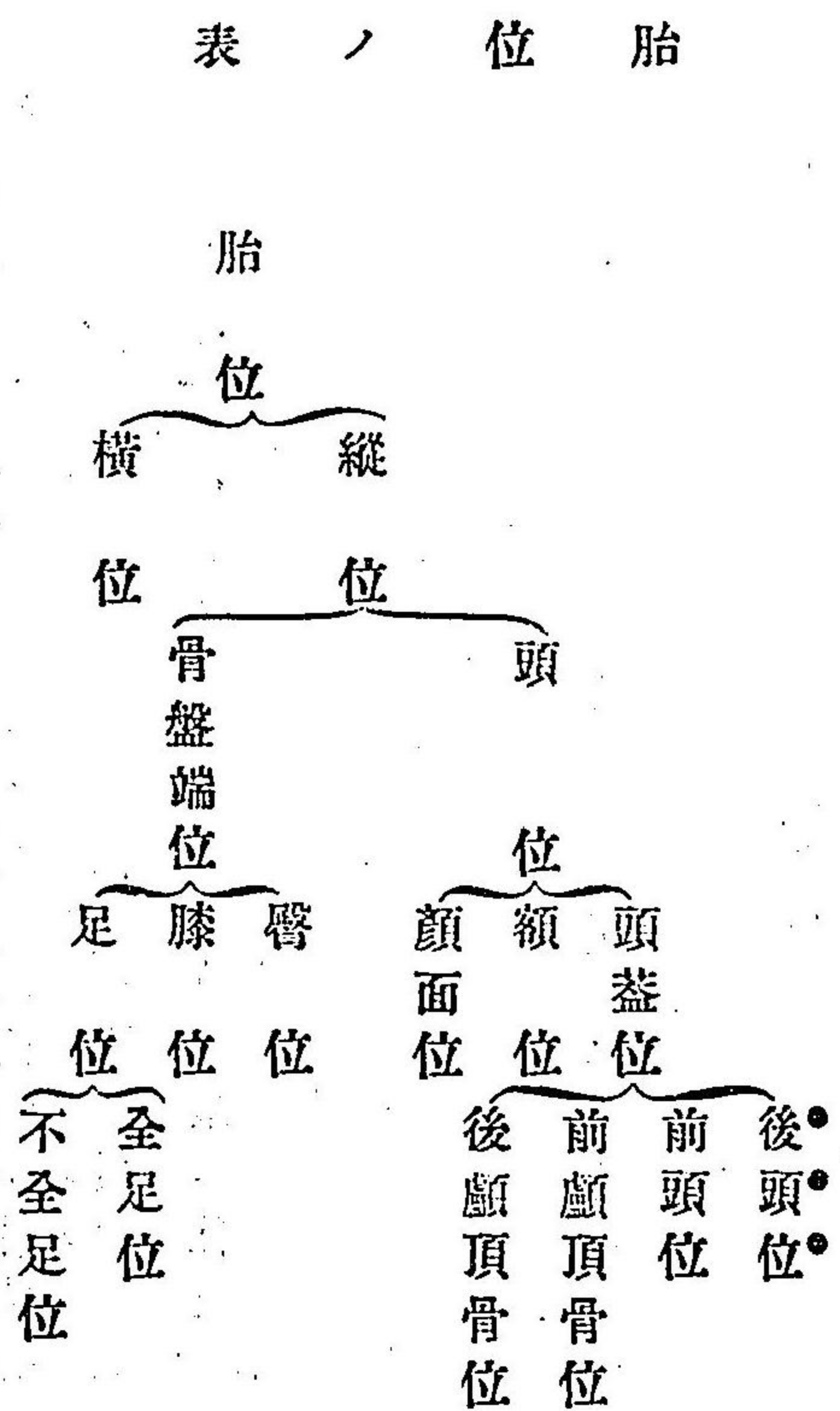
固ト隨意ニ營ムコトヲ得ベキモノナレドモ、小兒ノ將ニ産出セントスルノ際ハ、不隨意ニ反射作用ヲ以テ發起シ、自ラ制スルコト能ハザルモノナリ。

〔第二三二項〕丙「膈壁」ノ收縮ハ胎兒又ハ後産ノ大部既ニ産出セルノ際、其餘ノ一部ヲ壓出セントスルノ作用ヲナスモノナリ、是レ敢テ緊要ナルモノニアラス。

第四十八章 胎兒ノ位置即チ胎位

〔第二三三項〕胎位ノ區別 胎兒ノ位置ヲ大別シテ、縦位及ビ横位ノ二トナス。而シテ縦位ハ其先進部ノ異ナルニ從ヒ、更ニ小別シテ、頭位ト骨盤端位トニ別チ、頭位ハ又タ、頭蓋位、額位及ビ顔面位ニ區別シ、頭蓋位ノ中ニハ、更ニ後頭位、前頭位又ハ前顛頂位ト云フ。前顛頂骨位、後顛頂骨位アリ。骨盤端位ハ、臀位、膝位及ビ足位ニ分チ、且ツ足位ニハ、全足位及ビ不全足位ノ別アリ。此各胎位ニ就キ、頭位中ノ一種ナル後頭位ハ、最も多數ニシテ、

且ツ全ク正規ナルモノナリ。其他、顔面位、足位等ハ、既ニ不正規ニ屬シ、横位ニ至リテハ、全ク病理的ナルモノトス。以上ノ胎位ヲ表示スレバ、即チ次ノ如シ。



〔第二三四項〕各胎位ノ利害 胎兒ハ縦位ニヨリテ、ノミ産出スルヲ得ベシ。横位ナルトキハ、通例、産出スルコト能ハズ、且ツ之レヲ放置シテ

速カニ治方ヲ施コスヲナケレバ、小兒ハ固ヨリ論ナク、母體モ亦生命ヲ失
 ウニ至ル。縦位中最モ安易ニシテ且ツ、正規ナルハ後頭位ニシテ、前頭位
 之レニ次ギ、顔面位ハ分娩頗ル難ク、額位、前後顛頂骨位等ニ至リテハ、最モ
 困難且ツ危険ナルモノトス。骨盤端位ハ、母體ニ於テハ敢テ甚ダ不良ナラ
 ザレドモ、小兒ニハ頗ル不利ナリ。就中臀位ハ最モ佳良ニシテ、足位、膝位ハ
 共ニ之レニ次グ。足位ノ中、不全足位一足ノミ先進セルモノハ、全足位兩足
 先進セルモノヨリモ佳良ナリ。其他、此等ノ詳細ナル説明ハ、各胎位ノ條下
 ニ之レヲ論ズ可シ。

「第二三五六項」各胎位ノ數 今、各位置ノ數ヲ舉グレバ、大畧次ノ
 如シ。

頭蓋位	凡ソ	九、五%
顔面位	凡ソ	〇、五%
骨盤端位	凡ソ	三、一%
横位	凡ソ	〇、六%

「第二三五六項」各胎位ノ區別 各位置ハ、其兒背ノ向フ所ニヨリ、概
 シテ四種ノ別アリ。今、頭蓋位ニ就キテ之レヲ數フレバ、次ノ如シ。但シ、其餘
 ノ胎位モ亦、大畧之レニ準ズ可シ。

- 第一頭蓋位 兒背、母體ノ左前方ニ向フモノ。
 - 第二頭蓋位 兒背、母體ノ右前方ニ向フモノ。
 - 第三頭蓋位 兒背、母體ノ右後方ニ向フモノ。
 - 第四頭蓋位 兒背、母體ノ左後方ニ向フモノ。
- 或ハ、以上、第一頭蓋位ヲ第一胎向第一分類トナシ、第二頭蓋位ヲ第二胎向
 第一分類ト稱シ、第三頭蓋位ヲ第二胎向第二分類ト名ケ、第四頭蓋位ヲ第
 一胎向第二分類ト唱フルモノアリ。

第四十九章 頭蓋位正規分娩ノ狀況

「第二三三七項」分娩ノ經過 分娩ノ經過ヲ分ケテ次ノ三期トス。
 第一期、開口期 ハ子宮口至ク開大シ、胎兒ヲ通過セシメ得ルニ至ルノ時

第二期産出期 期ニシテ、此期ノ終末ニハ胎水漏泄スルヲ常トス。ハ子宮口全ク開大シ、胎水漏泄スルノ後、胎兒體ノ全ク産出スルニ至ルノ時期ヲ云フ。

第三期後産期 ハ即チ、胎兒娩出後ヨリ、後産ノ全ク排出シ終ルノ時期ヲ云フ。

此三期ハ、各分娩ニ普通ナルモノナルニヨリ、頭蓋位ニ於ケル経過ヲ知了スレバ、他ハ自ラ之レヲ了解スルヲ得ベシ。次ニ第五十乃至五十二章ニ於テ頭蓋位分娩ノ経過ヲ詳説セント欲ス。

「第二三八項」各期ニ於ケル陣痛ノ名稱 開口期ニハ開口期陣痛豫備陣痛産出期ニハ産出期陣痛及ビ震戰陣痛アリ。後産期ノ陣痛ハ之レヲ後産期陣痛ト稱ス。又、分娩前、妊娠ノ末月ニ於テ既ニ前陣痛ヲ現ハシ、分娩後、産褥中ニハ後陣痛アリ。

第五十章 第一期開口期

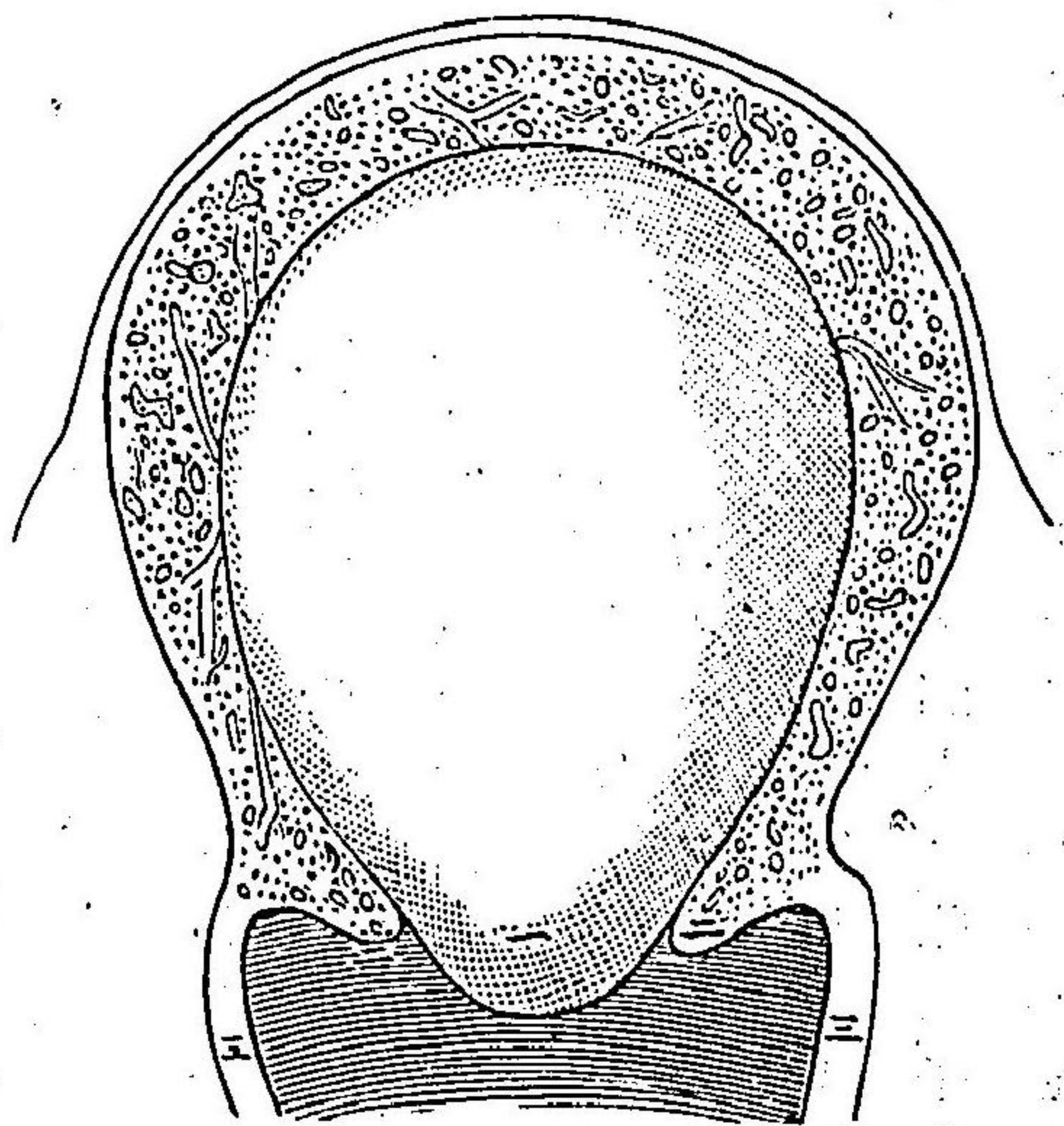
「第二三九項」開口期中ノ緊要ナル箇條 ヲ舉ゲ示セバ次ノ如シ。此箇條ヲ記憶スレバ、開口期ノ順序ハ自ラ瞭然タルモノトス。即チ、

- 一 前驅期
- 二 陣痛漸次ニ増劇ス
- 三 胎胞ノ形成
- 四 子宮口全ク開大ス
- 五 分泌物中、血液混入ス
- 六 胎胞緊張
- 七 胎胞破開シ、胎水流出スルコト、是レナリ

「第二四〇項」開口期ノ順序 開口期ハ其最初即チ前驅期ニ於テハ、數々子宮ノ收縮ヲ發シ、産婦ハ、薦骨ヨリ外陰部ニ波及スル緊迫ノ感覺ト、下腹ノ緊張トヲ感シ、知覺過敏ナル婦人ハ、既ニ疼痛ヲ訴フルモノナリ。又、此際、二便頻數ヲ感ジ、腔内ノ分泌增多ス可シ。此間ノ陣痛ヲ前陣痛ト名ク。次ニ陣痛漸ク其度ヲ増シ、初メハ凡ソ十五分時、後ニハ凡ソ五分時ニシテ反復シ、卵膜ハ羊水ノ壓迫ニヨリ子宮口ヨリ膨出セラレ、所謂胎胞(卵胞)ヲ形成シ、以テ漸次ニ子宮頸管ヲ開大ス。此際、子宮口甚ダシク緊張シ、遂ニ小裂傷ヲ生シ、爲メニ腔内ノ分泌物ニ血液ヲ混ズ可シ。而シテ胎胞ハ、始陣

第六十八圖

胎形ヲ成シ子宮口ヲ開カシムル圖



- 一、胎胞
- 二、子宮口
- 三、臍壁

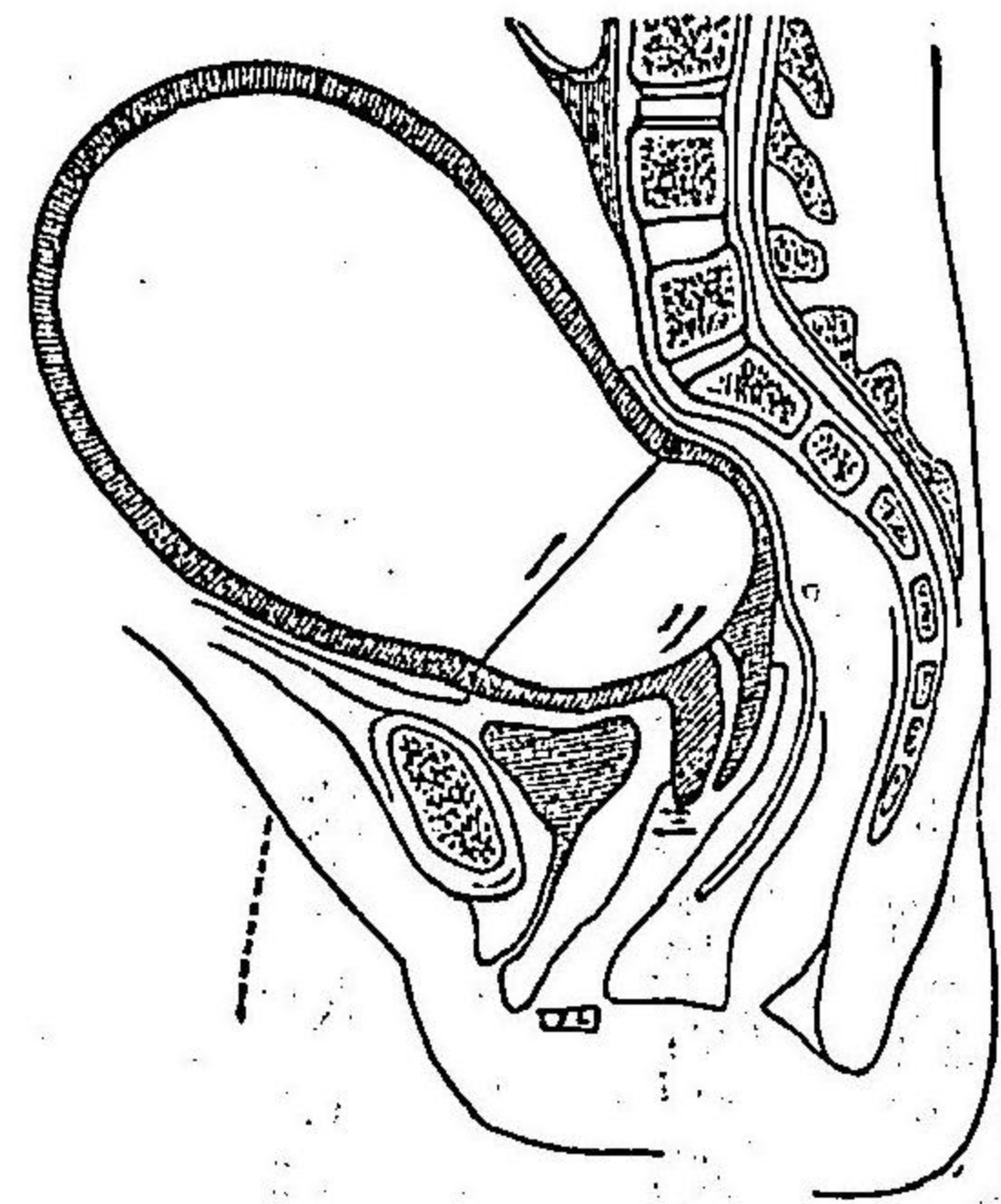
痛間時ニハ
弛緩スト雖
モ子宮口ノ
開ク一七乃
至十仙迷ニ
至レバ胎胞
ハ絶ズ緊張
シ、遂ニ破裂
シ、以テ羊水
ヲ泄ス之レ

ヲ破水ト稱シ、此羊水ヲ前羊水前胎水ト云フ其量ハ八乃至十五瓦ナリ、子宮口全ク開大スルトキハ十仙迷ノ大サヲ有シ、臍ト一管ヲナス○開口期ノ陣痛ヲ開口期陣痛若クハ豫備陣痛ト稱ス。

「第二四一項」羊水漏泄ノ遅速及び其害 羊水ハ子宮口ノ全

第六十九圖

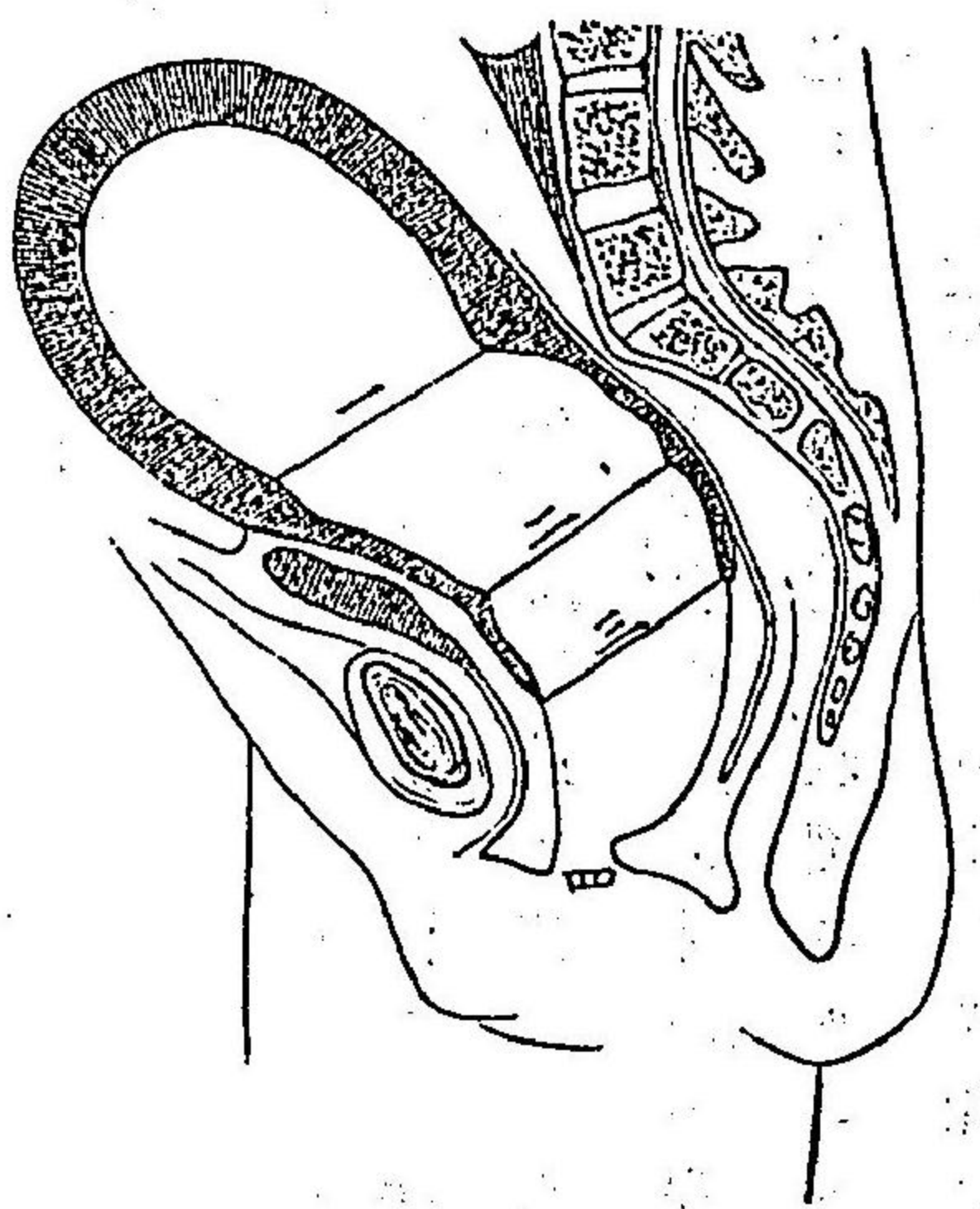
開大セサル妊娠子宮ノ頸管ヲ示ス圖



- 一、分娩時ニ延長ス可キ子宮下部ノ境界
- 二、子宮内口
- 三、子宮外口
- 四、腔口

ク開大スルニ先テテ漏泄スルヲ多シトス、而シテ子宮口尙ホ小ナルニ際シ、既ニ漏泄スルヲ早期ノ羊水漏泄ト云フ。若シ羊水ノ漏泄スルコト甚ダ早キトキハ、子宮口ノ開クコト徐々ニシテ陣痛ハ強シト雖モ、分娩ハ頗ル遅延スルモノナリ之レニ反シ、胎胞ノ破裂スルコト遅ク、甚ダシキハ、胎兒尙ホ卵膜ノ中ニ在リテ産出セラル、コトアリ。此ノ如ク、卵膜ノ破ル、コ

第七 子宮頸管 全ク開大 シテ腔ト 一管ヲナ スヲ示ス



- 一、分娩時ニ 延張ス可キ子宮下部ノ境界
- 二、子宮内口
- 三、子宮外口
- 四、陰口

ト遅キトキハ、亦分娩時間ヲ費ヤスガ故ニ人工ヲ以テ之レヲ破開スルヲ要ス。

第五十一章 第二期産出期

〔第二四二項〕産出期ノ緊要ナル箇條

一、見頭、子宮口内ニ出デ、産瘤ヲ生ズ。二、見頭、腔内ニ出デ、腹壓ヲ營ム。

〔三〕會陰延張膨出シ、肛門哆開ス。

〔四〕見頭露出ス。

〔五〕震戦陣痛。

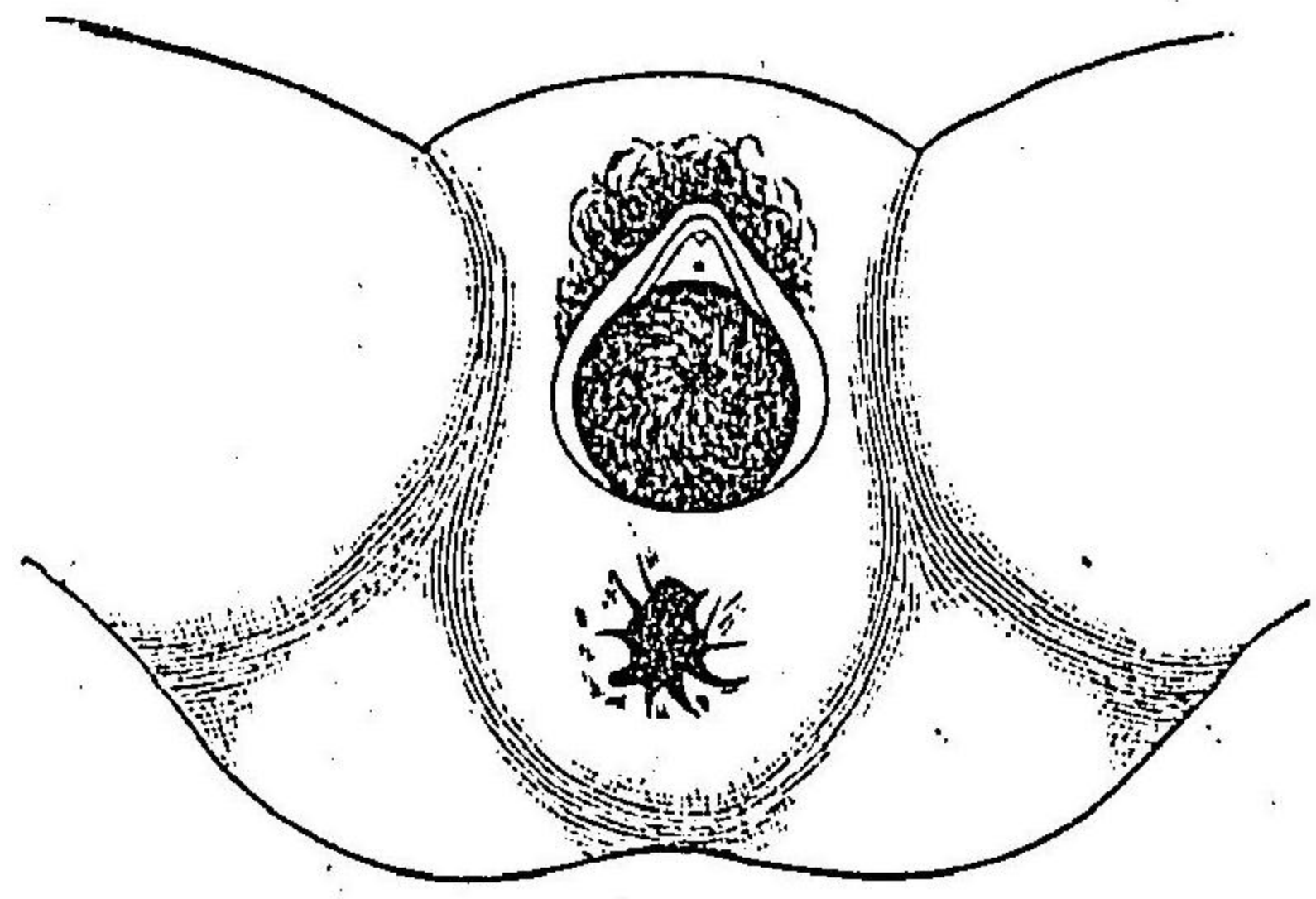
〔六〕見頭産出ス(見頭ノ撥露)

〔七〕見體産出ス。

〔八〕第二胎水流出ス。

〔第二四三項〕産出期ノ順序 既ニ産出期ニ至レバ、陣痛ハ益々頻發シ、強劇トナリ、見頭ハ子宮口内ニ出ツ。此際、見頭強ク子宮口縁ニ括約セラル、ガ故ニ、其部ノ前方ハ著シク浮腫シ、時トシテハ紫色ヲ呈ス。之レヲ産瘤又ハ頭瘤ト名ク。既ニシテ見頭、腔内ニ降レバ、産婦ハ腹壓ヲ營ミ、胎兒ヲ壓出センコトヲ勉ム。而シテ此腹壓ハ、幾分カ陣痛ニ堪エ易カラシムルモノナリ。今ヤ内診ヲ施ストキハ、見頭ハ陣痛ノ際ニ下降シ休歇時ニハ少シク退却スルヲ知ル可シ。此ノ如クニシテ、見頭漸次ニ下降スルトキハ、陣痛時ニハ陰裂間ニ露出シ、陣痛止メバ再ビ腔内ニ退キ、數回反復シテ外陰部ヲ開張セシム。此際、直腸ノ壓迫ニヨリ、頻リニ便意ヲ催フシ、會陰ハ甚シク延張膨出シ、長サ廣サ共ニ二倍ニ達シ、肛門ハ強ク哆開シ、糞便ハ自ラ漏出ス可シ。此ノ如クナレバ、陣痛ハ最モ劇烈トナリ、産婦ハ反射的ニ強ク腹

第七十圖 兒頭露出シ會陰部延張膨出シ肛門哆開セラルヲ示ス



ノ產出スルヤ殘餘ノ胎水ハ少許ノ血液ヲ伴フテ流出ス之レヲ第二胎水ト稱ス。

腰ヲ營ミ、顔面潮紅、口唇青色トナリ、精神煩悶、全身震戦シ、最も強劇ノ陣痛ヲ現ハシ、以テ兒頭ヲ產出セシムルモノナリ、此陣痛ヲ震戦陣痛ト稱ス。次ニ、兒頭既ニ產出スルトキハ、陣痛多クハ少時間、休歇シ、更ニ發作ヲ來シ、容易ニ兒體ヲ娩出セシム。時トシテハ、兒頭ト共ニ兒體ヲ一頓ニ產出セシムルコトアリ、又兒體

〔第二四四項〕第二產瘤 時トシテ、兒頭陰裂間ニ於テ暫時停止スルコトアリ、然ルトキハ、更ニ產瘤ヲ生ズ、之レヲ第三產瘤ト名ク。

第五十二章 第三期後產期

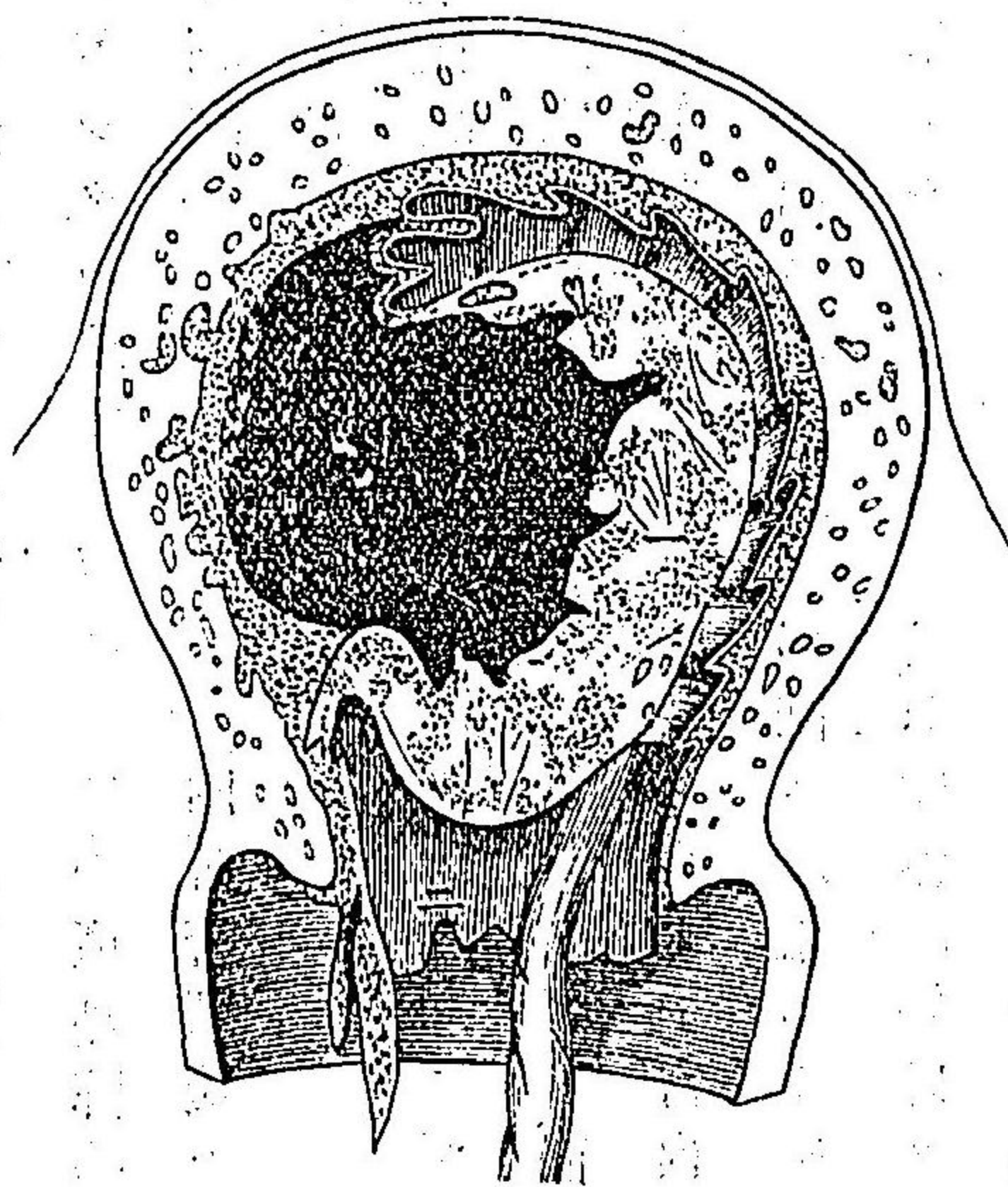
〔第二四五項〕後產期中ノ緊要ナル箇條

- 〔一〕爽快ヲ感シ若シクハ惡寒ヲ覺ユ。〔二〕後產期陣痛。
- 〔三〕胎盤ノ全部剝離。〔四〕血管斷裂シテ出血ス。
- 〔五〕後產ノ產出及ビ止血。

〔第二四六項〕後產期ノ順序 既ニ後產期ニ至レバ、産婦ハ爽快ヲ

感シ、時トシテハ、惡寒若シクハ寒戰ヲ催スコトアリ、而シテ一二分乃至十五分間ヲ經レバ、後產期陣痛ヲ發シ、胎盤ヲ全ク子宮内面ヨリ剝離セシム。蓋シ胎盤ハ、小兒ノ產出スル際、其一部既ニ剝離スト雖ドモ、後產期陣痛ヲ待テテ其全部剝離セラル、モノナリ、又、胎盤ノ剝離スルニ當リ、子宮壁ノ血管斷裂スルガ故ニ、是レヨリ出血シ、陣痛時ニ於テ稍多量ニ流出シ、子宮

第七 胎盤剝離シ産出セんとスルノ圖



ノ收縮ニヨリ、血管ノ斷口、壓閉セララル、ニ及ビ止血ス可シ。若シ血管ノ斷口閉塞セララル、コトナケレバ、危険ノ大出血ヲ現ハスモノトス。此ノ如クニシテ、後産期ノ陣痛ニヨリ剝離セル胎盤及ビ卵膜ハ、漸次ニ子宮ヨリ腔内ニ出テ、凡ソ三十分ヲ經過スレバ、全ク外部ニ産出ス可シ。

第五十三章 分娩ノ持續

「第一四七項」分娩ノ持續 ハ一定ナラズシテ、陣痛ノ強弱、胎兒ノ大小、産道抗抵ノ多少、骨盤ノ廣狹ニ關ス。今若シ胎兒小ニシテ、産道ノ抗抵弱ク、且ツ骨盤廣ク、陣痛強キ時ハ、分娩甚ダ速ナリト雖モ、若シ之レニ反シ産道ノ抗抵強ク、骨盤廣カラズ、若シクハ陣痛弱キガ如キコトアルトキハ、分娩遲延ス可シ。此理ニヨリ、初産婦ニ比スレバ、娩出スルコト遲シ、殊ニ三十歳以上ノ初産婦ニ在リテハ、分娩大ニ時間ヲ費スモノトス。是レ産道ノ延張スルコト困難ナルト、胎兒ノ發育ハ却テ優大ナルトニ基ク。又、男兒ト女兒トヲ比較スルニ、男兒ハ、通例、大ニシテ、頭蓋ノ固キニヨリ、時ヲ費ヤスコト多シ。

「第二四八項」産婦ノ分娩ニ要スル時間 我國ニ於テハ、調査未ダ調ハザルヲ以テ、果シテ幾何ノ時間ヲ費ヤス可キカラ明言シ能ハズト雖モ、概シテ之レヲ言バ、初産婦大凡ソ十二時間、經産婦大凡六時間ナリ

トス。西洋人ニ在リテハ、日本人ニ比スルニ、分娩時間ヲ要スルコト多ク、平均初産婦二十時間(或ハ曰ク十七時間)經産婦十二時間(或ハ曰ク十時四十五分)ナリト云フ。

〔第二四九項〕分娩各期ニ要スル時間 分娩各期中、開口期ハ最モ長ク、産出期ノ七八倍ヲ費ヤシ、産出期ハ、初産婦凡ソ二時間、經産婦凡ソ一時間トナス。

後産期ニ於テ、胎盤ノ腔内ニ排出セラル、ハ、多クハ三十分時ヲ費シ、全ク外陰部ニ脱出スルニハ、一時半乃至二時間ヲ要ス可シ。但シ補助ヲ加ヘザレバ、自ラ腔内ヨリ脱出セザルコト屢之レズ。

〔第一四七項〕分娩ヲ營ムノ時刻 一日中、夜十二時乃至三時ヲ以テ最モ多シトス。又晝夜ヲ比スルニ、晝凡ソ四十五、六%、夜凡ソ五十四、四%ナリトス。

〔第二五〇項〕分娩遅延シ又ハ急劇ナルモノ利害 開口期遅延スルモ、此期ハ尙ホ分娩ノ準備中ナルガ故ニ、敢テ害ナシ。然レドモ、産

出期遅延スルトキハ、子宮ノ血行ヲ障害スルガ故ニ、小兒ノ死ニ陥ルコト甚ダ多シ。若シ又、兒頭既ニ小骨盤内ニ下リ、而シテ産出期遅延スルトキハ、母體ニ於テハ、兒頭ノ壓迫ニヨリ、産道ノ損傷ヲ生ズルノ害アリ。分娩急劇ニ經過スルトキハ、産道ノ開大不十分ニシテ、爲メニ子宮頸腔又ハ會陰部ヲ破裂セシムルコト屢之レアリ。

第五十四章 正規分娩ノ器械的作用

〔第二五一項〕分娩ノ器械的作用 トハ胎兒骨盤内ヲ通過シ、産出スルノ間ニ現ハス所ノ種々ナル運動ヲ稱スルモノニシテ、其主要ナルモノハ、所謂兒頭ノ第一廻轉、第二廻轉、第三廻轉及ビ肩胛ノ産出方是レナリ。今、頭蓋位ノ正規分娩ニ就キ、之レヲ次ニ説述ス可シ。而シテ、先ヅ初メニ、兒頭ノ骨盤内ニ入ルノ狀ヲ記セント欲ス。

〔第二五二項〕兒頭ノ骨盤入口内ニ進入スルニハ、六種ノ別アリ。即チ、其後頭ニ母體ノ左前方ニ向フモノニ、正左方ニ向フモノニ、三左後

方ニ向フモノ「四」右前方ニ向フモノ「五」正右方ニ向フモノ「六」右後方ニ向フモノ是レナリ。正左方又ハ正右方ニ向フモノハ骨盤内ニ進ムニ從ヒ左前方又ハ右前方ニ回旋スルモノトス。而シテ兒頭ハ骨盤入口内ニ進入スルノ際ヨリ順次ニ三種ノ回轉ヲ營ム之レヲ彼ノ第一、第二、第三回轉トナス。

「第二一五三項」第一回轉 トハ兒頭ノ直徑骨盤ノ横徑若クハ斜徑ヲ取り、其入口内ニ進入スルノ際ニ營ムモノニシテ「兒頭ハ少シク回轉シ以テ後頭ハ下リ、頤部ハ上リテ、益々胸上ニ近キ、恰モ屈伏スルノ狀ヲナス所ノ運動ナリ」(或ハ之レヲ兒頭ノ横軸回轉ト稱ス)此回轉運動ヲ營ム所以ハ、子宮ノ收縮力兒ノ軀體ヨリ頭部ニ傳達シ、主トシテ後頭部ヲ壓下スルニ基クモノトス、此運動ニヨリ兒頭骨盤腔内ニ入レバ、第二回轉ヲ生ズ。

「第二一五四項」第二回轉 トハ「兒頭左若シクハ右ニ向ツテ回轉シ、後頭ハ前方ニ對シ、兒頭ノ直徑線ハ終ニ骨盤出口ノ直徑線ト相一致スルニ至ルノ運動ヲ云フ」之ヲ生ズルノ理由ハ、骨盤出口ノ徑線ハ其入口ト異ニシテ横徑狭ク、直徑ハ却テ廣ク、此直徑ト兒頭ノ直徑ト相適合スルニアラザレバ、産出シ難キニ因ルモノトス、(或ハ此回轉ヲ兒頭ノ鉛直軸回轉ト稱ス)此ノ如クニシテ、兒頭骨盤出口ニ至レバ、更ニ第三回轉ヲ營ム(但シ、骨盤腔内ヲ下ルノ際、既ニ漸ク、第三回轉ヲ始ムト雖トモ、了解シ易カラムガ爲メニ本文ノ如ク説明ス)

「第二一五六項」第三回轉 トハ「兒頭第一回轉ト全ク反對ノ回轉ヲ營ミ、同一ノ横軸ヲ反對ニ回轉ス」頤部胸上ヲ離レ、前頭ヲ伸展スルノ運動ナリ。即チ此際、後頭ハ恥骨弓下ニ止マリ、前頭ハ骨盤誘導線ノ方向ヲ取リテ、産道ノ後壁ヲ下リ、大頤門ハ初メニ會陰ヲ出デ、次ニ前額、顔面ヨリ頤部ニ至ルマデ、全ク會陰外ニ産出スルモノトス。

「第二一五七項」肩胛ノ産出 兒頭既ニ産出スレバ、顔面ハ後方ニ、後頭ハ前方ニ向ヒ、頤部ハ腔中ニ存シ、肩胛ハ骨盤入口内ニ在リ、而シテ肩胛ノ横徑ハ、初メニ兒頭ノ取レル骨盤斜徑線ト相交又セル斜徑線ニ位シ、骨盤腔内ニ進ムニ從ガヒ、前方ノ肩胛ハ右若シクハ左ニ廻旋シ(即チ第一頭

蓋位ハ、右ヨリ左ニ第二頭蓋位ナレバ、左ヨリ右ニ廻旋スルモノニシテ、兒頭ノ第二回轉ニ一致ス。骨盤出口ニ至レバ、肩胛ノ横徑ハ、殆ト骨盤出口ノ直徑線ニ合シ、前方ノ肩胛ハ、恥骨弓下ニ止マリ、後方ノ肩胛、會陰部ヨリ出デ、(即チ兒頭ノ第三回轉ニ一致ス)以テ、全肩胛ハ、外陰部外ニ産出ス可シ。此ノ如ク、肩胛回旋スルニ際シ、小兒ノ顔面ハ、母體ノ右腿若クハ左腿ニ向フモノナリ。

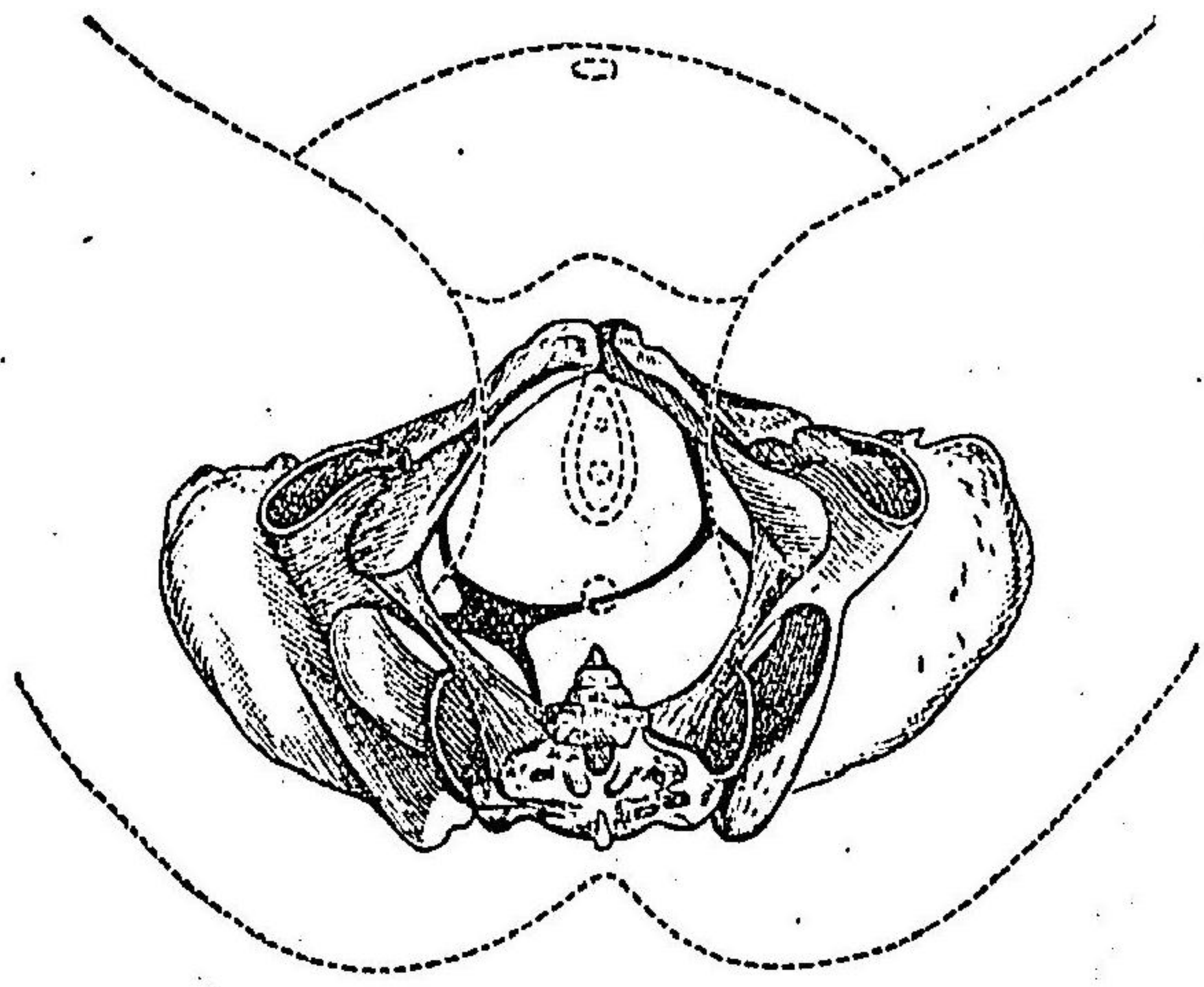
〔第二五八項〕兒體ノ産出 肩胛全ク脱出スルトキハ、自餘ノ體部ハ、容易ニ産出スルヲ常トス。次ノ四章ニハ、各頭蓋位ニ就キ、其器械的作用及ビ内外検査ヲ説述ス可シ。

第五十五章 第一頭蓋位ノ内外検査

并ニ分娩ノ器械的作用

〔第二五九項〕外検査 ニヨレバ、胎兒ノ臀部ハ、子宮底ニ位シ、頭部ハ

第七 兒頭ノ矢狀縫合第一斜徑ニ位スルヲ示ス 圖

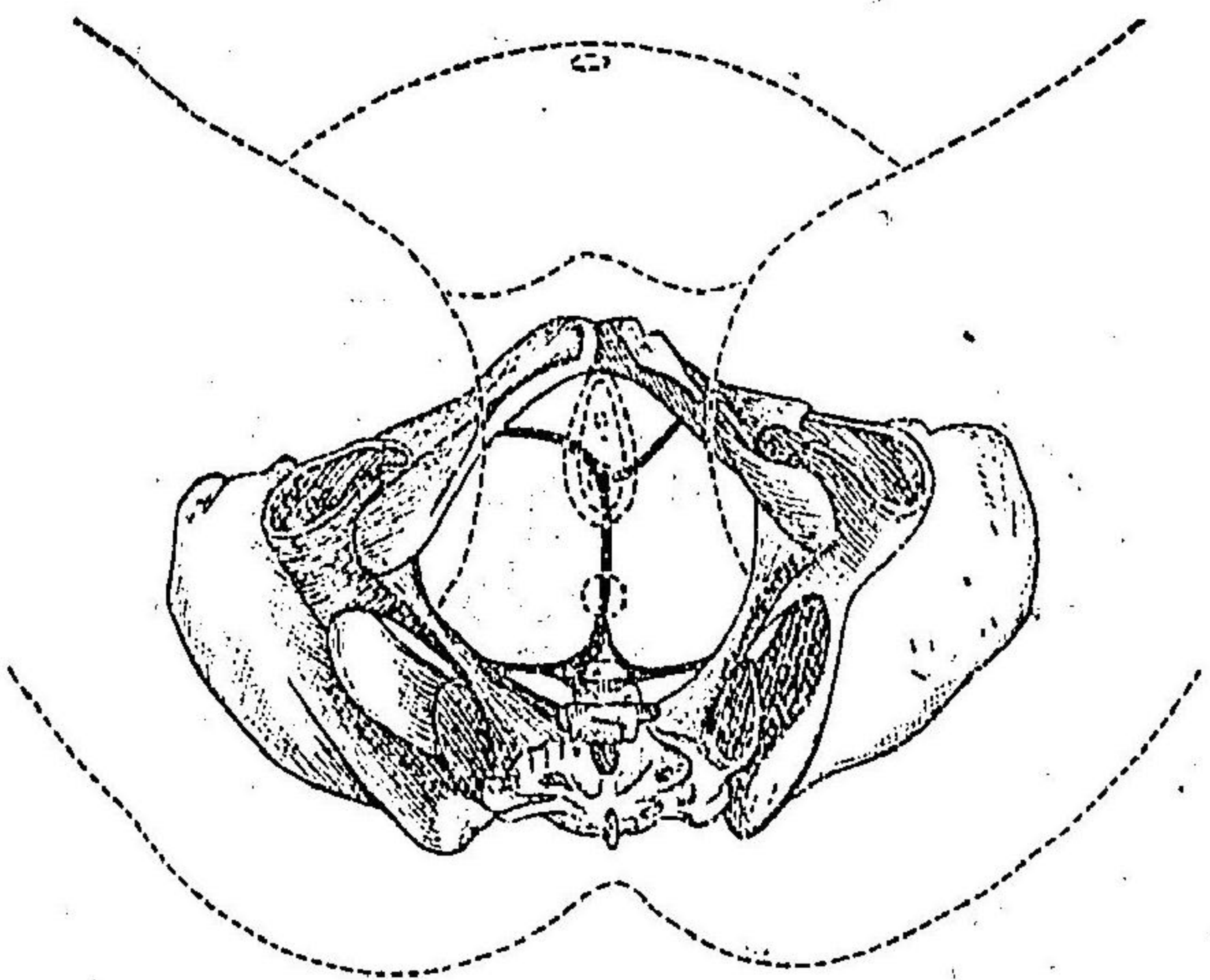


恥骨ノ上部ニ存ス。背部ハ母體ノ左方ニ向ヒ、小體部ハ臀部ニ沿フテ、其右方ヲ占ム。聽診スルニ、臍ノ左下方ニ於テ、明カニ心音ヲ聽取ス可シ。(第五十圖及ビ第五十六圖ハ此

位置ノ胎兒ヲ示ス、參看ス可シ。

〔第二六〇項〕内検査 ヲ施コスニ、先進部ハ、硬固ニシテ、圓球形ヲ呈

第七十四圖 兒頭ノ矢狀縫合殆ト骨盤出口ノ直徑ニ一致スルヲ示ス



骨ナリ故ニ通例此位置ニ於テハ小兒ノ後頭ハ左腸恥結節(腸骨ト恥骨ノ接合部)ニ對シ顔面ハ右薦腸關節ニ向フ。

シ骨縫合額門ヲ具フ而シテ小兒門ハ左前方ニアリ大腸門ハ右後方ニ位シ矢狀縫合ハ右斜徑線ニ一致ス(時トシテ矢狀縫合横徑ニ位スルコトアリ)先進部ハ即チ右顛頂

「第二六一項」器械的作用

此ノ如クニシテ分娩ヲ始ムルトキハ第一回轉ニヨリテ小兒門部最モ下降シ兒頭ハ骨盤入口内ニ入ル次ニ骨盤内ヲ下ルニ從ヒ第二回轉ヲ營ミ後頭ハ左方ヨリ恥骨縫合ニ向ヒ骨盤下口ニ至レバ矢狀縫合ハ殆ント骨盤直徑線ニ一致シ後頭ハ恥骨弓下ニ止マリ茲ニ於テ第三回轉ヲ現ハシ大腸門ノ右方即チ右顛頂骨部始メニ露出シ次デ顔面ヨリ全兒頭ハ陰門外ニ産出スルニ至ル兒頭全ク産出スルノ際ハ其肩胛骨盤入口内ニ在リテ肩胛横徑ハ骨盤ノ左斜徑線ニ存ス而シテ肩胛部骨盤内ニ下レバ第二回轉ト同様ノ回轉ヲナシ右方ノ肩胛ハ恥骨縫合下ニ廻リテ始メニ露出シ左方ノ肩胛ハ會陰部ヨリ出ヅ此際小兒ノ顔面ハ母體ノ右腿ニ對ス肩胛産出ノ後兒體ハ容易ニ分娩ヲ終ルモノナリ産瘤ハ右顛頂骨部ニ現ハル

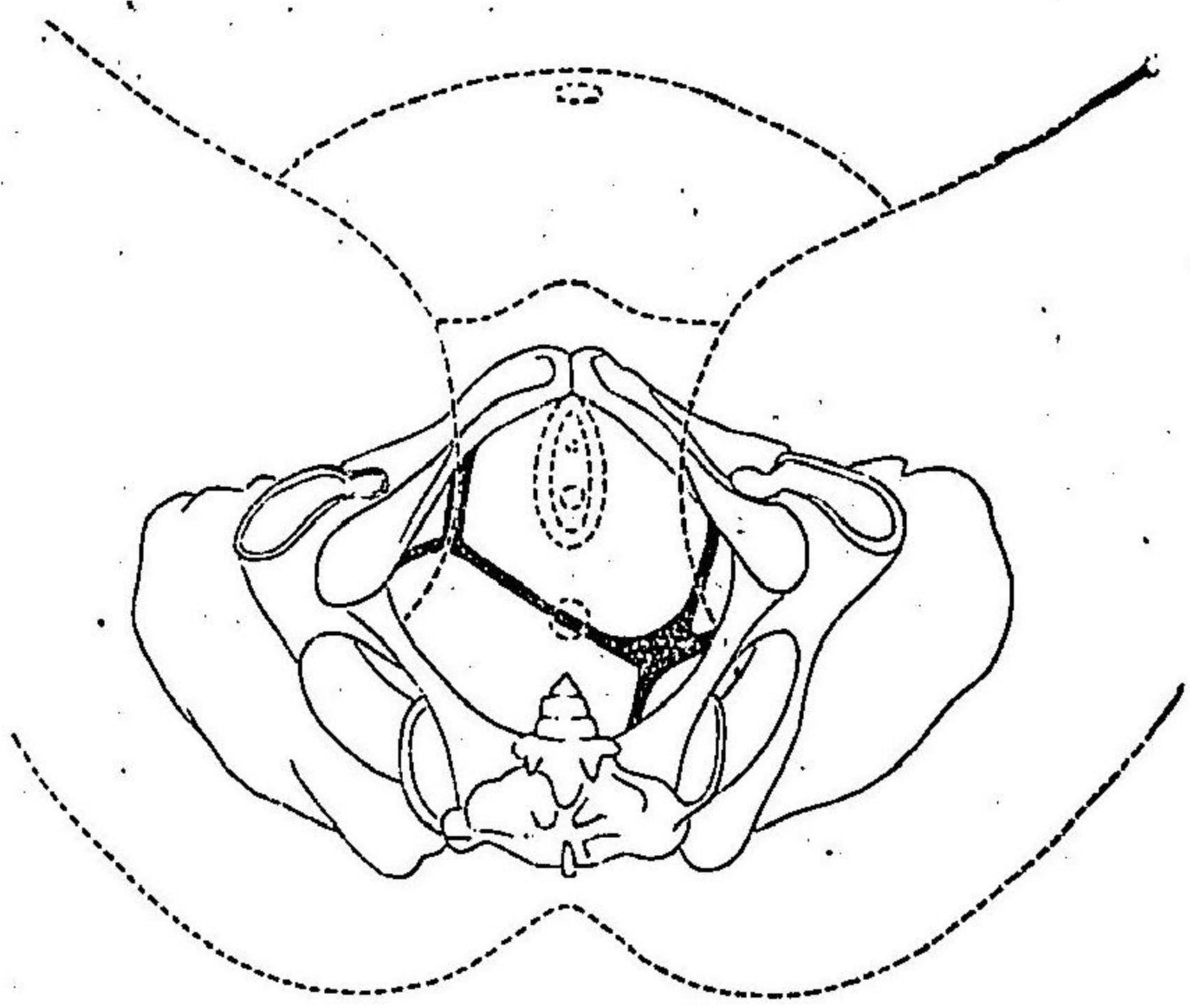
第五十六章

第二頭蓋位ノ内外検査

并ニ分娩ノ器械的作用

〔第二六二項〕外検査 小兒ノ臀部ハ子宮底ニ頭部ハ恥骨縫際上ニ、背部ハ右側ニ小體部ハ臀部ノ左側ニ在リ觸知ス。心音ハ臍ノ右下方ニ最も善ク聴取セラル。第五十九圖ハ此位置ノ胎兒ヲ示ス。參看ス可シ。

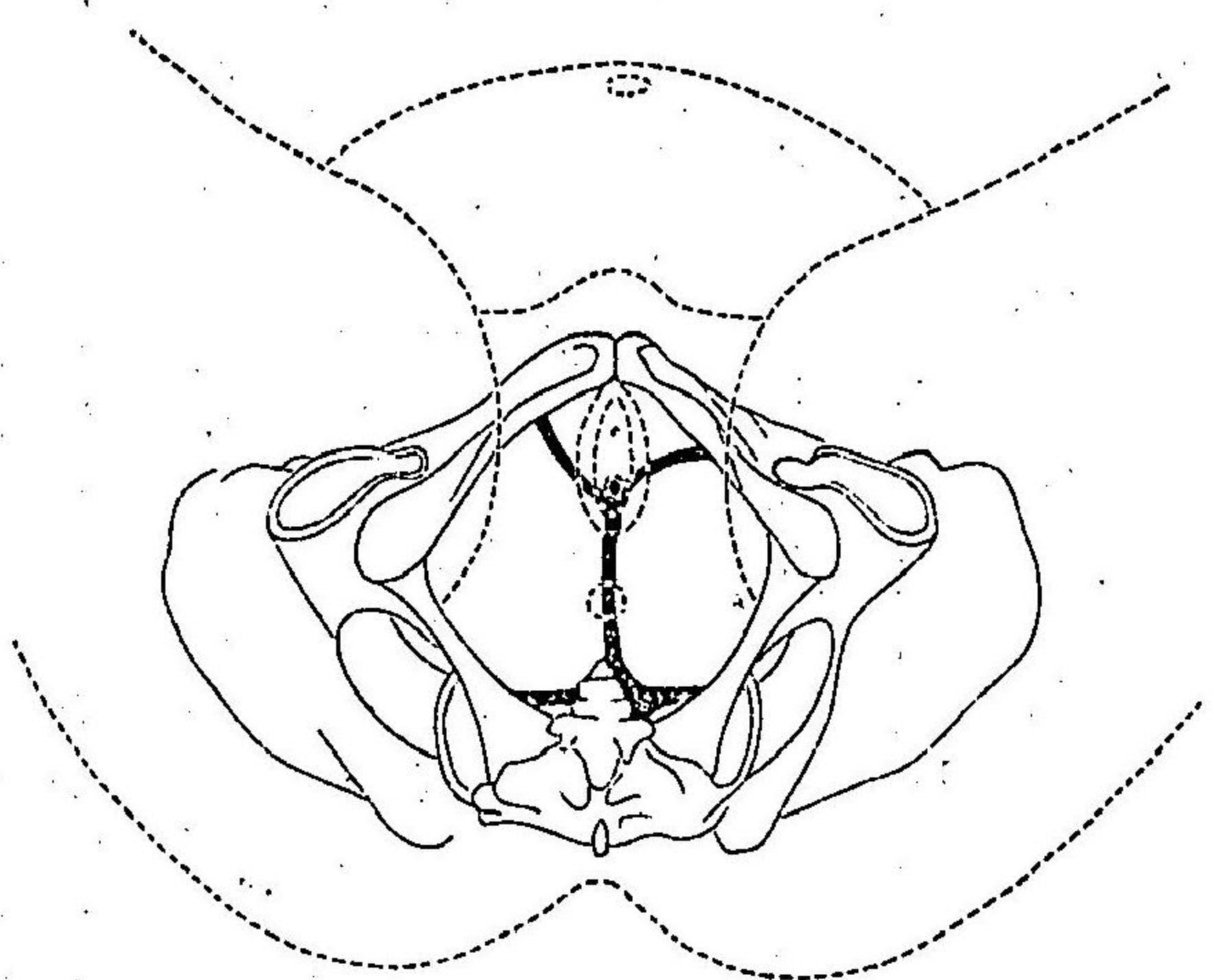
第七十圖 兒頭ノ矢狀縫合第二斜徑ニ存スルヲ示ス



〔第二六三項〕内検査 小兒ノ頭門ハ右前方ニ大頭門ハ左後方ニ位シ。矢狀縫合ハ左斜徑線ニ一致ス。時トシテ矢狀縫合横徑ニ位スルコトアリ。先進部ハ左頭

頂骨ナリ。通例、小兒ノ後頭ハ右腸恥結節ニ對シ、顔面ハ左薦腸關節ニ向フ。〔第二六四項〕器械的作用 此位置ノ器械的作用ハ、其理第一頭蓋

第七十圖 兒頭ノ矢狀縫合第二斜徑ニ存スルヲ示ス



位ニ於ケル者ト同シク、唯左右相反スルノ異アルノミ。即チ兒頭ハ第一回轉ニヨリテ小頭門部最モ下降シ、骨盤内ヲ通過スルノ際、第二回轉ヲ營ミ、後頭ハ右方ヨリ恥骨縫